

平成28年度版
(通巻第8号)

千葉県立保健医療大学

教育研究年報



Annual Report of Education and Research
Chiba prefectural University
Of Health Sciences
2016

目 次

第1部 大学組織の活動記録

I 千葉県立保健医療大学の概要	2
1. 千葉県立保健医療大学の沿革	2
2. 大学の理念・目的	2
3. 教育研究上の目的	2
4. 教育上の理念	2
5. 教育目標	3
6. 組織図	4
II 年間記録（1年の歩み）	5
1. 平成28年度学事歴および行事	5
2. 各学科定員等	5
III 管理運営の状況	6
1. 評議会の活動報告	6
2. 大学運営会議の活動報告	7
3. 教授会の活動報告	8
4. 各種委員会等の活動報告	16
5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告	50
6. 事務局の活動	53
7. F Dの実施状況	54
IV 教育活動	55
1. 共通教育	55
2. 看護学科	55
3. 栄養学科	56
4. 歯科衛生学科	57
5. リハビリテーション学科理学療法学専攻	57
6. リハビリテーション学科作業療法学専攻	57
7. 学生による授業評価	58
8. 大学全体	60
V 学生の受け入れ状況	60
1. 学生の受け入れ方針	60
2. 年度当初の重点課題	62
3. 入学者選抜状況	62
4. 学生募集のための取り組み	64
5. 学生の在籍状況	66
6. 評価（成果および改善すべき事項）	66
7. 次年度の方策	67
VI 学生支援	67
1. 年度当初の重点課題等	67
2. 活動内容	68
3. キャンパスハラスメント	69

4. 各学科・専攻の取り組み	69
5. 平成 28 年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	71
6. 評価（成果および改善すべき事項）	72
7. 次年度の方策	73
VII 社会連携・社会貢献	73
1. 社会との連携・協力に関する方針	73
2. 年度当初の重点課題	73
3. 活動内容	73
4. 評価（成果および改善すべき事項）	80
5. 次年度の方策	80
VIII 教育研究等環境	81
1. 年度当初の重点課題	81
2. 施設・設備の整備状況	81
3. 図書館の状況	81
4. 研究倫理を遵守するための措置	82
5. 評価（成果および改善事項）	82
6. 次年度の方策	82
IX 研究活動	82
1. 看護学科	82
2. 栄養学科	82
3. 歯科衛生学科	82
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	83
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	83
X 内部質保証のための取り組み	83
1. 年度当初の課題	83
2. 評価（成果および改善すべき事項）	83
3. 次年度の方策	85

第 2 部 教員の教育研究活動記録

・学長	89
・看護学科	93
教授 石井 邦子	95
教授 西野 郁子	98
教授 佐藤 まゆみ	100
教授 小川 真	102
教授 佐藤 紀子	104
教授 神田 みなみ	107
教授 渡辺 尚子	109
教授 河部 房子	111
教授 杉本 知子	113
准教授 浅井 美千代	115
准教授 林 ひろみ	117
准教授 雨宮 有子	119

准教授	三枝 香代子	122
准教授	細谷 紀子	124
准教授	川城 由紀子	126
准教授	平尾 由美子	128
准教授	小笠原 祐子	130
准教授	竹内 久美子	132
講 師	西山 正恵	134
講 師	植田 麻実	135
講 師	成 玉恵	137
講 師	石川 紀子	139
講 師	鳥田 美紀代	141
講 師	今井 宏美	143
講 師	田口智恵美	145
講 師	加藤 隆子	146
講 師	北川 良子	147
講 師	石川 志麻	150
講 師	塩原 由美子	152
助 教	齊藤 千晶	153
助 教	川村 紀子	155
助 教	上野 佳代	156
助 教	佐伯 恭子	158
助 教	宮澤 早織	160
助 教	小野 真希子	161
助 教	大内 美穂子	163
助 教	椿 祥子	164
助 教	大滝 千智	165
助 教	坂本 明子	167
助 教	栗林 一人	168
	・栄養学科	171
教 授	土橋 昇	173
教 授	長谷川 卓志	174
教 授	渡邊 智子	175
教 授	豊島 裕子	183
教 授	東本 恭幸	185
教 授	井上 裕光	187
准教授	細山田 康恵	190
准教授	山田 正子	192
准教授	越川 求	194
准教授	谷内 洋子	195
講 師	荒井 裕介	198
講 師	金澤 匠	201
講 師	海老原 泰代	202
助 教	阿曾 菜美	204
助 教	鈴木 亜夕帆	205
助 教	田村 友峰子	207
助 教	三宅 理江子	208
助 教	岡田 亜紀子	210
	・歯科衛生学科	213

教授	大川 由一	215
教授	日下 和代	217
教授	吉田 直美	220
教授	酒巻 裕之	222
教授	島田 美恵子	225
准教授	金子 潤	228
准教授	荒川 真	231
講師	麻賀 多美代	232
講師	麻生 智子	235
講師	榎本 輝樹	237
講師	鈴鹿 祐子	239
助教	山中 紗都	241
	・リハビリテーション学科理学療法学専攻	245
教授	三和 真人	247
教授	雄賀多 聡	249
准教授	竹内 弥彦	251
講師	高杉 潤	254
講師	大谷 拓哉	257
助教	仲 貴子	259
助教	太田 恵	260
	・リハビリテーション学科作業療法学専攻	263
教授	岡村 太郎	265
教授	高橋 伸佳	266
准教授	安部 能成	268
准教授	藤田 佳男	271
准教授	有川 真弓	273
講師	吉野 智佳子	275
講師	佐藤 大介	277
助教	松尾 真輔	279
資料		
	資料 1 履修規定別表	283
	資料 2 平成 28 年度非常勤講師一覧	332

第 1 部

大学組織の活動記録

第1部 大学組織の活動記録

I 千葉県立保健医療大学の概要

1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみでの運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもと平成21年4月に開学の日を迎えることができた。千葉県立保健医療大学の開学を認めた堂本知事から、森田知事に代ったのもこの頃であった。

2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

3. 教育研究上の目的

高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

県健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

4. 教育上の理念

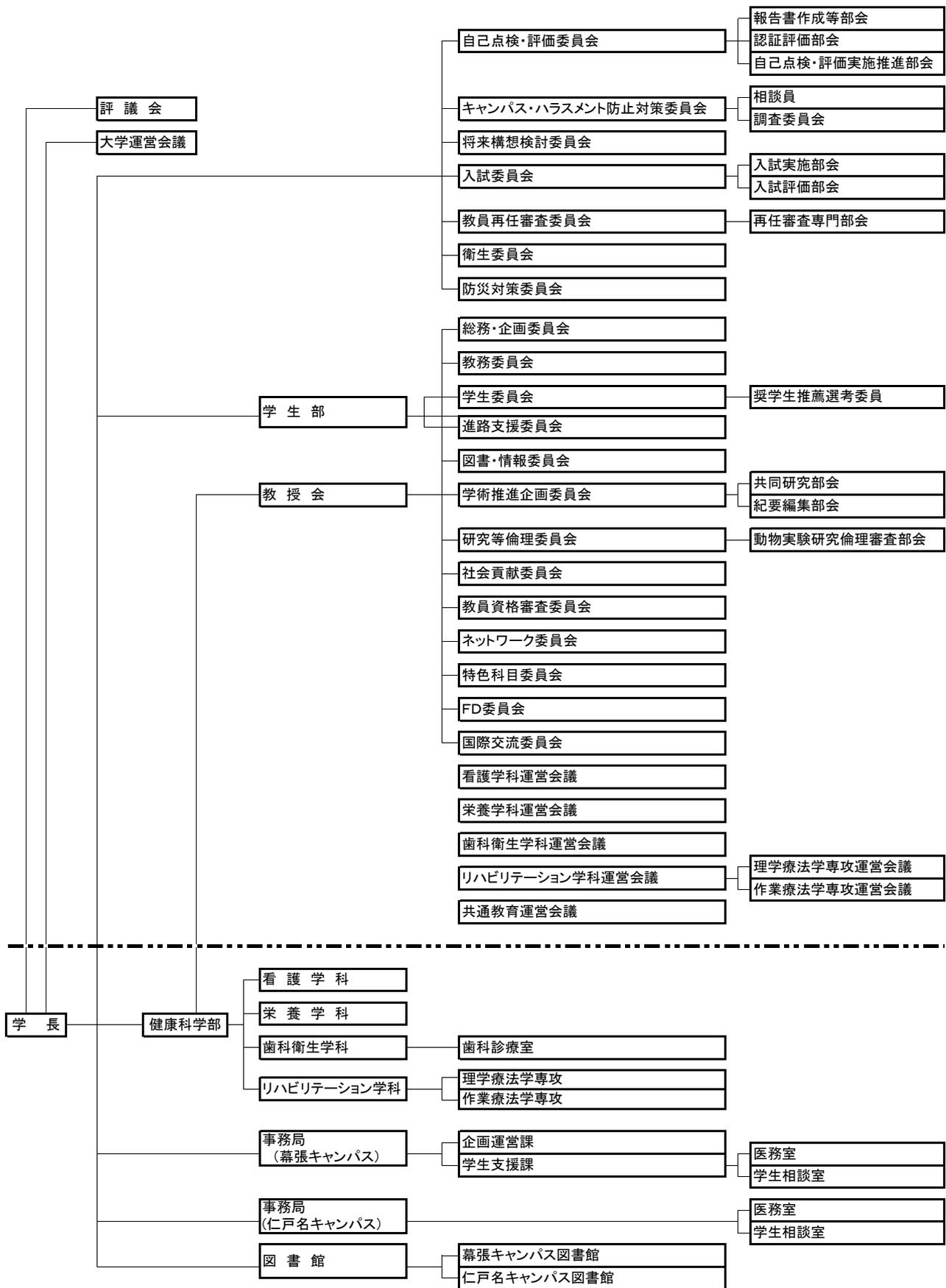
豊かな人間性や高い倫理観、生きいきとしたコミュニケーション能力を備え、温かく思いやりのある保健医療サービスを提供できる人材を育成します。また、責任感と柔軟性を伴う確かな実践力と新たな実践を作り出す力を生かして、多様な分野で他の専門職と協働しながら活躍できる人材を育成し、地域の健康の向上に貢献します。さらに、広く開かれた大学として、地域の人々との連携や交流をして、千葉県をはじめ地域社会へ貢献する意識や生涯にわたる自己研さん能力を育み、国際社会での保健医療の発展に寄与します。

5. 教育目標

教育上の理念を達成するために、以下の8つの力を備えた人材を育成することを教育目標としています。

1. 思いやりの心や高い倫理観を基本とした保健医療サービスを提供できる力
2. 生きいきとしたコミュニケーション力
3. 確かな実践力と新たな実践をつくりだす力
4. 自己理解と責任感を基盤としたしなやかな個別対応力
5. 他の専門職と自在に連携・協働する力
6. 地域社会や地域の健康づくりに貢献する力
7. 生涯にわたる自己研さん力
8. 国際的な視野を持ち保健医療の発展に寄与する力

千葉県立保健医療大学の組織図



II 年間記録(一年の歩み)

1. 平成 28 年度学事歴及び行事

行 事	日 程
入学式, 新入生ガイダンス	4月6日(水)
新入生ガイダンス	4月7日(木)幕張4月13日(水)仁戸名
前期授業期間	4月11日(月)~8月2日(火)
前期履修登録期間	4月11日(月)~19日(火)
前期末試験	8月3日(水)~8月12日(金)
夏季休業	8月13日(土)~9月29日(木)
オープンキャンパス	7月9日(土), 10日(日)
前期試験結果発表	8月25日(木)
後期授業期間	9月30日(金)~2月10日(金)
後期履修登録期間	10月4日(火)~7日(金)
公開講座	10月9日(日)
大学祭(いずみ祭)	10月9日(日), 10日(月)
公開講座	10月23日(日)
開学記念日	10月28日(金)
特別選抜(推薦・社会人)入学試験	11月19日(土)
3年次編入学試験	11月20日(日)
冬季休業	12月24日(土)~1月7日(土)
大学入試センター試験	1月14日(土), 15日(日)
後期末試験	2月13日(月)~2月21日(火)
一般選抜2段階入学試験	2月25日(土)
後期試験結果発表	2月28日(火)
卒業式	3月8日(水)
春季休業	3月22日(水)~3月31日(金)

2. 各学科定員等

1) 入学定員, 収容定員, 在籍者数(平成 29 年 3 月末現在)

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	327人
	栄養学科	25人	100人	99人
	歯科衛生学科	25人	100人	97人
	リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	50人 (25人)	200人 (100人)	202人 (102人)
	(作業療法専攻)	(25人)	(100人)	(100人)
合 計		180人	740人	725人

2) 履修規程別表 資料1 参照, 非常勤講師担当教員授業科目表 資料2 参照

Ⅲ 管理運営の状況

1. 評議会の活動報告

A	議長名	田邊 政裕(保健医療大学長)
B	評議員名	中岡 靖 (県健康福祉部長) 三和 真人(保健医療大学健康科学部長) 石川 高弘(保健医療大学事務局長) 大嶋 良弘(日本公認会計士協会東京会常任幹事) 岡部 洋一(放送大学長) 水野 創(株式会社ちばぎん総合研究所取締役社長)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部,学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度重点施策(設置計画履行状況等調査、機関別認証評価で指摘された諸課題の解決策) ・設置者より示されたロードマップの着実な実行(平成 29 年度末までにキャンパス内バリアフリー化, 平成 31 年度末までに大学院化, 看護学科定員増) 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	12 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・学則の一部改正について ・規程の制定について ・既定の一部改正について
2	平成 29 年 3 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の不正行為の防止等に関する規程の改正について ・国際交流に係る学内規程の整備について ・平成 27 年度の収支状況(決算)について ・平成 29 年度当初予算について ・アドミッションポリシーの改正について ・学長の人事評価について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	<p>・平成 28 年度重点施策において以下の施策が達成された</p> <p>教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入学試験の諸課題を検証, 見直し 2 本学の使命を踏まえて, ディプロマ・ポリシーを検証, 見直し 3 ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス, コンピテンシーを作成し, それを達成する 4 年間一貫教育カリキュラムの構築 4 ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシーを踏まえてアドミッション・ポリシーを検証 <p>学生支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生と学長, 学部長, 学生部長との懇談会を定期的で開催 <p>管理・運営</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設・設備の新設・更新(教育研究等環境の整備プランをキャンパスプランとして定め, 実施と検証する体制を整備する) 2 予算請求, 世算編成後の配分に関し, 大学全体としての組織的な審議・決定プロセスの構築 	

3	全学的な自己点検・評価と諸活動の定期的な検証を実施する体制の構築
4	本学の理念・目的、教育内容・方法の方針を定期的に検証・改善する体制の構築
5	教職員の能力業績評価の導入
I	次年度の方策
平成 28 年度の重点施策達成状況を踏まえた平成 29 年度重点施策の策定	

2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	田邊 政裕・学長
B	構成員名	三和 真人・学部長 佐藤 まゆみ・学生部長 日下 和代・図書館長 石井 邦子・看護学科長 土橋 昇・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 雄賀多 聡・リハビリテーション学科長兼理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 石川 高弘・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学長からの諮問事項に関すること 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関すること 3 学科間の調整に関すること 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関すること
E	年度当初の重点課題	
・ 上記(評議会活動報告)		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月25日	1 同窓会連合会(仮称)設立のための専門部会の設置について 2 看護学科専任教員の担当科目の追加について 3 過員の返納について
2	5月30日	1 過員の返納に伴う教授の教員公募について
3	6月27日	1 大学院化進捗状況について
4	8月17日	1 「卒業後の連絡先」の使用協力について 2 学生に関する学外からの緊急連絡への対応について 3 カウンセラーと教職員との連携について 4 後援会からの要望について 5 図書館利用規定の改定案について 6 認証評価の自己点検評価について 7 国際交流委員会規程(案)について 8 仁済大学との交流について
5	9月26日	1 開学10周年記念事業実行委員会の設置について 2 国際交流委員会規程について 3 歯科診療室の研修施設申請の可否について
6	10月31日	1 IR 専門部会の設置について 2 障害を持つ学生への支援について 3 広報担当部署の設置について 4 歯科診療室規程の変更について
7	11月28日	1 障害を持つ学生への支援について 2 中長期計画(法人化・キャンパス統合)に関する情報収集について

		3 各学科・専攻のコンピデンス・コンピデンシーについて 4 H29 年度重点施策と中長期目標・計画について 5 開学 10 周年記念行事委員会について
8	12 月 26 日	1 将来構想検討委員会企画コンサルテーション 「本学の中長期計画実現に向けた方策」について 2 学長裁量研究費(大学院ニーズ調査費用)の執行について 3 平成 28 年度卒業式について 4 「学生団体活動報告書」の提出時期の変更に伴う学生規程の変更について 5 学生からの相談件数についての実態調査 6 学生の成績の保護者への送付について 7 卒業研究について 8 平成 29 年度運営会議・教授会開催計画について
9	平成 29 年 1 月 30 日	1 保健医療基礎科目 担当教員の追加変更について 2 学生委員会規程の変更について 3 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布について 4 平成 29 年度入学式概要案について 5 施設設備計画案について 6 予算要求に係るスケジュール案について 7 平成 29 年度教育用予算について
10	2 月 20 日	1 保証人への学業成績送付について 2 進路情報施設利用規程の変更について 3 施設設備計画案について 4 平成 29 年度学生部長, 図書館長及び学長直属委員会学長指名委員に付いて
11	3 月 27 日	1 障害のある学生への修学支援に関するガイドラインについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	・ 上記(評議会活動報告)	
I	次年度の方策	
	・ 上記(評議会活動報告)	

3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され, 学部長が招集し, その議長となって運営した。開催頻度は月 1 回を定例とし, 必要に応じて臨時教授会を追加した。平成 28 年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A	年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)		
	<p>教員組織を定期的に検証し, 大学の方針に沿って適正化させる(人事計画を含む)体制の構築(教員資格審査委員会(選考規定の見直し, あり方, 配置計画, 将来構想を含む)。</p> <p>学校教育法の改正による大学運営に置けるガバナンス改革(学長のリーダーシップの確立等)を促進するため, 学内規程の総点検と見直しをする。</p>		
B	会議記録		
	年月日	主な議題	主な報告事項
1	4 月 4 日	1) 教員資格審査委員会(看護(精神看護学):助教)の公募について 2) 教員資格審査委員会(栄養:教授)の設置について 3) 平成 28 年度の前期履修登録について 4) 時間割表について【誤植・時間割変更要望】 5) 先修条件について【特色科目】 6) 学生の休学について	1) 大学運営会議報告 ・平成 27 年度評議会報告 ・教員業績評価について ・文科省の競争的資金について 2) 各委員会報告 ① 共通教育運会議 ② 総務・企画委員会

		<p>7)平成28年度研究費・教育費予算について</p> <p>8)国外研修について</p> <p>9)卒業研究倫理審査規程について</p> <p>10)その他 ハラスメントFD</p>	<p>③教務委員会</p> <p>④学生委員会</p> <p>⑤進路支援委員会</p> <p>⑥図書・情報委員会</p> <p>⑦学術推進企画委員会</p> <p>⑧研究等倫理委員会</p> <p>⑨社会貢献委員会</p> <p>⑩ネットワーク委員会</p> <p>⑪FD委員会</p> <p>⑫特色科目委員会</p> <p>⑬自己点検・評価委員会</p> <p>⑭報告書作成部会</p> <p>⑮認証評価部会</p> <p>⑯入試委員会</p> <p>⑰入試実施部会</p> <p>⑱入試評価部会</p> <p>⑲将来構想検討委員会</p>
2	4月8日	<p>1)既修得単位の認定について</p> <p>2)大学院のニーズ調査について</p> <p>3)その他 平成28年度の重点政策・改善計画について説明会開催 (4月20日幕張, 4月26日仁戸名)</p>	
3	5月9日	<p>1)教員資格審査委員会(看護:准教授(母性看護学・助産学)の設置について</p> <p>2)教員資格審査委員会(栄養:教授)の設置について</p> <p>3)研究費の学内予備費について(委員会経費)</p> <p>4)平成29年度入学者選抜要項</p> <p>5)学生の休学について</p> <p>6)学生の公休について</p> <p>7)その他</p>	<p>1)大学運営会議報告 ・看護学科専任教員の担当科目の追加について</p> <p>2)各委員会報告</p> <p>①共通教育運会議</p> <p>②総務・企画委員会 授業アンケート</p> <p>③教務委員会 シラバス修正・変更</p> <p>④学生委員会</p> <p>⑤進路支援委員会</p> <p>⑥学術推進企画委員会 共同研究採択状況</p> <p>⑦研究等倫理委員会</p> <p>⑧報告書作成部会</p> <p>⑨認証評価部会</p> <p>⑩入試評価部会</p> <p>⑪将来構想検討委員会</p>
4	6月6日	<p>1)教員再任審査について</p> <p>2)教員審査委員会(栄養:教授)の設置について</p> <p>3)母性看護学・助産学の准教授公募について</p> <p>4)教員資格審査委員会(成人看護:助教)の審査結果について</p> <p>5)教員資格審査委員会(精神看護:講師)の審査結果について</p> <p>6)学生の休学について</p> <p>7)実習施設の追加(理学)について</p> <p>8)その他</p>	<p>1)大学運営会議報告 ・公立大学定期総会報告 ・文科省の競争的資金について ・大学の国際化について</p> <p>2)各委員会報告</p> <p>①共通教育運会議</p> <p>②総務・企画委員会</p> <p>③教務委員会</p> <p>④学生委員会 サークルの認可 後援会総会</p>

			<p>⑤進路支援委員会 国家試験結果, 就職進学状況, 進路支援計画(全学・学科専攻)</p> <p>⑥図書・情報委員会</p> <p>⑦学術推進企画委員会 システムティックレビュー</p> <p>⑧研究等倫理委員会</p> <p>⑨自己点検・評価委員会 人事評価導入 大学認証評価の結果を受けて改善勧告・努力課題担当委員会一覧</p> <p>⑩報告書作成部会 年報の見直し</p> <p>⑪認証評価部会</p> <p>⑫入試委員会</p> <p>⑬入試実施部会</p> <p>⑭入試評価部会</p> <p>⑮将来構想検討委員会 大学院化</p> <p>⑯その他 コソボ職員(派遣される)</p>
5	7月4日	<p>1) 教員(看護(精神看護学):講師)の選考について</p> <p>2) 教員(看護(成人看護学):助教)の選考について</p> <p>3) 教員資格審査委員会(母性看護学・助産学:准教授)の審査結果について</p> <p>4) 教員(栄養:教授)の公募について</p> <p>5) 教員資格審査委員会(歯科:教授)の設置について</p> <p>6) 教員資格審査委員会(歯科:准教授)の設置について</p> <p>7) 期末試験日程(案)について</p> <p>8) 後期入学科目等履修生等の募集について</p> <p>9) 学生の休学について(作業)</p> <p>10) 非常勤講師の変更について(リハ)</p> <p>11) 図書館における延滞督促に関する改訂について</p> <p>12) 平成29年学生募集要項について</p> <p>13) その他 授業評価について</p>	<p>1) 大学運営会議報告 大学院化について(6月27日医療整備課と協議する)</p> <p>2) 各委員会報告</p> <p>①共通教育運会議 6月27日国際交流講演</p> <p>②総務・企画委員会 教育用予算による講義室等の整備について</p> <p>③教務委員会</p> <p>④学生委員会 サークルの認可 後援会総会</p> <p>⑤進路支援委員会 国家試験結果, 就職進学状況, 進路支援計画(全学・学科専攻)</p> <p>⑥図書・情報委員会</p> <p>⑦学術推進企画委員会 大学紀要の編集方針</p> <p>⑧研究等倫理委員会</p> <p>⑨ネットワーク委員会 各学科ホームページ更新 フェースブックなど SNS</p> <p>⑩特色科目委員会</p> <p>⑪その他 TOICE の対策</p>
6	9月5日	<p>1) 教員(母性看護・助産学:准教授)の選考について</p> <p>2) 教員資格審査委員会(栄養:教授)の審査結果について</p> <p>3) 教員(歯科衛生学科:教授)の公募について</p> <p>4) 教員(歯科衛生学科:准教授)の公募について</p> <p>5) 教員資格審査委員会(理学:助教)の設置について</p> <p>6) 教員資格審査委員会(栄養:助教)の設置について</p> <p>7) 教員資格審査委員会(看護:准教授(基礎看護学))の設</p>	<p>1) 大学運営会議報告 ・大学院化の進捗状況 ・インジェ大学との交流について</p> <p>2) 各委員会報告</p> <p>①教務委員会 追再試験日程について 後期履修登録スケジュール</p>

		置について 8) 教員資格審査委員会(看護:講師(成人看護学))の設置について 9) 教員資格審査委員会(看護:助教(基礎看護学))の設置について 10) 教員資格審査委員会(看護:助教(母性看護学・助産学))の設置について 11) 教員資格審査委員会(看護:助教(小児看護学))の設置について 12) 学生の休学・復学について 13) 転入学の規程案について 14) 非常勤講師の任用について 15) 実習施設の追加について 16) 図書館利用規程の改訂について 17) 教員の業績評価について 18) 国外研修について 19) その他 教員資格審査委員会(看護:講師(母性看護学・助産学))の設置について	コンピテンシー作業経過について(9月27日開催予定) 授業負担調査について ②学生委員会 サークル認可(テニス) ③学術推進企画委員会 紀要投稿予定について J-Stage への登録について ④研究等倫理委員会 ⑤社会貢献委員会 10月の公開講座について ⑥認証評価委員会 自己点検推進部会による「中間評価」について ⑦入試評価部会 危機管理に対する安全対策 ⑧その他
7	10月3日	1) 教員資格審査委員会(看護:助教(精神看護学))の設置について 2) 教員(看護・基礎看護学:准教授)の公募について 3) 教員(看護・成人看護学:講師)の公募について 4) 教員(看護・母性看護学・助産学:講師)の公募について 5) 教員(看護・基礎看護学:助教)の公募について 6) 教員(看護・小児看護学:助教)の公募について 7) 教員(看護・母性看護学・助産学:助教)の公募について 8) 教員(理学療法専攻:助教)の公募について 9) 教員(栄養学科:助教)の公募について 10) 平成29年度学年歴(案)について 11) 学生の休学・復学について 12) 一般選抜学生募集要項について 13) 国外研修について 14) 国際交流委員会規程について 15) その他	1) 大学運営会議報告 ・開学10周年記念事業実行委員会の設置について ・平成28年度公立大学協会 看護・保健医療部会報告 ・平成28年度重点施策の進捗状況について ・歯科診療室の研修施設申請 ・学則の改定(看護学科の自由科目の取り扱いについて) 2) 各委員会報告 ①教務委員会 ワークショップの開催について ②学生委員会 いずみ祭の日程について ③進路支援委員会 キャリアセミナー ハローワークについて ④学術推進企画委員会 紀要委員会の開催について 9月15日第1回イブニングセミナーについて ⑤研究等倫理委員会 ⑥社会貢献委員会 10月の公開講座について ⑦ネットワーク委員会 新任教員のセキュリティ講習実施について ⑧特色科目委員会 千葉大学亥鼻 IPE に関する FD について ⑨報告書作成等部会 ⑩認証評価部会

			⑪入試委員会 大学入試センター試験について ⑫入試実施部会 特別選抜・一般選抜・編入試験について ⑬その他 学部長選考について 平成 29 年度予算要求の報告について
8	11月7日	1) 教員(栄養学科:教授)の選考について 2) 教員(看護・精神看護学:助教)の公募について 3) 看護学科:基礎看護学・准教授の資格審査結果について 4) 看護学科:母性看護学・助産学・講師の資格審査結果について 5) 看護学科:小児看護学・助教の募集状況等について 6) 歯科衛生学科:教授の募集状況について 7) 平成 29 年度学年歴(案)について 8) 学生の休学について(看護) 9) 非常勤講師の新規任用について 10) 実習施設の新規追加について(作業) 11) 歯科診療室規程の変更 12) その他 教員(栄養学科:准教授)の公募について	1) 大学運営会議報告 ・IR 専門部会の設置について ・障害を持つ学生への支援 ・広報担当部署の設置について ・平成 28 年度第 1 回公立大学学長会議について ・平成 28 年度重点施策の中間報告について ・大学の理念・表記について ・学部長選挙 予備選挙管理委員会 委員の決定について ・看護学科専任教員の担当科目の追加・変更について 2) 各委員会報告 ①総務・企画委員会 平成 28 年度の施設整備や予算について ②研究等倫理委員会 ③社会貢献委員会 10 月の公開講座の終了について ④ネットワーク委員会 ⑤自己点検・評価委員会 10 月 13 日に開催した. IR の FD 開催予定(12 月 21 日)について 組織図の修正 ⑥自己点検推進委員会 ⑦報告書作成等部会 ⑧将来構想検討委員会 平成 29 年度重点政策と平成 30 年度以降の中長期計画について
9	11月28日	1) 特別選抜・3 年次編入合否判定 2) その他	
10	12月5日	1) 教員(看護学科・精神看護学・准教授)の選考について 2) 教員(看護学科・母性看護学・講師)の選考について 3) 教員資格審査委員会(歯科衛生学科:教授)の設置について 4) 教員資格審査委員会(看護:基礎看護・助教)の設置について 5) 教員(栄養学科:准教授)の公募について 6) 歯科衛生学科:准教授の資格審査結果について 7) 看護学科:母性看護・助産:助教の資格審査結果について 8) 理学療法学専攻:助教の資格審査結果について 9) 看護学科:成人看護・講師の資格審査結果について	1) 大学運営会議報告 ・障害を持つ学生への支援について ・中長期計画(法人化・キャンパス統合)の情報収集 ・平成 29 年重点施策と中長期目標・計画について ・開学 10 周年記念行事委員化について ・医療整備課と話し合いについて 大学の在り方委員会の設置を要望. ・歯科医師会との意見交換会 ・健康福祉部・保健医療大学意見交換会について

		<p>10) 栄養学科:助教の資格審査結果について 11) 看護学科:基礎看護・助教の資格審査結果について 12) 看護学科:精神看護・助教の資格審査結果について 13) 看護学科:小児看護・助教の応募状況について</p> <p>○教授会運営事務担当より、資格審査候補者数が決まったので、面接発表時間等の設定について説明がなされた。</p> <p>14) 平成 29 年度前記科目等履修生等の募集について 15) 平成 29 年度シラバスの作成について 16) 実習施設の新規追加について(看護) 17) 学生の休学について(看護・歯科・理学) 18) 非常勤講師の新規追加について 19) 学部長候補者について 20) 平成 31 年度センター試験科目の指定科目について 21) 平成 29 年度センター試験実施要領について 22) 学部のディプロマポリシー・コンピテンシーについて 23) その他 教員資格審査委員会(看護:助教(母性看護学・助産学))の設置について ※助教の講師承認に伴い、同領域助教の新規設置の承認について</p>	<p>平成 27 年度に引き続き、「認知症」に関する意見交換(2 回目) ・平成 28 年度第 1 回評議会議事次第について</p> <p>2) 各委員会報告 ①共通教育運営会議 特別選抜の合格者に事務文書で入学までの期間、勉強を継続するように働き掛けた。 ②学生委員会 後期授業料免除等について ③進路支援委員会 卒業時アンケート調査 キャリアセミナーの結果報告 ④学術推進企画委員会 第 3 回イブニングセミナーの開催について 平成 29 年度学内共同研究でエフォートの記載義務化 ⑤研究等倫理委員会 ⑥ネットワーク委員会 H28 年度重点施策で広報機能の拡大等について ⑦特色科目委員会 千葉県健康づくりの実施中、専門職間連携の開始について ⑧自己点検推進部会 ⑨入試評価部会 試験実施に関するアンケート ⑩その他</p>
11	1 月 4 日	<p>1) 学部長の選考について 2) 教員(歯科衛生学科・准教授)の選考について 3) 教員(看護学科・成人看護・講師)の選考について 4) 教員(看護学科・基礎看護・助教)の選考について 5) 教員(看護学科・母性看護・助産・助教)の選考について 6) 教員(看護学科・精神看護・助教)の選考について 7) 教員(栄養学科・助教)の選考について 8) 教員(理学療法専攻・助教)の選考について 9) 教員(歯科衛生学科:教授)の公募について 10) 教員(看護学科:基礎看護・助教)の公募について 11) 教員(看護学科:母性看護学・助教)の公募について 12) 学長裁量研究費(大学院ニーズ調査費用)について 13) 平成 28 年度卒業式について 14) 平成 28 年度後期末試験日程(案)について 15) 平成 29 年度時間割(案)について 16) 平成 29 年度ポートフォリオについて 17) 平成 29 年度新入生・在学生ガイダンスのスケジュールについて 18) 実習施設の新規追加について(看護・理学) 19) 学生の退学について(理学) 20) 平成 29 年度選択科目の一部開講しないことについて</p>	<p>1) 大学運営会議報告 ・将来構想委員会企画コンサルテーションの開催「本学の中長期計画実現に向けた方策」 ・学生の成績の保護者への送付について ・健康福祉部と大学の意見との交換会について ・平成 28 年度重点政策等について</p> <p>2) 各委員会報告 ①共通教育運営会議 年度末の報告書発行 ②教務委員会 1 月 6 日シラバス提出期限 ③学生委員会 平成 29 年度自己健康管理ファイルの変更について 学生からの相談件数 3 月下旬に FD 開催「障害をもつ学生について」 学外団体からのサークルに対する協力依頼のルール作りについて ④進路支援委員会</p>

		<p>(看護)</p> <p>21) 非常勤講師の新規任用について(歯科・リハ)</p> <p>22) 新々カリキュラム作業部会の進捗について(新カリ調査実施について)</p> <p>23) 放送大学との単位互換科目について</p> <p>24) 平成 29 年度運営会議・教授会開催計画について</p> <p>25) 国外研究(研修)計画学について</p> <p>26) 「学生団体活動報告書」の提出時期の変更に伴う学生規程の変更について</p> <p>27) その他</p>	<p>平成 29 年度進路ガイド・ブックの一部修正(卒業後の連絡先の使用, ハローワークの相談について)</p> <p>⑤学術推進企画委員会 学内共同研究の募集について</p> <p>⑥社会貢献委員会 公開講座の結果について</p> <p>⑦特色科目委員会 12 月中に専門職間連携が終了</p> <p>⑧報告書作成 H28 年度重点施策で広報機能の拡大等について</p> <p>⑨入試実施部会 センター試験について</p> <p>⑩その他 学科長・専攻長の推薦 特別講義の講師への支払いについて</p>
12	2 月 6 日	<p>1) 学科長・専攻長候補予定者の選考について</p> <p>2) 教員資格審査委員会(栄養:准教授)の審査結果について</p> <p>3) 教員資格審査委員会(看護:母性看護学:助教)の審査結果について</p> <p>4) 教員資格審査委員会(看護学科:地域看護学:講師)の設置について</p> <p>5) 教員資格審査委員会(看護学科:小児看護学:助教)の設置について</p> <p>6) 教員資格審査委員会(看護学科:精神看護学:助教)の設置について</p> <p>7) 教員資格審査委員会(栄養学科:助教)の設置について</p> <p>8) 平成 29 年度入学式概要案について</p> <p>9) 学内委員会規程の変更について</p> <p>10) 平成 29 年度教育用予算について</p> <p>11) 非常勤講師の新規任用について(看護・栄養)</p> <p>12) 実習施設の新規追加について(看護)</p> <p>13) 先修条件の文言修正について(理学)</p> <p>14) 平成 29 年度一般選抜実施要領について</p> <p>15) 研究倫理教育関連事項について</p> <p>16) その他</p>	<p>1) 大学運営会議報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算要求に係わるスケジュール案について ・学校教育法施行規則の一部を改正する省令の公布 3 つのポリシーを策定し, 公表する. ・保健医療基礎科目担当教員の追加変更について ・平成 29 年度看護学科科目担当教員の一部変更について ・平成 29 年度理学療法学専攻科目担当教員の一部変更について ・一般選抜, 出願状況について ・高校訪問の結果について <p>2) 各委員会報告</p> <p>①学生委員会 学生ハンドブック 学生委員会 FD 「医療系大学における発達障害や精神障害を抱える学生の相談内容と学生支援の実際」</p> <p>②進路支援委員会 第 3 回キャリアセミナー</p> <p>③学術推進委員会 紀要の校正と印刷 学長裁量研究についての抄録の掲載 4 回イブニングセミナーの中止 3 月下旬に FD 開催「障害をもつ学生について」 学外団体からのサークルに対する協力依頼のルール作りについて</p> <p>④進路支援委員会 平成 29 年度進路ガイド・ブックの一部修正(卒業後の連絡先の使用, ハローワークの</p>

			相談について) ⑤学術推進企画委員会 学内共同研究の募集について ⑥研究等倫理委員会 ⑦社会貢献委員会 平成 29 年度公開講座の日程等について ⑧FD 委員会 3 月に亥鼻 IPE の実施予定について ⑨特色科目委員会 3 月 16 日午後 4 時から亥鼻 IPE の FD に ついて ⑩自己点検・評価委員会 IR 専門部会の立ち上げについて ⑪認証評価部会・自己点検推進実施部会 ⑫入試委員会 ⑬入試評価部会 ⑭将来構想検討委員会 法人化等について ⑮その他
13	3 月 1 日	1) 平成 28 年度卒業判定について 2) 学生の退学について 3) その他	
14	3 月 3 日	1) 平成 29 年度一般選抜の可否判定について 2) 教員(栄養:准教授)の選考について 3) 教員(看護:母性看護学・助教)の選考について 4) 看護学科・基礎看護学:助教の資格審査結果について 5) 教員資格審査委員会(看護学科・精神看護学:助教)の 公募について 6) 教員資格審査委員会(看護学科・小児看護学:助教)の 公募について 7) 教員資格審査委員会(看護学科・公衆衛生看護学:講 師)の公募について 8) 教員資格審査委員会(栄養学科:助教)の公募について 9) 進路情報室利用規程の変更について 10) 国外研修について 11) 千葉県立保健医療大学における研究活動に関わる不 正行為の防止等に関する規程について 12) 平成 28 年度後期追再試・補講の日程について 13) 学生の休学・復学について 14) 非常勤講師の新規任用について(共通) 15) 実習施設の新規追加について(作業) 16) 履修規程表の卒業要件表記の修正について 17) アドミッションポリシーについて 18) 評議会の議題(案)について 19) その他	1) 大学運営会議報告 ・保証人への学業成績送付について ・平成 29 年度学生部長, 図書館長及び学長 直属委員会学長指名委員について ・東都医療大学の情報について 2) 各委員会報告 ①総務企画委員 施設設備計画について ②教務委員会 先修条件の文言統一について ③研究等倫理委員会 ④特色科目委員会 平成 29 年度の計画について ⑤認証評価部会・自己点検推進実施部会 ⑥将来構想検討委員会 平成 29 年度重点施策について 平成 28 年度施策のまとめ ⑦その他 平成 29 年度運営会議, 教授会開催日程に ついて 平成 29 年度学内委員選出について
C	評価(成果および改善事項)		
平成 28 年度重点施策・改善計画を基に, 大学組織の改革を推進すること前面に押し出すようにしてきた。特に教授会は教員人事 から大学運営管理までの範囲にわたって所掌しなければならず, 改善が可及的速やかに求められる。現行の大学教育法によるな らば, 教授会の所掌は教育関連と教員人事となっており, 今後も教育関連の議事と教員人事案に相当の時間を要するが予想され る。			

<p>今年度も看護学科を中心に、定年退職者の教員補充など数多くの人事案件に時間を費やすこととなり、円滑な教授会運営が困難であった。</p> <p>今後は、教授会の所掌を教育関連項目に絞って、教員人事は「承認」事項とするなど、教育と管理運営を分離する必要があると考えられる。</p>	
D	次年度の方策
<p>大学組織の改変を速やかに行い、大学組織の指示系統の円滑化をはかり、教授会の協議事項を教育関連のみとすることが望ましい。教員人事案件は運営会議、もしくは教員在り方委員会を設け、教授会では「承認」のみとすれば、会議の機能は改善するものと考えられる。県庁との協議が必要ではあるが、早急の組織改革が望まれるところである。</p>	

4. 各種委員会等の活動報告

1) 学長直属委員会

(1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 三和 真人・学部長
B	委員名	佐藤 まゆみ・学生部長 日下 和代・図書館長 石井 邦子・看護学科長 土橋 昇・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 雄賀多 聡・リハビリテーション学科長兼理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 兼 自己点検・評価委員会認証評価部会長 島田 美恵子・共通教育運営会議会長 佐藤 紀子・学長指名者(自己点検・評価委員会報告書作成等部会長) 西野 郁子・学長指名者(総務・企画委員長) 石川 高弘・事務局長
C	部会名と 部会員名	<p>【報告書作成等部会】</p> <p>部会長:佐藤 紀子・教授(看護学科)</p> <p>部会員:今井 宏美・講師(看護学科)</p> <p>成 玉恵・講師(看護学科)</p> <p>東本 恭幸・教授(栄養学科)</p> <p>金子 潤・准教授(歯科衛生学科)</p> <p>高杉 潤・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>松尾 真輔・助教(リハビリテーション学科作業療法学専攻)</p> <p>【自己点検評価実施推進部会】</p> <p>部会長:岡村 太郎・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻)</p> <p>部会員:石井 邦子・教授(看護学科)</p> <p>西野 郁子・教授(看護学科)</p> <p>佐藤 まゆみ・教授(看護学科)</p> <p>佐藤 紀子・教授(看護学科)</p> <p>井上 裕光・教授(栄養学科)</p> <p>大川 由一・教授(歯科衛生学科)</p> <p>大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>山口 妙美・事務局企画運営課長</p>
D	所掌事務	<p>1 自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項</p> <p>2 自己点検・評価の項目の設定に関する事項</p> <p>3 自己点検・評価の実施に関する事項</p> <p>4 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項</p> <p>5 認証評価に関する事項</p> <p>6 その他、自己点検・評価に関する事項</p>
E	年度当初の重点課題	

<ul style="list-style-type: none"> IR 専門部会の設置 自己点検・評価実施推進部会による平成 28 年度重点施策・改善計画実施状況調査(中間点評価、最終評価) 		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月14日	1 大学認証評価資料等のHP掲載について
2	7月27日	1 IR専門部会(仮称)の設置について
3	10月13日	1 IR専門部会の立ち上げ 2 自己点検・評価実施推進部会による中間評価の実施
4	1月25日	1 IRコンソーシアムについて 2 中間評価結果について
5	3月27日	1 大学基準協会による改善勧告の達成状況報告について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【報告書作成等部会】
1	5月26日	1 教育研究年報の項目の見直し 2 今年度のスケジュール
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】
1	5月24日	1 今後のスケジュールと大学基準協会への改善勧告手順・方法等の報告 2 自己点検評価の在り方と方法
2	9月16日	1 中間点検評価の作成について
3	12月21日	1 中間点検評価の作成について
4	2月7日	1 IRコンソーシアムについて 2 平成 28 年度重点施策・改善計画実施状況最終報告と計画について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
<ul style="list-style-type: none"> IR 専門部会は立ち上げられたが実質的な活動は行われていない。 自己点検・評価実施推進部会による平成 28 年度重点施策・改善計画実施状況調査(中間点評価、最終評価)が行われ、達成された施策が明確化された。 		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> IR 専門部会の活動によって点検・評価に必要なデータの収集・解析を行う 平成 29 年度重点施策の達成状況調査 		

(2) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	田邊 政裕・学長
B	委員名	三和 真人・学部長 佐藤 まゆみ・学生部長 石川 高弘・事務局長 杉本 知子・教授(看護学科) 高橋 伸佳・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 【外部委員】 山下 洋一郎(弁護士) 有馬 和子(臨床心理士)
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	【相談員】 小川 真・教授(看護学科) 平尾 由美子・准教授(看護学科) 石川 紀子・講師(看護学科) 土橋 昇・教授(栄養学科) 細山田 康恵・准教授(栄養学科) 金子 潤・准教授(歯科衛生学科)

		麻生 智子・講師(歯科衛生学科) 雄賀多 聡・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 真寿田 三葉・准教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 吉野 智佳子・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 松尾 真輔・助教(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 小山 晃弘・主事(事務局企画運営課) 【キャンパス・ハラスメント調査委員会】 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会が推薦する者から学長が指名
D	所掌事務	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・本学におけるキャンパス・ハラスメントに関する実態の把握 ・キャンパス・ハラスメントの実態に基づく啓発, 防止策の企画、実施 		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	7月20日	1 キャンパス・ハラスメント防止に関する今後の取り組みについて
2	1月18日	1 キャンパス・ハラスメント事案について 2 ハラスメント講演会について 3 次年度の取り組み(キャンパス・ハラスメント実態調査, 講演等)について
3	3月13日	1 キャンパス・ハラスメント事案について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査により本学におけるキャンパス・ハラスメントの実態が明らかとなり, 調査の継続と講演会が企画された ・学生からキャンパス・ハラスメントに関する訴えがあり, 調査, 対処, 報告が行われた 		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス・ハラスメントに関する調査及び啓発, 防止を目的とする実態調査を行う ・キャンパス・ハラスメントに関する啓発, 防止を目的とする講演会を開催する 		

(3) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	田邊 政裕・学長 三和 真人・学部長
B	構成員名	日下 和代・図書館長 佐藤 まゆみ・学生部長 石井 邦子・看護学科長 土橋 昇・栄養学科長 大川 由一・歯科衛生学科長 雄賀多 聡・リハビリテーション学科長兼理学療法学専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 高橋 伸佳・リハビリテーション学科作業療法学専攻教授 石川 高弘・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	【将来構想検討委員会】 1 キャンパス統合の検討に関すること 2 大学院設置の検討に関すること

		3 実践研修研究センター(仮称)設置の検討に関すること 4 公立大学法人化等の検討に関すること 5 その他大学の発展・充実のための将来構想・将来計画の協議・立案に関すること 【専門部会】 キャンパス統合専門部会・大学院専門部会・実践研修研究センター専門部会はそれぞれの領域につき検討する
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度重点施策(設置計画履行状況等調査, 機関別認証評価で指摘された諸課題の解決策) 設置者より示されたロードマップの着実な実行(キャンパス内バリアフリー化, 大学院化, 看護学科定員増) 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月25日	1 平成 28 年度重点施策について
2	5月30日	1 中長期目標と平成 28 年度重点施策の進捗状況について
3	6月13日	1 大学院化について
4	6月27日	1 大学院教員の判定について 2 地域健康保健学専攻 設置趣旨等について 3 医療整備課との話し合いについて
5	7月4日	1 育成する人材像の明確化 2 医療整備課への回答
6	7月19日	1 医療整備課への対応について
7	7月25日	1 医療整備課への対応について
8	10月31日	1 平成 29 年度重点施策と中長期目標・計画(平成 30 年度以降)の策定
9	2月20日	1 H28 年度重点施策の進捗状況について 2 H29 年度重点施策について 3 今後のタイムスケジュールについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度重点施策において教育、学生支援、管理・運営に関する施策が達成された(上記) 設置者より示されたロードマップ(キャンパス内バリアフリー化, 大学院化, 看護学科定員増)については進展が見られなかった 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度の達成状況を踏まえた平成 29 年度重点施策の策定(上記) ロードマップの着実な実行(上記) 	

(4) 入試委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 三和 真人・学部長
B	委員名	石井 邦子・看護学科長 土橋 昇・栄養学科長・入試実施部会長 大川 由一・歯科衛生学科長 雄賀多 聡・リハビリテーション学科長兼理学療法専攻長 岡村 太郎・リハビリテーション学科作業療法専攻長 島田 美恵子・共通教育運営会議会長 石川 高弘・事務局長 須賀 昭徳・学生支援課長
C	部会名と 部会員名	【入試実施部会】別に掲載 【入試評価部会】別に掲載

D	所掌事務	1 学生の募集に関すること。 2 入学者選抜試験に関する事項 3 専門部会等に関する事項 4 その他入学者選抜試験に関する重要事項
E	年度当初の重点課題(H28年度重点施策を記載)	
・入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)を作成する		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	9月21日	議題 1 平成31年度大学入試センター試験について 2 平成29年度大学入試センター試験の変更点等について 3 高大接続システム改革に係るアドミッション・ポリシーの見直しについて 報告 1 平成28年度入試委員会開催予定について
2	11月28日	議題 1 平成29年度特別選抜・3年次編入学試験の合否判定について 2 平成29年度センター試験要配慮者(軽度)及びセンター試験実施要領について 3 平成30年度入学試験の日程及びセンター試験の指定科目及び配点について 報告 1 平成31年度センター試験の指定科目について 2 千葉県大学・短期大学入試広報担当者連絡会第1回総会について
3	2月6日	議題 1 平成29年度一般選抜試験に係る第一段階選抜について 2 平成29年度一般選抜試験の追加合格者の決定方針について 3 平成30年度入試スケジュールについて 4 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)について 報告 1 高校訪問結果について
4	3月3日	議題 1 平成29年度一般選抜試験合否判定について 2 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	7月9日・10日	オープンキャンパス
2	11月19日	平成29年度入学者特別選抜試験
3	11月20日	平成29年度入学者編入学試験
4	1月14日・15日	平成29年度大学入試センター試験
5	2月25日	平成29年度一般選抜試験個別学力検査
H	評価(成果および改善事項)(H28年度達成状況を記載)	
・入試実施部会において入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)の内容を、「求める人材像」「選抜方法」「入学までに身に付けてほしいこと」の3項目に決定し、各学科専攻に作成を依頼した。各学科専攻から提出された内容を部会で検討し、最終的に入試委員会で検討。特別選抜に「将来県内で働くことを志望する」ことを明示することを指示し、本学のアドミッションポリシーを完成させた。		
I	次年度の方策(H29年度への継続を記載)	
・平成32年度からの入試改革を見据え、これまでの入試区分別の評価を行い、アドミッションポリシーを踏まえた入試選抜のあり方を検討する。		

(5)入試実施部会

A	部会長名 副部会長名	土橋 昇・教授(栄養学科) 佐藤 紀子・教授(看護学科)
B	委員名	
C	部会名と 部会員名	入試実施部会 佐藤 紀子・教授,細谷 紀子・准教授(看護学科) 土橋 昇・教授,山田 正子・准教授(栄養学科) 酒巻 裕之・教授,山中 紗都・助教(歯科衛生学科)

		真寿田 三葉・准教授,太田 恵・助教(リハビリ理学療法学専攻) 有川 真弓・准教授,佐藤 大介・助教(リハ作業療法学専攻) 雄賀多 聡・教授,榎本 輝樹・講師(共通教育運営会議) 須賀 昭徳・学生支援課長(事務局)
D	所掌事務	1 学生募集に関する事項 (1) 学生募集要項の作成に関すること (2) オープンキャンパスの開催に関すること (3) 広報に関すること 2 入学者選抜試験の計画及び実施に関する事項 (1) 入学者選抜試験実施要領に関すること (2) 試験監督等役割分担に関すること (3) 入学者選抜試験問題の作成及び管理に関すること (4) 採点の立会い及び採点結果の集計に関すること (5) 合格者の発表に関すること 3 その他入学者選抜試験の実施に関すること
E	年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)	
・入学試験の諸課題を整理し,その対応策について検討する		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月11日	議題 1 オープンキャンパスについて 報告 1 入学者選抜試験の年間スケジュールについて 2 学校説明会について 3 平成29年度入学者選抜要項について 4 平成28年度入試結果について 5 平成28年度入学選抜試験のアンケート結果について
2	5月9日	議題 1 オープンキャンパスについて 2 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)について 3 試験実施要領(特別選抜・編入学)について
3	6月13日	議題 1 オープンキャンパスについて 2 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)について 3 試験実施要領(特別選抜・編入学)について 報告 1 平成28年度高大接続システム改革に関する研究会について
4	7月11日	議題 1 平成29年度特別選抜実施要領について 2 平成29年度編入学実施要領について 3 平成29年度特別選抜・編入学スケジュールについて(直後) 4 平成29年度学生募集要項(一般選抜)について 報告 1 各会議について
5	9月12日	議題 1 オープンキャンパスの反省について 2 試験実施要領(特別選抜・編入学)及び任務分担について 3 各種監督マニュアルについて(特別選抜・編入学)について 報告 1 第1回大学入試センター試験入試担当者連絡協議会について
6	10月12日	議題 1 大学案内の作成について 2 平成30年度入試日程について 3 平成29年度大学入試センター試験実施要領について 4 特別選抜・編入学試験後のスケジュールについて(採点時間) 5 アドミッション・ポリシーについて 報告 1 平成29年度大学入試センター試験の実施について 2 特別選抜及び編入学の面接試験に係る採点基準の提出について
7	11月14日	議題 1 大学案内について

		2 平成 29, 30 年度大学入試センター試験について 3 平成 29 年度一般選抜実施要領について 報告・依頼 1 平成 29 年度大学入試センター試験実施要領変更点について 2 平成 29 年度一般選抜に係る人選の依頼について
8	12 月 12 日	議題 1 平成 29 年度大学入試センター試験について 2 平成 29 年度一般選抜実施要領について 3 平成 30 年度入学者選抜要項について 報告 1 アドミッション・ポリシーについて
9	1 月 16 日	議題 1 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)について 2 平成 29 年度一般選抜実施要領について
10	2 月 13 日	報告 1 今後の入試日程について 2 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)について
11	3 月 13 日	議題 1 合格判定の文言について 2 試験問題の開示について 3 平成 30 年度入学者選抜要項について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	7 月 9 日・10 日	オープンキャンパス
2	11 月 19 日	平成 29 年度入学者特別選抜試験
3	11 月 20 日	平成 29 年度入学者編入学試験
4	12 月 18 日	センター試験全体説明会
5	1 月 7 日	センター試験班別説明会
6	1 月 14 日・15 日	平成 29 年度大学入試センター試験
7	2 月 25 日	平成 29 年度一般選抜試験個別学力検査
8	4 月～3 月	学校説明会・模擬授業の開催・キャンパス見学
H	評価(成果および改善事項)(H28 年度達成状況を記載)	
	・ワーキンググループを設置し、志願者数減少の対策、問題の作成方法、小論文の必要性、入試問題の開示、後期試験導入の要否についてメール審議 3 回を実施し、各課題の現状と取組状況についてまとめた。大学基準協会からの指摘事項である「編入学定員に対して編入学生の比率が低い」ことに対しては、看護学科で全国的な背景、千葉県および本学の合格者の学習状況、方向性を明確にし、編入制度の改善計画をまとめ、医療整備課に提出した。	
I	次年度の方策(H29 年度への継続を記載)	
	・志願者数減少改善に向けた取り組みとして、高校訪問を充実させる ・試験問題開示の具体的な方法について提案する ・平成 32 年度入学者を見据えた入試区分ごとの選抜方法のあり方を、アドミッションポリシーと突き合わせ検討する	

(6)入試評価部会

A	部会長名	井上 裕光・教授(栄養学科)
	副部会長名	金子 潤・准教授(歯科衛生学科)
B	委員名	
C	部会員名	渡邊 尚子・教授(看護学科) 土橋 昇・教授(栄養学科) 工藤 典代・教授(共通教育運営会議) 細山田 康恵・准教授(栄養学科) 仲 貴子・助教(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 小林 毅・准教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 須賀 昭徳・学生支援課長(事務局)

D	所掌事務	1 入学者選抜試験問題及び入学者選抜試験結果の分析に関すること 2 入学者選抜試験実施の評価に関すること 3 入学者選抜試験に関する改善の検討に関すること 4 その他入学者選抜試験の調査及び評価に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<p>1. 特色科目枠で実施したアンケート・基礎学力調査、さらに、情報リテラシー枠で行っている数学基礎学力調査により、入学後の学力把握が必要である。</p> <p>2. 平成 28 年度に実施する平成 29 年度入試について、入試が適切に実施されたかどうかについて評価分析する。</p> <p>3. 入試実施後アンケートから、入試運営上の問題を検討する。</p> <p>4. 小論文出題内容について、引き続き学力の観点からの分析を行う。また、外注すべきかどうかについて、さらに、検討する。</p> <p>5. 認証評価のための自己点検・評価報告書で課題として挙げられた、「入学者選抜と入学後の修学状況等についての評価」について、さらに、英語についての入学直後の学力把握を検討する。</p>	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	(3-4 月)	特色科目委員長へ許可を得て、新 1 年生へ理科学力および理科数学高等学校履修状況調査を行うことを決定。調査母体は特色科目の体験ゼミナールを使う。
2	8 月 12 日	<p>議題 1 入学生の学力把握について(新課程入試 2 年目の状況について)</p> <p>2 今後の学力把握をどのように扱うか</p> <p>3 今年度入試への提言</p> <p>報告 1 昨年度・今年度の入学生の基礎学力について</p>
3	3 月 23 日	<p>議題 1 今年度入試に関する評価について</p> <p>2 とくに新課程入学生の状況について</p> <p>報告 1 今年度入学生の動向</p> <p>2 平成 29 年度入学者選抜試験のアンケート結果について</p>
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	<p>1. 特色科目枠で実施した入学者アンケートにより、今年度も特別選抜枠の入学生の多数がセンター試験を受けていることがはっきりした。入学予定者の入学前指導について何らかの方策が必要であるが、今のところ、受験生向けに呼びかけることが現実的かもしれない。なお、入学前指導を組織的に行っていない以上、引き続き入学生の学力把握を行う必要がある(低学力者対策のためにも事前の把握が重要になる)。</p> <p>2. 平成 28 年度に実施した平成 29 年度入試について、入試が適切に実施されたと思われる。ただし、これは現在の入試の枠組みで、一般選抜・特別選抜の実施に大きな問題は生じていないということである。</p> <p>3. 入試実施後アンケートからは、入試運営上特段の問題はないと、入試委員会へ報告した。</p> <p>4. 小論文出題内容については、昨年同様にかなり評価が分かれた。小論文問題が、国語の説明文相当の試験になっているという指摘を再度行っておく。小論文問題が学内で作成できないのであれば、外注すべきであるという意見も出され、同意する意見も出た。少なくとも、漢字を出題する意図が不明(本学として求められる学力であることが示されていない)という意見は多数を占めた。今後も、小論文+面接でどのように学力を担保するのか問題である。思考力を問うのであれば、要約課題を入れるべきとの指摘もあった。</p> <p>5. 認証評価のための自己点検・評価報告書で課題として挙げられた、「入学者選抜と入学後の修学状況等についての評価」について、不合格者情報を利用した分析も行ったが、それよりも、「合格者の入学後の成績のフォロー」「入学生の学力把握と学年進行での成績追跡」が重要であるとの議論があった。これはアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを公表する段階であるということとあわせて、今後の高大接続改革の動きの中で対応すべき課題が増えていることを示している。</p> <p>しかし、入試評価部会の分掌としては、(制度として実施した)入試を評価することであり、学力把握や入学後の成績追跡を担当可能か、マンパワーとしてもかなり難しい面がある。</p> <p>また、受験者への情報提供として、入試問題を公開することも再度議論に出たが、入試評価部会から入試実施部会へ付託することになる。</p>	

I	次年度の方策
<p>1. 入学生の学力把握の方法を今後とも検討する。特に、新入生にとって、入学後の適切な授業選択へと活用できるための方策を考える必要がある。</p> <p>2. 平成29年度に実施する平成30年度入試について、入試が適切に実施されたかどうかについて評価分析する。なお、試験問題公開について入試実施部会で議論する。</p> <p>3. 入試実施後アンケートから、入試運営上の問題を検討する。</p> <p>4. 小論文出題内容について、引き続き学力の観点からの分析を行う。また、外注すべきかどうかについて、さらに、検討する。</p> <p>5. 認証評価のための自己点検・評価報告書で課題として挙げられた、「入学者選抜と入学後の修学状況等についての評価」について、さらに、英語についての入学直後の学力把握を検討する。また、公開した3つのポリシーとの関係の中で、入試をどのように位置づけていけばよいかについて検討を開始する。</p>	

(7) 教員再任審査委員会

A	委員長名 委員長代理	田邊 政裕・学長 三和 真人・学部長
B	委員名	土橋 昇・教授 白澤 浩・千葉大学大学院医学研究院教授 石川 高弘・事務局長
C	部会名と 部会員名	【専門部会】 委員長の指名による
D	所掌事務	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月20日	1 今年度委員の紹介 2 今年度再任審査対象者の確認 3 審査の流れ及び日程について
2	5月7日	(専門部会)再任審査申請者の審査
3	5月21日	1 専門部会による業績審査の検討
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
11名の教員(栄養4名, 歯科衛生3名, 理学療法2名, 作業療法2名)再任審査を行い, 全員再任可と判定された		
I	次年度の方策	
適切な再任審査の実施		

(8) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者: 田邊 政裕・学長 衛生管理者: 大川 由一・教授(歯科衛生学科) 産業医: 豊島 裕子・教授(共通教育運営会議)
B	委員名	雄賀多 聡・教授(共通教育運営会議) 山口 妙美・企画運営課長
C	部会名と 部会員名	なし

D	所掌事務	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	平成 29 年 1 月 31 日	1 平成 28 年度千葉県職員勤務条件実態調査の結果について 2 職場巡視結果報告
2	3 月 22 日	1 平成 28 年度千葉県職員勤務条件実態調査指摘事項への対応について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
・所掌事項は概ね達成された		
I	次年度の方策	
・教職員の健康実態の把握 ・ワークライフバランスにも配慮した衛生環境・管理運営体制の構築		

(9) 防災対策委員会

A	委員長名	田邊 政裕・学長
B	委員名	三和 真人・学部長 佐藤 まゆみ・学生部長 日下 和代・図書館長(歯科衛生学科) 石井 邦子・看護学科 土橋 昇・栄養学科 大川 由一・歯科衛生学科 雄賀多 聡・リハビリテーション学科理学療法専攻
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 防災計画の作成に関する事項 2 防災設備の設置及び充実に関する事項 3 防災教育及び防災訓練に関する事項 4 その他防災に関する事項
E	年度当初の重点課題	
所掌事項の達成		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	6 月 13 日	1 平成 28 年度防災計画の策定について 2 防災訓練について(幕張キャンパス, 仁戸名キャンパス)
2	11 月 2 日	1 仁戸名キャンパスにおける防災訓練について 2 幕張キャンパスにおける防災訓練の結果について 3 平成 29 年度防災訓練について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6 月 22 日	1 防災訓練の実施(幕張キャンパス)

2	11月16日	2 防災訓練の実施(仁戸名キャンパス)
H	評価(成果および改善事項)	
・防災計画策定, 防災訓練の実施などにより目標は概ね達成された		
I	次年度の方策	
・防災対策などを含む総合的なリスクマネジメントの策定		

2) 学内委員会

(1) 総務・企画委員会

A	委員長名	西野 郁子・教授(看護学科)
B	委員名	渡邊 智子・教授(栄養学科) 荒川 真・准教授(歯科衛生学科) 竹内 弥彦・准教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 岡村 太郎・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 島田 美恵子・教授(共通教育運営会議)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学内規程に関すること 2 予算に関すること 3 教育及び研究施設の整備及び管理に関すること 4 広報に関すること 5 国際交流に関すること 6 ファカルティ・ディベロップメントに関すること 7 勤務評定(教育公務員特例法第20条)に関すること 8 教授会が付託した事項に関すること 9 他の委員会の所掌に属しないこと
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・学長, 大学運営会議, 教授会等からの依頼により学内規定に関する検討を行っていく。継続した事項として, 人事評価における業績評価の方法について案の提示をしていく。 ・平成28年度予算により講義室等の教育設備の整備を行う。 ・将来構想委員会から提示された課題に関して, 総務・企画委員会で所掌する事項について検討をしていく。 		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月18日	議題 1 年間計画について 2 授業評価アンケート公開準備について 3 平成28年度授業評価アンケートの実施について 4 平成28年度教育用予算による講義室等の整備について 5 業績評価について 6 将来構想に関する検討事項について 7 総務・企画委員会の委員会経費について 報告 1 臨時委員会の開催について 2 教員用ユニフォームについて 3 委員会の開催日程について
2	4月28日	議題 1 平成28年度委員会経費の調整について
3	5月16日	議題 1 平成28年度授業評価アンケートについて 2 平成28年度教育用予算による講義室等の整備について 3 業績評価について 4 将来構想に関する検討事項について 報告 1 平成27年度授業評価アンケート結果公開準備について

		2 平成 28 年度授業評価アンケートの実施について
4	6 月 20 日	議題 1 平成 28 年度教育用予算による講義室等の整備について 2 業績評価について 3 将来構想に関する検討事項について 報告 1 ユニフォームの貸与について 2 平成 28 年度授業評価アンケートの実施について
5	7 月 25 日	議題 1 業績評価について 2 将来構想に関する検討事項について 報告 1 平成 28 年度教育用予算による講義室等の整備について
6	9 月 29 日	議題 1 将来構想に関する検討事項について
7	10 月 17 日	議題 1 キャンパスプランの作成について 2 予算要求方針について 報告 1 大学の理念の公表について 2 授業評価アンケートについて
8	11 月 21 日	議題 1 キャンパスプランの作成について 2 予算要求方針について 報告 1 大学の理念の公表について
9	12 月 19 日	議題 1 キャンパスプランの作成について 2 予算要求方針について
10	1 月 16 日	議題 1 施設整備計画案の作成について 2 予算要求について 3 研究費予算について
11	2 月 20 日	議題 1 平成 29 年度研究費予算案について 2 平成 30 年度予算要求作業について 3 平成 29 年度予算執行作業について 報告 1 施設整備計画案について 2 授業評価アンケートについて
12	3 月 13 日	議題 1 平成 29 年度教育用予算配分案および予算執行作業について 2 平成 30 年度予算要求作業について 3 平成 28 年度授業評価アンケート結果公開準備について 4 平成 29 年度授業評価の実施について 報告 1 施設整備計画案について 2 4 月教授会での審議事項について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価(成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学予算研究費の研究費予算, 教育用予算について執行案を審議し, 教授会に提案し承認を得た。また, 各委員会の活動費に関して, 委員会等からの希望を取りまとめ執行案を作成した。 ・平成 28 年度教育用予算による講義室等の整備について, 執行案をとりまとめ整備を実施した。 ・学長からの依頼を受け, 人事評価における業績評価の方法について検討し, 教員業績評価票の作成と実施方法を提示し, 後期から人事評価が実施された。 ・授業評価アンケートについては, 非常勤講師の担当科目も含めた対象科目 398 科目について実施した。また, 科目別の集計結果表に担当教員がコメントを記載し, その後アンケート結果を学内で公開したが, 閲覧者は少なかった。 ・将来構想委員会から提示された課題に関して, 大学の施設設備の整備計画については, 「千葉県立保健医療大学整備計画」を作成し大学運営会議で承認された。また予算申請については, 平成 29 年度以降の教育用予算申請・執行の新たなプロセスを提案し承認に至った。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学長, 大学運営会議, 教授会等からの依頼により学内規定に関する検討を行っていく。 	

- ・授業評価アンケートについては、授業評価アンケートを有効活用するためには、総務・企画委員会が所掌することが適切かどうか、検討が必要である。
- ・教育環境整備に関して平成29年度(平成30年度予算要求)から総務・企画委員会による予算段階での調整を行うが、全学的な優先順位付けが具体的にどう進めていけるかが今後の課題である。また、全学整備についても予算要求・執行を具体的に進めていながらプロセスを整えていく必要がある。

(2) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	日下 和代・教授(歯科衛生学科) 河部 房子・教授(看護学科)
B	委員長名	川城 由紀子・准教授(看護学科) 竹内 久美子・准教授(看護学科) 植田 麻美・講師(看護学科) 東本 恭幸・教授(栄養学科) 金澤 匠・講師(栄養学科) 麻生 智子・講師(歯科衛生学科) 三和 真人・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 竹内 弥彦・准教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 高橋 伸佳・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 有川 真弓・准教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 島田 美恵子・教授(共通教育運営会議) 神田 みなみ・教授(共通教育運営会議) 須賀 昭徳・学生支援課長
C	部会名と 部会員名	<p>【コンピテンシー検討作業部会】 部会長:竹内 弥彦・准教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 部会員:竹内 久美子・准教授(看護学科) 東本 恭幸・教授(栄養学科) 麻生 智子・講師(歯科衛生学科) 高橋 伸佳・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 島田 美恵子・教授(共通教育運営会議)</p> <p>【新新カリキュラム作成作業部会】 部会長:河部 房子・教授(看護学科) 部会員:川城 由紀子・准教授(看護学科) 金澤 匠・講師(栄養学科) 麻生 智子・講師(歯科衛生学科) 三和 真人・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 有川 真弓・准教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 神田 みなみ・教授(共通教育運営会議)</p> <p>【教員負担の調査作業部会】 部会長:日下 和代・教授(歯科衛生学科) 部会員:川城 由紀子・准教授(看護学科) 金澤 匠・講師(栄養学科) 麻生 智子・講師(歯科衛生学科) 竹内 弥彦・准教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 有川 真弓・准教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 神田 みなみ・教授(共通教育運営会議)</p>

D	所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程及び授業日程に関すること 2 学生の入学, 再入学, 休学, 復学, 転学, 留学, 退学及び除籍並びに卒業等に関すること 3 試験及び単位の認定に関すること 4 学生の実習に関すること 5 科目等履修生, 特別聴講生, 聴講生, 研修生, 研究生及び外国人留学生に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他教務に関すること
E	年度当初の重点課題(H28年度重点施策を記載)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の高い合格率(100%)を維持すべく教育の充実と成績評価の厳格化 ・本学の使命を踏まえたディプロマ・ポリシーの検証, 見直し ・4年間一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム)の観点からカリキュラム・ポリシーの検証, 見直し ・ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス, コンピテンシーを作成し, それを達成する4年間一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム, アウトカム基盤型教育:OBE)の構築(ア) FD(教員の理解)(イ) 事務職との連携(ウ) 学生の理解を深める(ガイダンス等) ・栄養学科, 歯科衛生学科, リハビリテーション学科作業療法学専攻では, 教育課程の編成・実施, 教育内容・方法に関する基本的な考え方の提示 ・GPAの成績評価を確立し, 各学科, 専攻における学生評価に利用 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
臨	4月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1 競争的資金について 2 既修得単位の認定について
1	4月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員会年間スケジュールについて 2 学生の休学について 3 学生の公欠について 4 シラバスの修正について 5 ワーキンググループについて 6 授業負担調査について
2	5月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1 学生の休学について 2 実習施設の追加について 3 転入学について
3	6月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1 前期末試験日程について 2 後期入学科目等履修生等の募集について 3 学生の休学について 4 平成28年度後期時間割変更要望について 5 非常勤講師の変更について 6 学生の転入学について
4	7月25日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度後期履修登録スケジュールについて 2 学生の復学, 休学について 3 転入学について 4 非常勤講師の任用について
臨 2	8月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1 追再試験日程について 2 学生の休学・復学について 3 転入学規定の作成について 4 非常勤講師の任用について 5 非常勤講師の定年制について 6 コンピテンシーについて
5	9月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度学年暦(案)について 2 平成29年度時間割(案)について 3 学生の復学・休学について

		<p>4 平成 29 年度新入生ガイダンスの内容検討について</p> <p>5 教育ワークショップについて</p>
6	10 月 17 日	<p>1 平成 29 年度学年暦(案)について</p> <p>2 平成 29 年度時間割(案)について</p> <p>一般教養・保健医療基礎科目・専門科目の変更要望について</p> <p>3 学生の休学について</p> <p>4 非常勤講師の任用について</p> <p>5 実習施設の新規追加について</p> <p>6 原級留置制の検討について</p> <p>7 認証評価における「改善計画実施状況報告書」作成について</p> <p>8 IR 専門部会の設置について</p>
7	11 月 21 日	<p>1 平成 29 年度前期科目等履修生等の募集について</p> <p>2 平成 29 年度時間割(案)について</p> <p>3 平成 29 年度シラバスの作成について</p> <p>4 平成 29 年度ポートフォリオについて</p> <p>5 平成 29 年度学生ハンドブックの修正について</p> <p>6 平成 29 年度ガイダンスのスケジュール(案)について</p> <p>7 実習施設の新規追加について</p> <p>8 学生の休学について</p> <p>9 非常勤講師の任用について</p> <p>10 原級留置制の検討について</p>
8	12 月 19 日	<p>1 平成 28 年度後期末試験日程(案)について</p> <p>2 平成 29 年度時間割について</p> <p>3 平成 29 年度学生ハンドブックについて</p> <p>4 平成 29 年度ガイダンスのスケジュールについて</p> <p>5 実習施設の新規追加について</p> <p>6 学生の退学について</p> <p>7 平成 29 年度重点施策について</p> <p>8 看護学科選択科目の開講について</p> <p>9 非常勤講師の任用について</p> <p>10 平成 29 年度 放送大学との単位互換科目について</p> <p>11 新新カリキュラム作業部会の進捗について</p>
9	1 月 16 日	<p>1 平成 29 年度時間割について</p> <p>2 平成 28 年度後期成績発表スケジュールについて</p> <p>3 平成 29 年度シラバスの確認について</p> <p>4 非常勤講師の任用について</p> <p>5 実習施設の新規追加について</p> <p>6 先修条件の変更について</p>
10	2 月 27 日	<p>1 平成 28 年度卒業判定について</p> <p>2 平成 28 年度後期追再試験・補講の日程について</p> <p>3 学生の休学・退学・復学について</p> <p>4 先修条件の文言修正について</p> <p>5 実習施設の新規追加について</p> <p>6 非常勤講師の任用について</p>
11	3 月 27 日	<p>1 平成 29 年度教務委員会の年間スケジュールについて</p> <p>2 平成 29 年度前期履修登録について</p> <p>3 学生の休学・復学について</p> <p>4 非常勤講師の任用について</p> <p>5 平成 29 年度重点施策について</p>

		6 コンピテンシーの一部修正について 7 新カリキュラム評価アンケートの実施状況について
	開催日	コンピテンシー検討作業部会の主な議題
1	7月25日	1 学部コンピテンシーの修正について 2 各学科・専攻のコンピテンシー作成の進捗状況について
2	8月22日	1 学部コンピテンシーの修正について 2 大学の理念・目的とコンピテンシーとの対応について 3 各学科・専攻のコンピテンシー作成の進捗状況について
3	10月17日	1 学部コンピテンシーの確認 2 看護学科コンピテンシーの確認 3 今後の作業について
4	12月19日	1 学部コンピテンシー(最終版)の確認 2 カリキュラム表作成の進捗状況について 3 パフォーマンスレベルの整合性について
	開催日	新カリキュラム作成作業部会の主な議題
1	5月16日	新カリキュラム作成について
2	6月20日	新カリキュラム作成の作業工程について 現行カリキュラムに関する意見交換
3	7月25日	現行カリキュラムに関する意見交換
4	11月21日	新カリキュラム評価アンケートについて
5	12月1日	新カリキュラム評価アンケートについて
G		行事開催記録
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	9月27日	保医大教育ワークショップ(テーマ:アウトカム基盤型教育カリキュラム作成ワークショップ 対象:全教員)
H		評価(成果および改善事項)(H28年度達成状況を記載)
<p>国家試験対策は、各学科の進路支援委員会が中心となって、模擬試験、対策講座などを実施した。教務委員会として特に検討はしていない。</p> <p>コンピテンシー検討作業部会では、ディプロマ・ポリシー作成の基盤となる卒業時のアウトカムとしてコンピテンシーの作成を行った。具体的には、昨年度教務委員会で開催した教育ワークショップ(2015年3月)にて作成された学部コンピテンシーを基盤に、学部コンピテンシーの検証・作成し、各学科・専攻のコンピテンシーの検討へとつなげた。さらに教務委員会主催の教育ワークショップを開催し、学部ディプロマ・ポリシーを検証し、部会で作成した。最終的に、運営会議での検討を経て、学部コンピテンシーを新たな学部ディプロマ・ポリシーとして完成させ、教授会で承認を得た。各学科ディプロマ・ポリシーに基づく、カリキュラムマップ作成を各学科で作成中である。各学科作成のコンピテンシーと現在の教育内容・方法について整合性を検証している段階である。</p> <p>新カリキュラム検討部会では、新たな教育課程編成に向け、現在のカリキュラムの評価を実施するため、教員および学生へのアンケート調査を実施した。</p> <p>客観的な評価基準に基づくGPA 制度などの成績評価法は検討できなかった。</p>		
I		次年度の方策(H29年度への継続を記載)
<p>引き続き、4年間一貫教育カリキュラム(アウトカム基盤型教育)の構築にむけて、各学科・専攻でパフォーマンスレベル・学習方略(科目)の作成、評価法を検討する。この検討結果をふまえ、新カリキュラムの具体的な検討を進める(平成31年度より新カリキュラム導入予定)。</p> <p>GPA 制度などの成績評価法を検討し、平成30年度に導入を目標とし、その基準に基づいて個別の学修指導に活用できるよう準備を進める。</p>		

(3) 学生委員会

A	委員長名	佐藤まゆみ・学生部長
B	委員名	林ひろみ・准教授(看護学科) 鈴木亜夕帆・助教(栄養学科)

		山中紗都・助教(歯科衛生学科) 大谷拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 安部能成・准教授(リハビリテーション学科作業療法専攻) 小川 真・教授(共通教育会議)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 教授会が付託した事項に関すること 6 その他学生に関すること
E	年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)	
<p>所掌事務に関する活動を計画的に行う。平成 27 年度に策定した「学生支援に関する方針」に基づき、学生支援のあり方を検討し充実を図っていく。特に、「障害者差別解消法」(平成 28 年 4 月 1 日施行)に伴い、障害を有する学生への支援のあり方を早急に検討していく必要がある。また、相談体制の整備も積極的にすすめていく。</p> <p>【平成 28 年度重点施策】</p> <p>1. 同窓会・校友会設立へ向けての前身校 OB・OG, 本校卒業生との意見交換</p> <p>2. 学生と学長, 学部長, 学生部長との懇談会を定期的に開催</p>		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4 月 25 日	<p>議題 1 平成 28 年度委員会スケジュールについて 2 日本学生支援機構奨学生選考事務について 3 学校医での健康診断について 4 平成 28 年 B 型肝炎ワクチン接種計画について 5 学生との懇談会について 6 平成 28 年度学生支援計画について 7 平成 28 年度委員会経費について 8 学生団体の設立について</p> <p>報告 1 平成 28 年度健康診断実施状況について 2 平成 28 年度学生保険の加入状況について 3 2 年生と 4 年生のワクチン接種状況について 4 平成 27 年度卒業時調査結果について</p>
2	5 月 16 日	<p>議題 1 千葉県立保健医療大学前期授業料減免審査について 2 日本学生支援機構奨学生の推薦について 3 学校医の指定の追加について 4 平成 28 年度インフルエンザワクチン接種計画について 5 カウンセラー等との連携について 6 学生に対する学外からの緊急連絡について 7 平成 28 年度学生支援計画について 8 次年度予算の策定について 9 学生団体の設立について</p> <p>報告 1 委員会予算について 2 大学同窓会(仮称)について 3 健康診断結果の集団指導計画について 4 健康診断における事故に関わる報告 5 学生ホール冷温水器の管理者について</p>
3	6 月 27 日	<p>議題 1 平成 28 年度学生支援計画・委員会活動計画について 2 次年度予算の策定について</p>

		3 カウンセラー等との連携について 4 学生に関する学外からの緊急連絡について 報告 1 後援会総会報告について 2 学長等との懇談会について 3 学生団体活動報告書について 4 健康診断結果について
4	7月25日	議題 1 平成28年度学生支援計画について 2 カウンセラー等との連携について 3 学生に関する学外からの緊急連絡について 4 学生団体の設立について 議題 1 学生団体活動報告書について 2 ワクチン接種状況について
5	9月29日	議題 1 平成28年度学生支援計画について 2 平成28年度学園祭について 3 平成29年度健康診断及び学園祭の日程について 報告 1 ワクチン接種状況について 2 「カウンセラー等との連携」「学生に関する学外からの緊急連絡」について 3 学長等との懇談会について
6	10月6日～11日	議題 1 千葉県立保健医療大学後期授業料減免審査について
7	11月28日	議題 1 平成28年度学生支援計画について 2 平成29年度学生保険について 3 学生ハンドブックの修正について 4 自己健康管理ファイルの修正について 5 平成29年度重点施策について 6 定期健康診断前の健康診断を受診する学生数について 報告 1 ワクチン接種状況について 2 いずみ祭の反省について
8	12月19日	議題 1 平成28年度学生支援計画について 2 平成29年度健康診断の実施方法について 3 学生ハンドブックの修正について 4 自己健康管理ファイルの修正について 5 卒業式について 6 平成29年度重点施策について 7 サークルに対する学外団体からの協力について 8 「学生団体活動報告書」の提出時期の変更に伴う学生規程の変更について 報告 1 定期健康診断前の健康診断を受診する学生数について
9	2月27日	議題 1 卒業式について 2 FDについて 3 平成29年度健康診断・ワクチン接種計画について 4 サークルに対する学外団体からの協力について 5 学生への配布物について 報告 1 学業成績の送付について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月8日	健康診断
2	5月23日	学長等との懇談会(看護学科・栄養学科・歯科衛生学科3年生)
3	6月3日	学長等との懇談会(1年生)
4	8月12日	学長等との懇談会(リハビリテーション学科3年生)
5	10月14日	学長等との懇談会(2年生)

6	12月15日	学長等との懇談会(4年生)
7	3月24日	学生委員会主催 FD「医療系大学における発達障害や精神障害を抱える学生の相談内容と学生支援の実際」茨城県立医療大学人間科学センター教授・佐藤純先生
H	評価(成果および改善事項)(H28年度達成状況を記載)	
<p>【所掌事務1(学生の福利厚生)】</p> <p>①千葉県が定めた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する千葉県職員対応要領」に基づき、本学での運用方法をガイドラインとして整理した。また、FD「医療系大学における発達障害や精神障害を抱える学生の相談内容と学生支援の実際」を開催した。</p> <p>②学生から教員への相談について実態調査を行った。③カウンセラー、保健室担当者、教職員が連携して学生支援を行う体制について検討した。④学生に関して学外(消防機関等)から緊急連絡が入った際の情報の共有方法について検討を行った。⑤平成28年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。トイレ整備の優先箇所を県に提案した。後援会から学生会に寄贈された物品(自転車、冷温水器など)を学生がうまく管理できるよう支援した。県庁生協と連携して幕張売店・仁戸名弁当配達システムを運用した。⑥学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。平成29年度学生保険について検討した。⑦「平成29年度学生ハンドブック」の内容を検討した。</p> <p>【所掌事務1(学生の保健衛生)】①平成28年度健康診断を実施した。健康診断結果を4月中に実習施設に提出する必要があるリハビリテーション学科4年生数名については、昨年度整備した方法により学校医のクリニックで健康診断を実施できるようにした。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成28年度ワクチン接種計画(B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン)を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③平成29年度健康診断の実施計画について検討した。④「平成29年度自己健康管理ファイル」の内容を検討した。【所掌事務2】①学生団体(学生サークル)設立申請を審議した。②グラント整備物品(トンボ等)を入れるロッカーを設置した。③土曜日に体育館を開放する方法を事務担当者と検討した。④いずみ祭の実施を支援した。⑤サークルに対する学外団体からの協力依頼(共同開発など)への対応方法について検討した。⑥「学生団体活動報告書」の提出もれが多いため、提出時期を検討し、学生規程を変更した。【所掌事務3】日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。【所掌事務4】授業料減免(前期・後期)について審議した。【所掌事務6】①平成28年度卒業式の運営について検討した。②学生支援のために後援会理事会と連携した。③後援会からの要望をうけて学生の成績を保証人に送付する方法を検討した。④平成28年度卒業時調査の調査票作成を行った(学生支援部分)。【平成28年度重点政策及び平成29年度重点施策】①同窓会・校友会設立へ向けての検討を行うワーキンググループメンバーを選出した。②学生と学長、学部長、学生部長との懇談会を年5回開催した。③平成29年度重点政策のうち学生委員会担当の課題についてその適否を検討した。</p>		
I	次年度の方策(H29年度への継続を記載)	
<p>所掌事務及び重点政策に関する活動を計画的に行う。特に、「卒業時調査」などで評価が低い項目を中心に、支援の充実をはかる必要がある。平成28年度は、障害を有する学生への支援ガイドラインや学生の成績を保証人に送付する方法などを整備したので、平成29年度はそれらを運用し評価・洗練させていく。</p>		

(4) 進路支援委員会

A	委員長名	佐藤まゆみ・学生部長
B	委員名	杉本知子・教授(看護学科) 渡邊智子・教授(栄養学科) 麻賀多美代・講師(歯科衛生学科) 高杉潤・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 有川真弓・准教授(リハビリテーション学科作業療法専攻)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1 就職及び進学に関すること 2 県内就職の推進に関すること 3 教授会が付託した事項に関すること 4 その他学生の就職及び進学に関すること
E	年度当初の重点課題	
学生が希望する進路にすすむことができるよう、また、県内就職の推進に向けて、所掌事務に関する活動を計画的に行う。		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月25日	議題 1 平成28年度委員会開催予定について

		2 平成 28 年度進路支援計画について 3 平成 28 年度委員会活動費について 4 平成 28 年度第 1 回キャリアセミナーについて 5 平成 28 年度後援会への助成依頼について 6 後援会からの依頼について 報告 1 平成 27 年度就職進学状況について 2 平成 27 年度国家試験の結果について 3 平成 27 年度卒業時調査の結果について 4 平成 27 年度第 2 回キャリアセミナーの結果について
2	5 月 23 日	議題 1 平成 28 年度進路支援計画(全学・学科専攻)について 2 平成 28 年度第 1 回キャリアセミナーの準備状況について 3 平成 28 年度後援会への助成依頼について 4 「進路情報施設利用規程」の変更について 5 国家試験受験対策について:満足度が低い原因と対策 6 平成 28 年度卒業時調査の計画 報告 1 平成 27 年度国家試験の結果について 2 平成 27 年度就職進学状況について 3 平成 27 年度卒業時調査の結果について
3	6 月 27 日	議題 1 第 1 回及び第 2 回キャリアセミナーについて 2 平成 28 年度卒業時調査について 3 進路情報室の管理について 報告 1 後援会からの助成について
4	11 月 28 日	議題 1 平成 28 年度卒業時調査について 2 第 3 回キャリアセミナーについて 3 「進路情報施設利用規程」の変更について 4 平成 29 年度進路ガイドブックの修正について 5 平成 29 年度学生ハンドブックの修正について 報告 1 進路内定状況について 2 国家試験受験手続き状況について 3 進路情報室使用件数について 4 仁戸名ハローワーク活用状況について 5 第 1 回及び第 2 回キャリアセミナーの結果について
5	1 月 30 日 (メール審議)	議題 1 第 3 回キャリアセミナーについて
6	2 月 13 日 (メール審議)	議題 1 「進路情報施設利用規程」の変更について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	8 月 12 日	第 1 回キャリアセミナー 1 部:就活のすすめ方・履歴書・エントリーシートの書き方と面接試験のポイント・ 2 部:採用者はここを見る! 現場の求める人材とは(学科別分科会)
2	9 月 29 日	第 2 回キャリアセミナー 公務員試験の内容と対策
3	3 月 6 日	第 3 回キャリアセミナー 1 部:思いやりの心を基本とした人間関係構築の術 2 部:就活に活かすビジネスマナー
H	評価(成果および改善事項)(H28 年度達成状況を記載)	
【所掌事務 1(就職・進学支援)】①学科専攻と連携を図り, 大学全体(全学・学科専攻)として学生への進路支援を行った。②平成 27 年度キャリアセミナーの評価をふまえ, 平成 28 年度第 1 回・第 2 回・第 3 回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情		

報室の運営を行った。「進路情報施設利用規程」を現状にあわせて変更した。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣(週 1～2 回)を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生も大学内で就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も新たに依頼したところ、試験的な派遣(9月～11月の毎週火曜日)が実現した。学生には好評で、60相談枠中42枠(70%)の活用がみられた。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考えのもと連携して進路支援を行うことができるようにした。⑤平成 28 年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥平成 29 年度の「進路ガイドブック」等の内容を検討した。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧平成 28 年度就職率は 98.8%であった。

【所掌事務 1(国家試験対策)】①平成 27 年度国家試験結果をとりまとめた。不合格者のフォローアップ計画を確認した。②学科専攻と連携を図り、大学全体(全学・学科専攻)として学生への国家試験受験支援を行った。平成 27 年度卒業時調査の結果、国家試験受験支援に対する学生の満足度がやや低かったため、その原因を分析し対策を検討した。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受ける方法を検討した。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤平成 28 年度国家試験合格率は、保健師 96.2%、助産師 66.7%、看護師 97.5%、管理栄養士 100%、歯科衛生士 100%、理学療法士 100%、作業療法士 100%であった。

【所掌事務 2】①平成 28 年度県内就職率は 63.5%(前年度 70.0%)であった。②就職を取り巻く状況は学科専攻によって大きく異なるため、学科専攻別に県内就職推進に関する計画を立案するよう促した。

【所掌事務 4】平成 28 年度卒業時調査の調査票作成(進路支援部分)を行い、調査を実施した。

I	次年度の方策(H29 年度への継続を記載)
所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率 100%(全学科)をめざし、全学与学科専攻が連携して取り組んでいきたい。	

(5) 図書・情報委員会

A	委員長名	日下和代・図書館長
B	委員名	神田みなみ・教授(看護学科) 石川志麻・講師(看護学科) 豊島裕子・教授(栄養学科) 谷内洋子・准教授(栄養学科) 鈴鹿祐子・講師(歯科衛生学科) 三和真人・教授(リハビリテーション学科・理学療法学専攻) 仲貴子・助教(リハビリテーション学科・理学療法学専攻) 岡村太郎・教授(リハビリテーション学科・作業療法学専攻) 安部能成・准教授(リハビリテーション学科・作業療法学専攻) 長谷川卓志・教授(共通教育運営会議) 井上裕光・教授(共通教育運営会議) 榎本輝樹・講師(学長指名)
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事務	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関すること 2 図書資料等の収集、購入計画及び管理に関すること 3 情報システムの整備運営に関すること 4 ホームページの管理運営に関すること 5 情報処理教育及び情報研究に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他図書館及び情報システムに関すること
E	年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館アンケートの結果を掲示、改善点について対応可能な部分の変更 ・図書館における延滞督促に関する改定 ・文献検索セミナーについて、学生向けと FD を分かりやすいように分けて開催する 		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題

1	6月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1.平成27年度図書館利用統計について 2.平成28年度図書館関係予算について 3.平成28年度定期購入図書について 4.平成28年度定期購読雑誌の購入計画について 5.電子ジャーナル・データベースについて 6.平成28年度購入図書の推薦について 7.「文献検索セミナー」の開催について 8.平成28年度図書館だより「ぽーれぽーれ」の作成計画について 9.平成27年度図書館アンケート結果の表示について 10.幕張キャンパス図書館除籍資料の選定について 11.延滞督促および延滞罰則の導入について
2	3月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1.資料購入関係予算の執行状況について 2.平成29年度図書館の開館スケジュールについて 3.図書館蔵書点検結果報告 4.平成27年度文献検索セミナー実施報告 5.延滞罰則システムの実施について 6.幕張キャンパス図書館除籍資料について 7.仁戸名キャンパス図書館除籍資料について 8.図書館利用統計について次年度の文献検索セミナーについて 9.幕張キャンパス図書館除籍資料の選定について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月1日	図書館ガイダンス(新任教員向け)
2	4月7日	図書館ガイダンス(新入生ガイダンス)
3	4月7日	図書館ガイダンス(幕張図書館ツアー)(看護2回, その他の学科・専攻ごとに各1回)合計6回
4	4月11日	文献検索ガイダンス(栄養学科4年生)
5	4月13日	図書館ガイダンス(仁戸名図書館ツアー)(リハビリテーション学科の専攻ごとに1回)合計2回
6	4月18日	第1回文献検索セミナー 医中誌WEBとPubMedの使い方
7	5月2日	文献検索ガイダンス(リハビリテーション学科理学療法専攻3年生)
8	5月25日	第2回文献検索セミナー 文献(図書・雑誌論文)の探し方
9	7月25日	文献検索ガイダンス(情報リテラシー1年生・2クラス分)合計2回
10	7月29日	文献検索ガイダンス(情報リテラシー1年生・1クラス分)
11	9月7日	第1回FD文献検索セミナー APA(米国心理学会)に学ぶ文献引用方法 前田樹海(東京有明医療大学大学院 看護学研究科 教授)
12	9月21日	第2回FD文献検索セミナー 文献情報の管理方法 松本直子(聖路加国際大学 学術情報センター 学習コミュニティ支援室 室長)
13	10月3日	図書館ガイダンス(新任教員向け)
14	12月6日	文献検索ガイダンス(リハビリテーション学科作業療法専攻3年生)
15	2月13日	第3回文献検索セミナー 医中誌WEBとPubMedの使い方
16	3月6日	第4回文献検索セミナー 医中誌WEBとPubMedの使い方
H	評価(成果および改善事項)(H28年度達成状況を記載)	
<p>図書館アンケートの結果を掲示した。また、アンケートで意見があった改善点について、可能な点については改善した(希望する図書のうち対応可能な資料の補充, 私語・席の荷物専有などについての掲示(荷物については注意喚起のメモをその都度置くなど)、情報パソコンに印刷専用を作る(幕張)、ひざ掛けの貸与(幕張)、仁戸名図書館での新聞記事の掲示など)。</p> <p>図書館における延滞督促に関する改定について、平成25年度第4回図書・情報委員会から継続して調整等を行っていたが、システム調整や周知、図書館利用規程の改定などを行い、平成28年10月17日からメールによる督促や延滞に伴う貸出停止システムを導入した。</p> <p>文献検索セミナーについては、学生向けとFDとを分けて開催した。講義の主な対象をはっきりさせたことで、より分かりやすい講座になった。</p>		

I	次年度の方策(H29年度への継続を記載)
前年度の文献検索セミナーはFDのみ外部講師に依頼したが、学生向け講座にも外部講師を依頼する。利用促進のためのリーフレットを作成する。	

(6) 学術推進企画委員会

A	委員長名	大川 由一・教授(歯科衛生学科)
B	委員名	渡邊 尚子・教授(看護学科) 河部 房子・教授(看護学科) 井上 裕光・教授(栄養学科) 金子 潤・教授(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 太田 恵・助教(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 佐藤 大介・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 松尾 真輔・助教(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 豊島 裕子・教授(共通教育運営会議) 越川 求・准教授(共通教育運営会議)
C	部会名と 部会員名	<p>【紀要編集部会】</p> <p>部会長: 河部 房子・教授(看護学科) 副部会長: 大川 由一・教授(歯科衛生学科) 部会員: 西野 郁子・教授(看護学科) 田口 智恵美・講師(看護) 細山田 康恵・准教授(栄養学科) 越川 求・准教授(栄養学科) 金子 潤・准教授(歯科衛生学科) 荒川 真・准教授(歯科衛生学科) 高杉 潤・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 佐藤 大介・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 松尾 真輔・助教(リハビリテーション学科作業療法学専攻)</p> <p>【共同研究審査部会】</p> <p>部会長: 三和 真人・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 部会員: 小川 真・教授(看護学科) 小笠原 祐子・准教授(看護学科) 細山田 康恵・准教授(栄養学科) 金澤 匠・講師(栄養学科) 吉田 直美・教授(歯科衛生学科) 荒川 真・准教授(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・講師(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 岡村 太郎・教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 吉野 智佳子・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 島田 美恵子・教授(共通教育運営会議) 榎本 輝樹・講師(共通教育運営会議)</p>
D	所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学内の学術推進に関すること 2 共同研究等の募集及び審査等に関すること 3 紀要の編集及び発行に関すること 4 大型外部資金の獲得に関すること 5 動物実験に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他学術推進に関すること

E		年度当初の重点課題(H28年度重点施策を記載)
1. 他学科(学内), 他大学, 地域の病院, 診療所, 保健・医療・介護施設, 企業等との協働による介入研究により地域包括ケアに資する新たなエビデンスを創出あるいはエビデンスの確認		
2. イノベーションに繋がるオンリー・ワンの研究を企画・推進する		
F		会議記録(含む部会の開催)
開催日	主な議題	
1	4月18日	1 平成28年学内共同研究の採択結果等について 2 委員会の運営経費について 3 各部会の担当者について
2	5月16日	1 平成28年度重点施策(研究)への対応について 2 紀要について 3 外部資金獲得について 4 紀要のJ-STAGEへの登録について 5 共同研究について
3	6月20日	1 共同研究発表開催日について 2 紀要の編集方針について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 システムティックレビューの作成について 6 紀要のJ-STAGEへの登録について
4	7月25日	1 共同研究発表会について 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアに関するレビューについて 6 紀要のJ-STAGEへの登録および学術雑誌公開支援事業の終了に伴うデータ移行について
5	8月22日	1 共同研究発表会について 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 地域包括ケアに関するレビューについて 5 紀要のJ-STAGEへの登録および学術雑誌公開支援事業の終了に伴うデータ移行について 6 外部資金獲得について
6	9月20日	1 共同研究発表会について 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアシステムティックレビューに関する作業部会立ち上げについて 6 イブニングセミナーの旅費について
7	10月17日	1 次年度共同研究の募集について 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアシステムティックレビューに関する作業部会について 6 平成28年度重点施策・改善計画実施状況報告について 7 共同研究の事後抄録提出状況について
8	11月22日	1 次年度共同研究の募集について 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について

		<ul style="list-style-type: none"> 5 地域包括ケアシステムティックレビューに関する作業部会について 6 平成 28 年度重点施策・改善計画実施状況報告について 7 共同研究の事後抄録提出状況について 9 紀要の J-STAGE への登録および学術雑誌公開支援事業の終了に伴うデータ移行について
9	12月19日	<ul style="list-style-type: none"> 1 共同研究募集および審査スケジュールについて 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 地域包括ケアシステムティックレビューに関する作業部会について 6 平成 29 年度重点施策・改善計画について
10	1月25日	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成 29 年度共同研究費募集について 2 紀要について 3 イブニングセミナーについて 4 外部資金獲得について 5 平成 29 年度重点施策・改善計画実施状況最終報告書について 6 地域包括ケアシステムティックレビューに関する作業部会について
11	2月13日	<ul style="list-style-type: none"> 1 共同研究審査部会報告等について 2 紀要の進捗状況について 3 平成 29 年度重点施策と中長期目標・計画について 4 平成 28 年度重点施策・改善計画実施状況最終報告書について 5 J-STAGE への紀要の公開について
12	3月13日	<ul style="list-style-type: none"> 1 共同研究審査結果について 2 紀要の進捗状況について 3 地域包括ケアシステムに関するエビデンスのシステムティックレビューについて
開催日		紀要編集部会の主な議題
1	9月13日	<ul style="list-style-type: none"> 1 紀要編集スケジュールについて 2 投稿予定論文の応募状況と担当者について 3 編集担当者・査読者の役割について 4 査読情報閲覧について 5 その他
2	10月12日	<ul style="list-style-type: none"> 1 投稿論文編集者・査読者の決定について 2 査読依頼の手続きについて
3	11月8日	<ul style="list-style-type: none"> 1 査読結果および審査結果について 2 その他
4	1月5日	<ul style="list-style-type: none"> 1 再査読結果および審査結果について 2 その他
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	1月30日	<ul style="list-style-type: none"> 1 審査部会長の選出について 2 共同研究募集及び審査スケジュールについて 3 その他
2	2月20日	<ul style="list-style-type: none"> 1 申請書の配布について 2 審査方法の確認について
3	3月9日	<ul style="list-style-type: none"> 1 審査結果について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	8月30日	平成 27 年度共同研究発表会
2	9月15日	第 1 回イブニングセミナー「医療系大学における高大連携の取り組み」齋藤 真 教授(三重県立看護大学 企画情報担当理事 メディアコミュニケーションセンター長)
3	9月21日	平成 29 年度科学研究費助成事業学内説明会

4	10月20日	第2回イブニングセミナー「地域包括ケアシステムを見据えた戦略研究とは」飯島 勝矢 教授(東京大学高齢社会総合研究機構 教授)
5	12月6日	第3回イブニングセミナー「なぜ知っておくべき？地域包括ケア ～これからの人財育成のために～」田中 康之 氏(千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部 部長, 一般社団法人千葉県理学療法士会 会長)
H	評価(成果および改善事項)(H28年度達成状況を記載)	
<p>平成28年度の総括</p> <p>所掌事務 1. 大学内の学術推進に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 共同研究発表会を開催し, 教員間の研究交流を図った. ◇ 研究の質向上をメインテーマとして, 3回のイブニングセミナー(FD)を開催した. ◇ 地域包括ケアシステムに関する作業部会を立ち上げ, エビデンスのシステムティックレビューについて検討した. <p>所掌事務 2. 共同研究等の募集および審査に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 平成29年度共同研究費募集要項ならびに審査基準を改定, 公表した. ◇ 平成29年度共同研究費の公募を行い, 審査部会にて審査採択を行った. エフォート確保の項目については「教育」以外に, 学内の管理運営を追加した. <p>所掌事務 3. 紀要の編集, 発行に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 紀要編集にあたり, 編集担当者・査読者の役割について確認した. ◇ 第7巻の募集を行い, 査読, 編集を行った. <p>所掌事務 4. 大型外部資金の獲得に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 科研費, 厚労省科研その他, 研究助成金の情報収集を行い, 科研費については応募に係る学内説明会を開催した. <p>所掌事務 5. 動物実験に関すること 特になし</p> <p>所掌事務 6. 教授会の付託事項 特になし</p> <p>所掌事務 7. その他学術推進に関すること 特になし</p> <p>H28年度重点施策の達成状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域包括ケアに資する新たなエビデンスを創出あるいはエビデンスの確認のため, システムティックレビューに関する作業部会を立ち上げ, 次年度の成果公表に向けて準備を進めてきた. また, 学内共同研究費助成による研究促進, イブニングセミナー開催をしてきた. 各回のイブニングセミナーの参加率は30～40%であったが, セミナー開催までの周知期間が短いことを考慮する一定の成果をあげた. 今後, イブニングセミナーの参加率向上に向けた企画が求められる. 2 研究の企画・推進に向けて, 外部研究資金への応募および採択状況を検証し, 申請率および採択率の向上に向け議論した. 		
I	次年度の方策(H29年度への継続を記載)	
<ol style="list-style-type: none"> 1 地域包括ケアシステムに関するエビデンスのシステムティックレビューを本学紀要に掲載する. 2 研究の活性化をはかるため, 科研費申請率50%, 新規採択率30%以上等の達成を図る. 		

(7) 研究等倫理委員会

A	委員長名	三和 真人・教授(学部長)
B	委員名	<p>—学内委員—</p> <p>浅井 美千代・准教授(看護学科)</p> <p>鳥田 美紀代・講師(看護学科)</p> <p>長谷川 卓志・教授(栄養学科)</p> <p>荒井 裕介・講師(栄養学科)</p> <p>吉田 直美・教授(歯科衛生学科)</p> <p>鈴鹿 祐子・講師(歯科衛生学科)</p> <p>雄賀多 聡・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>有川 真弓・准教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻)</p> <p>—学外委員—</p> <p>加藤 隆・教授(千葉大文学部)</p> <p>安村 勉・教授(千葉大大学院専門法務研究科)</p> <p>竹内 治・弁護士(松本・山下総合法律事務所)</p> <p>望月 由紀・特任准教授(千葉大学看護学研究科)</p>

		島津 実伸・特任助教(千葉大学医学部附属病院臨床研究部)
C	部会名と 部会員名	—動物実験研究倫理審査部会— 部長:三和 真人・教授(学部長) 細山田 康恵・准教授(栄養学科) 山田 正子・准教授(栄養学科) 金澤 匠・講師(栄養学科) 雄賀多 聡・教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻)
D	所掌事務	人間および動物を直接対象とする研究等に対して, 倫理に係る必要事項を審査する.
E		年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)
イノベーションに繋がるオンリー・ワンの研究を企画・推進する		
F		会議記録(含む部会の開催)
	開催日	主な議題
1	4月13日	倫理審査申請書を審査(新規3件審査, 条件付き承認3件).
2	5月11日	倫理審査申請書を審査(新規6件審査, うち条件付き承認5件, 保留1件).
3	6月8日	倫理審査申請書を審査(新規14件審査, うち承認9件, 条件付き承認4件, 保留1件). 新規申請のうち, 2件は内容変更.
4	7月13日	倫理審査申請書を審査(新規6件と保留分1件の審査, うち承認4件, 条件付き承認3件).
5	9月14日	倫理審査申請書を審査(新規6件審査, うち承認2件, 条件付き承認4件).
6	10月12日	倫理審査申請書を審査(新規3件審査, うち承認1件, 条件付き承認2件).
7	11月9日	倫理審査申請書を審査(新規3件審査, うち承認3件).
8	12月14日	倫理審査申請が0件で, 委員会は開催せず.
9	1月11日	倫理審査申請書を審査(新規6件審査, うち承認3件, 条件付き承認3件).
10	2月8日	倫理審査申請書を審査(新規3件と保留分1件の審査, うち承認2件, 条件付き承認2件)
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	6月9日	動物実験倫理審査申請書を審査(3件審査)
2	8月30日	動物実験倫理審査申請書を審査(1件審査)
G		行事開催記録
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H		評価(成果および改善事項)(H28 年度達成状況を記載)
<p>昨年度の審査件数 67 件から比較すると, 新規および保留分を併せて 52 件と減少した. 新規申請自体は例年と件数の上下はなく, 平行に推移していると思われる.</p> <p>卒業研究倫理規定の改定を平成 26 年度に実施してあったが, 周知が徹底しておらず, 再度 4 月 4 日の教授会で改定の経緯を説明し, 承認を得ることができた.</p>		
I		次年度の方策(H29 年度への継続を記載)
<p>新規申請の中に利益相反に抵触するのではないかと疑われる案件があり, 委員会で議論するまでに至らなかった. 学術推進企画委員会なども協議し, 利益相反の規程など(学内共同研究の申請, 紀要投稿等)を早急に整備する必要があるものと考えられる.</p>		

(8) 社会貢献委員会

A	委員長名	高橋 伸佳・教授 (リハビリテーション学科 作業療法学専攻)
B	委員名	三枝 香代子・准教授(看護学科) 麻生 智子・講師(歯科衛生学科) 三宅 理江子・助教(栄養学科) 真寿田 三葉・准教授(リハビリテーション学科 理学療法学専攻) 安部 能成・准教授(リハビリテーション学科 作業療法学専攻) 山口 妙美・企画運営課長 長澤 孝・企画運営課

C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事務	1. 公開講座の企画及び運営に関すること。 2. 教授会が付託した事項に関すること。 3. その他社会貢献活動に関すること。
E	年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)	
1. 公開講座の円滑な運営 2. H28 年度重点施策 1) 健康づくり・疾病予防への提案(県・地域への点検・評価, 見直し, 提案) 2) 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画, 実施(地方創成) 3) 専門職を対象とした生涯教育の企画, 実施		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	5月16日	公開講座準備(広報計画等), H28 年度重点施策関連の学科別調査
2	7月25日	公開講座準備(人員配置等), 重点施策学科別調査の集計
3	9月26日	公開講座準備(当日の準備)
4	12月12日	公開講座のアンケート集計結果等
5	1月30日	次年度公開講座準備(メインテーマ等)
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	10月9日	「見詰めよう, 自分の心と身体」をテーマに, 公開講座Ⅰを開催
2	10月23日	「見詰めよう, 自分の心と身体」をテーマに, 公開講座Ⅱを開催
H	評価(成果および改善事項)(H28 年度達成状況を記載)	
1. 公開講座 H28 年度の公開講座参加者は1回目が77名, 2回目が65名(計142名)であった。昨年(178名)より減少しており, 今後講義テーマなどを再考する必要がある。参加者のアンケートでは, 内容についてはおおむね良い評価であった。 2. H28 年度重点施策 1) 「健康づくり・疾病予防」に関する情報交換を, 県の健康福祉部との「意見交換会」で実施(本年度は1回, テーマは「認知症について」) 2) ①卒後教育について, 各学科・専攻の現状を調査した。 ②本学が主催する卒後教育の必要性や内容について各学科・専攻に調査した。 ③卒業生を対象としたアンケート調査の必要性について各学科に調査した。 3) ①各学科・専攻における生涯教育の実態調査を行った。 ②生涯教育の必要性, 内容について各学科の意見を調査した。③卒業生へのアンケート調査の必要性について各学科の意見を聞いた。		
I	次年度の方策(H29 年度への継続を記載)	
1. 公開講座 今後も参加者が興味を持つメインテーマ, 講義テーマを設定し, 積極的な広報活動を行っていく予定である。 2. H28 年度重点施策 1) 年2回実施を定例化する。 2) 卒業生を対象としたアンケート調査に同意がえられれば, 作成・実施する。さらに, アンケート調査を実施した場合はその結果もふまえて, 本学主催の卒後研修について, 各学科・専攻ごとに具体的な方法を検討する。アンケートを実施しない場合は, 本学が独自に立案する。 3) アンケートが必要との判断ならば, アンケートを実施する。アンケートの結果, 生涯教育が必要と判断されれば, その結果を参考に具体的な方法を立案する。アンケートを実施しない場合は, 本学が独自に立案する。		

(9) ネットワーク委員会

A	委員長名	井上 裕光・教授(共通教育会議)
---	------	------------------

B	委員名	雨宮有子・准教授(看護学科)、小笠原祐子・准教授(看護学科)、豊島裕子・教授(栄養学科)、海老原泰代・講師(栄養学科)、荒川真・准教授(歯科衛生学科)、麻賀多美代・講師(歯科衛生学科)、大谷拓哉・講師(理学療法学専攻)、太田恵・助教(理学療法学専攻)、岡村太郎・教授(作業療法学専攻)、佐藤大介・講師(作業療法学専攻)、柘本輝樹・講師(共通教育会議) 陪席: 山口妙美・企画運営課長、須賀昭徳・学生支援課長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事務	情報システム(情報ネットワークシステム, 教務・入試システム, 図書システム)の活用等に関すること 教員の情報システムの活用を支援すること 学生の情報システムの活用等を支援すること 大学の情報セキュリティポリシーに関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学ホームページ改訂に向けた作業を行う。情報の時点修正による update で備える。英文ホームページに関する作業量を見積もり、実際に検討する。 2. 大学ネットワークシステム更改後のいっそうの安定運用を図る。また、Windows7Pro の市場供給が秋にも途絶えることになるため、今後の研究用 PC の増加に対応できるようにする。 3. 学生緊急 ML の更新・整備を行い、実際に shienka アカウントにより適正な業務量で運用する。安否システムを分掌決定後に導入し、規模想定と運用ルールを定める。教職員＋学生全体によるテスト運用を実施する。 4. 引き続き、ネットワーク攻撃の高度化・精緻化に対応するために、教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により、システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図る。 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月(3月)	H27 引継ぎ事項確認(3/24 発信), 新規学生用 ML メンテナンス, 大学ホームページ改訂のための予算獲得状況を報告(予算無し), H28 年度活動計画, H28 年度 FD 計画, HP 用データのメンテナンス作業, H29 年度以降の HP 管理 以降メール会議
2	4月1日	第一回セキュリティ講習会開催 開催後に打ち合わせ
3	4月	SNS による情報発信開始(柘本委員担当)学長・事務局経由ルートでメール決済
4	5月9-11日	第一回情報処理施設メンテナンス実施(セキュリティ強化のため緊急実施)
5	5月	法定点検の停電による日程調整
6	5月-6月	学生用 ML 運用, HP 更新作業依頼
7	7月22日	仁戸名キャンパスネットワーク断(工事業者による)対応連絡と確認作業
8	10月3日	第二回セキュリティ講習会開催 開催後に打ち合わせ
9	10月	第二回情報処理施設メンテナンス日程調整
10	10月	H28 重点施策の検討(メール会議)
11	10月	次期情報処理システムへのヒアリング開始・広報委員会調査依頼
12	11月28-29日	第二回情報処理施設メンテナンス実施(セキュリティ強化のため緊急実施)
13	2月20日	広報委員会設置のための機能について報告(将来構想委員会へ)
14	2月-3月	H29 年度予算見直し(予算見直し) ホームページ刷新方針の検討, e-Learning システム導入の検討, 県の広報との確認, 英語版ホームページの校閲を学長裁量へ申請, 今後の検討について(新入生名簿確定後に新年度対応作業についてメール発信)
		なお随時メール会議を行った。また、学生・教員・事務局へのサポートは井上・柘本委員が随時行っている。
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月1日	H28 第1回 FD テーマ「今年度の動向と課題」 講師: 井上裕光 教授(ネットワーク管理者) 出席者 20 名
2	10月3日	H28 第2回 FD テーマ「2016 年現在の動向と課題(2)」 出席者 11 名

	講師:井上裕光 教授(ネットワーク管理者)
3	その他, ネットワークプリンタ設定を 12 回, 学内接続作業を 2 回行った.
H	評価(成果および改善事項)
	<p>1. 大学ホームページ改訂に向けた作業が大幅に遅延した. 情報の時点修正による update を行ったのみであった. 学内英語教員の協力(神田教授・植田講師)を依頼し, 快諾された. 外部校閲のための費用は学長裁量研究への申請でまかなうことになった.</p> <p>2. Windows7への攻撃に伴う, マイクロソフトの緊急Updateが続いたため, 学内情報処理システムの緊急メンテナンスが2回も必要になった. 大学ネットワークシステム更改後のいっそうの安定運用を図ることはできた. ただし, 7月にサーバーファンが連続して停止するなど(部品レベルでの)システムの不安定要因が増している(メーカーの過剰品質見直しに伴う, 品質管理の問題). Windows7Proの入手についてアナウンスを繰り返した.</p> <p>3. 学生緊急ML整備を行ったが, 依頼から収集完了まで1ヶ月以上かかった. 今後のメンテナンス方法に課題が残る. shienkaアカウントにより運用は2年目となり発信もコンスタントに行えるようになった(学生の個別スマホメール収集は完全に代替できる). ただし, 学内教員への学生メール利用の徹底も問題となっている(教員側が学生にメール利用を徹底できていない). 成績入力前後のメール確認ができない学生が出てきていることも過大である. 安否システム導入は困難を極めている.(安否システム側のUpdateが5月6月に入り, スマホ専用となったことも周知が難しく)さらに, 休学復学退学学生への対応のために, 都度発生する事務量を別システムへ反映することが極めて困難(本来メンバーへのオンオフ機能がない)のため, 適切な導入が図れていない. 運用面でも現状では導入できていない.</p> <p>4. 複数回のFDおよび随時の情報提供に努めた. 身代金型攻撃(ランサムウェア)の急増など, ネットワーク攻撃の高度化・精緻化に対応するために, トラブル発生の都度FDを企画して, 教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により, システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図り続けることが必要.</p>
I	次年度の方策
	<p>1. 大学ホームページ改訂に向けた作業を行う. 情報の時点修正によるupdateで備える. 英文ホームページに関する作業も並行して準備し, 改訂を無事に行う.</p> <p>2. 新大学ネットワークシステム更改までの安定運用を図る. とくに導入後3年を経過したため, ハードディスク・UPS等消耗部品の入れ替えが予想されるため, 十分な告知と業者との連携で対応する. 同時に, 次期システムへの情報収集を行うとともに, 大学の拡張計画(大学院設置・新カリ導入)に対応可能なシステム構築を目指す.</p> <p>3. 学生MLの更新・整備を行い, shienkaアカウントによる定期的な情報発信を行う(作業を年間スケジュール化し, 学生・教職員がもっと利用できるようにする). 安否システムを分掌決定後に導入し, 規模想定と運用ルールを定める. 教職員+学生全体によるテスト運用を実施する.</p> <p>4. 東京オリンピック決定後に急増しているサイバー攻撃(ネットワーク攻撃の高度化・精緻化・IoT機器攻撃・日本人によるサイバーテロ)に対応するために, 教職員への情報提供・注意喚起の啓蒙活動により, システム構成員全体のセキュリティ意識向上を図る. ただし, セキュリティ講習会への参加者を増やす方法を検討する(どうやったら出席しやすいか).</p>

(10)特色科目委員会

A	委員長名	三和 真人・教授(リハビリテーション学科理学療法専攻)
B	委員名	北川 良子・講師(看護学科) 金澤 匠・講師(栄養学科) 越川 求・准教授(栄養学科 共通教育) 井上 裕光・教授(栄養学科 共通教育) 豊島 裕子・教授(栄養学科 指名他) 大川 由一・教授(歯科衛生学科) 日下 和代・教授(歯科衛生学科 指名他) 島田 美枝子・教授(歯科衛生学科 指名他) 仲 貴子・助教(リハビリテーション学科理学療法専攻) 松尾祐輔・助教(リハビリテーション学科作業療法専攻) 須賀昭徳・事務局学生支援課々長 仲橋雄大・事務局学生支援課主事
C	部会名と 部会員名	【体験ゼミナール】 部会長:井上 裕光・教授(栄養学科)

		島田 美恵子・教授(歯科衛生学科) 塩原 由美子・講師(看護学科) 金澤 匠・講師(栄養学科) 仲 貴子・助教(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 松尾 真輔・助教(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 【千葉県健康づくり作業部会】 部長:大川 由一・教授(歯科衛生学科) 雨宮 有子・准教授(看護学科) 荒井 祐介・講師(栄養学科) 榎本 輝樹・講師(歯科衛生学科) 仲 貴子・助教(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 【専門職間の連携活動論】 部長:豊島 裕子・教授(栄養学科 指名他) 西山 正恵・講師(看護学科) 三宅 理江子・助教(栄養学科) 金子 潤・准教授(歯科衛生学科) 太田 恵・助教(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 吉野 智佳子・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻)
D	所掌事務	1 特色科目(体験ゼミナール,千葉県健康づくり,専門職間の連携活動論)の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生,教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E		年度当初の重点課題(H28年度重点施策を記載)
		千葉大学とのIPE連携体制の構築を協議・検討する。
F		会議記録(含む部会の開催)
	開催日	主な議題
1	4月11日	平成28年度委員の選任について 特色科目の継続性について
2	6月13日	IPEに関するFDの開催について 報告「専門職間の連携活動論」作業部会の報告
3	9月12日	「千葉県の健康づくり」,「専門職間の連携活動論」の担当教員について 「これからの大学における」の必要性について IPEのFDについて(平成29年3月ごろ)
4	11月7日	平成29年度「体験ゼミナール」,「千葉県の健康づくり」,「専門職間の連携活動論」の担当責任者の選出について 報告体験ゼミナールの報告書等の進捗状況,専門職連携活動論(第1回教員説明会の報告),「亥鼻IPE」の参加について,千葉大学(酒井先生)のFDについて
5	1月16日	3月開催のFDについて
6	2月21日	平成29年度への引き継ぎについて その他
	開催日	体験ゼミナール作業部会の主な議題
1	4月8日	第1回打ち合わせ,各学科からの作業部員配置の見積もり以降随時メール会議
2	4月15日	第1回講義,高校時履修状況調査・基礎学力調査実施,
3	〃	各講義終了後(5限)に打ち合わせ 大学案内特色科目作成・ページ数半減で調整
4	7月29日	全体報告会后,5限に団体担当教員からご意見聴取(欠席者意見も)
5	8月12日	レポート締め切り,締め切り後団体別にまとめ封入用意
6	8月15日	レポート仕分けと団体別封入作業 メールボックスへ 仁戸名へ届ける
	〃	MLで告知 第2回作業部会

7	8月19日	成績一覧集計 提出物催促 WEB入力
8	9月30日	第3回作業部会 報告書作成準備
	〃	2年生(千葉県健康づくり)へ1年次レポート返却
9	11月	訪問団体へアンケート送付
10	1月	シラバス作成, 再履修生把握
11	2月	訪問団体へ受け入れ意向調査
12	2月	報告書作成, 次年度要項検討
開催日		千葉県の健康づくり
1	6月13日	授業実施要項, 単位認定課題と評価内容の作成等について
2	6月14日	外部講師依頼, 授業担当役割等について(9月13日までメール会議)
3	9月14日	授業内容の最終確認, 講義要旨の記載について(10月12日までメール会議)
4	12月15日	平成30年度シラバス案について(1月5日までメール会議)
5	2月1日	成績評価と報告書作成について(2月21日までメール会議)
開催日		専門職間の連携活動論
1	6月3日	昨年度のアンケート結果確認, 今年度の日程・内容確認
2	7月1日	実施要項・教員用資料確認, 外部講師・成績評価について
3	9月2日	実施要項修正版確認, 教員用資料修正版確認, 学生配置・第1回教員説明会
4	10月14日	実施要項最終確認, 教員用資料修正版確認, 第2回教員説明会・アンケートについて
5	11月4日	実施要項・教員用資料修正版確認, 第2階教員説明会について, 今後の予定
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	3月16日	「亥鼻 IPE の立ち上げから現在までの経緯とカリキュラムマネジメントについて」千葉大大学院看護研究科・専門職連携教育研究センター長 酒井郁子先生
H	評価(成果および改善事項)(H28年度達成状況を記載)	
<ul style="list-style-type: none"> 千葉大学との IPE 連携体制を構築 千葉県との連携で海外保健・医療支援・グローバル・ヘルスを検討 <p>上記の2点を重点政策として掲げたものの、Drasticな変革までには到らなかった。しかし、「専門職間の連携活動論」を視野に入れて、千葉大学亥鼻 IPE への歯科衛生学科の学生参加したことや、IPE に関する FD を行えたことは、IPE の連携体制を構築する第一歩になったものと考えられる。</p>		
I	次年度の方策(H29年度への継続を記載)	
<p>千葉大学の亥鼻 IPE 連携の継続を引き続き強化して行くこと。新カリキュラムへの移行時に IPE の連続性を担保するように、教務委員会と臨池実習や臨床実習期間の問題を解決していくこと。</p> <p>千葉県と連携した海外保健・医療支援事業を展開する機会がなく、今後も期待はかかなり薄いと考えるを得ず、引き続き千葉県と協議していくこと。</p>		

(11)FD 委員会

A	委員長名	三和真人・教授(学部長, 研究等倫理委員長)
B	委員名	西野・教授(総務・企画委員長) 日下和代・教授(教務委員長, 図書情報委員長) 佐藤まゆみ・教授(学生部長・進路支援委員長) 大川由一・教授(学術推進企画委員長) 三和真人・教授(研究等倫理委員長) 高橋伸佳・教授(社会貢献委員長) 井上裕光・教授(ネットワーク委員長) 土橋 昇・教授(入試実施部会長) 田邊政裕・学長(自己点検・評価委員会) 陪席:石川高弘・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし

D	所掌事務	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の FD の推進に関すること. ・学内の FD の連携,調整に関すること. ・教授会が付託した事項に関すること. ・その他 FD に関すること.
E	年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)	
<p>ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス, コンピテンシーを作成し, それを達成する 4 年一貫教育が取り組むための教育ワークショップを開催する.</p> <p>健康福祉部・本学との意見交換会を協定化し, 千葉県保健医療の発展を図る. また卒業生を対象とした初任者・卒後研修の開催を企画する.</p>		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	11 月 14 日	次年度に向けた各委員会で FD 企画主催を依頼する. 年間の FD スケジュールを確認する.
2	1 月 23 日	FD 企画の 3 つフェーズを 2 つに統合し, 多くの教員が参加し易くする. 総務企画委員会で実施している授業評価アンケートの教務委員会に所掌を移行するか検討する. 学内規程の一貫として FD 委員会規程の改定, および SD を規程内に加える.
3	3 月 13 日	FD と SD の実施することを確認する. 年度ごとに研究倫理教育, 新入職員 SD 研修(事務受付での学生対応方法)を実施する. 入試実施部会では次年度より入試問題の開示を決定する.
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		Ⅲ-7. FD の実施状況 に記載
H	評価(成果および改善事項)(H28 年度達成状況を記載)	
<p>ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス, コンピテンシーを作成するための, 9 月 27 日に教務委員会を主催とした全教員参加型の FD を開催することができた.</p>		
I	次年度の方策(H29 年度への継続を記載)	
<p>教務委員会から, 教員参加の教育ワークショップ(コンピテンシーとコンピテンスの各学科作成)のような FD を定期的で開催する. 入試実施部会から, 入試問題(過去問)の開示を行う方向である. 作題の質をあげるため, 問題作成に関する FD を開催する.</p>		

(12) 国際交流委員会

A	委員長名	三和真人・教授(学部長)
B	委員名	田邊 政裕学長 三和 真人・教授(学部長) 渡辺 尚子・教授(看護学科) 東本 恭幸・教授(栄養学科) 荒川 真・准教授(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・講師(理学療法学専攻) 佐藤 大介・講師(作業療法学専攻) 神田 みなみ・教授(共通教育運営会議) 陪席: 石川 高弘・事務局長
C	部会名と 部会員名	国際交流検討部会(平成 28 年 3 月 28 日から平成 28 年 12 月 15 日まで) 田邊 政裕学長 三和 真人・教授(学部長) 渡辺 尚子・教授(看護学科) 東本 恭幸・教授(栄養学科) 荒川 真・准教授(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・講師(理学療法学専攻) 佐藤 大介・講師(作業療法学専攻) 神田 みなみ・教授(共通教育運営会議)

		陪席:石川 高弘・事務局長
D	所掌事務	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の基本事項に関わる方針および計画に関すること。 ・学術交流協定に関すること。 ・学術及び教育交流に関すること。 ・留学生の教育交流に関すること。 ・国際交流関係機関との連携および協力に関すること。 ・その他国際交流に関すること。
E	年度当初の重点課題(H28年度重点施策を記載)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・WCTC, CUW, インジェ大学との交流協定締結へ向けて協議する。 ・その他海外大学との交流関係構築へ向けて活動する。 ・千葉県との連携で海外保健・医療支援・グローバルヘルス(教育, 実践)を検討する。 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	12月19日	<p>平成29年度に向けての国際交流展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科(歯科衛生を除く)でインジェ大学との繋がりを設けていく。 ・ウィスコンシン州の大学との国際交流を進める。 ・特に歯科衛生学科はWCTCと提携を進める。
2	1月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・インジェ大学との国際交流について 全学科合同の交流では危機管理面について考えて必要がある。 8月～9月初旬の受け入れが可能か視察する必要がある。 ・ウィスコンシン州のCUWとの提携を進め, MOU 提携の調印まで進めたい。 WCTCから2017年夏ごろに調印を行えたらよいとの相談があった。
3	3月13日	<p>FDとSDの実施することを確認する。</p> <p>年度ごとに研究倫理教育, 新入職員SD研修(事務受付での学生対応方法)を実施する。</p> <p>入試実施部会では次年度より入試問題の開示を決定する。</p>
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	8月23日	保健医療大学とインジェ大学の間で, MOU を提携。
2	12月15日	大学評議会で「国際交流委員会規程」が承認。
H	評価(成果および改善事項)(H28年度達成状況を記載)	
	<p>平成26年8月4日に学部長下で国際交流検討会を立ち上げ, 交流事業内容を検討することになった。委員は, 看護学科を除く学科から各1名, 共通教育会議1名と事務局長の7名から構成され, ウィスコンシン州にある大学との姉妹校提携や学生研修について11月13日, 3月19日と調査を継続した。</p> <p>平成27年度に入ってから, 設置時の交流検討会のメンバーに若干の変更があったものの検討会は継続した。その間, 平成28年1月27日にCUWから薬学部々長をはじめとした4名の薬学教員が来学し, CUWと本学の国際交流協定の話をする事となった。平成28年3月28日に将来構想検討会で「国際交流ワーキンググループ; 国際交流WG」と呼称を改め, 格上げした。</p> <p>平成28年度は, 4月22日, 5月19日, 6月23日と国際交流WGが開催され, WCTCやCUWとの交流協定の進捗状況の確認と, 併せて年度内に国際交流規程の作成することをめざし活動した。8月23日にインジェ大学のLee副学長をはじめ, 看護学科, 栄養学科, 理学療法学科の学科長が来学し, MOU を結ぶことができた。その後, 10月11日にミャンマー大学の学長が訪問し, 今後交流協定を進めていくこととなった。</p> <p>なお, 国際交流委員会規程が11月7日の教授会で了解され, 12月15日の大学評議会で正式に承認される。</p>	
I	次年度の方策(H29年度への継続を記載)	
	<p>28年8月23日にインジェ大学と本学の交流協定提携ができ, 漸く大学教育目標であるの国際交流の第一歩を踏むことができた。またウィスコンシン州のWCTCやCUWの各大学との交流協定提携に向けての活動は継続している。次年度に向けて, 交流協定提携の話加速させていくことが求められことと考える。</p>	

5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

1) 看護学科

(1) 教員組織

教員は、教授 9 名、准教授 9 名、講師 11 名、助教 12 名、計 41 名の構成であった。

(2) 年度当初の重点課題

昨年度から継続の学科内組織で管理運営にあたった。各委員会が昨年度の課題の解決に向け活動すると同時に、連携を密にして円滑な組織運営を図ることを課題とした。

(3) 取組状況

学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5 回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、12 回開催した。

学科内に下記の委員会を設置し、定期的な会議により、全学関連委員会や看護学科運営会議等との連携・調整のもと、それぞれの活動を行った。各委員会の主要な活動は、以下の通りである。

看護学科総務・企画委員会では、平成 28 年度の看護学科予算に関する調整を行い、特に教育用備品費については優先順位のつけ方について再検討し、緊急性のある物品購入に対応できるようになった。また、平成 29 年度の当初予算要求の取りまとめを行った。その他に、大学院構想の教室確保にともない B110 教室の整備、看護学科の共有物品管理、看護学科運営会議の運営、文部科学省などからの調査の取りまとめを行った。

看護学科教務委員会では、カリキュラム実施部会、実習検討部会、ポートフォリオ担当の役割で活動した。カリキュラム実施部会では、年度初めのガイダンスで、履修計画立案について説明し、学生が円滑に学習開始できるよう支援した。編入生に対する履修指導において、新カリキュラム移行に伴う情報提供が不正確であったため、適正な履修計画立案に向けた履修指導を実施した。特別講義の調整では学生支援課への依頼漏れを防止するための特別講義執行状況のチェックシステムを整備した。実習検討部会では、実習日程の検討や実習オリエンテーション等の実習関連業務を遂行した他、ユニフォーム・ネームの販売を県庁生協に移行できるよう調整した。ポートフォリオについて、年度初めのガイダンス時に活用について説明を行ったが、各科目のポートフォリオの十分な活用という点で課題が残った。その他、日本看護系大学協議会ホームページのデータベースにおいて、本学の紹介文と画像を掲載し、高校生に向けて PR を開始した。また、必修科目単位未修得学生、休学学生、復学学生の個別履修計画の確認作業を行い、学生の意向や学習進度を考慮した履修計画を提案した。

看護学科学生・進路支援委員会では、学生生活・修学支援を要する学生への円滑な支援及び看護師・保健師・助産師国家試験の不合格学生に対する支援体制について改善及び再整備を行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

看護学科入試検討委員会では、入試、オープンキャンパス、学校説明会に関する活動を担当した。入試に関しては「看護学科面接試験実施要領」を作成し、全教員への周知徹底と確実な実施に努めた。オープンキャンパスについては、計画立案、当日の運営総括、評価を行った。看護学科説明会への参加者は 972 名(1 日目 377 名、2 日目 595 名)であり、延べ 52 名の教員と 44 名の学生によって、学科説明、5 つの実習室での演習体験、個別相談に対応した。高等学校等から依頼される学校説明会や模擬授業等については、教員が適切に対応できるよう、「看護学科学校説明会および模擬授業に関するマニュアル」を作成した。学校説明会・模擬授業への年間の参加実績は 40 件であり、これらへの参加教員の調整を行った。

看護学科社会貢献委員会では、看護学科教員が千葉県内の看護の質向上に貢献することを目的に活動した。具体的には、大学外組織(千葉県看護協会等)から看護学科へ学科長経由で依頼された事業について、具体的な協力方法・体制(担当領域・者の選定)を調整・管理した。また、大学の知的財産および学科・学科専任教員に求められている社会貢献の掌握として、看護学科教員が千葉県内の看護の質向上に貢献した実績を取りまとめた。更に、看護学科および学科教員の社会貢献への活用を意図して、「千葉県で働く看護職員の研修ニーズ調査(H26.3)」における「看護実践業務・管理業務・教育業務・自己研鑽に関する受けた研修とその理由」の既存データ整理と研究チームによる分析結果の整理および学科内公表を完了した。

看護学科倫理審査委員会は、4 年生の必修科目である看護研究において、学生が人を対象とする調査を実施しようとする場合の倫理審査を行っており、平成 28 年度は 37 件の申請に対し審査を実施した。また、学生用の倫理審査申請方法のフローチャートを作成し、看護研究担当教員が倫理審査申請希望のある学生に申請方法を個別に説明していた点についての簡便化と統一を図った。

(4) 評価(成果および改善事項)

各委員会が連携を密にして円滑に活動を行い、昨年度の課題の解決を図った。看護学科予算の優先順位の決定方法の見直し、特別講義執行状況チェックシステムの構築、面接試験及び看護学科説明マニュアルの作成、看護研究倫理審査フローチャートの作成など、課題解決の成果が可視化された。

(5) 次年度の方策

各委員会の活動成果を基に PDCA サイクルによる充実をめざし、各年度の活動計画と報告の可視化と共有システムを運用する。

2) 栄養学科

(1) 教員組織

教員構成は教授 6 名、准教授 4 名、講師 3 名、助教 5 名の計 18 名。専門科目の担当教員は 16 名、栄養教諭課程(選択)(兼:一般教育科目)の担当教員は 2 名である。産休教員(助教)の代替として非常勤職員を 1 名迎えた。

(2) 年度当初の重点課題等

各委員会が引き続き確実に責務を果たすとともに、連携を密にして円滑な組織運営を図る。学生教育では、一定期間内に実施される 3 分野の臨地実習の円滑な実施と、管理栄養士国家試験合格率及び就職率の 100%達成を目指す。

(3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ 5 回、19 回実施した。学長直属委員会・部会及び教授会学内委員会・部会には学科教員の全員がいずれかの委員会・ワーキンググループの組織に所属し、委員長・部会長・構成委員として参加した。さらに、大学院構想ワーキンググループにも 4 名所属し検討および資料作成を行った。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月 2 回の学科運営会議を実施し、学生教育の進捗状況、学生生活、各種委員会の報告を行った。

学年別の担任・副担任制、国家試験対策会議(国家試験担当教員、学科長、担任、副担任)、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会がある。それぞれ、適切に機能し各会議では学科会議で必要事項を周知した。

入試関係については、各教員が、学内見学者への対応、各高校への出張説明会等を行った。オープンキャンパスでは、教員がスタッフとして学科の紹介や参加者の誘導などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として、文部科学省、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師など、また、新聞、TV、Web を通し、臨床栄養、食育、食文化等の健康づくりに関する活動を行った。

(4) 評価(成果および改善事項)

新カリキュラムを学んだ 23 名の卒業生を輩出した。管理栄養士国家試験合格率 100%および就職率 100%であった。昨年度、国家試験不合格者(3 名)も全員合格した。国家試験対策会議による学生指導および学科会議での報告による全教員への現状の周知により学科全体で、国家試験対策を成功させることができた。

3 分野の臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で 3 分野の臨地実習が終了するよう調整できた。昨年の課題(8 月から実習に行くため授業に支障をきたす学生)を改善できた。学生募集は、全学科の平均倍率 3.2 に対して 3.6 と良好であった。

(5) 次年度の方策

各委員会が引き続き確実に責務を果たすとともに、連携を密にして円滑な組織運営を図る。新カリキュラムの検討を行う。

3) 歯科衛生学科

(1) 教員組織

学科教員の構成は、教授 5 名、准教授 2 名、講師 4 名、助教 1 名である。教員のうち歯科専門職は 10 名(歯科医師 4 名、歯科衛生士 6 名)となっている。

(2) 年度当初の重点課題等

入学試験結果を受け、志願者数を増加させるために、大学説明会等への参加や千葉県内高等学校への学科紹介活動を積極的に実施する。

(3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心であり、11 回開催された。本学付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となっており 11 回開催された。歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認、共有化を図った。大学全体の管理・運営については、学科の全教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、委員長や委員として積極的に活動を行ってきた。

入試関係については、各種外部団体が開催した大学説明会に複数回参加し、高校生向けに本学の紹介に努めるとともに、招聘のあった高等学校に出向いて大学説明を実施した。7 月に 2 日間にわたって開催されたオープンキャンパスでは、教

員がスタッフとして、学科の紹介や参加者の誘導などを行った。歯科衛生学科説明会への参加者は166名(1日目71名,2日目95名)で、延べ16名の教員と12名の学生によって、学科説明、実習室での演習体験、個別相談に対応した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

(4) 評価(成果および改善事項)

重点課題に対する対応策として、平成28年度前半に歯科衛生学科を紹介する独自のリーフレットを作成した。当学科の学生の協力を得て、夏期休業時に県内出身高等学校の進路支援担当教諭等に本学のパンフレットと当学科のリーフレットを直接手渡すという取組みを実施した。リーフレットは高校生の本学見学时や大学説明会においても配布資料として活用した。こうした取組を行った結果、推薦入試の志願者数が過去最高となった。一般入試志願者も増加したが合格辞退者もやや多くみられたことから歯科衛生士という専門職の魅力をさらに広報していくことが求められる。

(5) 次年度の方策

当学科に対応した重点課題である言語聴覚士取得コース(選択科目)導入について検討し、実現可能性や方向性を提案する。

4) リハビリテーション学科

リハビリテーション学科に所属する全教員を対象とするリハビリテーション学科運営会議を2か月に一回開催した。理学療法学専攻長および作業療法学専攻長間の専攻長会議を週一回実施した。これらによって学内・学科内情勢および学科学生の学習・実習状況等、教員間での情報の伝達・共有化に努めている。

4-1) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 教員組織

教授2名・准教授2名・講師2名・助教2名の計8名(前年度に同じ)。職種は、医師1名、理学療法士7名。

(2) 年度当初の重点課題

ワンキャンパス化の実現が見通せない状況かつ、近年拡大しつつある理学療法領域を、理学療法士養成公立大学の中で最低数の常勤教員でいかに網羅するか。

(3) 取組状況

幕張キャンパスで開催される教授会・委員会へは確実に参加している。理学療法学専攻所属の全教員による専攻会議を週一回実施し、教授会・学内委員会・ワーキンググループ等の活動状況や主な取組内容を報告し、学校説明会等の負担も一部の教員に偏らないようにしている。また、学生の学習・実習状況等、教員間での情報の伝達・共有化に努めている。

(4) 評価(成果および改善事項)

教員数は不変であるが、教授会・各種委員会・リハビリテーション学科会議・専攻長会議・専攻会議も予定通り開かれた。

(5) 次年度の方策

本年度同様、教員数の要望は継続。着実な管理・運営の実施。

4-2) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 教員組織

教員構成は、平成28年度は教授2名、准教授3名、講師2名、助教1名、計8名であった。内訳として、医師1名、作業療法士7名の構成で運営された。

(2) 年度当初の重点課題

作業療法学専攻の運営管理上の重点課題

①2キャンパスのため、学生の移動で公共手段は使用すると移動時間は片道50分から1時間程度、運賃は片道392円が生じ、少なくとも往復1時間30分800円程度の時間とお金の出費が生じる。学生にとってみれば、授業を自由に受講できるシステムになっているが、現実問題移動があるため、受講したくとも受講できないことがある。また、教員の管理上、大学の教授会をはじめ、各種委員会・ワーキンググループ(部会)等は幕張キャンパスで行うため、移動時間により研究教育時間の無理や無駄が生じており解決をしたい。他の公立大学と比較して専攻の教員が8名と少なく、各種委員会・ワーキンググループ(部会)が他学科と同等の数があ、委員会・会議は幕張キャンパスで行うため移動時間の付加により、教員一人当たりの大学の管理運営面の就労の時間と負荷としてのエフォートが高くなっており、その軽減が課題である。教員は主に仁戸名キャンパスに在中しているので1年2年の学校生活面の相談あるいは学習面での質問など生じた場合、リアルタイムに問題解決に取り組むことが難しい。そのために、ワンキャンパス化を望むことをはじめ、ネット環境を利用した会議などの効率化を望み、また、教育分野において、学生の学習面・教育の不利、さらに研究の時間的な問題に関しての不利について取り組むことが必要である。ネットなどのオーディオ機器を利用する教育方法も重要であり今後の課題であろうが、一方、当専攻は人を対象とする作

業療法を学ぶところであり、作業療法士としてのコンピテンシーを達成する為に、1年より一人一人の学生に対して直接かわるために、対面し個別の指導や教育への取り組みが大きな課題である。

- ②作業療法学専攻への入学応募者の増加に取り組む。
- ③実習病院、実習施設の獲得活動については、慢性的な不足状況の改善に取り組む。
- ④施設・設備の転用のため不具合や老朽化が著しいため、修繕・購入を実施する。

(3)取組状況

- ①作業療法専攻の教員数は8名である。教授会2名の参加・委員会への参画状況として教授2名で7委員会と2部会に参加している。教授が2名しかおらず職指定がある委員会については、さらに1名あたりのエフォート高く負担感が大きい。学科内では体験ゼミナール部会1名、千葉県健康づくり部会2名、専門職間連携部会4名、臨床体験実習、評価実習、総合実習、地域作業療法学実習、臨床実習指導者会議それぞれ各1名、実習調整担当1名、各学年担任1名ずつの担当となっている。また、大学の各委員会のワーキング部会は昨年度より減少はしておらず増えており、また、会議などの場所が幕張で実施するため物理的な時間の軽減が望まれたため、ワンキャンパス化の要望を継続しているが、改善はみられていない。
- ②学生募集の業務・広報活動として、ホームページの充実の要望とオープンキャンパスにおいて専攻全員で模擬授業と説明等実施している。専攻としてフェイスブックなど SNS 等を通じた広報活動活用したいが、学生のサークル活動の紹介や卒業論文発表会などにとどまっている。活用が望まれる。
- ③実習病院、実習施設の獲得活動については、慢性的な不足状況が続いており、各教員が千葉県を中心として臨床実習に相応しい施設を恒常的に訪問し依頼を実習依頼期限まで調整をしている。
- ④ワンキャンパス化への要望継続と不具合や老朽化の備品など修繕・購入の予算請求の継続している。平成28年度は重点的に備品を整備の予算が付いたため、倉庫をはじめ最新の測定機器など購入ができた。

(4) 評価(成果および改善事項)

- ①平成28年度は重点的に備品を整備の予算が付いたため、倉庫をはじめ最新の測定機器など購入ができた。教員数が8名と改善はなく、委員会あるいは委員会に伴う部会の会議回数が減少していない。また、会議の実施場所が主な勤務先である仁戸名で実施されることはなく配慮はされないままである。作業療法専攻の教員の物理的な時間の拘束など増加しているため、改善していない。ワンキャンパス化について、将来構想検討委員会で検討し、課題となっており、県への要望をしているが、回答は得られていない。研究活動と教育活動に支障になりつつある管理・運営の領域である委員会あるいは部会の一人当たりのエフォートが、依然として大きい。管理運営のエフォートの軽減のため、移動の物理的な時間の配慮あるいは委員会・部会のスリム化が望まれる。
- ②広報に関するホームページの改善はみられていない。フェイスブックなど SNS 等を通じた広報活動活用について検討したい。作業療法専攻の学生応募人数を増加させるために、各教員が持ち回りで広報活動を積極的に実施している。

(5) 次年度の方策

委員会・部会などのスリム化あるいは物理的な時間の配慮について検討する。電子会議などの提案などを試みる。また、広報などについては SNS などの活用について検討する。

6. 事務局の活動

事務局は、企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

1)職員組織

平成28年4月1日現在、事務局長1名、企画運営課は課長を含め職員9名、嘱託5名の計14名、学生支援課は課長を含め職員5名、嘱託8名の計13名、合計28名で運営している。企画運営課は、教授会、大学運営会議、各種委員会等に係る事務、学内研究費、科学研究費補助金等の執行事務、教育用消耗品や備品等の購入事務、施設の維持管理や実習機関への委託事務等を担当し、学生支援課は、カリキュラム編成や授業時間割の調整、非常勤講師の調整、単位認定等の教育課程に関する事務、入学試験、大学入試センター試験に係る業務、学生の実習、就職支援に係る業務等を担当している。

2)SDの取り組み

(1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

(2) 実施状況

6月29日、30日

「千葉県立保健医療大学とその課題-改革2016-」／講師 田邊学長／参加人数 16名

12月21日

その他下記の入試、科学研究費及び奨学金の関係会議や研修会等に出席した。

- ① 5月12日 公立大学に関する基礎研修
- ② 5月25日 高大接続システム改革に関する研究会
- ③ 5月27日 教務事務セミナー(第1回)
- ④ 6月6日 公立大学協会担当者研修会及び大学実態調査票作成説明会
- ⑤ 6月20日 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会
- ⑥ 6月24日 千葉県大学・短期大学入試広報担当者連絡会
- ⑦ 6月27日 大学入試センター試験千葉地区連絡会議
- ⑧ 6月28日 大学入試改革研究会
- ⑨ 6月28日 教務事務セミナー(第2回)
- ⑩ 7月5日 科研費助成事業実務担当者説明会
- ⑪ 8月22日 大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会(第1回)
- ⑫ 8月29日 公立大学職員研修協議会
- ⑬ 9月6日 科研費助成事業公募要領等説明会
- ⑭ 9月14日 大全国障害学生支援セミナー「体制整備支援セミナー」
- ⑮ 10月14日 日本学生支援機構適格認定・返還指導等研修会
- ⑯ 10月24日 千葉県大学・短期大学入試広報担当者連絡会第2回総会
- ⑰ 10月25日 平成28年度大学評価シンポジウム
- ⑱ 12月5日 大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会(第2回)
- ⑲ 12月6日 千葉県大学・短期大学入試広報担当者連絡会幹事会
- ⑳ 12月22日 教務システム操作講習会

7. FDの実施状況

1)年度当初の重点課題等

ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス、コンピテンシーを作成し、それを達成する4年一貫教育が取り組むための教育ワークショップを開催した。

健康福祉部・本学との意見交換会を協定化し、千葉県の保健医療の発展を図った。また卒業生を対象とした初任者・卒業研修の開催を企画した。

2)主な活動

年間のFDスケジュールを確認する。現行のFD企画の3つフェーズを2つに統合し、多くの教員が参加し易くした。総務企画委員会で実施している授業評価アンケートの教務委員会に所掌を移行し、妥当性と効率化を図る。

学内規程の一貫としてFD委員会規程の改定、およびSDを規程内に加えた。

3)評価(成果および改善すべき事項)

ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス、コンピテンシーを作成するための、9月27日に教務委員会を主催とした全教員参加型のFDを開催した。また各委員会によるFDを例年同様に開催してきた。

なお、下記に、各委員会が主催したFDを列挙しておく。

- (1) 教務委員会では、9月27日に「保医大教育ワークショップ(テーマ:アウトカム基盤型教育カリキュラム作成ワークショップ 対象:全教員)」を実施した。
- (2) 学生委員会では、平成29年3月24日に茨城県立医療大学人間科学センター教授・佐藤純先生を招聘して、「医療系大学における発達障害や精神障害を抱える学生の相談内容と学生支援の実際」を主催した。
- (3) 図書・情報委員会では、下記の文献セミナーを中心に多数のFDを開催した。
 - 4月18日 「第1回文献検索セミナー 医中誌WEBとPubMedの使い方」
 - 5月25日 「第2回文献検索セミナー 文献(図書・雑誌論文)の探し方」
 - 9月7日 東京有明医療大学大学院看護学研究科教授の・前田樹海先生を招聘して、「APA(米国心理学会)に学ぶ文献引用方法」の第1回FD文献検索セミナー
 - 9月21日 聖路加国際大学 学術情報センター 学習コミュニティ支援室長の松本直子先生を招聘して、「文献情報の管理方法」の第2回FD文献検索セミナー
 - 10月3日 「図書館ガイダンス」(10月新任教員向け)

- 2月13日 「第3回文献検索セミナー 医中誌WEBとPubMedの使い方」
 3月6日 「第3回文献検索セミナー 医中誌WEBとPubMedの使い方」
- (4) 学術推進企画委員会では、下記のようにイブニングセミナーと共同研究発表会を実施した。
- 8月30日 平成27年度共同研究発表会
 9月15日 三重県立看護大学 企画情報担当理事 メディアコミュニケーションセンター長（兼）教授の斎藤 真先生を招聘して、「医療系大学における高大連携の取り組み」の第1回イブニングセミナー
 9月21日 平成29年度科学研究費助成事業学内説明会
 10月20日 東京大学 高齢社会総合研究機構教授の飯島 勝矢を招聘して、「地域包括ケアシステムを見据えた戦略研究とは」の第2回イブニングセミナー
 12月6日 千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部 部長、一般社団法人千葉県理学療法士会長の田中康之氏を招聘して、「なぜ知っておくべき？地域包括ケア ～これからの人財育成のために～」の第3回イブニングセミナー
- (5) 社会貢献委員会では、下記の公開講座を開催した。
- 10月9日 「見つめよう、自分の心と身体」をテーマに、公開講座Iを開催
 10月23日 「見つめよう、自分の心と身体」をテーマに、公開講座Iを開催
- (6) ネットワーク委員会では、下記のFDを開催した。
- 4月1日 本学栄養学科教授（兼）ネットワーク委員長の井上裕光先生による「今年度の動向と課題」の第1回FDを開催
 10月3日 本学栄養学科教授（兼）ネットワーク委員長の井上裕光先生による「今年度の動向と課題（2）」の第2回FDを開催
- (7) 特色科目委員会では、下記のFDを開催した。
- 3月16日 千葉大大学院看護研究科・専門職連携教育研究センター長（兼）教授の酒井郁子先生を招聘して、「玄鼻 IPE の立ち上げから現在までの経緯とカリキュラムマネジメントについて」のFDを開催した。

4) 次年度の方策

教務委員会から、教員参加の教育ワークショップ（コンピテンシーとコンピテンスの各学科作成）のようなFDを定期的に開催し、教育の質の充実を図る。

入試実施部会から入試問題（過去の出題）の開示を行う方向である。作題の質を上げるため、問題作成に関するFDを開催する必要があるものとする。

IV 教育活動

1. 共通教育

共通教育運営会議は、一般教養科目担当の専任教員6名と保健医療基礎科目担当の専任教員(医師)6名の、計12名で構成される。平成27年度より、教育目標「保健医療の国際化に対応できる人材育成」に基づき、外国語科目を重視し、英語科目専任教員を2人体制とする構成とした。本会議の教員は、一般教養科目4群36科目のうちの12科目を担当している(1科目(化学)は共通教育運営会議構成外教員が担当し、本学専任教員としては13科目を担当している)。保健医療基礎科目は2領域25科目のうち9科目を担当している(6科目は構成外教員が担当し、本学専任教員としては15科目の担当となる)。

平成28年度は計6回の共通教育運営会議を開催し、本学の教養科目の在り方、初年次教育の充実を、放送大学単位互換科目の再検討を含め、討議した。

例年に引き続き、教養科目・保健医療基礎科目についての非常勤講師担当科目含めたすべての科目について、学内で公開されている授業評価を数値化して、現状を把握し情報を共有した。また、情報リテラシーで担当教員が作成した「レポートを書く」「レポートを深める」を会議員で検討した。これらの結果は「平成28年度共通教育運営会議報告書」として冊子にして全教員に配布した。放送大学単位互換科目は学生に周知されておらず29年度の学生ハンドブックでの記載を求めた。教養科目・保健医療基礎科目を再編する手順は、今後、大学の取り組みと連動していく。

2. 看護学科

1) 教育方針

学生が、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。旧カリキュラムと新カリキュラムが同時進行するため、それぞれのカリキュラムを確実に実施する。

2) 年度当初の重点課題

新カリキュラムの完成年度となり、新規開講となる4年次科目を円滑かつ効率的に進めることと、併せて、カリキュラム評価の計画を具体化することが課題であった。

3) 取組状況

1年次に、特色科目の「体験ゼミナール」、一般教養科目とともに、「薬理学Ⅰ、Ⅱ」「病理学Ⅰ、Ⅱ」等の保健医療基礎科目、「人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の専門基礎科目、「看護学入門」「看護技術論Ⅰ」「看護ふれあい体験学習」等の基礎看護科目を開講した。1年次の前期から看護実習を開講することは、看護学を学ぶ動機付けとして高い効果が得られている。2年次には、「医療・生活支援看護概論」「療養支援看護概論」「高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ(総論)」「健康支援看護概論」「育成支援看護概論」等の実践看護科目を開講した。後期には、実践的・専門的な知識や技術等を学ぶ実践看護科目の方法論(講義・演習科目)を開講した。また「看護キャリア発達論」「看護倫理」等を開講した。3年次前期には、各専門領域(基礎看護、医療・生活支援看護、療養支援看護、健康支援看護、育成支援看護、発展看護)それぞれの「方法論」が、新カリキュラム科目として開講された。3年次後期から4年次前期にかけて、実践看護科目の実習である成人看護学実習等が実施された。4年次においては、通期で「看護研究」に取り組み、研究計画の立案から研究実施、論文の作成を行い、各領域で研究発表会が実施された。また、後期には「総合実習」「専門職間の連携活動論」(特色科目)が実施され、他の専門職と自らの専門性について深く考える機会となった。また、新規開講となる「看護学統合」を実施し、4年間の学びの統合と卒業後の自己研さんの明確化を図り、次年度に向けた評価を行った。

助産課程では、3～4年次に「助産診断・技術学Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を開講した。

4) 評価(成果および改善事項)

新カリキュラムにおけるすべての科目を滞りなく開講し、新カリキュラムの完成年度を迎えた。新カリキュラム作成に向けた評価は、文部科学省のモデルコアカリキュラム策定及び全学的なカリキュラム評価との関係で次年度以降に持ち越すこととした。

5) 次年度の方策

新カリキュラムの評価の計画を具体化し実行する。学生個々の学習効果を促進するために、ガイダンス資料の整備、実習オリエンテーションの充実、ポートフォリオの見直しを行う。

3. 栄養学科

1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

2) 年度当初の重点課題

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程(選択)の履修者の増加。

3) 取組状況

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程(選択)の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、学科会議により状況を全教員が共有でき取組ができ、目標を達成できた。学生の個人的相談は担任を中心としたが、オフィスアワーを学生に揭示し全教員に相談可能としている。

3年前期の臨地実習を目標に1年次では「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要とされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施した。前期は座学中心で、後期は実験・実習による専門的スキルやコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に専門科目と臨地実習、4年次では主に卒業研究を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1年、3年、4年では特色科目を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学ぶ機会となった。

4) 評価(成果および改善事項)

4年生全員が卒業、1～3年生は全員進級できた。しかし、先修条件を満たさず、3年次の臨地実習を行うことができず、4年次に繰り越した学生が2名いた。先修条件を満たすことが出来なかった原因は、再三の警告にも関わらず学生が改善しなかったためであるが、さらなる指導を行いたい。また、1年生で制限単位を超えた履修を行った学生がおり(卒業単位としないが、取得単位として認める)、履修登録時の単位数の確認を徹底する必要があるが分かった。

栄養教諭課程(選択)の履修者は8名、3年生15名であった。

5) 次年度の方策

引き続き、担任、副担任、科目担当教員から積極的な履修指導を行う。また、栄養教諭課程(選択)の履修については、オリエンテーションで担任、関係の教員から、引き続き丁寧な説明を実施し、更なる増加を目指す。国家試験対策、就職支援についても引き続き丁寧に実施する。

4. 歯科衛生学科

1) 教育方針

高度な歯科医療に関する知識および技術を習得できるよう専門分野の教育を充実強化するとともに多職種と連携して活躍できる人材の育成に取り組む。

2) 年度当初の重点課題

学生の授業外学修時間の確保に向けて、自主的な取り組みを促すとともに、必要に応じてレポート等の課題を提示するなどの対応策を検討する。

3) 取組状況

1年次、2年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2年次から3年前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。3年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している3年次後期・4年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1、2年次学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。3年次後期・4年次前期の「継続・個別支援実習」では、千葉県職員、地域住民、学生の知人の協力のもと歯周病予防のための歯石除去やブラッシング指導を実施し、4年生は104名、3年生は125名を担当した。臨地実習については、「発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)」で幕張西小学校 1・3・6 学年の児童を対象にブラッシング指導を行った。さらに袖ヶ浦特別支援学校では、担任の先生方から障害児童の対応を学ぶとともに、児童全員の口腔ケアを実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)」では、千葉市内 2 か所の高齢者施設において、2 日間にわたり施設に入所する高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに高齢者の口腔ケアを実施した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市(保健福祉センター健康課)・市原市(保健センター)・浦安市(健康センター)において地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。3年次後期から4年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、各教員が個別に学生の研究指導を行った。平成 27 年度に引き続き、千葉県立保健医療大学の学生を対象とした口腔健診を実施し、在学生の口腔状態の観察や健診補助を行うことで、歯科臨床への早期学習を行い、専門職教育に向けてモチベーションの向上を図った。国家試験については、卒業生 25 名全員が歯科衛生士国家試験に合格した。

4) 評価(成果および改善事項)

演習や実習で適宜レポート等の課題を課したことから学生の授業時間外の学修時間が昨年度より確保されてきた。3、4 年生は夏期休暇を中心に、がん専門病院などへの自主的に学修訪問を行ったり、歯科保健にかかわるイベントに参加したりした。こうした社会貢献活動や学内外での学修を積極的に実践した学生が、その実績により千葉市の大学市長賞と日本歯科衛生士会長賞を受賞した。

5) 次年度の方策

教育効果をより高めるために、オフィスアワー等の活用を通じて教員と学生とのかかわり合いを深めていきたい。

5. リハビリテーション学科理学療法学専攻

1) 教育方針

学生が欠席なく授業出席・実習参加し、単位を落とさず・休退学なく進級し、国家試験は全員が合格することを目標としている。

2) 年度当初の重点課題

臨地実習での、学生の接遇・実践力に対する評価を向上させる。国家試験全員合格の継続。

3) 取組状況

前年度に引き続き、学内での実技練習や症例情報に基づく演習を多く取り入れ、実習を意識した授業を実施している。各学年担任は半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況・理学療法士へのモチベーションを再確認している。

4) 評価(成果および改善事項)

実習を終了し、卒業にたどり着いた 4 年生 20 名は全員国家試験に合格し開学以来の国家試験合格率 100%は継続された。一方、休学中であった 5 名中 4 名は退学し、進路を変更し、1 名は復学した。理学療法学専攻のコンピテンシーを策定した。

5) 次年度の方策

平成 28 年度同様、国家試験合格率 100%を目指し、実習中断となる学生がいない様にコンピテンシーに基づき、学生の評価を行いたい。

6. リハビリテーション学科作業療法学専攻

1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、対象者本位の作業療法の実践技術提供に資する人材を育成するため学生教育重視の実践を行った。また、国家試験の全員合格に向けて、課外活動を推し進めた。また、臨床実習に関して、学生の利便性や指導を考慮し、千葉県内での臨床実習施設の獲得等、具体的には以下の教育方針に基づき進めた。

(1)各病時期、各領域、各年齢などにおける対象者とその家族、また、社会的環境に関する作業療法の評価、介入、効果判定の一連の流れを実施できる臨床実践能力の基本的な態度を身につけるため、新カリキュラムとして改善を行い、評価・治療学の演習など重点を置いて取り組んでいる。

(2)作業療法の臨床実践については、他職種との連携や社会資源の活用、職場や社会的政策の制度の利用を含めて作業療法を提供する考え方の基本的態度を身につける。

新カリキュラムでは「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」を教育課程の科目群として設定し実施し演習・臨床実習を通じて作業療法の学習を行う。

2) 年度当初の重点課題

知識・技術の確認と職業人としての態度の獲得を、目的とし「特色科目」、「一般教養科目」、「保健医療基礎科目」、「専門科目」の統合的として臨床実習の充実を課題とする。

3) 取組状況

平成28年度は開学8年目となり、昨年同様、1年生は特色科目として「体験ゼミナール」では、健康な県民と交流を図ることで千葉県の地域の特性や千葉県で生活する人々の特徴を理解し、実習で対象となる人々を生活者としてとらえる視点を養うことが昨年と同様継続してできた。さらに、新カリキュラムにおいて、評価・治療学→演習→実習の科目の充実を図っている。

作業療法学専攻の専門科目として、新カリキュラムとして強化した「臨床体験実習」、「評価実習Ⅰ・Ⅱ」、「総合実習Ⅰ・Ⅱ」、「地域作業療法実習」を実施できた。「臨床体験実習」は主に千葉県内の作業療法を実施している様々な分野の病院・施設 20 か所(病院:12 施設:8)の協力を得て実施できた。また、「評価実習Ⅰ・Ⅱ」においては、身体障害分野)施設数、22(Ⅰ期13,Ⅱ期9)(精神障害分野)施設数、9(Ⅰ期4,Ⅱ期5)(老年期障害分野)施設数、11(Ⅰ期4,Ⅱ期7)(発達障害分野)施設数、2(Ⅰ期1,Ⅱ期1)(県外施設の合計 4(Ⅰ期3,Ⅱ期1))にて実施され、作業療法評価について学習し、その前後において分野に沿った作業療法セミナーが開講された。平成28年度より新カリキュラムに移行し臨床実習Ⅲから総合実習Ⅰ・Ⅱとなり、4年生で実施することとなった。分野は身体障害分野)施設数、27(Ⅰ期15,Ⅱ期12)(精神障害分野)施設数、15(Ⅰ期5,Ⅱ期10)(老年期障害分野)施設数、3(Ⅰ期2,Ⅱ期1)(発達障害分野)施設数、3(Ⅰ期2,Ⅱ期1)(県外施設の合計 4(Ⅰ期2,Ⅱ期3))。ほぼ県内で実施可能であったが、学生の県外出身地域を勘案し、数か所県外の実習施設に協力を依頼した。「地域作業療法実習」は、県内17か所施設にて実施され、うち3ヶ所は県外であった。

新カリキュラムに移行したことにより各教員の業務量については若干スリムになったが、卒業研究、さらに国家試験などに影響が考えられたが、卒業研究の時間の短縮は否めないが国家試験合格は100%であった。

卒業論文は、各学生に対して担当教官を決め指導にあたり、発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

4) 評価(成果および改善事項)

臨床実習については、総合実習Ⅰで1名のみ再履修となるが、総合実習Ⅱで、総合実習Ⅰを踏まえ実習に挑んだ結果、総合実習Ⅱは合格できた。旧カリキュラムの臨床実習では、いずれか2か所の内一か所、あるいはひとつの臨床分野で臨床実習に何等か問題があり不合格になった場合、続いて臨床実習が合格だとしても臨床実習Ⅲの単位としては認められなかった。新カリキュラムから、総合実習ⅠとⅡと分けた為、学生自身と教員のチェックができ対応可能になったと考える。新カリキュラムの臨床実習は年度内に学生自身がPDCAサイクルを回し、再度教育学習できる点にが、今後の発展につながると考える。

5) 次年度の方策

新カリキュラムの完成年度を迎え、新カリキュラムのチェックを行い、新カリキュラムにむけて計画を立てる必要がある。また、認証評価でも努力課題として指摘されている「健康科学部栄養学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科作業療法学専攻では、教育課程の編成・実施、教育内容・方法に関する基本的な考え方の提示すること」ことの対策として「4年間一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム)の観点からカリキュラム・ポリシーを検証、見直す」必要がある。そのために「4年間一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム)の構築を目指し、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを検証し見直す。このため、現在定めている教育目標を基盤として、新たなディプロマ・ポリシーを作成する。この後、ディプロマ・ポリシーに基づき教育課程を編成するためのカリキュラム・ポリシーを検討し、ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程の編成、教育内容・方法を整備し、作成した、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー教育内容・方法について、学生、教員に周知するとともに社会に公表する。平成28年度より基盤となるディプロマ・ポリシーの検証を開始し、新教育課程の編成を開始し、平成30年度に新カリキュラムを構築し、平成31年度からの導入を目指す」とこととする。

7. 学生による授業評価

FDの一環として、学生による授業評価アンケートを総務・企画委員会が担当して実施した。平成27年度より専任教員だけでなく非常勤講師の担当科目も対象としている。対象とした科目は前期・後期・通年で開講される講義および演習科目である。実施に際しては、予め担当教員にアンケート用紙を必要数配布しておき、それぞれの授業の最終日等、担当者の判断で適切な時期に実施し、学生が回収して事務局に提出した。

アンケートの対象科目は 398 科目であった。アンケートへの回答があった科目は 374 科目であり、回答した学生数は延べ 10,602 であった。対象科目 398 科目の履修学生 15,075 名を対象としていたため、回収率は 70.3% (平成 27 年度は 73.1%) であった。

回答があった 374 科目の合計の結果は表に示すとおりである。授業評価 1 について、「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合でみると、「授業に積極的に取り組んだ」から「全体としてこの授業を受けられてよかった」のすべての項目で、27年度に比べ高い数値であった。項目毎の評価を割合でみると、「予習を行った」「復習を行った」は低い数値であり、「この授業のシラバスは役に立った」はやや低い数値であった。他の項目については、70～80%台と高い数値であった。

また、授業評価 2 について、「はい」の割合は「成績評価の方法を事前に理解していた」は 27 年度と比べやや高く、「教員の話し方は聞き取りやすかった」「学生の理解度に対して配慮がされていた」については、やや低い割合であった。いずれも数値は 90% 台と高かった。

このように、授業に対する合計の結果から、本学学生は概ね授業方法やその内容に満足していると考えられる。しかし、「予習を行った」「復習を行った」は例年低い数値であり、学生の主体的な取り組みを促すことに関して改善の必要がある。また、個々の授業科目の評価に注目して担当教員は改善に取り組んでいく必要がある。

なお、個々の授業科目の集計は担当教員に通知し、学生からの自由記載によるコメントは担当教員のみで通知した。また、アンケート結果の公開に際して、科目別の集計結果表の「教員からのコメント等欄」に担当教員がコメントを記載し、その記載欄を含めた全科目の集計結果を学内において学生と教職員を対象として公開した。

平成 28 年度学生による授業評価 1 (5 期生から 8 期生 全科目数 374 科目) : 実数

項目	授業に積極的に取り組んだ	予習を行った	復習を行った	この授業のシラバスは役に立った	授業の目標が明確に示されていた	内容がよく理解できるように準備されていた	授業内容が充実していた	教員の熱意が感じられた	教員の説明は分かりやすかった	授業方法に工夫がなされていた	全体としてこの授業を受けられてよかった
そう思う	4,544	1,336	1,805	3,459	4,651	4,978	5,432	5,845	5,327	4,953	5,778
少しそう思う	4,064	1,814	2,875	3,132	3,492	3,480	3,239	3,102	3,208	3,285	3,021
どちらとも言えない	1,670	3,377	3,364	3,307	2,037	1,613	1,481	1,321	1,504	1,835	1,401
あまり思わない	226	1,821	1,321	448	268	325	266	194	341	315	226
思わない・無回答	98	2,254	1,237	256	154	206	184	140	222	214	176
延回答数	10,602	10,602	10,602	10,602	10,602	10,602	10,602	10,602	10,602	10,602	10,602

平成 28 年度学生による授業評価 1 (5 期生から 8 期生 全科目数 374 科目) : 割合

項目	授業に積極的に取り組んだ	予習を行った	復習を行った	この授業のシラバスは役に立った	授業の目標が明確に示されていた	内容がよく理解できるように準備されていた	授業内容が充実していた	教員の熱意が感じられた	教員の説明は分かりやすかった	授業方法に工夫がなされていた	全体としてこの授業を受けられてよかった
そう思う	42.9%	12.6%	17.0%	32.6%	43.9%	47.0%	51.2%	55.1%	50.2%	46.7%	54.5%
少しそう思う	38.3%	17.1%	27.1%	29.5%	32.9%	32.8%	30.6%	29.3%	30.3%	31.0%	28.5%
どちらとも言えない	15.8%	31.9%	31.7%	31.2%	19.2%	15.2%	14.0%	12.5%	14.2%	17.3%	13.2%
あまり思わない	2.1%	17.2%	12.5%	4.2%	2.5%	3.1%	2.5%	1.8%	3.2%	3.0%	2.1%
思わない・無回答	0.9%	21.3%	11.7%	2.4%	1.5%	1.9%	1.7%	1.3%	2.1%	2.0%	1.7%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

授業評価 2: 実数

項目	成績評価の方法を事前に理解していた	教員の話し方は聞き取りやすかった	学生の理解度に対して配慮がされていた
はい	9,866	9,685	9,642
いいえ	632	805	841
無回答	104	112	119
延回答数	10,602	10,602	10,602

授業評価 2: 割合

項目	成績評価の方法を事前に理解していた	教員の話し方は聞き取りやすかった	学生の理解度に対して配慮がされていた
はい	93.1%	91.4%	90.9%
いいえ	6.0%	7.6%	7.9%
無回答	1.0%	1.1%	1.1%
	100.0%	100.0%	100.0%

8. 大学全体

1) 評価(成果および改善すべき事項)

平成 28 年度卒業生に対して実施した卒業時アンケート調査では、特色科目、一般教養科目、保健医療基礎科目、専門科目、いずれも教育に対する満足度は概ね高く、また授業評価アンケート結果からも、教育内容は学生にとって充実した内容となっているといえる。しかし、授業評価アンケート結果からは、「予習・復習を行った」「シラバスは役に立った」の項目が低くなっており、教育内容の定着をはかるためにも、時間外の自己学習を促進する方略について、各学科・専攻で検討していくことが求められる。また、シラバスの記載内容について、今後さらに精練していく必要がある。

本学の教育目標への到達度に関しては、卒業時アンケート調査結果から、多くの学生が、各医療専門職としての基本的な実践力は身についた状態で卒業していると捉えられた。これは、各学科・専攻において、学科・専攻の教育目標の達成に向けて様々な工夫し、展開している教育活動の成果であるといえる。一方で、「地域の健康づくりに貢献する力」「生涯にわたり科学的に真理を探究する力」について、身につけていないとする卒業生が若干多い傾向にあった。これに関しては、新新カリキュラムにおいて科目の追加等を検討すると同時に、現行カリキュラムの中でも各科目責任者が自身の担当する教科目の中で教育内容の追加を検討していく必要がある。

さらに平成 28 年度は、昨年度実施した教育ワークショップにて検討されたコンピテンシーの成果をふまえ、学部ディプロマ・ポリシーを完成させた。また、今年度も教育ワークショップを開催し、学部ディプロマ・ポリシーをふまえた各学科・専攻のコンピテンシーの検討、およびカリキュラムマップの検討を行った。また新新カリキュラムの検討に向け、全教員・科目責任者・在校生を対象に、新カリキュラムに関するアンケート調査を実施した。

2) 次年度の方策

引き続き、本学の教育目標である 8 つの力の育成に向け、各学科・専攻で教育内容・方法を点検・評価し、改善に取り組む。大学全体としては、4 年間一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム)の構築に向け、現行のカリキュラム・ポリシーについて検討を進める。また、アンケート調査の結果を分析し、新カリキュラムの評価をまとめる。新カリキュラムの評価結果とカリキュラム・ポリシーの検討とを統合させて、新新カリキュラム作成の方針を明確化する。この検討に平行して、ポートフォリオの活用や GPA 導入についても検討する。

V 学生の受け入れ状況

1. 学生の受け入れ方針

千葉県立保健医療大学学則において、第 26 条に「本学に入学することができる者」について定めており、入学選抜方法は、一般選抜、特別選抜(推薦入学及び社会人特別選抜)、編入学(3年次)となっている。また、各選抜種別に出願資格があり、「入学者選抜要項」に記載し、受験生および関係者に周知をしている。

本学が求める学生像については、大学ホームページ、学生募集要項に、大学および各学科・専攻のアドミッションポリシーを提示している。大学のアドミッションポリシーでは、まず大学の位置づけとして、

「本学では、健康科学部の下に看護学科、栄養学科、歯科衛生学科及びリハビリテーション学科(理学療法専攻及び作業療法専攻)を設置しています。

この 1 学部 4 学科 2 専攻の構成により、健康づくりなどの保健医療の高度化、専門化に対応できる人材、また、専門分野の異なる学科を単一学部とすることにより、関連する職種間の相互理解と連携の必要性・重要性を理解し、総合的なチーム支援ができる人材を育成することを教育上の理念としており、人の生命と健康に関わる保健医療系の国家試験受験資格の取得を前提目標として教育を行うこと」を述べた上で、「必要な基礎学力を有し、保健医療技術者としての適性を有する者を受け入れることを基本方針として、次のような学生を求めています。

1. 豊かな人間性や高い倫理観、生き生きとしたコミュニケーション能力を備え、温かく思いやりのある保健医療サービスを提供できる学生。
2. 責任感と柔軟性を伴う確かな実践力と新たな実践を作り出す力を生かして、多様な分野で他の専門職と協働しながら活躍できる学生。
3. 広く開かれた大学として、地域の人々との連携や交流をして、地域社会へ貢献する意識や生涯にわたる自己研さん能力を育むことができる学生。

と定めている。

上記の大学のアドミッションポリシーは、入学時の能力よりも入学後に修得していく能力に重点を置いているが、各学科・選考のアドミッションポリシーでは、大学のアドミッションポリシーに則り、入学時にすでに備えている能力を表現し、提示している。

(1)看護学科

医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、次のような学生を求めます。

- 1.人々の生活や生き様に強い関心がある人
- 2.看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
- 3.知的好奇心が旺盛で探究心がある人
- 4.幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- 5.自己を表現する力を持つ人

(2)栄養学科

保健・医療・福祉の専門家として管理栄養士に必要とされる「健康の維持・増進」、「疾病の予防・治療・再発防止」、さらに「介護時の栄養」について個人・家族・地域社会の健康づくりに貢献できる人材育成を教育理念とし、次のような学生を求めます。

- 1.温かく人間性豊かな人
- 2.多様な教養と知識を持つ人
- 3.科学的根拠に基づく専門的な知識・技能を生涯にわたって探求できる人
- 4.チームとして連携・支援・指導できるコミュニケーション能力を持つ人
- 5.国際的視点で、専門性を学問的に発展させうる創造性を持つ人

(3)歯科衛生学科

科学的根拠に基づく豊富な専門知識と確実な技術を身につけ、問題発見・解決能力、対人コミュニケーション能力を備えた歯科衛生の専門家として、地域の人々の生涯にわたる健康の維持・向上に貢献し、かつ歯科衛生学の発展に寄与できる人材育成を教育理念とし、次のような学生を求めます。

- 1.豊かな人間性を備えた人
- 2.幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- 3.歯科衛生を通じて人々の健康に寄与しようという意欲のある人
- 4.創造力、自己表現力が豊かで、協調性のある人
- 5.チームとして連携・支援・指導できるコミュニケーション能力を持つ人

(4)リハビリテーション学科理学療法学専攻

病気やけがによって身体に障害のある人たちを対象に、積極的に運動や物理的エネルギーを活用して身体機能の改善、日常生活動作の維持・回復などを図り、健康や生活の質の維持・増進や生活習慣病予防などの社会要請にも呼応できる人材育成を教育理念とし、次のような学生を求めます。

- 1.人に対し関心と畏敬の念を持つ人
- 2.幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- 3.理学療法知識と技術を深め、理学療法を発展させる意欲がある人
- 4.地域住民の健康や福祉に関心のある人
- 5.チームとして連携・支援・指導できる協調性やコミュニケーション能力を持つ人

(5)リハビリテーション学科作業療法学専攻

豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求めます。

- 1.対象者を尊重した基本的態度と考え方ができる人
- 2.幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人

- 3.作業療法を通じて人々の健康な生活に寄与しようという意欲のある人
- 4.連携・協働能力が高く、状況に応じた役割を發揮できる人
- 5.国際的かつ多角的な視点で学問の発展を目指すチャレンジ精神に富んだ人

なお、オープンキャンパスでの大学模擬授業・説明会や、さらに入学試験の面接においても、多くの受験希望者や受験生から、本学への志望動機を語る中で、「チーム医療」「地域貢献」といった言葉が聞かれることから、本学のアドミッションポリシーは、受験希望者に浸透していると判断できる。

しかし、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準については、学部全体として上記ポリシーについて検討されたことはなく、大学および各学科・選考として明示もされていない。大学模擬授業・説明会では受験希望者から質問を受けることがあるが、各学科・選考の教員個々の説明に任されている状況である。また、受験希望者へ求める具体的な学力を示す入学試験問題についても、開学以来公開できていないという問題がある。

なお、転入学・再入学・転学科等については、千葉県立保健医療大学学則第 31 条、32 条に定めており、申請があった場合は、規定に則り選考手続きを行っている。

2. 年度当初の重点課題

このアドミッションポリシーは、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーも同様に、平成 27 年度から自己点検評価の対象となってきたものであり、これからも十分な検討が必要である。たとえば、大学のアドミッションポリシーと各学科のアドミッションポリシーとが、必ずしも整合していないなどの問題もある。

また、平成 27 年度からは、高等学校新指導要領が適用される新課程入学生を(旧課程配慮で)受け入れ、平成 28 年度からはセンター試験も新課程のみの対応となった。過年度卒や社会人などこれからも新・旧課程の入学生が混在した状況で、平成 28 年度末までに公表するディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの整合性が取れるかどうか検討が必要である。

これまでも入学者の学力把握については、組織的な対応ではなく、1 年次前期科目担当者による個別の対応(基礎学力テスト)や、入学前の高等学校履修科目の調査(理科・数学等)にとどまってきた。報告を行っているものの、全学としての理解を得ているとは考えられず、新カリキュラムへの反映も十分な検討に至っていない。

さらに、平成 25 年 6 月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(いわゆる「障害者差別解消法」)が制定され、平成 28 年 4 月 1 日から施行となった。平成 29 年 4 月には、千葉県としての対応要領が公表され、あわせて大学としての対応要領も示されることになる。こうした対応要領に基づいた実質的な対応については、まだ組織的な行動指針として示されていない。ただし、障害のある学生の受け入れについては、学生募集要項に「特別の配慮を必要とする志願者との事前相談」として、「障害を有する等、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、平成 29 年 1 月 20 日(金)17 時までに、千葉県立保健医療大学学生支援課(表紙参照)まで連絡し、相談してください。」と記載しており、これまでどおりの事前相談を用意してきたが、さらに「合理的配慮」についての一貫した対応が必要となる。

3. 入学者選抜状況

本学の入学定員は、看護学科 80 名、栄養学科 25 名、歯科衛生学科 25 名、リハビリテーション学科 50 名(理学療法専攻 25 名、作業療法専攻 25 名)、計 180 名、3 年次編入学(看護学科)10 名である。

選抜方法については、年度毎の入学者選抜要項、学生募集要項において明示するとともに、以下のように実施している。

<一般選抜>

前期日程で実施している。募集人員は各学科・専攻入学定員の 6 割である。大学入試センター試験の試験科目は、全学科、全専攻とも 5 教科である。平成 27 年度入学者選抜から、国語、地理歴史・公民、数学、外国語の 4 教科については、これまで通り各学科・専攻で共通した科目であるが、理科については、各学科・専攻で指定する科目が異なることとなった。平成 28 年度入試でも同じ対応である。

合否の判定は、大学入試センター試験及び個別学力検査等の結果と調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行っている。配点は、センター試験 550 点(国語、地理歴史・公民、数学、理科がそれぞれ 100 点、外国語が 150 点)、個別学力検査の小論文が 150 点、面接が 100 点である。出願者数とその学科・専攻の募集人員の 3 倍を超えた場合には、大学入試センター試験の成績により第 1 段階選抜を実施し、第 1 段階選抜の合格者に対してのみ個別学力検査等の第 2 段階選抜を実施している。

<推薦入学>

特別選抜として、推薦入学及び社会人特別選抜を行っており、募集人員は推薦入学と社会人特別選抜(若干名)を合わせて各学科・専攻入学定員の 4 割以内である。出願資格における評定平均値は、出願時までで 3.8 以上の者としている。推薦入学の合否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文と面接の試験を行い、その結果と調査書等の提出書類の内容について総合的に判定して行っている。配点は、小論文が 100 点、面接が 100 点である。

< 社会人特別選抜 >

募集人員は若干名であり、推薦入学と社会人特別選抜(若干名)を合わせて各学科・専攻入学定員の4割以内である。社会人特別選抜の可否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文と面接の試験を行い、その結果と出願書類等の内容について総合的に判定して行っている。配点は、小論文が100点、面接が100点である。なお、小論文については、入学者選抜要項において、「英文読解を含む」と提示し、基礎的学力についても審査している。

< 編入学(3年次) >

募集人員は看護学科10名である。編入学(3年次)の可否の判定は、大学入試センター試験を免除して、小論文、専門科目及び面接の試験を行い、その結果と出願書類等の内容について総合的に判定して行っている。配点は、専門科目が100点、小論文が100点、面接が100点である。なお、小論文については、入学者選抜要項において、「英文読解を含む」と提示し、基礎的学力についても審査している。

以上のように、いずれの選抜においても小論文試験、面接試験を行うことで、基礎学力を含め、アドミッションポリシーに沿った選抜を行っている。

なお、平成24年度から実施されている新高等学校学習指導要領による、平成27年度入学者選抜(一般入試)における大学入試センター試験利用科目を指定するにあたり、平成24年12月までに、学部、各学科・専攻において検討された。国語、地理歴史・公民、数学、外国語の4教科については、これまで通り各学科・専攻で共通した科目としたが、理科については、入学するにあたり修得しておくべき知識を検討した結果、各学科・専攻で指定する科目が異なることとなった。この検証は、今年度中に行われる予定である。

なお、平成28年度までの入学者選抜状況として、平成21年度開学時からの受験競争率(出願者数を合格者数で割ったもの)を示した(表1)。

表1 受験競争率の状況(出願者数/合格者数)

一般選抜		(倍)								
年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	
看護学科	3.9	4.0	3.4	3.9	3.5	5.0	2.8	2.7	3.7	
栄養学科	4.5	3.4	4.6	4.8	5.4	6.9	3.5	4.3	4.1	
歯科衛生学科	1.3	3.3	3.6	2.5	3.0	3.9	4.1	1.3	2.5	
リハビリテーション学 科理学療法学専 攻	5.5	6.0	5.3	5.5	6.3	3.9	3.6	1.2	4.4	
リハビリテーション学 科作業療法学専 攻	2.6	5.6	2.7	3.9	6.1	4.6	3.7	1.8	4.1	
推薦入学		(倍)								
年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	
看護学科	1.8	2.7	2.4	2.7	3.0	2.3	2.6	3.4	2.4	
栄養学科	2.8	3.9	4.0	3.4	3.4	4.4	3.1	4.4	2.7	
歯科衛生学科	1.0	1.2	1.0	1.1	1.7	1.3	1.4	1.0	1.8	
リハビリテーション学 科理学療法学専 攻	2.6	4.1	3.9	4.1	2.5	3.3	3.1	2.6	2.3	
リハビリテーション学 科作業療法学専 攻	1.3	1.4	1.4	3.6	1.8	1.1	2.2	1.8	1.2	
社会人特別選抜		(倍)								
年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	
看護学科	8.3	7.3	9.3	8.0	6.0	12.5	6.3	3.6	6.5	
栄養学科	3.0	3.0	2.5	3.0	6.0	5.0	—	3.0	—	

歯科衛生学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション学 科理学療法専攻	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション学 科作業療法専攻	5.0	5.0	-	5.0	-	-	-	-	-

* -は、合格者がいない年度

編入学(3年次)

(倍)

年度	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
看護学科	2.7	3.3	2.3	4.7	14.0	3.6	3.2

合格者数に対する出願者数の割合である受験競争率は、一般選抜では、看護学科 2.7 倍～5.0 倍、栄養学科 3.4 倍～6.9 倍、歯科衛生学科 1.3 倍～4.1 倍、リハビリテーション学科理学療法専攻 1.2 倍～6.3 倍、作業療法専攻 1.8 倍～6.1 倍となっている。歯科衛生学科では、平成 21 年度が 1.3 倍であったが、その後 3 倍前後で推移している。理学療法専攻は平成 28 年度入試の落ち込みが甚だしい。作業療法専攻については年度により倍率が変動している。他の学科・専攻については年度による変動は大きくない。この数年の大幅な変動が、センター試験科目を変更した影響による競争率の低下であるのか、科目変更以外の要因(県内の私立大学募集開始)であるのか、今年度中の検証が必要になる。あわせて、入学者の状況も勘案し、センター試験科目の変更も検討が必要になる。

推薦入学では、看護学科 1.8 倍～3.0 倍、栄養学科 2.8 倍～4.4 倍、歯科衛生学科 1.0 倍～1.7 倍、リハビリテーション学科理学療法専攻 2.5 倍～4.1 倍、作業療法専攻 1.1 倍～3.6 倍となっている。歯科衛生学科では、1.0 倍を維持している状況が続いており、作業療法専攻も年度によっては 1.5 倍を下回っている。

社会人特別選抜は、看護学科、栄養学科、リハビリテーション学科作業療法専攻については毎年受験者があり、受験競争率は、看護学科では 6 倍～12.5 倍、栄養学科では 2.5 倍～6 倍である。社会人特別選抜の募集人員は若干名であり、毎年看護学科では 2～4 名、栄養学科では 0～2 名の合格者がある。作業療法専攻は、3 名から 9 名の受験生があり、年度により 1～2 名の合格者がある。歯科衛生学科では、これまで 1 名の受験者があったが合格者は出していない。リハビリテーション学科理学療法専攻は受験生がなかった年度が 1 度あり、他の年度では 3 名から 10 名の受験生があったが、これまで合格者は出していない。

看護学科の編入学(3年次)は、平成 23 年度より実施しており、2.3 倍～4.7 倍で推移しており、平成 27 年度だけ 14.0 倍と高倍率であった。

4. 学生募集のための取り組み

学生募集のために行っている広報活動は、以下のとおりである。

①大学案内の作成・配布、ホームページへの情報掲載

入試実施部会が中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の教育理念、学部・学科の構成、カリキュラムの構成、各学科・専攻の教育内容、学生生活、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格率、初年次必要経費、キャンパスライフを掲載している。大学案内は、個人での入手希望者への配布の他、オープンキャンパス・大学模擬授業・説明会・高校での模擬講義・説明会等で配布し、県内の高校へ送付している。

ホームページには、大学の概要、入学者選抜要項、学生募集要項(アドミッションポリシーを含む)を掲載している。

②オープンキャンパスの開催

毎年、7 月または 8 月の土日の 2 日間において、各日半日ずつ開催している。全体説明会では、学長挨拶、大学紹介、入試説明を行い、その後各学科・専攻で教育内容の説明、施設見学、体験学習、個別相談等を行っている。来学者は毎年 2 日間で 2000 人程度(保護者等を含む)であり、平成 28 年度は 2184 名であった。来学者によるアンケートの結果から、受験希望者にとってオープンキャンパスの満足度は高いことがわかっている。また、地域の高校生からの希望を受けて、土曜日の午後・日曜日の午前という組み合わせの実施が参加しやすさを実現していると判断できる。

③高校での模擬講義・説明会等の実施、高校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

平成 21～25 年度までに大学に依頼のあった 407 件の高校訪問・高校からの本学訪問・大学模擬場行・説明会のうち 321 件について、のべ 375 名の教員が協力した。高校訪問・大学模擬授業・説明会の内容は、高校や指定会場での本学と各学科の説明、模擬講義等である。高校からの本学訪問については、本学と各学科の説明、模擬講義、施設見学等、高校からの依頼に合わせて対応している。

高校訪問・大学模擬授業・説明会等への出席件数および派遣教員数の実績は下記表 2 の通りである。依頼される件数が開学時より平成 23 年度まで年々増加し、また、実施主体から複数回の要望があるなど、すべての依頼に対応するのに教育・研究上の支障が出てきたため、平成 24 年度からは過去に出席した教員の意見等を踏まえ、出席についての基本方針を定め、それに則り出席・派遣を検討して実施している。

表 2 高校訪問・大学模擬・説明会への出席件数および派遣教員数

年度	依頼件数	出席件数	派遣教員数(延数)	出席者数(延数)
平成 21 年度	45	42	54	—
平成 22 年度	79	69	93	1431
平成 23 年度	103	93	104	2129
平成 24 年度	94	61	64	1392
平成 25 年度	86	56	60	1210
平成 26 年度	85	43(資料参加を含めると 56)	46	1068
平成 27 年度	74	43(資料参加を含めると 60)	45	1117
平成 28 年度	98	67(資料参加を含めると 86)	73	1538

④受験情報誌への情報提供

受験情報企業等からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で、学生支援課による情報提供を行っている。

以上のような広報活動を行う中で、本学のアドミッションポリシーや教育内容への理解を促し、適性のある受験生に受験の意思決定をしてもらえるようにしている。

<入学者選抜の実施体制>

入学者選抜の実施体制は、以下のとおりである。

入試委員会…学長直属の委員会であり、委員長は学長、所掌事務は「1.学生の募集に関すること、2.入学者選抜に関すること」である。

入試実施部会…入試委員会の部会であり、所掌事務は「1.学生の募集に関する事項、2.入試の計画及び実施に関する事項、3.その他入試の実施に関すること」である。

入試評価部会…入試委員会の部会であり、所掌事務は「1.入学者選抜試験問題及び入学者選抜試験結果の分析に関すること、2.入学者選抜試験実施の評価に関すること、3.入学者選抜試験に関する改善の検討に関すること、4.その他入学者選抜試験の調査及び評価に関すること」である。

なお、合否の判定については、入試委員会での審議と教授会での議論を経て決定される。

<入学者選抜における公正性を確保するための措置>

問題作成者氏名、試験問題については、入試委員長を筆頭にした数人と問題作成者だけが知り得ている。問題作成者氏名、試験問題に関して、口頭で秘密保持を説明し、誓約書の提出は求めている。

いずれの選抜においても、校正は 3 回行い、引用文献の妥当性、設問と模範解答の適正、採点基準の内容と配点を吟味している。印刷作業についても、他の教職員が立ち入らない状況で、入試実施部長他最少人数で行っている。

小論文試験の採点は、数個の採点班に分かれ、評価の視点・評価表を用いて一人の受験生について複数の教員で採点している。採点基準の説明後、採点班の責任者を中心に採点基準の相互確認を実施している。採点終了後の点数確認の際、点数差の大きい場合は採点班の全員で採点内容を確認している。採点終了後に採点班の全員で点数を確認し、後日、入試実施部会員による入力作業の際、評価点及び小計を確認しながら入力している。

面接試験に関しては、各学科・専攻毎に、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜が行えるように評価基準を作成し、判断の偏りをできるだけ小さくするようにしている。

なお、教授会における合否判定の際には、受験番号のみで行っている。

<入学者選抜における透明性を確保するための措置>

配点については、入学者選抜要綱、学生募集要項掲載している。すべての選抜で、試験問題や評価観点の公開、合格に関する得点の公開などはしていない。

入試の個人成績の開示については、個人の総合得点のみを開示している。平成 28 年度入試で開示を求めたのは 64 件(特別選抜 35 件, 編入学 0 件, 一般選抜 29 件)であった。

<入学者選抜の検証体制>

入学者選抜の検証作業は、入試評価部会が行っている。毎年、それぞれの入試の選抜結果について、小論文・面接など入試科目の得点から選抜に有効に機能する試験が行われたか、小論文試験の内容・採点時の評価指標は妥当であったかを検討し、評価している。

また、その年の入試結果の特徴や、入学後の学生の傾向から注目した点について、項目間の相関などを分析し、入試の妥当性について評価している。平成 26 年には 1 期生について、入学時(入学者選抜)の試験区分と入学後の修学状況について追跡調査を行い、入試評価を行った。平成 27 年・28 年では、新課程入試対応の状況が入試だけでは把握できないため、体験ゼミナール(特色科目)の枠内で、高等学校理科学科履修状況、センター試験科目選択状況とさらに、理科の自己診断テスト(および情報リテラシーI 授業内で、中学程度の数学チェック)を行い、具体的な特徴を捉えようとした。

それぞれの入試について、各担当教員に入試実施後のアンケートを依頼し、入試の運営について意見を得ている。まとめた結果は、入試評価部会から入試実施部会に資料として提出し、次年度以降の入試運営に活かされている。

5. 学生の在籍状況

平成 29 年 3 月 31 日現在の在籍学生総数は 725 名であり、収容定員(740 名)対比は 0.98 である。学科・専攻別の収容定員対比は、看護学科が 0.96(在籍学生数 327 名, 収容定員 340 名)、栄養学科が 0.99(在籍学生数 99 名, 収容定員 100 名)、歯科衛生学科が 0.97(在籍学生数 97 名, 収容定員 100 名)、リハビリテーション学科理学療法学専攻が 1.02(在籍学生数 102, 収容定員 100 名)、作業療法学専攻が 1.00(在籍学生数 100 名, 収容定員 100 名)である。

<退学者>

開学時から平成 29 年 3 月 31 日現在までの退学者総数は 33 名である(表 3)。学科別では、看護学科 9 名、栄養学科 7 名、歯科衛生学科 5 名、リハビリテーション学科理学療法学専攻 9 名、同作業療法学専攻 3 名である。

退学した 33 名の退学理由のうち、多くは進路変更であり、若干名は家庭の事情(経済的理由含む)であった。退学した学年は 3 年次が最も多いが、ほとんどの退学者が休学期間を経てから退学しているため、事実上は 1~2 年次の段階で履修を中断している。入学総数(除籍・編入学を除く)1440 名に対し、退学者は 1.75%の割合であるが、退学理由の多くが進路変更であることから、受験生に対し、入学前に本学の教育内容等について理解を促すことが必要である。

表 3 退学者数

平成 29 年 3 月 31 日現在 退学者(休学後退学)名

学科等 入学年度	看護 学科	栄養 学科	歯科衛生 学科	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	計
平成 21 年度	4(3)	1(1)	0	2(2)	1(1)	8(7)
平成 22 年度	1(1)	1	1(1)	0	2(2)	5(4)
平成 23 年度	0	3(3)	1	2(2)	0	6(5)
平成 24 年度	0	0	0	2(2)	0	2(2)
平成 25 年度	1	2(2)	1(1)	2(2)	0	6(5)
平成 26 年度	1(1)	0	0	1(1)	0	2(2)
平成 27 年度	2(2)	0	1(1)	0	0	3(3)
平成 28 年度	0	0	1(1)	0	0	1(1)

6. 評価(成果および改善すべき事項)

学生の受け入れ方針を広く社会に明示しており、その方針に沿って公正かつ適切な学生募集および入学者選抜を行っている。また、入学者選抜の検証体制も整っている。開学時以降、学生収容定員と在籍学生数の比率は適切に保たれている。

①効果が上がっている事項

入学者選抜状況(表 1)で示したように、歯科衛生学科では推薦入学の受験倍率(合格者数/出願者数)が 1.0 倍を維持している状況であり、また、一般選抜では、平成 28 年度入試で歯科衛生学科とリハビリテーション学科理学療法学専攻とリハビリテーシ

オン学科作業療法学専攻とで極端な倍率低下が見られた(平成29年度入試では通年平均に戻ったためこれから評価が必要である)。これ以外は、各学科・専攻において一般選抜では3.0倍～6.0倍程度、推薦入学については2.0倍～4.0倍程度の受験倍率を保っている。高校での模擬講義・説明会やオープンキャンパス等において、大学の理念や教育内容が理解され、志願者数が確保されていると判断できる。

入試委員会と入試実施部会による入試の実施体制・検証体制の検討の取り組みにより、入学者選抜の手続きは公正に行われ、その検証を入試評価部会で実施している。

②改善すべき事項

大学のアドミッションポリシーは受験生・社会一般に明確に提示してあるが、入学時の能力よりも入学後に修得していく能力に重点を置いている。一方で、各学科・選考のアドミッションポリシーにおいて、入学時にすでに備えている能力を表現し、提示している。大学のアドミッションポリシーについて、入学時にすでに備えている能力としての表現を検討する必要がある。また、大学のアドミッションポリシーと学科専攻との整合性も保つ必要もある。さらに、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準(いわゆる学力)については、学部全体として検討されたことはなく、大学および各学科・選考として明示もされておらず、入学後の履修を円滑に進めるために志願者への情報として明示する必要がある。

情報公開に関して、入試結果については、個人の総合得点のみを口頭開示しているほか、試験問題や合格に関する得点の公開などはしていない。入学者選抜における透明性を確保するための措置として、情報開示について検討する必要がある。

個別の入試については、社会人特別選抜は、募集人員は若干名としているため、年度により志願者数に差があることが問題とは認識されてこなかった。入学生が出ていない学科もあり、社会人特別選抜のあり方について検討が必要である。看護学科の編入学(3年次)は、受験倍率は2.3倍～4.7倍で推移しているものの、各年度の入学者は5～7名であり、入学者がいなくてもあった。編入学定員に対する編入学生数比率は、0.50～0.70である。今後、定員数の検討、または試験の評価方法を検討し適切な定員を確保する必要がある。

また、平成27年度入学生からは、センター試験入試科目が学科専攻によって異なり、また、科目数も変更したため、受験者層自体が変化した可能性がある。入学生の学力動向については、従来から一般選抜と特別選抜(社会人入試・編入学試験含む)の学力差(一般選抜の方が高い)とだけしか想定されていないため、入学生の学力実態という本質的な問題が見えなくなっている恐れがある。今後とも入学時の学力把握を行い、卒業時まで追跡する必要がある。さらに、入学時の学力測定とカリキュラムの適正な設定など、検討課題が残されている。

なお、いわゆる「障害者差別解消法」への対応については、具体的な要綱を定めた後、組織的な対応が必要となるため、今後とも組織整備が必要である。

7. 次年度の方策

アドミッションポリシー・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー、いわゆる3つのポリシーの適正な関係を示した上で、さらに、大学のアドミッションポリシーと各学科のアドミッションポリシーとを整合させる必要がある。この3つのポリシーの運用に関するガイドラインは中央教育審議会大学分科会大学教育部会で平成28年3月31日に示されており、この運用の中で入学者選抜も位置づける必要がある。さらに、高大連携改革は、高大接続システム改革会議「最終報告」が平成28年3月31日に報告されており、平成29年度中の改革が求められているからである。

入学試験問題の公開は喫緊の課題であり、多くの受験生からも求められ、県内高校への訪問時に必ず課題とされている。公開のための予算的な問題はあっても、いっそうの工夫・対応が必要である。

平成27年度から高等学校新指導要領が適用される新課程入学生を受け入れ、2年が経過した。社会人を含め、新・旧課程の入学生が混在した状況で、学生の学修が適正に行われるかどうかを今後とも追跡する必要がある。さらに、平成33年度入試改革が予告されているため、これまでの入試体制による学生の受け入れを抜本的に見直すことが必要になる。

また、いわゆる「障害者差別解消法」に対応した学生受け入れ体制を整える必要があるが、とくに身体的ばかりでなく、いわゆる発達障害を持つ学生への組織的な教育体制を「合理的配慮」の上で整えることも行わなければならない。

VI 学生支援

1. 年度当初の重点課題

学生部としては以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①策定した「学生支援に関する方針」を教職員で共有するとともに、現在行っている学生支援の内容を方針に基づいて点検し、不足している支援内容についてさらなる充実を図っていく。特に、「障害者差別解消法」の施行(平成28年4月1日施行)に伴い、障害を有する学生への支援の方針を早急に検討していく必要がある。

②所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、「平成27年度卒業時調査」の結果をもとに整備計画を立案し、評価の低い内容

について重点的に取り組んでいく。また、平成27年度に引き続き相談体制の整備も積極的にすすめていく。③進路支援委員会を中心に「平成28年度卒業時調査」を実施する。④平成28年度重点政策・改善計画のうち、学生委員会が担当する「学長等と学生の懇談会」を計画的に実施していく。各学科専攻については、学科専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

2. 活動内容

1) 学生委員会

(1) 学生の福利厚生: ①千葉県が定めた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する千葉県職員対応要領」に基づき、本学の運用方法をガイドラインとして整理した。また、FD「医療系大学における発達障害や精神障害を抱える学生の相談内容と学生支援の実際」を開催した。②学生から教員への相談について実態調査を行った。③カウンセラー、保健室担当者、教職員が連携して学生支援を行う体制について検討した。④学生に関して学外(消防機関等)から緊急連絡が入った際の情報の共有方法について検討を行った。⑤平成28年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。トイレ整備の優先箇所を県に提案した。後援会から学生会に寄贈された物品(自転車、冷温水器など)を学生がうまく管理できるよう支援した。県庁生協と連携して幕張売店・仁戸名弁当配達システムを運用した。⑥学生保険の加入状況を随時把握し学生指導を行った。平成29年度学生保険について検討した。⑦「平成29年度学生ハンドブック」の内容を検討した。

(2) 学生の保健衛生: ①平成28年度健康診断を実施した。健康診断結果を4月中に実習施設に提出する必要があるリハビリテーション学科4年生数名については、昨年度整備した方法により学校医のクリニックで健康診断を実施できるようにした。診断結果に基づき学生指導を行った。②平成28年度ワクチン接種計画(B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン)を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。③平成29年度健康診断の実施計画について検討した。④「平成29年度自己健康管理ファイル」の内容を検討した。

(3) 学生の課外活動: ①学生団体(学生サークル)設立申請を審議した。②グラウンド整備物品(トンボ等)を入れるロッカーを設置した。③土曜日に体育館を開放する方法を事務担当者と検討した。④いづみ祭の実施を支援した。⑤サークルに対する学外団体からの協力依頼(共同開発など)への対応方法について検討した。⑥「学生団体活動報告書」の提出もれが多いため、提出時期を検討し、学生規程を変更した。

(4) 学生の奨学金等貸与: 日本学生支援機構奨学生を選考し推薦を行った。

(5) 授業料等の減免: 授業料減免(前期・後期)について審議した。

(6) その他教授会からの付託事項: ①平成28年度卒業式の運営について検討した。②学生支援のために後援会理事会と連携した。③後援会からの要望をうけて学生の成績を保証人に送付する方法を整備した。④平成28年度卒業時調査の調査票作成を行った(学生支援部分)。

(7) 平成28年度重点政策及び平成29年度重点施策: ①同窓会・校友会設立へ向けての検討を行うワーキンググループメンバーを選出した。②学生と学長、学部長、学生部長との懇談会を年5回開催した。③平成29年度重点政策のうち学生委員会担当の課題についてその適否を検討した。

2) 進路支援委員会

(1) 就職・進学支援: ①学科専攻と連携を図り、大学全体(全学・学科専攻)として学生への進路支援を行った。②平成27年度キャリアセミナーの評価をふまえ、平成28年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。③進路情報室の運営を行った。「進路情報施設利用規程」を現状にあわせて変更した。幕張キャンパスの進路情報室にハローワーク・ジョブサポーターの派遣(週1~2回)を依頼した。また、仁戸名キャンパスの学生も大学内で就職相談ができるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も新たに依頼したところ、試験的な派遣(9月~11月の毎週火曜日)が実現した。学生には好評で、60相談枠中42枠(70%)の活用がみられた。④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。⑤平成28年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。⑥平成29年度の「進路ガイドブック」等の内容を検討した。⑦進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。⑧平成28年度就職率は98.8%であった。

(2) 国家試験対策: ①平成27年度国家試験結果をとりまとめた。不合格者のフォローアップ計画を確認した。②学科専攻と連携を図り、大学全体(全学・学科専攻)として学生への国家試験受験支援を行った。平成27年度卒業時調査の結果、国家試験受験支援に対する学生の満足度がやや低かったため、その原因を分析し対策を検討した。③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受ける方法を検討した。④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。⑤平成28年度国家試験合格率は、保健師96.2%、助産師66.7%、看護師97.5%、管理栄養士100%、歯科衛生士100%、理学療法士100%、作業療法士100%であった。

(3) 県内就職の推進: ①平成28年度県内就職率は63.5%(前年度70.0%)であった。②就職を取り巻く状況は学科専攻によって大きく異なるため、学科専攻別に県内就職推進に関する計画を立案するよう促した。

(4) その他教授会からの付託事項: 平成28年度卒業時調査の調査票作成(進路支援部分)を行い、調査を実施した。

3. キャンパスハラスメント

- ① 本学におけるキャンパスハラスメントの実態を明らかにすること、及び、キャンパスハラスメントの防止意識の啓発を目的として、在学する全学生を対象にアンケート調査を行った。
- ② キャンパスハラスメント防止に関する講演会を開催し、リーフレット「ハラスメントのないキャンパスへ」と用いて、キャンパスハラスメントとは何か、ハラスメントのないキャンパスに向けての心構え、ハラスメントに関する相談等について講演を行った。

4. 各学科・専攻の取り組み

1) 看護学科

(1) 年度当初の重点課題

学生生活・修学支援を要する学生への円滑な支援の実施を課題とした。また、看護師・保健師・助産師国家試験の不合格学生に対する支援体制について、改善すべき点を明らかにし、再整備を行うことも課題とした。

(2) 取組状況

修学・生活・進路に関する学生支援体制について、平成27年度末に作成した担任制マニュアルに基づき、1年生には教員8名、2年生には教員9名、3年生には教員6名、4年生には教員2名を配置した体制で担任業務を遂行した。なお、1年生と2年生に対しては、学生生活の状況やニーズを把握するために、年度当初と前期の終了時に懇談会を開催し、必要時には個別面接も併せて行うこととした。また、4年生に対しては、学生生活・修学に関する支援のみならず、就職活動や国家試験の受験に向けた支援も併せて行う必要があるため、看護研究の指導を担当する教員も担任業務の一部を担う手厚い支援体制を整え、学生の求めに応じて随時、相談に応じるようにした。

学生支援の実際について、まず、学生生活・修学支援については、学生生活や修学に関する相談には、看護学科全教員のオフィスアワーを活用するよう、在籍する学生に積極的に呼びかけた。また、単位未修得科目があり、個別の履修計画の立案が必要な学生や、休学・退学を希望する学生に対しては、担任を含めた複数の教員でチームを作り、学科内で作成した対応手順に沿って学生本人(必要時には、保護者も含めた)への支援を行った。

進路支援については、就職活動が本格的に開始される3年生を対象に、2回の進路支援ガイダンス(6月と12月に開催)、保健師・助産師・看護師としての就職を予定している4年生と話す会(12月に開催)、および、保健師・助産師・看護師として活躍している卒業生と話す会(2月に開催)を進路支援事業として実施した。また、これらの進路支援事業と並行して3年生や4年生の就職活動の動向を把握するための調査を実施し、次年度以降の進路支援事業の運営において改善すべき点を明確にし、教員間での情報共有を行った。

国家試験受験対策については、3年生には低学年模擬試験の実施に向けて、4年生には受験資格に応じた模擬試験の実施、特別講義(国家試験の傾向と対策(90分間))や補講(疫学・保健統計(90分間)、解剖生理(90分間))の開講に向けて、日程調整などに関する支援を行った。また、平成27年2月に行われた保健師国家試験において不合格となった卒業生に対しては、在籍時に看護研究の指導を担当した教員が再受験に向けた相談に応じたり、手続きに関する支援を行った。

(3) 評価(成果および改善事項)

学生生活・修学支援においては、学年担任制マニュアル等を作成したことにより、支援に携わる学科内教員の役割や連携の方法が明確になり、迅速かつ円滑に学生への個別支援を実施することができた。加えて、看護師・保健師・助産師国家試験の不合格学生への支援について学科内で方針を再確認し、再受験に向けた手続きを滞りなくすすめることができた。一方、進路支援においては、県内の保健医療機関の採用等に関する情報提供を積極的に行ったが、県内就職率の維持には至らなかった。

(4) 次年度の方策

学生の修学・生活支援においては、看護学科内教務委員および看護学科長と連携し、マニュアル等を活用しながら、きめ細やかな対応を引き続き行っていく必要があると考える。また、進路や学生生活等に関する調査結果を詳細に分析した上で進路支援ガイダンスの内容等を見直し、県内就職率と看護師・保健師・助産師国家試験の合格率の改善を目指す。

2) 栄養学科

(1) 年度当初の重点課題

管理栄養士の国家試験合格率及び就職率の100%を目指す。就職は県内への就職を優先。

(2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、学生を支援し学科会議でも報告してもらい学科全体で学生支援を行った。

臨地実習【臨床栄養(必修)12施設・給食経営(必修)15施設・公衆衛生(選択)17施設、栄養管理臨地実習(選択)1施設および栄養教育実習(選択)8校】は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。

就職活動の支援は3年次から進路支援委員会を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的
活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩(公務員合格者)による受験対策講和や業務内容の説明会を実施した。4年次は
担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、全教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動はサークル顧問、文化祭の出店支援は学生委員および給食経営管理担当教員、学習・生活指導、情報処理
ガイダンスの相談などは各教員が担当した。ポートフォリオは全教員の対応可能時間を掲示し、いつでも対処できる体制を学
生に示した。国試対策は国家試験対策会議を設置し科目担当者による国試対策講習会、6回の内・外部模擬試験を計画・実
施、さらに成績不良者には、毎回の模試終了後の面接指導も実施した。

(3) 評価(成果および改善事項)

5期生(平成24年入学)は全員卒業(23名)。管理栄養士の国家試験合格率は100%、就職率は100%(県内就職率55%(昨
年:46%)と増加した。就職者は全員希望する職場に就職でき、その内訳は病院23%、官公庁23%、一般企業(管理栄養士と
して食品会社、給食会社等に勤務)32%、保育所・特養等の施設9%、大学の助手13%であった。次年度も引き続き国家試
験合格率及び就職率の100%達成をめざすと共に、県内就職率の向上を図りたい。

(4) 次年度の方策

国家試験合格率100%を目指し、内・外部模擬試験の成績不良学生に対するアドバイスの強化を実施する。県内就職につい
ては、県内の就職先の紹介を強化する。

3) 歯科衛生学科

(1) 年度当初の重点課題

学生の個別相談・面談に関する時間を確保するとともに、さらなる学生支援の充実に努める。また、県内医療機関等への就職
率向上に向けた取り組みが求められる。

(2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、教務委員会と学生委員会が中心となって行っているが、当学科では、担任・副担任制
の導入や各教員により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には、履修ガイダンス、オフィスアワーによる学
修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。

学修支援については、専門科目の教育において、全教員が独自の教材作成とそれを用いた講義・演習・実習を展開し、教育
の質の向上をめざした。学外の臨床・臨地実習では、実習施設との打ち合わせを行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよ
う体制を整えた。

進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーカード・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等、
細やかなサポートを行った。また、卒業生と在学学生(3,4年生)との交流の機会を設け、卒業生から就職した病院、歯科診療所、
行政、企業等の詳細な仕事内容について情報提供が行われた。さらに、進路が決定した4年生から3年生に向けて就職活動等の
情報を提供する機会を設けた。国家試験対策については、進路支援委員会を中心に、学外模擬試験を2回実施するとともに、
試験科目に対応した資料を作成・配布するなど理解の強化をはかった。

(3) 評価(成果および改善事項)

担任・副担任を中心に必要に応じて学生の個別相談・面談を実施した。千葉県内医療機関等への就職率は前年度の実績を
大きく上回り60%に達した。国家試験の合格率は開学以来の目標である100%を維持した。

(4) 次年度の方策

学業不振学生や学修意欲の低い学生に対する学修支援を充実させる。また、千葉県内医療機関等への就職率向上に向けて関
係団体との連携をはかる。

4) リハビリテーション学科理学療法専攻

(1) 年度当初の重点課題

前年に引き続き、学生の臨地実習が無事に遂行できるように学内教育と実習施設との連携に心がける。臨地実習におけるメン
タル不調者を出さないように、学生の日常生活態度等の変化を見逃さない様心がける。

(2) 取組状況

前年同様、各学年担任による半期に一度の面接に加え、卒業生を囲む会も引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すよう
試み、メンタル不調者を早期に発見できるように専攻会議において情報共有している。進路支援・国家試験対策は前年度と同
様に継続した。今年度より新たに、臨地実習時の日常生活記録を学生に記録させ、週に一回提出を義務付け、メンタル面の異
常の早期発見を試みることにした。

(3) 評価(成果および改善事項)

臨床実習Ⅰ(体験実習)とⅡ(評価実習)前に接遇やリスク管理に関する講義と演習を前年同様実施し、臨床実習に臨むことができた。実習Ⅱを目前に、履修に不安を有する学生・家族と面談し、実習への参加を 取りやめた例が一例あったが、残りの実習参加者には実習中断例はなかった。

(4)次年度の方策

平成 28 年度同様、メンタル不調が実習中に発覚し、実習中断とならない様、事前にメンタル不調を見逃さない様にし、担任からの早めのカウンセリング勧告を心がける。メンタル不調以外の学習意欲の低い学生に対しても積極的にかかわり、モチベーションの確認を心がける。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 年度当初の重点課題

①カリキュラム上、1年生の授業は、前期は全て幕張キャンパス、後期は水曜のみ仁戸名キャンパスで行っている。2年生は火・木曜日は仁戸名、他の曜日は幕張キャンパス、3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。1年の負担は軽くなった者の2年の移動負担が大きい。運賃や時間のロスが大きく課題として残る。

②作業療法士国家試験の全員合格を課題とする。

(2) 取組状況

①作業療法学専攻は担任・副担任制をとっている。学生は、臨床実習が始まり、作業療法士としての適性や就職などの問題に対して、担任や副担任が個別に対応している。他の学生支援としてサークル顧問、文化祭支援等に対応した。

学生は、学年間の交流を図るため先輩が後輩の相談などをとれるようチューター制の形式をとり、学生が自主的に1年～4年を小グループにわけ、各グループに交流会など実施している。また、専攻としては、年に1回、卒業生を招いて千葉県内の各分野の職場について紹介し交流を図っている。

教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、主に幕張キャンパス(1年生、2年生)に通学している学生に対しては、オフィスアワー等で対応した。一方、移動などの時間的制約があるため急遽、問題は発生した時など随時対応を行うことは難しい。作業療法学専攻の学生支援における重点課題として、問題発生に対して即時対応できる体制づくりが必要である。また、進路支援や国家試験対策に関して、専攻会議を開き、情報の共有と対策について検討実施している。

②学生が自主的に参加できるようにグループを編成し、教員は学習の場の提供と模擬試験の実施、さらに学習成果がみられない学生に対して個別指導を受けるよう指導する。

(3) 評価(成果および改善事項)

①指導や卒業生の交流会など実施が行われている。千葉県への就職率は昨年同様8割程度と高い。

②国家試験において全員、合格となる。

(4) 次年度の方策

①卒業生と交流会の継続と国家試験への対応の継続のため、学生の各々の生活・学習の障害を把握し、その改善に向けて、環境あるいは個人への介入を実施し、国家試験の全員合格に向けて、課外活動を推し進める。

5. 平成 28 年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

1)調査の概要

本学の学生支援(修学支援・生活支援・進路支援)に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②本学の教育目標への到達度、③4年間の学生生活に対する取り組みの程度、④本学の学生支援に対する満足度、⑤実施した就職・進学活動についてである。調査時期は2016年12月～2017年2月で、学科・専攻ごとに実施した。

2)調査の結果

(1)対象者の概要

卒業生170名中167名から回答が得られた(回収率98.2%)。所属学科は、看護学科78名(46.7%)、栄養学科20名(12.0%)、歯科衛生学科25名(15.0%)、リハビリテーション学科理学療法学専攻20名(12.0%)、リハビリテーション学科作業療法学専攻24名(14.4%)であった。

(2) 本学の教育に対する満足度

「特色科目」「一般教養科目」「保健医療基礎科目」「専門科目」「時間割」「4年間のカリキュラム」「履修ガイダンス」「シラバス」「WEB履修システム」等17項目について満足度を4段階で尋ねた。17項目中13項目において7割以上の者が「とても満足」「やや満足」と回答した。「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が7割を下回る項目は以下の4項目で、平成27年

度と同様の結果であった。「学外実習:実習までの交通の便」55.1%、「時間割」64.2%、「WEB履修システム:成績確認」65.9%、「4年間のカリキュラム」68.3%。

(3) 本学の教育目標への到達度

本学の8つの教育目標について到達の程度を4段階で尋ねた。平成27年度と同様に、すべての教育目標において8割以上の者が「十分に身についた」「ある程度身についた」と回答した。

(4) 4年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「進路・キャリアの検討」「国家試験のための学習」「サークル活動」「いずみ祭」「友人等との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア活動」等15項目について、取り組みの程度及び活動から得たものの大きさの程度を4段階で尋ねた。15項目中12項目において7割以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。特に、「専門科目の学習:講義」「専門科目の学習:演習等」「専門科目の学習:学外実習」は、平成27年度と同様に、9割以上の学生が熱心に取り組み、得たものも大きいと回答した。また本年度は、「友人等との交流」も9割以上の学生が熱心に取り組み、得たものも大きいと回答した。一方、平成27年度同様、取り組みの程度の低かった活動は「サークル活動」45.5%、「いずみ祭」48.5%、「ボランティア活動」44.2%で、得たものも小さいと回答した。

(5) 本学の学生支援に対する満足度

「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「教職員の対応」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍する者への支援」「事務システム」「施設設備」等56項目について満足の程度を4段階で尋ねた。

学生支援に関して「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が5割を下回る項目は「掲示による連絡」39.7%、の1項目で、平成27年度と同様の結果であった。一方、以下の項目は、平成27年度は「とても満足」「やや満足」と回答した者の割合が5割を下回ったが、本年度は微増した。「学生メールシステム」50.6%、「事務職員の対応(幕張)」53.1%、「サークル活動への支援」58.3%。

施設設備に関しては、仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は概して低く、「とても満足」「やや満足」と回答した者が5割にみたなかった項目は以下のとおりであり、平成27年度と同様の結果であった。「講義室」41.5%、「実習室・実験室」35.4%、「情報処理室」34.0%、「図書館」47.2%、「学生ホール」36.0%、「運動場・運動施設」44.9%、「自習室」49.0%、「トイレ」34.7%。一方、幕張キャンパスの施設設備においては、「とても満足」「やや満足」と回答した者が5割にみたなかった項目は「運動場・運動施設」44.7%、「トイレ」44.0%であり、これも平成27年度と同様の結果であった。

平成27年4月から開始した「生協幕張売店」「仁戸名弁当配達システム」への満足度はそれぞれ57.0%、42.5%であり、平成27年度の結果と比べると、「仁戸名弁当配達システム」への満足度が減少した。「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が85.0%であり、平成27年度の結果である78.6%を上回った。

(6) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「進学にあたり受験した学校数」等について尋ねた。結果は、概ね平成27年度同様であった。活動開始時期は「4年次前期」31.1%が最も多かった。受験した施設・企業数は「1カ所」70.6%が最も多く、内定を得た施設・企業数も「1カ所」85.3%が多かった。実施した就職活動は、「合同就職説明会」65.8%、「施設ごとの就職説明会」64.8%、「ジョブサポーターの活用」60.3%の順であり、平成27年度は8割以上の者が実施した「施設訪問・見学」の実施率は50.7%であった。就職にあたり重視した条件・基準は「給料」69.5%が最も多く、次いで「施設・病棟の雰囲気」68.9%、「規模・機能(高度医療を行う病院、長期療養病院等)」57.5%であった。進学にあたり受験した学校数は「1校」100.0%で、進学にあたって相談した人は「先輩・知人・友人」「家族」「教員」であった。

6. 評価(成果および改善すべき事項)

学生部(学生委員会・進路支援委員会)は所掌事項に関する活動を計画的に行うことができたが、それらの活動のうち、平成28年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。①障害を有する学生への支援として、千葉県が定めた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する千葉県職員対応要領」に基づき、本学での運用方法をガイドラインとして整理することができた。また、発達障害や精神障害を抱える学生への支援に関してFD研修会を開催することができた。②相談体制の整備として、学生支援におけるカウンセラーと教職員の連携体制および学生に関する学外からの緊急連絡の共有方法について整備することができた。③教員と保証人が連携して学生支援を行えるよう学生の成績を保証人に送付する方法を整備した。④仁戸名キャンパスの学生からの強い要望をうけ、学生が大学内で就職相談ができるよう、ハローワークに仁戸名キャンパスへのジョブサポーター派遣を依頼したところ、試験的な派遣(9月～11月の毎週火曜日)が実現し、60相談枠中42枠(70%)の活用がみられた。⑤平成28年度重点政策の課

題である学生と学長、学部長、学生部長との懇談会を年 5 回開催し、学生の素直なニーズを把握し学生支援に活かすことができた。一方、学科専攻においては、各教員が教育の質の向上に努めるほか、充実した臨地実習を行うことができるよう教員と臨地実習指導者として打合せを行ったり、学習意欲を引き出すために卒業生と話す機会をつくったり、担任を中心に修学上・学生生活上の相談にのったりするなどして、きめ細やかに修学支援・学生生活支援を行うことができた。

このような活動の結果、平成 28 年度も高い就職率・国家試験合格率および県内就職率を維持することができた。平成 28 年度卒業時調査の結果によれば、学生生活への全体評価は「とても満足」「やや満足」が 85.0%(前年度 78.6%)であり、高い評価が得られた。

7. 次年度の方策

学生部としては以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①平成 28 年度に整備した「障害を有する学生への支援ガイドライン」「学生支援におけるカウンセラーと教職員の連携体制」「学生の成績の保証人への送付方法」などを実際に運用し評価・洗練させていく。②所掌事務及び重点施策に関する活動を計画的に行う。特に、「平成 28 年度卒業時調査」などで評価が低い項目を中心に支援計画・整備計画を立案し改善に取り組んでいく。また、引き続き相談体制の整備も積極的にすすめていく。さらに県内就職の推進や国家試験合格率 100%(全学科)をめざし、全学と学科専攻が連携して取り組んでいく。③進路支援委員会を中心に「平成 29 年度卒業時調査」を実施する。各学科専攻については、学科専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

Ⅶ 社会連携・社会貢献

1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々との連携や交流をして、地域社会へ貢献する。

2. 年度当初の重点課題

- 1) 公開講座の内容を充実させ、円滑に運営する。
- 2) H28 年度重点施策
 - ①健康づくり・疾病予防への提案(県・地域への点検・評価、見直し、提案)
 - ②卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画、実施(地方創成)
 - ③専門職を対象とした生涯教育の企画、実施
- 3) 各学科の社会貢献を充実させる。

3. 活動内容

1) 公開講座

平成 28 年度の公開講座は 10 月 9 日(日)と 10 月 23 日(日)の 2 回、幕張キャンパスで開催した。参加者は、1 回目が 77 名、2 回目が 65 名(計 142 名)であった。教職員従事数は 1 回目が 11 名、2 回目が 12 名である。参加者のアンケート(2 回の回答者は計 128 名)のうち、「受講した感想」についての質問に対する回答は「大変よかった:54 名」、「よかった:42 名」、「普通:7 名」、「よくなかった:2 名」、「未回答:23 名」であり、未回答を除くと「大変よかった」と「よかった」で全体の約 90%を占めた。

2) 千葉県健康福祉部との連携協力

平成 28 年度は平成 29 年 1 月 23 日(月)に、「認知症について」をテーマに意見交換会を開催した。千葉県健康福祉部高齢者福祉課から「千葉県における認知症施策(高齢者及び認知症高齢者の状況、認知症支援施策の取組状況)」についての報告があり、質疑応答を行った。本学からは看護学科、栄養学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科(作業療法専攻)から、それぞれの学科ごとの認知症に対する取組を報告し、質疑応答を行った。

3) 各学科・専攻の活動状況

(1) 看護学科

①地域におけるボランティア活動等:

- ・千葉県内:認知症と家族の会の活動への参画、千葉県子ども病院でのボランティア活動、等の 10 件を行った。
- ・千葉県外:特別養護老人ホームにおけるボランティア「荻窪暮らしの保健室」での健康相談、等の 3 件を行った。

②地域への保健医療活動(診療・技術指導等、活動期間、場所等)

東京都台東区介護認定審査会の合議体長を務めた。

③審議会、委員会、国家試験委員等の実績:

文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員，文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)認定審査委員会委員，独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員，千葉県助産師出向支援導入事業推進協議会委員長，千葉県ナースセンター運営委員会委員，千葉県現任教育推進会議委員長，柏市保健衛生審議会副委員長，ちば県民保健予防財団審議会委員，千葉県准看護師試験委員等，13の委員等を務めた。

④職能団体委員等

千葉県看護協会副会長，千葉県看護協会教育委員，千葉県看護協会保健師職能委員会副委員長等，4の委員等を務めた。

⑤学会，学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：総数90学会(延べ入会学会数237学会)であった。5名以上の教員が会員となっている学会は，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本看護学教育学会，日本看護研究学会，日本看護管理学会，日本公衆衛生学会，日本地域看護学会，日本母性衛生学会，日本母性看護学会，日本老年看護学会，日本在宅ケア学会，日本文化看護学会であった。

・学会，学術団体への貢献：理事8件，幹事2件，監事1件，評議員・代議員10件，学会各種委員会(編集，研究促進，学術，査読，等)委員37件，その他の学会委員56件，学術集会各種委員会(企画，実行，査読，等)委員27件を務めた。

⑥講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等：延べ81回の講演会，研修講師，研究指導等を行った。主な講演会／研修は，千葉県立保健医療大学公開講座，千葉県看護教員養成講習会，千葉県実習指導者講習会，中堅保健師研修会，特定保健指導実践者スキルアップ研修会，千葉県印旛健康福祉センター保健師業務連絡会，野田健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会，柏市保健所地域健康づくり課 課内研修会，千葉市保健師会研修，保健師活動の必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ，千葉市立小学校における教職員研修会，精神看護認定看護師教育課程，等であった。研究指導は，山武健康福祉センター，夷隅健康福祉センター，松戸健康福祉センター，海匠健康福祉センター，千葉市緑保健福祉センター，千葉県こども病院，等で行った。

⑦その他

千葉県立佐原病院高齢者看護に関する課題を検討する会の企画・運営，放送大学看護師国家試験学習支援ソールの作成，等を行った。

(2)栄養学科

①地域におけるボランティア活動等：

・千葉県内：千葉食育ボランティア，食育・健康づくり活動(食育ブースと食育タンスの総括：千葉市食育のどい2016，幕張ベイタウン祭り2016，幕張ベイタウン夏祭り2016，コープみらいフェスタきやっせ物産展2016)，食育・健康づくり活動(総括：千葉市食育情報誌のためのちば食育応援隊による料理開発，小学校での親子料理教室)，「高校生のための食育：グーパー食生活」のリーフレットと指導案の作成(依頼：千葉県教育委員会)，NPO法人千葉自然学校 理事，千葉県立衛生短大栄養学科卒業生有志のネットワーク(総括：栄養情報・求人情報提供)，千葉県農林水産部「おいしさいっぱい！」ちばの恵み体験ツアー協力(学生募集，とりまとめ)

・千葉県外：文部科学省インターンシップ学生(本学栄養学科学生)への支援，食育出前教室(久ヶ原スポーツクラブ)，食育講座(日本マタニティフィットネス協会)

②地域への保健医療活動(診療・技術指導等，活動期間，場所等)

食事・栄養のアドバイス・ヘルシー昼食提供(ちば食育応援隊(いまい大ごはんカフェなど)：2016年4月～2017年3月，千葉県)，「お父さんのためのヘルシーメニュー，お兄さんのためのエコメニュー」イベント協力(メニュー提供：2016.11.7～11.日本たばこ産業(株)虎ノ門本社ビル社員食堂)，小児外科外来診療指導(2016年4月～12月，千葉県こども病院)，食事・栄養相談(2016年4月～2017年3月，久ヶ原スイミングクラブ)

③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：審議会1件，委員会24件，国家試験委員1件

・国：文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会(食品成分委員会)臨時委員および食品成分委員会主査代理，文部科学省科学技術・学術政策局技術審査専門員，厚生労働省管理栄養士国家試験委員，ISO/TC34 国内審議団体事務局(FAMIC 国際課)ISO/TC34/SC12 国内対策委員

・千葉県：千葉県食育推進県民協議会委員，千葉県人事委員会平成28年度試験問題作成委員，千葉県健康格差検討作業部会委員，平成28年度千葉県調理師試験委員(4名)，千葉県健康福祉部健康づくり支援課千葉県民健康・栄養調査解析検討会メンバー

・市町村：千葉市健康づくり推進協議会委員(食育部会部会長)，市川市教育振興委員会委員，柏市保健衛生審議会特別委員(母子保健専門分科会)委員，墨田区福祉保健部保健計画課災害時食支援ネットワーク検討会メンバー

・団体：日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員，国際事業委員会書面審査員・書面評価員，労災保険情報センター理事

④職能団体委員等

・所属職能団体: 日本栄養士会, 千葉県栄養士会, 千葉県医師会, 千葉県庁医師会.
・委員・役員等: 千葉県栄養士会研究協議会役員, 日本科学技術連盟・官能評価セミナー委員長, 千葉県栄養士会役員選任管理委員長

⑤学会, 学術団体への貢献

・所属学会

栄養学科教員が所属している学会は 84 学会であり, その詳細は以下の通りである.

4 名以上所属(日本栄養改善学会(14 名), 日本栄養・食糧学会(8 名), 日本公衆衛生学会(6 名), 日本体力医学会(4 名), 日本食生活学会(4 名), 千葉県学校保健学会(4 名), 以上 6 学会)

3 名所属(日本生化学会, 日本食品科学工学会, 日本糖尿病学会, 日本食育学会, 日本災害食学会, 日本老年医学会, 日本家政学会, 以上 7 学会)

2 名所属(日本農芸化学会, 日本高血圧学会, 日本健康教育学会, 日本衛生学会, 日本調理科学会, 日本民族衛生学会, 日本生理学会, 日本臨床栄養学会, 日本静脈経腸栄養学会, 日本給食経営管理学会, 日本臨床栄養協会, 日本疫学会, 日本病態栄養学会, 以上 13 学会)

1 名所属(日本社会医学会, 日本社会人文学会, 日本ビタミン学会, 日本食品低温保蔵学会, 日本学校保健学会, 日本家政学会食文化研究部会, 日本口腔衛生学会, 日本きのこ学会, 儀礼文化学会, 和食文化国民会議, 更年期と加齢のヘルスケア学会, 新潟歯学会, 新潟食品技術研究会, 日本内科学会, 日本神経学会, 日本自律神経学会, 日本脳卒中学会, 日本産業衛生学会, 日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本静脈経腸栄養学会, 日本外科代謝栄養学会, 欧州静脈経腸栄養学会(ESPEN), 日本病態生理学会, 日本食物繊維学会, 日本在宅静脈経腸栄養研究会, 日本サルコペニア・フレイル学会, 千葉医学会, 日本心理学会, 日本教育心理学会, 日本人間工学会, 日本教育工学会, 日本発達心理学会, 日本パーソナリティ学会, 日本家庭科教育学会, 日本教師学学会, 日本官能評価学会, 日本脂質栄養学会, 日本解剖学会, 日本咀嚼学会, 日本脂質生化学会, 日本食品衛生学会, 日本畜産学会, 日本酪農科学会, 日本教育学会, 日本教師教育学会, 教育史学会, 日本教育史学会, 日本社会教育学会, 日本成人病(生活習慣病)学会, 日本糖尿病・妊娠学会, DOHaD 研究会, European Association for the Study of Diabetes (EASD; 欧州糖尿病学会), 日本循環器病学会, 日本肥満学会, NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会, The American Physiological Society). 在宅栄養管理学会, 日本病態栄養学会臨床パス学会, 以上 58 学会)

・学会・学術団体への貢献

評議員, 委員会委員長, 委員などとしての学会・学術団体への貢献は 44 件であり, 詳細は下記の通りである.

評議員 日本栄養改善学会評議員(7 名), 日本老年医学会代議員, 日本社会人文学会第 23 回大会委員長, 日本老年医学会査読委員, 日本社会医学会査読委員, 千葉県学校保健学会理事, 千葉県学校保健学会ニューズレター編集長, 日本調理科学会代議員, 日本調理科学会関東支部会役員, 日本調理科学会平成 29 年度大会実行委員会委員, 日本調理科学会『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員(千葉県責任者), 和食文化国民会議調査研究部会幹事, 千葉県学校保健学会第 19 回千葉県学校保健学会実行委員会委員, 日本生理学会評議員, 日本自律神経学会評議員, 日本衛生学会評議員, 日本産業衛生学会代議員, 日本小児外科学会評議員, 日本静脈経腸栄養学会学術評議員, 千葉県 NST ネットワーク世話人, 日本官能評価学会常任理事(企画・編集), 日本官能評価学会査読, 日本官能評価学会学会司会・大会委員・常任編集委員, 日本食品工学会誌査読委員, 日本給食経営管理学会評議員, 日本酪農科学会評議委員, 日本栄養・食糧学会参与, 日本病態栄養学会評議員, 日本糖尿病妊娠学会評議員, 日本栄養改善学会栄養学雑誌編集委員, 日本人間ドック学会人間ドック健診の有用性に関する大規模研究委員会委員, 日本糖尿病・妊娠学会, 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクトワーキングメンバー, 日本栄養改善学会理事候補者選挙管理委員, 日本生理学会 The Journal of Physiological Sciences 査読者, PLOS. PLOS ONE 査読者, 千葉県学校保健学会ニューズレター編集員

⑥講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等: 講演会 8 件, 講師・指導 35 件

・研修会の講師: 72 件 (千葉県内の健康福祉センター, 県市町村, 栄養士会等が主催する健康づくりに関する研修会の講師など)

・研究指導: 新潟大学歯学部大学院生 5 件(1 名学位取得)

⑦対外広報活動(ホームページへの掲載)

文部科学省, 千葉県, 農林水産省, 社団法人日本青果物輸入安全推進協会, 久ヶ原スミングクラブのホームページへの掲載

(3) 歯科衛生学科

①地域におけるボランティア活動等: 8 件

・千葉県内: 5 件

千葉県 36 連絡協議会町内自治会防犯パトロール隊, 自主グループ船橋市中央生活学校への「若さは健口から」健康教育, 障害者の口腔衛生指導(千葉県リハビリテーションセンター更生園), 口腔衛生指導及び口腔ケア(千葉県リハビリテーションセンター病棟), 老人保健施設のボランティア(老人保健施設うらら).

・千葉県外: 2 件

NPO 法人ピース・ビルダーズ事業担当理事, 横須賀市浦上台北町内会町内美化活動.

②地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等): 11 件

歯科診療(2016年4月4日~2017年3月29日, 本学歯科診療室), 千葉県口腔がん検診(2016年7月1日~12月22日, 本学歯科診療室), 診療指導(2009年4月1日~現在に至る, 日本大学松戸歯学部付属病院), 手術指導(2011年4月1日~現在に至る, 総合病院国保旭中央病院), ヘルシーカムカムちば・地域住民への歯科衛生の啓発(2016年5月29日, 千葉そごう), デンタルカップちば・ミニサッカー大会での歯みがき指導(2016年11月27日, 千葉ポートアリーナ), 流山市南部地域包括支援センター体力測定2回(2016年6~7月, 2017年1月, 流山ケアセンター), 中国帰国家族の会体力測定(2017年2月, 高洲コミュニティセンター), 鋸南町地域包括支援センター体力測定と講演(2016年11月, 2017年3月, 鋸南町役場), 介護予防普及啓発事業(2017年1月~2月, 計4回, 八千代市大和田地域包括支援センター), 白井市地域ケア会議(2016年1~3月, 白井市地域包括支援センター).

③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績: 3 件

一般財団法人歯科医療振興財団歯科衛生士試験企画評価委員会委員1名, 同歯科衛生士試験委員会委員2名.

④職能団体委員等: 11 件

日本歯科衛生士会常務理事, 千葉県歯科衛生士育成協議会役員, 同運営委員, 全国歯科衛生士教育協議会理事, 同教育委員会理事, 同教育問題検討委員会委員, 同認定委員会委員, 同法人化検討委員会委員, 全国大学歯科衛生士教育協議会理事, 同教育・研究委員会委員, 平成28年度国公立大学法人等歯科医療従事者養成機関担当者会議担当者.

⑤学会, 学術団体への貢献

・所属学会・学術団体: 総数61 学会(延べ所属学会数118 学会)

日本歯周病学会, 日本カウンセリング学会, 日本健康教育学会, 保健行動科学会, 口腔病学会, 日本口腔衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科保存学会, 日本歯科審美学会, 日本歯科色彩学会, 美容口腔管理学会, 日本接着歯学会, 日本歯内療法学会, 日本アンチエイジング歯科学会, 日本口腔外科学会, 日本口腔内科学会, 北海道歯学会, 明倫短期大学学会, 歯科理工学会, International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, 日本口腔科学会, 日本口腔診断学会, 日本臨床口腔病理学会, 日本臨床細胞診学会, 日本有病者歯科医学会, 日本老年歯科医学会, 日本小児歯科学会, 日本大学口腔科学会, 日本看護技術学会, 日本医療安全学会, 日本公衆衛生学会, 日本顎顔面インプラント学会, 日本医学教育学会, 国際歯科研究学会(IADR), 国際歯科研究学会日本部会(JADR), 日本歯科医療管理学会, 社会歯科学会, 東京歯科大学学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本測定評価学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 大学体育連合, 日本疫学会, American College of Sports Medicine, 日本咀嚼学会, 口腔ケア学会, 抗加齢歯科医学研究会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本障害者歯科学会, ヘルスカウンセリング学会, 日本歯科医学教育学会, 日本生態学会, 日本ベントス学会, 応用生態工学会, 日本教育工学会.

・学会, 学術団体への貢献: 33 件

日本歯科衛生学会学会長, 同学会幹事・編集委員, 同学会顧問, 同学会査読委員, 同学会外部査読委員, 日本歯科衛生教育学会常任理事, 同学会評議員, 同学会教育問題検討委員, 同学会査読委員, 同学会編集委員会事前抄録担当委員, 日本歯科審美学会代議員, 日本歯科色彩学会理事, 美容口腔管理学会幹事, Prevensione & Assistenza Dentale, Editorial board member, 日本大学口腔科学会評議員, 日本口腔科学会評議員, 日本口腔内科学会評議員, 日本口腔外科学会代議員, 日本医療安全学会代議員, 日本医療安全学会広報委員, 口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員, 日本歯科審美学会編集委員会委員, 日本歯科審美学会編集委員会査読委員, 日本歯科衛生教育学会編集委員会査読委員, 美容口腔管理学会「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員, Journal of Oral Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology 査読者, 付着生物学学会英文誌 Sessile Organisms 査読担当, 第16回美容口腔管理学会総会・学術講演会大会長, 第16回美容口腔管理学会・学術講演会特別講演座長, 第7回日本歯科衛生教育学会学術大会ポスター発表座長, 第11回日本歯科衛生学会学術大会編集委員会主催ワークショップコーディネーター, 第7回日本歯科衛生教育学会学術大会教育検討委員会主催ワークショップコーディネーター, 日本口腔外科学会専門医制度に伴う准研修施設実地調査.

⑥講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等: 14 件

千葉県立保健医療大学平成28年度公開講座講師, 千葉県歯科衛生士育成協議会「歯科衛生士の業務および教育についての説明会」講師, 全国歯科衛生教育協議会歯科衛生士専任教員講習会Ⅲ講師, 東京歯科大学大学院講義講師, 千葉県歯科医師会日歯認定歯科助手講習会講師, 千葉県歯科医師会未就業歯科衛生士リカバリーコース講師, アザレア(東京医科歯科大学

同窓会有志)公開講座担当, 千葉市社会福祉協議会社会福祉研修センター講師, 千葉大学大学院修士論文審査員, 千葉市社会福祉協議会千葉市社会福祉セミナー講師, 千葉県栄養士会健康づくり栄養講座講師, 千葉県リハビリテーションセンター更生園施設入所者健康教育講師, 八千代市介護予防普及啓発講演会講師, 八街市介護予防普及啓発講演会講師。

⑦その他:4件

千葉県歯科衛生士育成協議会「歯科衛生士の業務及び教育についての説明会」開催, 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大学連携チーム広報活動, 千葉市保健福祉局地域包括ケア推進課との情報交換会参加, 第12回千葉県立保健医療大学保健福祉部意見交換会「認知症と歯科について」。

(4)リハビリテーション学科理学療法専攻

①地域への保健医療活動(診療・技術指導等,活動期間, 場所等)

- ・施設利用者の理学療法評価とスタッフ教育指導. 平成28年4月～平成29年3月. 三宅島あじさいの里
- ・長生郡長柄町が実施する「いきいきサポーター」養成事業アドバイザー. 2016年6月.長柄町役場.
- ・「ちば市 いきいき体操DVD」監修, 体操指導. 2017年3月. 千葉市総合保健医療センター.

②審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績:

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 評価認定委員会評価委員. 平成28年4月～平成29年3月.2名
- ・労災協力医. 2016年4月～2017年3月.
- ・千葉労災保険診療費審査委員. 2016年4月～2017年3月.
- ・財団法人労災サポートセンター千葉労災特別介護施設. 苦情解決委員会 第三者委員. 2016年4月～2017年3月.
- ・千葉県介護保険関係団体協議会. 幹事. 2016年4月～2017年3月.
- ・千葉県介護予防市町村支援検討会議. 構成員. 2016年4月～2017年3月.
- ・第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 演題査読
- ・「理学療法の科学と研究」論文査読
- ・「脳科学とリハビリテーション」論文編集担当および査読
- ・第22回千葉県理学療法士学会. 演題査読
- ・第22回千葉県理学療法士学会. 一般演題「基礎Ⅰ」座長
- ・第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 教育講演座長
- ・第52回日本理学療法学会 査読委員

③職能団体委員等

- ・千葉県理学療法士会機関誌「理学療法の科学と研究」編集委員長.
- ・第52回日本理学療法学会の副会長就任.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 理事.
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会. 副会長. 公益事業局長.
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会. 代議員.
- ・日本地域理学療法学会 学術集会実施部会 協力員.
- ・千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議. 専門職育成研修委員.
- ・千葉県理学療法士会 理事,
- ・千葉県理学療法士会 定款検討委員会委員長.
- ・日本理学療法士協会 代議員
- ・千葉県理学療法士会. 学術局学術誌編集部.
- ・千葉県理学療法士会. 学術局雑誌編集部. 査読協力員.
- ・千葉県理学療法士会. 事務局総務部. 部長.
- ・千葉県理学療法士学会. 準備委員

④学会, 学術団体への貢献

・所属学会・学術団体: 日本リハビリテーション医学会, 日本理学療法士学会, 日本臨床神経生理学会, 日本電気生理運動学学会, 日本運動療法学会, 世界理学療法士学会, 世界電気生理運動学学会, 日本体力医学会, 全国大学理学療法教育学会, 全国大学肺理学療法研究会, 千葉医学会, 日本整形外科学会, 東日本整形災害外科学会, 関東整形災害外科学会, 日本脊椎脊髄病学会, 日本小児整形外科学会, 日本職業・災害医学会, 日本骨粗鬆症学会, 日本腰痛学会, 日本足の外科学会, 日本抗加齢医学会, 日本運動器科学会, 日本小児股関節研究会, 千葉県ロコモティブシンドローム研究会, 臨床歩行分析研究会, 日本人間工学会, 日本生理人類学会, 理学療法科学学会, バイオメカニズム学会, International Association of Physiological Anthropology, 脳機能とリハビリテーション研究会, 北米神経科学会, 日本神経科学会, 日本臨床神経生理学

会, 日本神経心理学会, 日本神経精神医学会, 日本高次脳機能障害学会, 認知神経科学会, 日本光脳機能イメージング研究会, 日本基礎理学療法学会, コ・メディカル形態機能学会, 日本公衆衛生学会, 日本体力医学会, 臨床スポーツ医学会.

・学会, 学術団体への貢献: 第 51 回日本理学療法学会大会の学会抄録査読委員, 第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会座長, 日本職業・災害医学会 評議員, 日本生理人類学会誌論文 査読, 人間工学 論文査読, 理学療法の科学と研究論文査読, 第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 演題抄録査読, 第 52 回日本理学療法学会大会 演題抄録査読, 第 22 回千葉県理学療法士学会 演題抄録査読, 第 22 回千葉県理学療法士学会 座長 口述発表(フレッシュマン演題 脳血管②), 第 1 回千葉県予防理学療法フォーラム 指定演題座長, 第 22 回千葉県理学療法士学会 一般演題座長, 第 22 回千葉県理学療法士学会 準備委員, 脳機能とリハビリテーション研究会会長, 脳機能とリハビリテーション研究会学術誌「脳科学とリハビリテーション」編集委員, 千葉県理学療法士会 事務局総務部長, 千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」編集委員, 同 査読・編集委員, 第 2 回予防理学療法学会サテライト集会 シンポジウム座長, 関東甲信越ブロック理学療法士学会 査読協力者.

⑤講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等:

・野田市民講演会. 野田市保健福祉部. ロコモティブシンドローム～今日から始めるロコモ予防～ 一般住民. 2016年7月21日. 野田市保健センター.

・県介護予防従事者研修会. 千葉県高齢者福祉課. 認知症予防へ向けた運動～コグニサイズの基礎知識と実践～. 保健医療従事者. 2016年9月15日. 千葉県教育会館.

・いすみ市介護予防ボランティア研修会. いすみ市健康高齢者支援課. 地域普及啓発できる運動指導～コグニサイズの基礎知識と実践～. 一般住民. 2016年10月4日. いすみ市役所.

・県保健医療従事者等研修会. 千葉県健康づくり支援課. ロコモティブシンドローム. 保健医療従事者. 2016年10月20日. 千葉県文化会館.

・千葉市シニアリーダー交流会. 千葉市地域包括ケア推進課. 特別講演 千葉県における介護保険を取りまく課題と「シニアリーダー」活動の意義. 千葉市シニアリーダー. 2016年11月8日. 千葉市総合保健医療センター.

・東金市地域リーダー研修会. 東金市長寿の会連合会. 介護予防の鍵は健康寿命の延伸にあり. 一般住民. 2016年12月5日. 東金市老人福祉センター.

・東金市ロコモティブシンドローム予防講演会. 東金市高齢者支援課. ロコモティブシンドローム～自宅でできる予防体操～. 一般住民. 2016年12月17日. 東金市保健福祉センター.

・日本理学療法士協会 地域包括・介護予防推進リーダー導入研修. 千葉県理学療法士会. 介護予防と理学療法士. 理学療法士. 2017年1月29日. 千葉県立保健医療大学.

・日本理学療法士協会 地域包括・介護予防推進リーダー導入研修. 千葉県理学療法士会. 介護予防と理学療法士. 理学療法士. 2017年3月12日. 千葉県立保健医療大学.

・千葉県理学療法士会 生涯学習研修会Ⅰ. 学会で失敗しないための症例研究, 症例報告のススメ. 千葉県理学療法士会員. 2016年9月, 千葉

・Total Approach 研究会研修会. 脳画像を臨床で生かすにはどうすればいいのか?. 医療職種. 2016年10月, 東京

・千葉県理学療法士会 生涯学習研修会. 投稿論文で失敗しないための症例研究, 症例報告のススメ. 千葉県理学療法士会員. 2016年12月, 千葉

・千葉県理学療法士会 新人教育プログラム講習会. 生涯学習と理学療法の専門領域. 千葉県理学療法士会員. 2017年1月, 千葉

・第 20 回脳機能とリハビリテーション研究会定例勉強会 特別講演. 症例報告の再考ー症例報告の意義とその方法ー. 医療職種. 2017年2月, 東京

・Total Approach 研究会研修会. 脳科学からみた高次脳機能障害と臨床応用. 医療職種. 2017年3月, 東京

(5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

①地域におけるボランティア活動等: 千葉県内: 認知症の人と家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動, 千葉県 MSW 協会がん部会勉強会講師・車いすラグビー公開交流会, 車いすラグビー体験. 第 40 回千葉県病院対抗バレーボール大会の運営

千葉県外: 長野県厚生連作業療法研究会講師, 青森県作業療法学会基調講演(がん患者に対する作業療法)・第 135 回広島大学保健学集談会

海外: Scientific meeting of the European Association for Palliative Care in Ireland.

②地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

国立がん研究センター東病院(認定看護師教育コース)講師, がんカフェの主催(千葉市), 大田区西六郷小学校 特別支援学級医療専門相談, 足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師, 練馬区障害児保育巡回指導, 船橋市感覚統合入門講座講師
③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績: 言語聴覚士国家試験委員(財団法人医療研修推進財団, 言語聴覚士試験委員, 平成 28 年度), 作業療法士国家試験模範解答作成委員, 市川市障害支援区分認定審査会審査委員, 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員, 練馬区立こども発達支援センター通所訓練事業等業務委託事業者選定委員会委員, 千葉県作業療法士会 現職者研修会「実践のための作業療法研究」講師

④職能団体委員等

・日本作業療法士中央ブロック担当理事, 日本作業療法士協会制度対策部部員, 日本作業療法士学術部部員, 日本作業療法士学会学術部発達障害委員会委員, 日本作業療法士学会演題査読委員, 日本作業療法士学会事務局長, 日本作業療法士協会教育部部員(養成教育委員会), 日本作業療法士協会千葉県生活行為向上マネジメント推進委員, 千葉県作業療法士会 MTDLP 担当理事, 千葉県作業療法誌査読者, 千葉県作業療法士会災害対策委員, 千葉県 POS 連盟災害対策委員会委員, 千葉県作業療法士会ブロック活動部部長, 千葉県作業療法士会機関紙「作業療法」査読委員, 千葉県作業療法士会アドバイザー

⑤学会, 学術団体への貢献

・所属学会・団体: 日本作業療法士協会, 千葉県作業療法士会, 日本公衆衛生学会, 日本衛生学会, 日本神経学会, 日本高次脳機能障害学会, 日本神経心理学学会, 日本認知症学会, 日本リハビリテーション医学会, 日本癌学会, 日本癌治療学会, 日本がんサポーターケア学会, 日本緩和医療学会, 日本臨床死生学会, 日本サイコオンコロジー学会, 日本死の臨床研究会, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 日本在宅ホスピス協会, 多施設緩和ケア研究会, ロコモケア研究会, コクラン日本支部正会員, APHN (Asia Pacific Hospice Network), EAPC (European Association for Palliative Care), UICC (Union Internationalis Contra Cancrum: International Union against Cancer), 日本義肢装具学会, 脳機能とリハビリテーション研究会, 日本作業療法研究学会, 日本臨床生理学会, 日本生理人類学会, 日本人間工学会, 日本臨床神経生理学会, 日本シーティング・コンサルタント協会, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本老年医学会, 日本老年精神医学会, 自動車技術会, 日本リハビリテーション工学協会, 運転と認知機能研究会, 運転と作業療法研究会, JDD ネットワーク多職種連携委員会, 日本安全運転・医療研究会, 日本交通心理学学会, 日本認知心理学学会,

・学会, 学術団体への貢献: 一般社団法人作業療法士会学術部査読委員, 一般社団法人作業療法士会学

会委員会演題査読委員, 千葉県立保健医療大学, 紀要査読員, 日本神経心理学学会理事, 日本高次脳機能障害学会評議員, 日本神経学会査読委員, 第 40 回日本高次脳障害学会学術総会プログラム委員, 一般演題座長, 第 40 回日本神経心理学学会総会プログラム委員, 日本癌治療学会代議員, 日本緩和医療学会理事, 国際交流委員会委員長, 日本がんサポーターケア学会骨転移と骨の健康部会副部会長, 日本感覚統合学会効果研究委員, JDD ネットワーク第 12 回年次大会実行委員, 日本発達系作業療法学会理事, 日本作業療法研究学会理事, 日本作業療法研究学会, 第 10 回日本作業療法研究学会学術大会理事, 日本作業療法士協会事例報告登録制度審査委員, 日本作業療法士協会学術誌「作業療法」編集協力(論文査読), 千葉県作業療法士会学術誌査読委員, 日本作業療法士協会涯教育制度推進委員, 脳機能とリハビリテーション研究会学術大会運営委員, 第 51 回日本作業療法学会演題査読委員, 第 18 回千葉県作業療法学会学術大会運営スタッフ, 千葉県 POS 連盟災害対策研修会運営スタッフ, 長寿・障害総合研究事業障害者対策総合研究開発事業 NIF 後期プロジェクトチームスタッフ, 運転と認知機能研究会事務局長, 運転と作業療法研究会代表, 日本安全運転・医療研究会幹事

⑥講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等: さとり会(作業を取り扱う勉強会), 「認知能力障害モデルで用いられるアレンの認知(Allen Cognitive Level)」, 医療安全研修会, 独立行政法人国立病院機構千葉東病院行動障害と転倒の関係や日中の係り方について, 一般社団法人作業療法士会医療職・現職共通研修会, 作業療法士を対象に「事例報告・事例検討」, 千葉大学医学部附属病院在宅医療インテンシブコース, 足立区教育委員会発達障がい等の子どもたちへの指導方法について, 千葉県作業療法士会現職者研修会「実践のための作業療法研究」, 千葉県立保健医療大学平成 28 年度公開講座, 生活にいかすリラクゼーション, 千葉県がんのリハビリテーション研修会, 千葉県作業療法士会平成 28 年度第 3 回現職者共通研修, 千葉県作業療法士会平成 28 年度第 1 回現職者共通研修, 千葉県作業療法士会生活行為向上マネジメント事例検討会, 千葉県作業療法士会地域ケア会議に資する OT 人材育成研修会, 千葉県作業療法士会現職者選択研修, 千葉県作業療法士会生活行為向上マネジメント事例検討会, 千葉地域リハビリテーション地域広域センターケアマネ研修会, 千葉県作業療法士会千葉県ブロック・リーダー研修会

4)地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており, 歯科衛生学科の教員(歯科医師・歯科衛生士)と嘱託歯科衛生士等が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している。近隣はもとより, 県内外からの患者を広く受け入れており, 平成 28 年度の延患者数は 3,029 名であった。また, 「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に 17

件の個別検診を行い、口腔がんの発見に寄与した。国立がん研究センターならびに千葉県がんセンター等の協力医として登録されており、周術期口腔機能管理に貢献した。当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算、歯科治療総合医療管理加算等の施設基準を満たし、患者にとって安心な歯科医療環境の提供、厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている。歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生の専門資格取得状況は、(公社)日本口腔外科学会口腔外科専門医 1 名、(公社)日本口腔外科学会口腔外科指導医 1 名、がん患者歯科医療連携登録医 1 名、日本糖尿病協会歯科医師登録医 1 名、日本歯科保存学会歯科保存治療専門医 1 名、日本歯科色彩学会認定医 1 名、日本歯科審美学会認定医 1 名、美容口腔管理学会指導医(Diplomate)1 名、日本アンチエイジング歯科学会認定ホワイトニングエキスパート 1 名、国際医療リスクマネジメント学会認定臨床コミュニケーター(上級) 1 名、日本口腔衛生学会認定医 1 名、日本歯周病学会認定歯科衛生士 2 名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(摂食・嚥下リハビリテーション)1 名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士(在宅療養指導・口腔保健管理) 2 名、日本咀嚼学会健康咀嚼指導士 2 名となっている。

5)国際交流の推進状況:

平成 27 年度 3 月の運営会議で国際交流検討会から国際交流ワーキンググループに格上げされ、平成 28 年度 4 月より、三和 真人・教授(学部長)渡辺 尚子・教授(看護学科)、東本 恭幸・教授(栄養学科)、荒川 真・准教授(歯科衛生学科)、大谷 拓哉・講師(理学療法専攻)、佐藤 大介・講師(作業療法専攻)、神田 みなみ・教授(共通教育運営会議)、石川 高弘・事務局長、田邊 政裕学長の 9 名で国際交流事業を展開することとなった。当面の目標として、1 点目は Inje University(韓国)と Memorandum of Understanding(MOU)を提携することとし、Wisconsin 州の Waukesha County Technical College(WCTC)や、平成 28 年 1 月 27 日に薬学部長の Uvidelio 博士をはじめ 4 名の教員が来学した Concordia University of Wisconsin(CUW)と MOU を結ぶように大学はじめ、千葉県との調整をすることを考えてきた。

同年 8 月 23 日(火)Inje University の Byoung-Doo Rhee 副学長をはじめ、Jina-Oh 看護学科長、Gap-Soon Moon 栄養学科長、Duk-Hyun An 理学療法学科長の 4 名に、通訳の Hayoung Lee さんが来学され、事務棟 2F 小会議室で、田邊学長と Rhee 副学長のそれぞれの代表挨拶からはじまり、無事 MOU を提携することができた。本学にとって、大きなテーマの 1 つであった国際交流が一步前進したことは歓ばしいことである。

一方、Wisconsin 州の 2 つの大学と田邊学長はじめ、歯科衛生学科の荒川先生(WCTC に歯科衛生学科がある)に労を執ってもらい、何度か交流のはたらき掛けを行ってきたが、良好な回答が得られなかった。その間、千葉大に関係したミャンマー大 学長、千葉・ウィスコンシン州協会の交流事業で看護大学教員 1 名と一般教養教員 1 名、千葉県に研修に訪れていたコソボ共和国行政職員 1 名がそれぞれ来学しており、大学の交流事業が盛んになる傾向がみられた。

今後、更なる国際交流事業を展開するべく、各学科または各教員で各自に国際交流を進めて頂き、大学の理念に合致することが重要である。

4. 評価(成果および改善すべき事項)

1) 公開講座の企画・運営については、おおむね満足の結果が得られた。

2) H28 年度重点施策

「健康づくり・疾病予防」に関する情報交換を、県の健康福祉部との「意見交換会」で実施した。卒業教育について、各学科・専攻の現状を調査した。本学が主催する卒業教育・生涯教育の必要性や内容について各学科・専攻の意見を聞いた結果、実施する方向で検討することになった。

3) 各学科・専攻の取り組みはおおむね満足の結果であった。

4) 国際交流について

平成 28 年度は Inje University との MOU のみに止まったが、本命でもある Wisconsin 州の CUW(看護学科とリハビリテーション学科のみ)と WCTC(歯科衛生)の MOU を進めて行きたい。また、ミャンマーの大学も含めた様々な大学と交流をすすめ、本学にとって何が必要か吟味して、大学間の交流・提携を進めていく。

5. 次年度の方策

1) 公開講座の内容を充実させ、円滑な運営をはかる。

2) 健康福祉部との意見交換会を定例化し、年 2 回実施する。本学主催の卒業研修・生涯教育について、各学科・専攻ごとに具体的な方法を立案する。全学科横断的な「学術集会」の開催についても検討する。

3) 各学科・専攻ごとに、さらなる充実をはかる。

4) 国際交流について

本丸でもある Wisconsin 州の CUW(看護学科とリハビリテーション学科のみ)と WCTC(歯科衛生)の MOU を進めて行きたい。また、ミャンマーの大学も含めた様々な大学と交流をすすめ、本学にとって何が必要か吟味して、大学間の交流・提携を進め

ていく。Wisconsin 州の中で規模が最も大きく、質の高い Madison of Wisconsin University (MUW) と交流を進めたいと考える。確かにハードルは高いが、University of Colorado との提携を経験したことから、MUW 可能性はゼロではない。

VIII 教育研究等環境

1. 年度当初の重点課題(H28 年度重点施策を記載)

教育の充実と成績評価の厳格化を図る目的で、入学試験の諸課題(推薦、社会人特別選抜、編入学)と、一般入試の志願者数減少の検証見直しを行った。また平成 29 年度からディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの公開が義務づけられていることから、主にディプロマポリシーを中心に検証と見直しを大学教職員全体で実施した。特に、教務委員会下でワーキング・グループを設け、9 月にディプロマポリシーを達成するためのコンピテンス、コンピテンシーを作成した。また、カリキュラムポリシーに関連した 4 学年一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム、アウトカム基盤型教育)の観点を導入の検討をはじめた。教員の理解(Faculty Development: FD)、事務職との連携(Staff development: SD)、学生の大学への理解(Guidance)の 3 点を中心に検討を行うこととした。

前記から、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえて、アドミッションポリシーの検証を入試委員会と共に検証することとし、本年度中に 3 つのポリシーを作成できた。しかしながら、それぞれに未解決な箇所もあり、継続して見直しをしていくこととした。

その他として、本年度の重点課題に挙げた GPA (Grade Point Average) の成績評価の確立、千葉大学との IPE (Interprofession Education) 連携体制の構築を特色科目委員会、教務委員会、共通教育運営会議を中心に検討していくことが課題として残っている。

2. 施設・設備の整備状況

本学の校地面積及び校舎面積は、二つのキャンパス(幕張・仁戸名)で、それぞれ校地面積 58,256 m²、校舎面積 16,596 m²となっている。平成 27 年 4 月から千葉県庁生協の協力を得て、学生ホール棟に売店を開設した。同時に仁戸名の弁当販売も予約販売が開始できた。

また、平成 28 年度にはトイレの洋式化工事を行った。なお、教育備品については総務・企画委員会で予算要求に向け大学全体としての優先順位を決めるなどの検討を始めたところである。

3. 図書館の状況

1)利用者数(のべ入館者数)

幕張 74,313 人

仁戸名 11,135 人

2)資料収集

(1)蔵書数

幕張 図書 71,309 冊 雑誌 1,349 タイトル

仁戸名 図書 28,387 冊 雑誌 759 タイトル

(2)視聴覚資料数

幕張 CD 17 点 DVD 377 点 スライド 7 点

仁戸名 CD 8 点 DVD 220 点

3)開館時間および開館日数

開館時間

【授業期間中開館時間】(幕張)月・金曜日 8:45～21:00,火～木曜日 8:45～20:00,土曜日 9:00～17:00

(仁戸名)月・金曜日 9:15～21:00,火～木曜日 9:15～20:00,土曜日 9:00～17:00

【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも)月～金曜日:9:00～17:00(但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

開館日数(年間延べ数)

幕張 255 日 仁戸名 275 日

4)利用状況

貸出冊数 幕張 8,484 冊 仁戸名 2,987 冊

参考業務件数 幕張 2,643 件 仁戸名 92 件

複写 幕張 1,113 件 11,229 枚 仁戸名 247 件 3,600 枚

5)施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

- 図書館ガイダンスの実施(計 11 回)
- 文献検索ガイダンスの実施(計 6 回)
- 文献検索セミナーの実施(計 4 回開催, 参加者のべ人数 99 名)
- FD 文献検索セミナーの実施(計 2 回開催, 参加者のべ人数 54 名)
- 図書館だより「ぼ〜れぼ〜れ」の発行 4 月(新学年ガイダンス時),11 月(システム変更時) 計 2 回
- 延滞に伴う貸出停止の導入によるシステム変更(10 月 17 日〜)

4. 研究倫理を遵守するための措置

臨床研究倫理教育の導入を検討し,平成 26 年度から CITI Japan (国立大学主導のプロジェクト)の導入をしたが,本年度 CITI Japan が一般財団法人公正研究推進協会“aprin”へ移行されることとなり,平成 29 年度以降に継続するか検討することになった。

5. 評価(成果および改善すべき事項)

平成 29 年度からディプロマポリシー,カリキュラムポリシー,アドミッションポリシーの公開が義務づけられていることから,主にディプロマポリシーを中心に検証と見直しを大学教職員全体で実施し,完成した。特に,教務委員会下でワーキング・グループを設け,9 月にディプロマポリシーを達成するためのコンピテンス,コンピテンシーを作成した。しかしながら,日々教育は変化していくことから,ディプロマポリシーをはじめ,カリキュラムポリシー,アドミッションポリシーの見直しを継続していく。特に教育に関連したコンピテンス,コンピテンシーは継続的に見直ししていくこととなった。

6. 次年度の方策

評価(成果および改善すべき事項)の継続した見直しと検討は欠かせないことは勿論,本年度から新々カリキュラムの編成を踏まえたカリキュラムポリシーの継続検討,アドミッションポリシーの入試委員会と共に早期に検討し,修正していく。また,本年度の重点課題に挙げた GPA の成績評価の確立,千葉大学との IPE 連携体制の構築を特色科目委員会,教務委員会,共通教育運営会議を中心に検討・見直ししていくべき課題である。

IX 研究活動報告

1.看護学科

- (1) 著書:共著 21 件,編集 2 件,その他 2 件,総数 25 件の著書があった。
- (2) 学術論文:英文原著 3 件,和文原著 33 件,その他 10 件,総数 46 件の発表があった。
- (3) 発表:国際学会 24 件,全国学会 94 件,地方学会 1 件,その他 7 件,総数 126 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等:該当なし。
- (5) 研究資金獲得状況:外部資金として受託した研究が 76 件(内科研費 69 件)であった。学内共同は 8 件,学長裁量は 2 件であった。
- (6) 賞・特許:学術論文優秀賞 1 件,学術集会優秀ポスター賞 1 件,総計 2 件であった。

2.栄養学科

- (1) 著書:共著 13 件,編集 2 件,その他 6 件,総数 21 件の著書があった。
- (2) 学術論文:英文原著 5 件,和文原著 25 件,その他 5 件,総数 35 件の発表があった。
- (3) 発表:国際学会 5 件,全国学会 50 件,地方学会 13 件,研修・講習会 72 件,総数 148 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等:招待講演 10 件,シンポジウム 2 件,総数 12 件であった。
第 63 回日本栄養改善学会教育講演(2016 年青森),2016 International Conference of the Korean Nutrition Society, Session 1. Functional Food Food composition table in Japan(2016 年 Jeonju-si Korea), 第 69 回日本自律神経学会総会シンポジウム(2016 年熊本)などである。
- (5) 研究資金獲得状況:外部資金として受託した研究が 6 件(うち科研費 3 件),学内共同は 11 件,学長裁量は 4 件であった。
- (6) 賞・特許:0 件。

3.歯科衛生学科

- (1) 著書:共著 4 件,総数 4 件。
- (2) 学術論文:英文原著 6 件,和文原著 10 件,その他 14 件,総数 30 件。

- (3) 発表:国際学会 6 件, 全国学会 16 件, 研修・講習会 15 件, その他 3 件, 総数 40 件.
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等:シンポジウム 2 件, 総数 2 件.
- (5) 研究資金獲得状況:外部資金として受託した研究 5 件(うち科研費 5 件). 学内共同研究 7 件, 学長裁量研究 1 件, 総数 13 件.
- (6) 賞・特許:該当なし.

4. リハビリテーション学科理学療法学専攻

- (1) 著書:共著 10 件.
- (2) 学術論文:英文原著 2 件, 和文原著 3 件, その他 4 件, 総数 9 件.
- (3) 発表:国際学会 1 件, 全国学会 17 件, 地方学会 1 件, 総数 19 件.
- (5) 研究資金獲得状況:外部資金として受託した研究が 1 件(内科科研費 1 件). 学内共同は 2 件.
- (6) 賞・特許:千葉県理学療法士会永年勤続賞受賞 1 件.

5. リハビリテーション学科作業療法学専攻

- (1) 著書:共著 9 件の著書があった.
- (2) 学術論文:和文原著 4 件, その他 14 件, 総数 18 件の発表があった.
- (3) 発表:国際学会 1 件, 全国学会 16 件, 地方学会 4 件, 総数 21 件の発表があった.
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等:
 - ・第 21 回日本緩和医療学会招請講演, 第 21 回日本緩和医療学会国際交流セッション, 第 49 回日本整形外科学会/骨・軟部腫瘍学術集会, 第 16 回日本在宅ホスピス協会全国大会 in 大崎, 在宅リハビリテーションセッション, 第 45 回多施設緩和ケア研究会, 第 40 回日本死の臨床研究会年次大会での教育講演, 日本作業療法士協会作業療法重点課題研修学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会, 千葉県作業療法士会第 2 回もやっと会, 千葉県作業療法士会第 18 回千葉県作業療法学会, 第 36 回近畿作業療法学会認知機能と運動適性～作業療法の視点から～(教育講演), 日本安全運転・医療研究会第 1 回運転に関する合同研究会シンポジウム, 日本安全運転・医療研究会第 1 回運転に関する合同研究会(教育講演), 第 16 回富山県作業療法学会自動車運転とリハビリテーション～ 地域での安全な交通社会の実現に向けて～(50 周年記念市民公開講座)
- (5) 研究資金獲得状況:外部資金として受託した研究が 2 件(内科科研費 2 件)であった. 学内共同は 2 件であった.

X 内部質保証のための取り組み

1. 年度当初の課題

平成 27 年に受審した大学基準協会による機関別認証評価において以下のような改善勧告を受けた. 内部質保証体制の確立が本学における喫緊の課題である.

改善勧告:内部質保証の中心的な役割を担う自己点検・評価委員会と 2 つの部会の連携・役割分担, また「大学運営会議」等の他の組織との役割分担が明確ではなく, 責任主体と実態に乖離がみられるなど, 内部質保証システムが十分に構築されていない. また, 全学的な自己点検・評価も今回の大学評価を申請するまで実施しておらず, 諸活動の定期的な検証も不十分なので, 大学として責任ある内部質保証を実現するよう, 是正されたい.

2. 評価(成果及び改善すべき事項)

認証評価において指摘された努力課題, 改善勧告を解決するために平成28年度重点施策を以下の如く作成した. カッコ内は担当責任者. 内部質保証体制を確立するための取り組みは管理・運営の5, 7が該当する.

平成28年度重点施策

教育(日下)

- 1. 国家試験の高い合格率(100%)を維持すべく教育の充実と成績評価の厳格化(教務委員会)
 - 2. 入学試験の諸課題(推薦入学, 社会人特別選抜, 編入学(看護学科:比率 0.60 と低い), 一般入試における志願者数減, 後期入試導入等)を検証, 見直し(当該学科, 入試委員会, 教務委員会) →入試改革WG(土橋)
 - 3. 本学の使命を踏まえて, ディプロマ・ポリシーを検証, 見直し(教務委員会, 総務企画委員会)
 - 4. ディプロマ・ポリシーに到達するコンピテンス, コンピテンシーを作成し, それを達成する 4 年間一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム, アウトカム基盤型教育:OBE)の構築(教務委員会)
- (1) FD(教員の理解)

- (2) 事務職との連携(SD)
- (3) 学生の理解を深める(ガイダンス等)
- 5. 4年間一貫教育カリキュラム(らせん型カリキュラム)の観点からカリキュラム・ポリシーを検証, 見直す(教務委員会)
- 6. ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシーを踏まえてアドミッション・ポリシーを検証(入試委員会, 教務委員会)
- 7. GPAの成績評価を確立し, 各学科, 専攻における学生評価に利用(教務委員会)
- 8. 千葉大学とのIPE連携体制を構築(特色科目委員会, 教務委員会, 共通教育運営会議)
- 9. eラーニングシステム(掲示等学生への情報周知を含む Moodle等のLMS, eポートフォリオ, web-based testing等)の導入を検討(教務委員会, ネットワーク委員会)
- 10. 海外との学生交流に対応できる英語力を習得できる英語教育(具体的な到達目標に設定等)の充実(教務委員会, 共通教育運営会議)
- 11. 教育ワークショップを定期的に行う(FD委員会, 教務委員会)
- 12. 言語聴覚士取得コース(選択科目)導入の検討(歯科衛生学科, リハビリテーション学科, 教務委員会)

学生支援(佐藤(ま))

- 1. 同窓会・校友会設立へ向けての前身校OB・OG, 本校卒業生との意見交換(学生部長, 学部長, 学長, 学生委員会, 進路支援委員会)
 - (1) OBOGの教育への協力依頼(臨床教授など)
 - (2) 千葉県立衛生短期大学, 千葉県立医療技術大学校についての情報をHPに載せる(沿革)とともに同窓会を繋げる
- 2. 学生と学長, 学部長, 学生部長との懇談会を定期的に行う(学生部長, 学部長, 学長, 学生委員会)

研究(大川)

- 1. 他学科(学内), 他大学, 地域の病院, 診療所, 保健・医療・介護施設, 企業等との協働による介入研究により地域包括ケアに資する新たなエビデンスを創出あるいはエビデンスの確認(学術推進企画委員会, 社会貢献委員会, 研究等倫理委員会)
- 2. イノベーションに繋がるオンリー・ワンの研究を企画・推進する(学術推進企画委員会, 研究等倫理委員会)

社会貢献(雄賀多)

- 1. 健康づくり・病気予防への提案(県・地域の施策の点検・評価, 見直し, 提案)(社会貢献委員会, 学科・専攻)
- 2. 健康福祉部・保健医療大学との意見交換を協定化(テーマを決めて検討・討議)(社会貢献委員会, FD委員会, 学術推進企画委員会)
- 3. 卒業生の初任者・卒後研修を雇用者と協働で企画, 実施(地方創成)(社会貢献委員会, FD委員会)
- 4. 専門職を対象とした生涯教育の企画, 実施(社会貢献委員会, FD委員会)

国際化(三和)

- 1. WCTC, CUW, インジェ大学との交流協定締結へ向けての協議(国際交流検討部会, 教務委員会, 将来構想検討委員会, 総務企画委員会)
- 2. その他海外大学との交流関係構築へ向けての活動(国際交流検討部会, 教務委員会, 将来構想検討委員会, 総務企画委員会)
- 3. 千葉県との連携で海外保健・医療支援・グローバル・ヘルス(教育, 実践)を検討(国際交流検討部会, 教務委員会, 共通教育運営会議, 特色科目委員会, 将来構想検討委員会)

管理・運営(三和)

- 1. 企画事務部門の設置, 仁戸名キャンパスへの正規職員の配置, 臨地教育に携わる学外医療機関等の優れた保健医療専門職に対する称号付与(総務企画委員会, 将来構想検討委員会)
- 2. 学生(入学時, 在学中, 卒業時, 卒業後)からの情報, 意見, 評価を定期的に収集・分析し(IR, 重要指標のダッシュボード化), 教育・学生支援を継続的に改善していく体制の構築(評価実施推進部会, 学生委員会, 総務企画委員会, 自己点検・評価委員会, 将来構想検討委員会)
- 3. ホームページの刷新による情報公開と担当部署の明確化(ネットワーク委員会, 総務企画委員会, 将来構想検討委員会)
- 4. 施設・設備の新設・更新(教育研究等環境の整備プランをキャンパスプランとして定め, 実施と検証する体制を整備する)(総務企画委員会, 自己点検評価委員会, 将来構想検討委員会)

5. 業務の責任主体の明確化(重要事項に関する組織的な審議・決定プロセスの明確化, 自己点検・評価委員会と二つの部会との連携・役割分担, 運営会議等との役割分担が不明確, 責任主体と実体との乖離)(総務企画委員会, 自己点検評価委員会, 将来構想検討委員会)
6. 予算請求, 予算編成後の配分に関し, 大学全体としての組織的な審議・決定プロセスの構築(総務企画委員会, 将来構想検討委員会)
7. 全学的な自己点検・評価と諸活動の定期的な検証を実施する体制の構築(総務企画委員会, 自己点検評価委員会, 将来構想検討委員会)
8. 本学の理念・目的, 教育内容・方法の方針を定期的に検証・改善する体制の構築(自己点検評価委員会, 将来構想検討委員会)
9. 教員組織を定期的に検証し, 大学の方針に沿って適正化させる(人事計画を含む)体制の構築(教員資格審査委員会(選考規程の見直し, あり方, 配置計画, 将来構想を含む), 将来構想検討委員会)
10. 事務職員の業務に見合った組織改編・能力向上(SD 研修)と増員(企画部門)要求(総務企画委員会, 将来構想検討委員会)
11. 教職員の能力業績評価の導入(総務企画委員会, 教員資格審査委員会, 事務局)
12. 学校教育法の改正による大学運営におけるガバナンス改革(学長のリーダーシップの確立等)を促進するため学内規則の総点検と見直し(総務企画委員会, 自己点検評価委員会, 将来構想検討委員会)
13. 運営懇談会を開催し大学の運営に関する意見を聞き, 管理・運営に関する諸問題の解決に資する

3. 次年度の方策

- ・ 上記重点施策の達成状況を中間期, 年度末に自己点検・評価実施推進部会が中心となって検証し, その結果を基に PDCA サイクルを稼働させて内部質保証・改善の体制を確立する
- ・ 達成状況をアニュアル・レポートとしてまとめ, HP 等公表する(アニュアル・レポートの累積が平成 31 年度 7 月末までに提出する改善報告書となる)
- ・ 平成 28 年度に設立された IR 専門部会の活動により教学データを集計・解析し, 評価に必要な情報を共有できるようにする

第2部

教員の教育研究活動記録

学長

学長 田邊 政裕 博士 (医学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、本学における教育、研究、管理・運営、社会貢献等の現状を把握し、教職員との協働によりその改善・向上を図ると共にアウトカム基盤型教育の普及に努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・管理栄養士導入教育。

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田邊政裕, 朝比奈真由美 (2016) アウトカム基盤型教育—その系譜と実践, 医学教育の現在—現状と課題 医学のあゆみ 257 (4) : 323-329, 2016.
- ・田邊政裕, 朝比奈真由美 (2016) アウトカム基盤型教育—その系譜と実践 医学教育の現在—卒前から専門医教育まで 別冊・医学のあゆみ 医歯薬出版 (株) 東京 86-92, 2016.
- ・田邊政裕, 吉田直美, 大谷拓哉 (2016) 2015 千葉ウイスコンシン協会友好使節団報告 千葉県立保健医療大学紀要 第 7 巻第 1 号 : 87-91, 2016.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・田邊政裕, 朝比奈真由美, 伊藤彰一, 山内かづ代, Daniel Salcedo, 伊丹謙太郎 アウトカム基盤型教育の実際 第 48 回日本医学教育学会大会, 高槻, 7/29, 30 2016.
- ・Tanabe M, Asahina M, Ito S, Yamauchi K, Salcedo D, Itami K Sequential spiral curricular design in outcome-based education First World Summit on Competency-Based Education, Centre de Convencions Internacional de Barcelona, Barcelona, Spain 8/27-28 2016.

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・田邊政裕 共用試験 OSCE10 年を考える - 昨日・今日・明日 -, シンポジウム 8 第 48 回日本医学教育学会総会, 高槻, 7/29,30, 2016.
- ・田邊政裕 アウトカム基盤型教育の実際, シンポジウム 14 医学教育のグローバルスタンダードにおける大学の独自性 第 48 回日本医学教育学会総会, 高槻, 7/29,30, 2016.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・GP 医学教育分野別評価, 筑波大学医学群医学類, 評価委員, 2016 年 9 月 12-16 日, 東京医科大学.
- ・全国医学部長病院長会議 地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会委員 2015 年 12 月 25 日～.
- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会 委員 2014 年 9 月 1 日～.
- ・日本医学教育認証評価機構 委員 2014 年 4 月 1 日～.
- ・大学改革支援学位授与機構 評価委員 2016 年 4 月 1 日～.
- ・公益財団法人医学教育振興財団 評議員 2016 年 6 月 15 日～.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ 社団福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2015年4月1日～.
- ・ 健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2015年4月1日～.
- ・ NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク 常任理事 2008年2月12日～.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本医学教育学会, 日本VR医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 日本医学教育学会 名誉会員 2016年7月～.
- ・ 日本小児外科学会 名誉会員 2015年5月～.
- ・ 日本VR医学会 監事.

6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・ 田邊政裕 アウトカム基盤型教育の理論と実践—Why, What, How— 福岡大学医学教育ワークショップ 6/1/2016.
- ・ 田邊政裕 アウトカム基盤型カリキュラムの構築 OBEカリキュラム作成ワークショップ(コンサルタント) 川崎医科大学 9/3, 4/2016.
- ・ 田邊政裕 臨床研修に必要なコンピテンシー 第19回VHJ機構指導医養成講座(コンサルタント) 手稲溪仁会病院 9/22～24/2016.
- ・ 田邊政裕 アウトカム基盤型カリキュラムの構築 第14回新潟大学医学教育ワークショップ(タスクフォース) 新潟大学医学部 12/17/2016.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 自己点検・評価委員会, キャンパス・ハラスメント防止対策委員会, 将来構想検討委員会, 入試委員会, 教員再任審査委員会, 衛生委員会, 防災対策委員会.
- ・ FD(アウトカム基盤型カリキュラムの作成 講師) 2016年9月27日.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

- ・ AC及び認証評価(大学基準協会)で指摘された課題を踏まえて作成された改善策(平成28年度重点政策)は一部達成できたが, 多くは未達成であった.
- ・ アウトカム基盤型教育を導入するためワークショップを開催し, コンピテンス, コンピテンシーを作成した.

VII 次年度の目標

- ・ 平成29年度重点政策を教職員との協働により達成する.
- ・ アウトカム基盤型教育の導入に向けてワークショップを開催する.

看護学科

教授 石井 邦子 博士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、特に、教育活動では、学生の到達度評価を随行いながら、教授方法を改善するとともに、次期カリキュラム改正に向けた課題を追求する。研究活動では、研究代表者である科研費助成課題の最終年度となるため、確実に研究成果をまとめ、公表する。大学管理運営では、看護学科長として大学および学科内運営に積極的に参画し成果を上げる。社会貢献では、引き続き千葉県看護協会や文部科学省大学設置認可に関する役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・育成支援看護概論.
- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎).
- ・助産診断・技術学Ⅱ(ライフサイクル各期).
- ・助産診断・技術学Ⅲ(分娩期).
- ・助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク分娩).
- ・助産学実習Ⅰ(産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ(継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ(分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・看護研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・特定行為実践特論 (放送大学大学院).

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・森恵美, 高橋真理, 工藤美子, 堤治, 石井邦子, 島袋香子, 上別府圭子, 岩田裕子: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学 母性看護学① 第13版第2刷, 第2章 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状, 2017, 医学書院.
- ・森恵美, 鈴木俊治, 大月恵理子, 石井邦子, 中村康香, 前原邦江: 助産師基礎教育テキスト (2017年版) 第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章妊娠経過に対応したケア, 第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア, 2017, 日本看護協会出版会.
- ・横尾京子, 石井邦子, 川城由紀子, 他: 助産学講座第5版8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期, 2017, 医学書院.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大滝千智，石井邦子，日下和代，麻生智子，岡田忍：更年期女性における口腔の健康とQOLおよび口腔保健行動に関連した要因，千葉県立保健医療大学紀要，第8巻，第1号，19-25，2017.
- ・川城由紀子，宮宗秀伸，石井邦子，松野義晴：中高年女性における酸化ストレスの関連要因の検討，千葉県立保健医療大学紀要，8巻，1号，53-59，2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・北川良子，大滝千智，林ひろみ，川村紀子，石井邦子：臨地実習指導者が捉える男子学生に対する母性看護学実習の実際，第18回日本母性看護学会学術集会，2016年6月.
- ・林ひろみ，鈴木幸子，石井邦子，大井けい子，北川良子，山本英子，森美紀，岡津愛子：改良版模擬産婦養成プログラムの評価—試行版と改良版の参加者評価の比較—，第18回日本母性看護学会学術集会，2016年6月.
- ・川城由紀子，大滝千智，石井邦子，鳥田美紀代，竹内久美子，川村紀子：介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職に対する期待，第22回千葉看護学会学術集会，2016年9月.
- ・大滝千智，川城由紀子，石井邦子，鳥田美紀代，竹内久美子，川村紀子：介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の意向，第22回千葉看護学会学術集会，2016年9月.
- ・竹内久美子，鳥田美紀代，川村紀子，川城由紀子，大滝千智，石井邦子：介護保険施設および訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職の雇用と業務の実態 第22回千葉看護学会学術集会，2016年9月.
- ・山本英子，鈴木幸子，石井邦子，大井けい子，森美紀，岡津愛子，林ひろみ，北川良子：模擬産婦を体験した助産師の評価，第57回日本母性衛生学会学術集会，2016年10月.
- ・岡津愛子，鈴木幸子，石井邦子，大井けい子，山本英子，森美紀，林ひろみ，北川良子：胎児心拍陣痛再生装置と模擬産婦を導入した分娩介助演習の効果，第57回日本母性衛生学会学術集会，2016年10月.
- ・鈴木幸子，石井邦子，大井けい子，山本英子，森美紀，林ひろみ，北川良子，岡津愛子：分娩介助演習における模擬産婦の演技とフィードバックに関する評価，第57回日本母性衛生学会学術集会，2016年10月.
- ・石井邦子，荒木暁子：育児上の特別な配慮を要する乳幼児の家族に対するナラティブ・アプローチによる看護介入の効果，第36回日本看護科学学会学術集会，2016年12月.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），ナラティブ・アプローチによる育児困難乳幼児の祖父母支援の検証とガイドラインの創生，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（B），歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質向上に対する研究，研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），模擬産婦と分娩シーンシナリオ（CTG含む）を活用した分娩介助演習の効果，研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），更年期女性のQOL向上のための日常生活に関する研究—酸化ストレスを指標にして—，研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学共同研究，産後ケアプログラムの効果検証，共同研究者.
- ・千葉県立保健医療大学共同研究，分娩介助演習における助産学生の気づきを促す模擬産婦のフィードバックの要素，共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省，大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）特別委員，2016.4～2017.3.
- ・文部科学省，職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会委員，2016.10～2017.3.
- ・独立行政法人日本学術振興会，科学研究費委員会専門委員，2016.12～2017.3.
- ・千葉県助産師出向支援導入事業推進協議会，委員長，2016.4～2017.3.
- ・千葉県ナースセンター運営委員会，委員，2016.4～2017.3.
- ・平成29年度実習指導者講習会プロポーザル受託者選考会議，委員，2017.1～2017.3.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会, 副会長, 2016.4~2017.3.
- ・日本看護系大学協議会, 選挙管理委員, 2016.4~2016.6

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会, 日本看護科学学会, 日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本生殖看護学会, 千葉看護学会, 千葉県母性衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会, 理事, 編集委員, 2016.4~2017.3.
- ・日本看護科学学会, 代議員, 2016.4~2017.3.
- ・日本助産学会, 代議員, 2016.6~2017.3.
- ・日本母性衛生学会, 査読委員, 2016.4~2017.3.
- ・日本生殖看護学会, 査読委員, 2016.4~2017.3.
- ・千葉県母性衛生学会, 理事, 2016.4~2017.3.

6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 平成28年度看護学教育ワークショップ, ファシリテータ, 全国看護系大学教員約200名, 2016.10.27-28, 千葉大学.

7 その他

- ・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員, 2016.6~2017.3.
- ・公益信託 中西睦子看護学先端的研究基金運営委員, 2016.6~2017.3.
- ・放送大学客員教授, 2016.10~2017.3.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 教授会, 将来構想検討委員会, 入試委員会, 自己点検・評価委員会, 防災対策委員会, 認証評価部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教授会, 看護学科運営会議, 看護学科人事評価部会.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ:千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動では, 教授方法の改善を行ったが, 助産課程学生のレディネスを考慮し, 主体的学習を促進することの課題が浮上した. 研究活動では, 複数の研究課題の研究成果を学会で発表することができた. 研究代表者を務める科研では, 研究成果をまとめたガイドラインを公表することができた. 大学管理運営では, 大学院開設に向け, 将来構想検討委員会及び作業部会で精力的に活動したが, 成果を出すことができなかった. 社会貢献では, 文部科学省, 千葉県看護協会, および看護系団体の複数の職務を担い, 着実に遂行した.

VII 次年度の目標

教育活動では、学生のレディネスや学習意欲を十分に把握し、主体的学習を促進できるように教育目標や方法の改善を行う。研究活動では、学会発表した研究成果を論文として公表するとともに、新たな研究資金を獲得して新しいテーマに着手する。大学管理運営では、与えられた役割を確実に遂行する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

教授 西野 郁子 博士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育においては領域の教員間で連携して効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、共同研究者および筆頭研究者として継続したテーマについて、発展していきたい。委員会活動では、総務・企画委員会において多くの課題があり、解決に向けて取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・育成支援看護概論.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・母子看護学実習.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・西野郁子：第三章 小児の成長・発達と看護 2.新生児期の看護, 小児看護学概論 (改訂第3版) 子どもと家族に寄り添う援助 (二宮啓子, 今野美紀編集), P97-107, 2017年, 南江堂, 東京.
- ・西野郁子, 石川美夏子：第三章 検査・処置技術 7.酸素療法, 小児看護技術 (改訂第3版) 子どもと家族の力をひきだす技 (今野美紀, 二宮啓子編集), P148-153, 2017年, 南江堂, 東京.
- ・石川美夏子, 西野郁子：第四章 日常生活援助技術 7.環境調整の技術-快適で安全なベッド環境整備, 小児看護技術 (改訂第3版) 子どもと家族の力をひきだす技 (今野美紀, 二宮啓子編集), P224-229, 2017年, 南江堂, 東京.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・斎藤千晶, 石川紀子, 西野郁子, 石井由美, 鈴木修一：食物アレルギーをもつ中高生のセルフケア行動の実態, 第53回日本小児アレルギー学会, 2016年10月9日, 前橋市.
- ・斎藤千晶, 石川紀子, 西野郁子, 石井由美：食物アレルギーをもつ中高生のセルフケア行動に関する研究, 平成27年度千葉県立保健医療大学共同研究発表会, 2016年8月30日, 千葉市.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究代表者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働・調整。2016年4月～2017年3月。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会，日本小児保健協会，日本看護科学学会，日本新生児看護学会，千葉看護学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本小児看護学会，日本小児看護学会誌，査読委員，2016年4月～2017年3月。
- ・千葉看護学会，千葉看護学会会誌，査読委員，2016年4月～2017年3月。
- ・日本小児看護学会，日本小児看護学会第27回学術集会，査読委員，2017年2月～2017年3月。
- ・日本看護科学学会，日本看護科学学会第36回学術集会，査読委員，2016年4月～2016年8月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県こども病院における看護師の看護研究指導の講師。千葉県こども病院において，就職4年目の看護師2名に対し，1件の研究指導を実施した。面接指導，メールでの指導，発表会での全体講評を実施した。2016年6月から2017年2月，千葉県こども病院，個別指導4～5回，発表会講評1日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，総務・企画委員会（委員長），自己点検・評価委員会，認証評価部会，将来構想検討委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教授会，看護学科育成支援領域会議，看護学科「看護研究」作業グループ会議，看護学科総務・企画委員会，看護学科社会貢献委員会，看護学科人事評価部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動としては，特に小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱでは，前年度の学生からのアンケート調査から改善すべき点は改善して授業が実施できた。講義・演習・実習における学生の修得状況は良好であった。研究活動としては，筆頭著者としての研究業績がなかった。大学の運営面では，総務・企画委員会委員長として，所掌事項を推進する役割を果たした。看護専門職に対する研修の講師，研究指導，所属する看護関連学会において貢献ができた。

VII 次年度の目標

教育においては領域の教員間で連携して効果的な講義・演習を実施していきたい。研究活動については、共同研究者および筆頭研究者として継続したテーマについて、発展していきたい。大学の運営面では、学生部長として学生委員会・進路支援委員会等を運営しながら、教職員の協力を得て学生支援の充実に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

教授 佐藤 まゆみ 博士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動、社会貢献、管理運営業務については平成28年度も引き続き積極的に取り組んでいきたい。研究面については、平成27年度から開始した研究を計画的に進めるとともに、管理運営業務のなおいっそうの効率化を図り、これまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・救命・救急の理論と実際.
- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・成人看護学概論.
- ・成人看護学方法論Ⅰ.
- ・成人看護学方法論Ⅱ.
- ・がん看護学.
- ・ターミナルケア論.
- ・成人看護学実習(急性期).
- ・成人看護学実習(慢性期).
- ・総合実習.
- ・看護研究.

II 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・ 佐藤まゆみ：第Ⅲ章 I. 一次救命処置 (BLS), 看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術 (改訂第2版) (野崎真奈美, 林直子, 佐藤まゆみ, 鈴木久美編集), 2017年, 南江堂, 東京.
- ・ 一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ (藤田佐和, 荒尾晴恵, 雄西智恵美, 小澤桂子, 後藤志保, 佐藤まゆみ, 千崎美登子, 田中京子) 編集：がん看護コアカリキュラム日本版-手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア, 2017年, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ 佐藤まゆみ, 大内美穂子, 豊島裕子, 塩原由美子, 笠谷美保, 小宮山日登美, 小坂美智代：終末期がん患者の食事/栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難, 千葉県立保健医療大学紀要, 8 (1), 9-18, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ 佐藤まゆみ, 片岡純, 森本悦子, 大内美穂子, 塩原由美子, 阿部恭子, 高山京子, 佐藤禮子：外来通院がん患者の主体

性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラム：プログラムの妥当性を高めるための課題，第20回日本看護管理学会学術集会，2016年8月19日・20日，神奈川。

- ・佐藤まゆみ，大内美穂子，塩原由美子，豊島裕子，笠谷美保，小宮山日登美，小坂美智代：終末期がん患者への食事／栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難，第31回日本がん看護学会学術集会，2017年2月4日・5日，高知。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(B)，外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，ICU看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価，研究分担者。
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，乳がん患者の療養を支援する外来看護相談支援プログラムの構築，研究分担者。
- ・学内共同研究，頭頸部がん術後患者における術後の口腔関連の諸問題とその対処に関する質的研究，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本救急看護学会，千葉看護学会，日本看護管理学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本がん看護学会，理事，2010年度～現在に至る。
- ・日本がん看護学会，専任査読者，2004年度～現在に至る。
- ・日本がん看護学会，表彰委員会委員長，2015年度～現在に至る。
- ・日本がん看護学会，特別関心活動グループ委員会委員，2010年度～現在に至る（うち2010年度～2014年度は委員長）
- ・日本看護科学学会，代議員，2011年度～現在に至る。
- ・日本看護科学学会，和文誌専任査読者，2009年度～現在に至る。
- ・日本看護学教育学会，専任査読者，2009年度～現在に至る。
- ・千葉看護学会，専任査読者，2012年度～現在に至る。
- ・日本看護学教育学会第26回学術集会，一般演題座長，2016年8月22日。
- ・第31回日本がん看護学会学術集会，特別講演2座長，2017年2月4日。
- ・第32回日本がん看護学会学術集会，企画委員（運営委員長），2016年10月2日～2017年3月3日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・千葉県がんセンター，講義「研究計画の立案」，看護師，2016年6月15日，千葉県がんセンター。
- ・千葉県がんセンター，研究指導，年5回，看護師，千葉県がんセンター。
- ・千葉県救急医療センター，事例検討指導，年5回，看護師，千葉県救急医療センター。
- ・千葉県循環器病センター，研究指導，年5回，看護師，千葉県循環器病センター。
- ・東京歯科大学市川総合病院，研究指導，年9回，看護師，東京歯科大学市川総合病院。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生部長，大学運営会議，自己点検・評価委員会，認証評価部会，キャンパスハラスメント防止対策委員会，将来構想検討委員会，防災対策委員会，教授会，学生委員会，進路支援委員会，FD委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会，看護学科学生進路支援委員会。

VI 評価（成果及び改善すべき事項）

教育面，社会貢献面，管理運営面については，十分な成果をあげることができた。研究面では，平成27年度の研究成果を公表（学術集会での発表・原著論文投稿）できたという点では年度当初の目標は達成できたが，自身が代表をつとめる科研には進捗に約6ヵ月の遅れが生じており，研究を計画的に進めるといふ点では十分な成果をあげることができなかった。

VII 次年度の目標

教育活動，社会貢献，管理運営業務については平成29年度も引き続き積極的に取り組んでいきたい。研究面については，研究の遅れを取り戻すとともに，引き続きこれまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい。

教授 小川 真 博士（医学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・病態学Ⅰ（内科系疾病論）。
- ・病態学Ⅲ（高齢者疾病論）。
- ・臨床検査実習。
- ・内科学概論。
- ・高齢者医療論。
- ・内科学総論。
- ・内科学各論。
- ・老年科学。

2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）

- ・腎臓内科学（千葉大学医学研究院）。
- ・疾病学（千葉大学薬学研究院）。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- 1 Morimoto M, Lee EY, Zhang X, Inaba Y, Inoue H, Ogawa M, Shirasawa T, Yokosuka O, Miki T :Eicosapentaenoic acid ameliorates hyperglycemia in high-fat diet-sensitive diabetes mice in conjunction with restoration of hypoadiponectinemia. 6:e213, 2016.
- 2 小川 真 CKD(慢性腎臓病)の発症予防・早期発見・重症化予防 千葉腎友 148 p2-12, 2017.
- 3 小川 真: アルブミン測定法の違いによる栄養および臨床病態指標におよぼす影響, 千葉県立保健医療大学紀要 第8巻1号 p3-8, 2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・李 記偉，藤村 理紗，小川 真，幡野 雅彦 Kif26a ヘテロマウスと K0 マウスにおける過少ネフロン症と FSGS の発

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動

- ・腎臓内科外来担当 (週 1) 千葉大学医学部附属病院.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績:

- ・千葉県難病審査 (腎臓病).
- ・千葉市更生医療審査 (慢性じん臓病).

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本内科学会, 日本腎臓学会, 日本老年学会, 千葉医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本内科学会, 認定医 2016 年 4 月—2017 年 3 月.
- ・日本腎臓学会, 専門医, 評議員, 2016 年 4 月—2017 年 3 月.
広報委員会 千葉県キーパーソン 2016 年 4 月—2017 年 4 月.
- ・千葉医学会, 評議員, 2016 年 3 月—平成 2017 年 4 月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・第 29 回「腎臓病を考える会」(主催 千葉県腎臓病協議会).
CKD (慢性腎臓病) の発症・予防・早期発見・重症化予防 2016 年 10 月 30 日 千葉市.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 学生委員会 (障がいをもつ学生への支援体制を考える WG), 衛生委員会, 教員資格審査委員会, 研究等倫理委員会動物部会.

2 学科 / 専攻内委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教授会, 看護学科運営委員会, 看護学科入試委員会.

VI 評価 (成果及び改善すべき事項)

28 年 4 月より赴任した初年度であり, 教育活動としては学生への臨床医学教育を担当し, 研究活動としては慢性腎臓病患者の管理・治療についての研究を継続し, さらに認定看護師育成についても放送大学の番組作成に参画した.

VII 次年度の目標

教育活動では, 臨床医学の最新の動向をふまえて教育内容の充実と刷新を図る. また, 認定看護師育成に引き続き参画する. 研究活動では引き続き慢性腎臓病の治療・管理について研究を継続するとともに市民への啓蒙活動にも努めたい.

教授 佐藤 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日 ～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育内容を見直し、より質の高い教育が教授できるよう努めるとともに保健師国家試験合格率改善を目指す。研究については、これまでの研究成果を論文にまとめ公表する。また、所属学会の発展および千葉県の保健活動の質向上のために役割や研修講師を積極的に担う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール。
- ・専門職間の連携活動論。
- ・看護学入門。
- ・看護ふれあい体験学習。
- ・地域看護学概論。
- ・地域看護学方法論Ⅰ。
- ・地域看護学方法論Ⅲ。
- ・地域看護学実習。
- ・災害看護学。
- ・総合実習 (地域看護学)。
- ・看護研究。
- ・看護学統合。

III 研究記録

1 著書 (著者：著書，発行年，発行所，発行場所。本人下線)

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第2版2017年版各論1 (宮崎美砂子他編集)，2-50，2017年2月，日本看護協会出版会。

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年。本人下線)

- ・丸谷美紀，佐藤紀子，大澤真奈美，宮崎美砂子，雨宮有子，細谷紀子：〔‘住民の価値観・生活・つながり’を大切にする保健指導方法ABC〕研修受講者の文化的能力の発展，文化看護学会誌，第8巻，1号，2-13，2016。

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等。本人下線)

- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，石川志麻，宮澤早織：ワークショップに参加した新人保健師のリフレクシオンスキルの特徴，日本地域看護学会第19回学術集会，2016年8月26-27日，栃木県。
- ・細谷紀子，石川志麻，雨宮有子，佐藤紀子，宮澤早織：地域づくりを意図した保健師活動に関する文献レビュー，日本地域看護学会第19回学術集会，2016年8月26-27日，栃木県。
- ・雨宮有子，佐藤紀子，細谷紀子，石川志麻，丸谷美紀，宮澤早織：保健師が価値を感じた活動体験から形成された考え・スキル—Inner Brandingを活用した質の高い保健師活動への支援方法の開発—，日本地域看護学会第19回学術集会，2016年8月26-27日，栃木県。
- ・牛尾裕子，山田洋子，塩見美紗，佐藤紀子，細谷紀子，石丸美奈，松下光子，宮崎美砂子，北山三津子：保健師活動における「個」と「地域」の概念—保健師の語りの分析から—，日本地域看護学会第19回学術集会，2016年8月26-27

日, 栃木県.

- Noriko Hosoya, Saori Miyazawa, Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato : Review on the Community Health Improvement by Japanese Public Health Nurses, The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, July1-3, 2016, Busan, Korea.
- Mina Ishimaru, Rie Iino, Reiko Tokita, Misako Miyazaki, Tomoko Ando, Yuko Amamiya, Noriko Sato, Yumiko Okada, Akiko Suzuki, Miwa Suzuki, Shizuka Harada, Shinobu Sakurai, Yukari Sugita, Hiromi Fuji, Akiko Tsuruoka: fference on public health services & administration/ Health program evaluation, The 3rd Korea- Japan Joint Conference on Community Health Nursing, July 1-3, 2016, Busan, Korea.
- Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Shima Ishikawa, Saori Miyazawa, A Support Method that Allows New Public Health Nurses to Develop Reflection Skills: Examination of Feedback from Workshop Participants, The 7th International Collaboration for Community Healty Nursing Reserch Symposium, 15-16 Sep. 2016, UK.
- Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Saori Miyazawa, Facilitators' intent to promote reflection in novice public health nurses, The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Reserch Symposium, 15-16 Sep. 2016, UK.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) H26-29, 高齢者のエンパワメントを促す介護予防事業従事者向け教育プログラムの開発, 研究代表者.
- 科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)) H25-28, 予防活動の持続・発展に影響を与える体制・システム構築に関する地域看護技術, 研究分担者.
- 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) H26-28, ナラティブ・アプローチによる育児困難乳幼児の祖父母支援の検証とガイドラインの創生, 研究分担者.
- 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) H27-30, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- 科学研究費助成事業 (挑戦的萌芽) H27-28, 大学間連携による保健師業務研究サポートを通じたファカルティ・ディベロップメント, 研究分担者.
- 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) H28-31, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 分担研究者.
- 平成 28 年度学内共同研究費 (学長裁量), 新人保健師がリフレクションを通じて実践能力を向上する OFF-JT の方法とリフレクティブな実践能力評価指標試案の開発, 共同研究者.
- 平成 28 年度学内共同研究費, 飲酒問題を抱える子育て中の女性に対する行政保健師の支援の実態, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 千葉県現任教職推進会議, 委員長, 2012 年 4 月~現在.
- 柏市保健衛生審議会, 副委員長, 2009 年 4 月~現在.
- 柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会, 委員長, 2009 年 4 月~現在.
- 柏市保健衛生審議会健康増進専門分科会, 委員, 2009 年 4 月~現在.
- ちば県民保健予防財団審議会, 委員, 2012 年 4 月~現在.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本地域看護学会, 千葉看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 文化看護学会, 日本家族看護学会, 日本公衆衛生看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- 日本地域看護学会, 代議員, 2011 年 4 月~現在.

- ・日本地域看護学会，教育委員，2012年4月～現在。
- ・日本看護科学学会，代議員，2011年4月～現在。
- ・文化看護学会，理事，2014年4月～2017年3月。
- ・千葉看護学会，専任査読者，2005年4月～現在。
- ・日本地域看護学会，専任査読者，2010年4月～現在。
- ・日本公衆衛生看護学会，専任査読者，2015年4月～現在。
- ・日本地域看護学会第19回学術集会。座長。2016年8月26日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・平成28年度中堅前期保健師研修会①講師。健康福祉部健康づくり支援課。中堅保健師に求められる役割。千葉県内の中堅前期保健師。2016年6月1日。千葉文化センター。
- ・特定保健指導合同研修講師。全国健康保険協会福島支部。特定保健指導対象者への効果的な継続支援方法。福島県内保健師・管理栄養士等65名。2016年7月1日。ビッグパレットふくしま。
- ・平成28年度中堅後期保健師研修会講師。千葉県健康福祉部健康づくり支援課。専門職の成長。組織の成長を促すマネジメントとリーダーシップ。千葉県内中堅後期保健師。2016年7月15日。千葉県教育会館。
- ・千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会（保健指導技術コース）講師。千葉県健康福祉部健康づくり支援課。行動変容を促す保健指導技術。特定保健指導に従事している者。2016年10月25日。千葉県文化会館。
- ・山武健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会講師および助言。山武健康福祉センター。業務研究の意義とレポート作成のポイント。山武保健所管内保健師。2016年11月1日。大網白里市保健文化センター。
- ・印旛健康福祉センター管内中堅期保健師研修会講師。印旛健康福祉センター。保健師の実践の能力を高めるリフレクション。管内中堅期保健師。2016年11月29日。印旛健康福祉センター。
- ・香取健康福祉センター管内中堅期保健師研修会講師。香取健康福祉センター。保健師の実践能力を高めるためのリフレクション。香取。海匠健康福祉センター管内の中堅期保健師。2016年12月13日。千葉県香取健康福祉センター。
- ・柏市保健所地域健康づくり課 課内研修会講師。柏市保健所地域健康づくり課。効果的な地区活動の実践に向けて～地区活動計画立案の考え方と方法～。柏市保健所地域健康づくり課職員。2016年12月27日。ウェルネス柏。
- ・平成28年度中堅前期保健師研修会②③講師。健康福祉部健康づくり支援課。評価を踏まえた事業計画案の作成。千葉県内中堅前期保健師。2017年1月26-27日。健康福祉センター。
- ・山武健康福祉センター管内保健師中堅期研修会講師。山武健康福祉センター地域保健福祉課。保健師の実践能力を高めるためのリフレクション。山武健康福祉センター管内中堅保健師。2017年2月21日。山武健康福祉センター。
- ・保健師活動の必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ。千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域。新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざすワークショップ。千葉県内平成26・27・28年度新規採用保健師。2016年10月22日。12月18日。2017年2月11日。千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会。自己点検・評価委員会報告書作成等部会（部会長）。入試実施部会（副部会長）。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会。看護学科入試検討委員会（副委員長）。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、学生の地域看護学への関心と理解を深める工夫として、今年度よりアクティブラーニングを導入した。講義および実習の機会を使って、保健師資格を持つ意義について伝えたが、国試合格率としては100%に達しなかった。研

究については、論文を作成（現在投稿中）するとともに、複数の分担研究に積極的に関与できたと評価できる。社会貢献としては、日本地域看護学会の教育委員として地域看護教育に関わる提案書作成に寄与することができた。

Ⅶ 次年度の目標

教育については、新たに導入したアクティブラーニングの効果を検証し、さらに改善する。研究については、代表を担う研究が今年度最終年度であることから、介護予防従事者向け教育プログラムを実施し成果を公表していく。今年度は、入試実施部会長として、大きな課題である入試改革に取り組む。

教授 神田 みなみ 修士（文学），Master of Arts (TESOL)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、教育・研究・学内業務をバランス良く行うことを目標とする。まず、新任の英語担当講師とともに英語学習カリキュラム充実をめざす。科研費研究（英語多読の形成的評価）に加えて、学内の共同研究費を申請し進めていきたい。図書館等に英語多読図書、英語学習書を増やし、学生が授業外に英語学習ができる環境を作っていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・英語 I（基礎講読）。
- ・英語 II（基礎英会話）。
- ・英語 III（講読・記述）。
- ・英語 V（保健医療英語）看護学科。
- ・英語 V（保健医療英語）歯科衛生学科。
- ・英語 VI（応用英語）。

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・English C（明治大学法学部）。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Ueda, Mami, & Kanda, Minami: Japanese University Students' Attitudes toward the Usage of Social Media in Autonomous English Study, *Proceedings and Abstracts of the 28th Japan-U. S. Teacher Education Consortium*, 28, 59, 2016.
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 Current: UK Immigrants, 『多聴多読マガジン』, Vol. 58, p.81, 2016.
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 Conspiracy Theories, 『多聴多読マガジン』, Vol. 59, p.86, 2016.
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 The Imitation Game, 『多聴多読マガジン』, Vol. 60, p.85, 2017.
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 The Memory Man, 『多聴多読マガジン』, Vol. 61, p.81, 2017.
- ・神田みなみ：始めよう！ 英語多読-多読相談室, 『多聴多読マガジン』, Vol. 54, pp.20-23, 2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・神田みなみ：スマホを活用した英語多読授業の試み。日本多読学会年会（JERA），2016年7月30日，徳山工業高等専門学校。
- ・神田みなみ：英語多読の形成的評価—読書スピード，語彙テスト，読書記録。日本多読学会年会（JERA），2016年7月31日，徳山工業高等専門学校。
- ・神田みなみ：英語授業におけるスマートフォンの活用—英語多読の形成的評価に向けて—。国際異文化学会，2016年10月29日，立正大学品川キャンパス。
- ・Ueda, Mami, & Kanda, Minami: Japanese University Students' Attitudes toward the Usage of Social Media in Autonomous English Study. Japan-U.S. Teacher Education Consortium (JUSTEC), 2016年11月6日，愛媛大学。

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・佐野富士子，原田淳，夏苺佐宜，神田みなみ他：インプット，インタラクション，アウトプット。大学英語教育学会（JACET）第二言語習得（SLA）研究会公開輪読会。2016年6月25日。獨協中高等学校。
- ・佐野富士子，原田淳，夏苺佐宜，神田みなみ他：Tomlinson（2016）を読む。授業実践報告，高校英語教科書の作り方。大学英語教育学会（JACET）第二言語習得（SLA）研究会第2回公開輪読会。2017年3月23日。常葉大学水落キャンパス。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)，英語多読における形成的評価の活用研究，研究代表者。
- ・学長裁量研究，課外英語学習環境の構築の試み—図書館内の英語多読図書コーナー，研究代表者。
- ・学内共同研究，英語学習におけるソーシャルメディア使用に関する学生の意識調査，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本多読学会，日本英文学会，大学英語教育学会（JACET），全国語学教育学会（JALT），American Association of Applied Linguistics（AAAL：アメリカ応用言語学会），映画英語教育学会，日英・英語教育学会，外国語教育メディア学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本多読学会，理事，2016年4月1日～2017年3月31日。
- ・日本多読学会，学会誌編集委員会・査読委員，2016年4月1日～2017年3月31日。
- ・全国語学教育学会（JALT）日本語教育研究会（JSL SIG），会計担当役員，2016年4月1日～2017年3月31日。
- ・国際異文化学会，理事・学会誌編集局・査読委員，2016年4月1日～2017年3月31日。

7 その他

- ・TOEIC 試験対策講座，外部講師による TOEIC スコアアップのための対策講座の企画開催（後援会補助），2016年8月24日，千葉県立保健医療大学。
- ・TOEIC IP 試験の企画・実施・試験監督等（後援会補助），2016年9月24日，千葉県立保健医療大学。
- ・神田みなみ：セミナー「英語多読入門」，2016年10月28日，千葉県立保健医療大学。
- ・神田みなみ：セミナー「TOEIC・TOEFL 説明会」，2016年11月11日，千葉県立保健医療大学。
- ・神田みなみ：セミナー「保健医療英語の英語多読」，2016年12月9日，千葉県立保健医療大学。
- ・TOEFL ITP 試験の企画・実施・試験監督等（後援会補助），2017年2月21, 28日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，共通教育運営会議，教務委員会，図書・情報委員会，教員資格審査委員会，国際交流委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教授会、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科1年担任リーダー。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

幕張キャンパス図書館に英語多読図書、英語学習書を増やし、学生が授業外に英語学習ができる環境を作り始めることについて、新任の英語担当講師とともに得た学長裁量研究費により目標以上の成果を上げることが出来た。英語関係セミナーを数回開催したが、参加者は少なかった。英語授業と連携しながら、課外でも英語の自学自習につなげることが今後の課題となる。

VII 次年度の目標

「体験ゼミナール」の科目責任者として作業部会、担当教員とともに順調な科目運営をめざす。図書館の英語図書を利用した課外英語学習につなげる英語授業、図書館での英語学習支援を行う。また本学の英語カリキュラム充実をめざし、共通英語テストの導入を検討する。研究に関しては、国際学会での英語多読に関する学会発表をめざすことと、最終年になる科研費研究をまとめることを目標とする。

教授 渡辺 尚子 博士(看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

すでに領域内教員の欠員が予定されているが、教育の維持・向上はもちろんのこと、大学組織への貢献と共に、研究・社会貢献活動にもう少し時間を費やしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・看護学入門。
- ・看護ふれあい体験学習。
- ・療養支援看護概論。
- ・心の健康。
- ・こころの健康と看護。
- ・精神看護学方法論。
- ・精神看護学実習。
- ・総合実習。
- ・看護学統合。
- ・看護研究。

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・「精神看護学概論」「精神看護援助論Ⅰ」（淑徳大学）。

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・飯島清美子, 山口忍, 渡辺尚子, 綾部明江: 市町村保健師が精神保健分野の個別対応で抱える困難, 日本公衆衛生看護学会誌, 5 (2), 144-153, 2016.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・渡辺尚子, 中村博文, 加藤隆子: 新卒看護師が捉える精神科病棟における退院支援について, 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016, 12.10 (東京国際フォーラム).
- ・中村博文, 渡辺尚子: 地域で生活している統合失調症患者のレジリエンス, 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016, 12.10 (東京国際フォーラム).

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，地域で生活する統合失調症患者のResilience尺度の開発，研究代表者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本精神保健看護学会，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本社会精神医学会，北日本看護学会，日本公衆衛生看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本精神科看護協会査読委員(2016年4月～2017年3月).
- ・日本精神科看護専門学術集会査読委員 (2016年4月～2017年3月).
- ・第36回日本看護科学学会学術集会査読委員 (2016年4月～8月).
- ・日本看護科学学会第36回学術集会実行委員 (2016年12月).

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・日本精神科看護学会 セミナー講師 2016年6月11日.
- ・精神看護認定看護師チームアプローチ論講師, 2016年7月15日, 29日.
- ・千葉県看護協会実習指導者講習会(看護論), 看護職対象, 2016年10月25日. 千葉県ナースセンター.
- ・千葉県看護協会実習指導者講習会(看護過程の展開), 看護職対象, 2016年10月28日. 千葉県ナースセンター.

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試評価部会，学術推進企画委員会，国際交流委員会，教員資格審査委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試検討委員会，担任(看護学科2年生)，総合実習作業部会，看護研究作業部会.

Ⅵ 評価（成果および改善すべき事項）

前期途中より領域内教員の欠員があったものの，後期より新任教員を迎え，新たな教育的取り組みをするなど，教育の質を維持，向上して行うことができた．また大学内の役割については様々な活動に関わる機会が得られた．研究に関しては，

予定がずれ込んでいるためもう少し迅速に行っていきたい。

VII 次年度の目標

次年度もすでに領域内教員の欠員が予定されているが、着任3年目ということで教育の維持・向上はもちろんであるが、大学組織への貢献、研究・社会貢献活動にももう少し時間を費やしていきたい。

教授 河部 房子 博士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する効果的な授業の展開に向け、教育内容の精選と展開について領域内の教員間で検討・共有しながら、教員間の連携体制のさらなる強化をはかる。授業リフレクションを通して、各教員の教育力向上につなげる。研究活動は、代表者となっている研究課題が最終年度となることから、研究成果の論文化に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護ふれあい体験学習。
- ・看護学入門。
- ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）。
- ・看護技術論Ⅱ（共通基本技術）。
- ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント）。
- ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）。
- ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）。
- ・基礎看護学実習。
- ・看護研究。
- ・看護学統合。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・河部房子，黒田久美子，小山田恭子，上本野唱子，池袋昌子，西山正恵，野地有子，若杉歩，赤沼智子：看護系大学と実習病院のトップ管理者間の連携の構成要素に関する研究 ―看護教育・実践連携評価ツールの開発に向けて―，日本看護学教育学会誌，26巻，1号，15-28，2016。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石川ひとみ，和住淑子，黒田久美子，河部房子，若杉歩，白川秀子：増床・組織再編・病棟移転を若手リーダー育成のチャンスとするための看護管理者の支援内容，第20回日本看護管理学会学術集会，2016年8月19・20日，横浜。
- ・竹内久美子，西山正恵，口元志帆子，河部房子：看護学生の倫理的感受性に関する研究 ～2年次「看護倫理」講義前後の比較～，日本看護教育学会第26回学術集会，2016年8月20・21日，東京。
- ・錢淑君，松本毅，和住淑子，前田隆，片桐智子，永田亜希子，河部房子：看護学生の「生活特徴と自覚症状の関係」に

焦点をあてた生活改善プロトコルの開発に向けた基礎研究, 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016年12月10・11日, 東京.

- ・河部房子, 黒田久美子, 小山田恭子, 上本野唱子, 池袋昌子, 西山正恵, 野地有子, 若杉歩, 赤沼智子: 看護系大学と実習病院のトップ管理者間の連携の構成要素に関する研究, 看護質の統合法 (KJ法) 研究会 第9回研究集会, 2017年2月11日, 千葉.
- ・Shu Chun Chien, Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto, Takeshi Matsumoto, Takashi Maeda, Tomoko Katagiri, Akiko Nagata, Fusako Kawabe: Program for promoting self-management of health status for nursing students based on oriental medical concepts. The conference of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, 2017.3.17, Indianapolis.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 看護実践能力の育成に向けた看護学生版リフレクション・フレームワークの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 看護基礎教育課程における統合実習の評価基準に向けた実践事例集の作成, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (B), 看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築, 研究分担者.
- ・千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター共同研究, 看護師長が取り組む組織変革プロジェクトを支援する研修プログラムの精錬に関する研究, 共同研究員.
- ・学内共同研究, 看護学生の倫理的感受性を高める教育方法の検討, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護管理学会, 日本看護歴史学会, 千葉看護学会, 日本看護学会, ナイチンゲール研究学会, 日本良導絡自律神経学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会, 査読委員, 2013年4月1日～現在に至る.
- ・千葉看護学会, 評議員, 2015年4月1日～現在に至る.
- ・千葉看護学会, 編集委員, 2015年4月1日～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所).

- ・平成28年度 実習指導者連絡会特別講義, 帝京大学福岡医療技術学部主催, 看護系大学の臨地実習指導者に求められるもの, 大学教員および臨地実習指導者, 2016年7月30日, 帝京大学.
- ・平成28年度 看護学教育指導者研修, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター主催, 自組織の現状をふまえた指導過程のリフレクション, 臨地実習指導看護師, 2016年8月25日～26日, 千葉大学.

7 その他

- ・放送大学, 看護師国家試験学習支援ツールの作成, 2016年.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

大学教授会, 教務委員会, 学術推進企画委員会, 紀要編集部会 (部会長), 教員資格審査委員会 (委員長).

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

看護学科教授会、看護学科教務委員会、看護学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する授業展開に向け、毎回の授業リフレクションを実施し、教育内容・方法について、教員間の認識の共有に努めた。産休による教員の欠員等により十分な教育内容の検討には至らなかったが、昨年度に引き続き、看護技術の教材ビデオ（導尿・採血）を作成し、授業展開に活用した。研究活動では、科学研究費補助金や学内共同研究費による共同研究を進めると共に、フィジカルアセスメントの臨床現場での活用状況に関する研究に着手した。

VII 次年度の目標

新任教員を迎え新たな教育体制となることから、引き続き、看護専門職者としての基本的な思考・判断能力、実践能力を育成する効果的な授業の展開に向け、教育内容の精選と展開について、領域内の教員間で共有しながら、教員間の連携体制を構築する。授業リフレクションを通して、各教員の教育力向上につなげる。研究活動は、前年度に着手したフィジカルアセスメント教育に関する研究を継続すると共に、代表者となっている研究課題に関する研究成果の論文化に取り組む。

教授 杉本 知子 博士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

科目責任者あるいは科目担当者を担う講義・演習・実習科目において、「分かりやすかった」「興味が持てた」といった授業評価を得ることができる。

研究助成を受けて取り組んでいる研究の成果を学術雑誌に公表する（論文投稿をする）。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・看護ふれあい体験学習。
- ・看護学入門。
- ・療養支援看護概論。
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ。
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ。
- ・高齢者看護学実習。
- ・総合実習。
- ・看護研究。
- ・看護学統合。

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・認知症看護援助方法論Ⅲ。聖路加国際大学教育センター 認定看護師教育課程認知症看護コース。

- ・チーム医療. 一般社団法人 日本精神科看護協会および京都研修センター 認定看護師教育課程.

Ⅲ 研究記録

1 著書 (著者 本人下線 : 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・ 杉本知子 : 第2章 I コミュニケーションの援助 II 基本動作の援助 III 転倒・転落予防の援助 V 清潔・整容の援助 X 社会参加を促す援助, 亀井智子編集, 新体系 看護学全書 老年看護学2 健康障害をもつ高齢者の看護, 平成28年 第4版, 株式会社メヂカルフレンド社, 東京.

2 学術論文・その他 (著者 : 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ 杉本知子, 森一恵 : 終末期にある高齢がん患者に対して看護師が実践している支援の特徴, 千葉県立保健医療大学紀要, 8巻1号, 61-68, 2017.
- ・ 鳥田美紀代, 杉本知子, 佐伯恭子, 上野佳代 : 要介護高齢者が主体的に療養生活の場を移行するプロセス—国内文献の検討によるプロセスの構造—, 千葉県立保健医療大学紀要, 8巻1号, 77-82, 2017.

3 発表 (発表者 : 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 鳥田美紀代, 杉本知子, 佐伯恭子, 上野佳代 : 要介護高齢者の主体的な療養生活の移行に関連する要因 —国内文献による検討—, 日本老年看護学会第21回学術集会, 2016年7月23-24日, 大宮ソニックシティ.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 平成 28-30 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C), がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築, 研究代表者.
- ・ 平成 28-29 年度 学内共同研究 萌芽, 高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の予防: 通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態調査, 研究代表者.
- ・ 平成 28-31 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 高齢がん患者と家族の療養移行期に関する意思決定支援の評価, 研究分担者.
- ・ 平成 27-29 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 在宅療養強化型老健における要介護者主体の在宅移行のための看護実践モデルの開発, 研究分担者.
- ・ 平成 27-29 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B), 高齢者のエンパワメントを促す介護予防事業従事者向け教育プログラムの開発, 研究分担者.
- ・ 平成 25-28 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 仕事をもつ2型糖尿病患者および境界型におけるセルフモニタリングの有効性, 研究分担者.

6 受賞・特許

- ・ 学術論文優秀賞 (共同研究者), 公益社団法人 日本看護科学学会.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・ 東京都台東区介護認定審査会. 合議体長. 2015年4月~2018年3月迄.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ 千葉県看護協会. 教育委員. 2015年4月~2018年3月迄.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本看護科学学会, 日本老年看護学会, 日本糖尿病教育・看護学会, 日本老年社会科学会, 聖路加看護学会, 日本在宅ケア学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本老年看護学会, 「老年看護学」査読委員, 2015年4月～2018年3月迄.

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・平成28年度 看護師職能交流会(領域Ⅱ), 千葉県看護協会, 介護・福祉関係施設, 在宅等における看護職の役割～看取りケアを通して～, 県内の高齢者ケア施設, 訪問看護ステーション等に勤務する看護師, 2016年12月1日, 千葉県看護会館.
- ・千葉県立佐原病院看護師研修会, 千葉県立佐原病院看護局, 高齢者倫理, 院内看護師, 2016年6月3日, 2017年2月20日, 千葉県立佐原病院.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・進路支援委員会, ハラスメント防止対策委員.

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生・進路支援委員会.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

担当する講義・演習科目においては, 最新の国家試験の出題傾向等を踏まえた上で授業資料を作成するようにした. 加えて, 講義等の終了後に提出を義務付けているリアクションペーパーに記載された学生のコメントを踏まえ, 学習意欲が継続できるような授業構成を考え, それを実践するように努めた.

研究活動に関しては, 平成28年度には「科学研究費補助金」「学内共同研究助成」といった外部・内部資金を獲得することができた. しかし, 研究データの収集に時間を要してしまい, 当初の計画通りに研究活動をすすめていくことができず, 研究成果の公表が十分に行えなかった.

VII 次年度の目標

教育活動については, 学生が看護の対象となる認知症高齢者や虚弱高齢者に対して正確な援助技術を提供できるようになることを目指し, 授業内容(演習・講義)の見直しを行う. また, 大学の管理運営については, 責任感をもって職務を遂行することのみでなく, 主体的に活動するように努める.

准教授 浅井 美千代 修士(人間科学)

対象期間: 2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は, 研究活動時間を確保し活動の成果を学会発表や論文投稿していくこと, 研究活動の成果を授業や実習を活かすこと.

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・成人看護学概論.
 - ・成人看護学方法論Ⅱ.
 - ・成人看護学実習(慢性期).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・看護ふれあい体験学習.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・浅井美千代, 青木きよ子, 高谷真由美, 長瀬雅子: 我が国における「慢性疾患のセルフマネジメント」の概念分析, 医療看護研究, 13 (2), 10-21, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・浅井美千代, 青木きよ子, 高谷真由美, 長瀬雅子: 我が国の慢性疾患におけるセルフマネジメントとその類似概念についての文献検討, 第36回日本看護科学学会学術集会 (東京), 2016年12月.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2014~2017年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 「ICU看護師の臨床判断能力を育成するシミュレーション教育方法の実施と評価」研究分担者.
- ・2015~2017年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 「関節リウマチ患者の関節負荷防止のためのセルフケア技術獲得を促進する看護モデル開発」研究代表者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会. 日本看護技術学会. 日本看護教育学会. 日本がん看護学会. 日本介護福祉学会.
日本老年行動科学会. 日本看護科学学会. 千葉看護学会. 日本リハビリテーション看護学会.
日本慢性看護学会. 北日本看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本慢性看護学会学術集会, 企画委員, 2015年4月~2016年8月

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県実習指導者講習会. 千葉県看護協会主催. 2016年10月. 千葉県看護協会.
- ・院内事例検討. 千葉県救急医療センター主催・事例検討指導. 2016年6月・7月・9月・11月. 千葉県救急医療センター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究等倫理委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科倫理審査委員会. 総合実習作業部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、研究成果の学会発表と論文投稿をすることができ目標を達成することができた。前年度に引き続き目標としていた研究成果を授業・実習指導などの教育活動に活かすことについては、学生からの授業後のフィードバック内容から、前年度に比べ要点のわかりやすさについて改善はみられたが今後も引き続き努力する必要がある。社会貢献については、例年実施している現任教育を引き続き担当したが、学外での活動を積極的に行っていく必要がある。

VII 次年度の目標

研究活動では、前年度の成果を基に次の段階の研究を計画し、データ収集・分析を行い研究成果をまとめる。教育活動では、学生にとって理解しやすい授業内容や指導内容となるよう工夫する。

准教授 林 ひろみ 博士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、より効果的な学習となるよう講義内容を精選させるとともに演習を充実させていく。また、母性看護学実習および助産学実習の施設担当者として講義・演習と実習の連動を重視しながら個々の学生に応じた実習支援に取り組んでいく。研究活動においては、科研における共同研究における役割を担うとともに、保健医療大学の共同研究の研究代表者としての役割を担いスムーズに遂行していく。学科運営においては学生進路支援委員長として、各部会および担任リーダーと担任、および各部会の活動がスムーズに行えるよう支援していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）.
- ・助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）.
- ・助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）.
- ・助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・専門職間の連携活動論.

Ⅲ 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・北川良子，大滝千智，林ひろみ，川村紀子，石井邦子：臨地実習指導者が捉える男子学生に対する母性看護学実習の実際，第18回日本母性看護学会学術集会，2016年6月18日，久留米。
- ・林ひろみ，鈴木幸子，石井邦子，大井けい子，北川良子，山本英子，森美紀，岡津愛子：改良版模擬産婦養成プログラムの評価—試行版と改良版の参加者評価の比較—，第18回日本母性看護学会学術集会，2016年6月18日，久留米。
- ・大月恵理子，坂上明子，林ひろみ，平石皆子，森田亜希子，高島えり子：母体・胎児集中治療室（MFICU）看護職の研修プログラム案の妥当性，第57回日本母性衛生学会学術集会，2016年10月14-15日，東京。
- ・山本英子，鈴木幸子，石井邦子，大井けい子，森美紀，岡津愛子，林ひろみ，北川良子：模擬産婦を体験した助産師の評価，第57回日本母性衛生学会学術集会，2016年10月14-15日，東京。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成28年度千葉県立保健医療大学共同研究，「分娩介助演習における助産学生の気づきを促す模擬産婦のフィードバックの要素」，研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）「模擬産婦と分娩シーンシナリオ（CTG含む）を活用した分娩介助演習の効果」研究連携者。
- ・科学研究補助金基盤研究（C）「母体・胎児集中ケアのための研究プログラム開発に関する研究」研究連携者。

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性衛生学会，千葉看護学会，千葉県母性衛生学会，日本母性看護学会，日本看護科学学会，日本生殖看護学会，日本家族看護学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性衛生学会 査読委員 2015年4月～2017年3月。
- ・日本母性看護学会 査読委員 2015年4月～2017年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・平成28年新人助産師研修会，千葉県看護協会主催，家族への支援，新人助産師，2016年10月24日，千葉県看護協会。
- ・平成28年新人助産師研修会，千葉県看護協会主催，リフレクション，新人助産師，2016年10月24日，千葉県看護協会。

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科学生・進路支援委員会。

Ⅵ 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては，母性看護学方法論および助産課程の科目において昨年度の評価を踏まえ教育内容の一部修正を行い，

学生にとって効果的な学習となるよう取り組むことができた。また、母性看護学実習および助産学実習の施設担当教員として、講義・演習内容を踏まえながら個々の学生に応じた実習支援に取り組むことができ、ほぼ実習目標の達成にいたった。

研究活動においては、共同研究を獲得し、研究代表者として共同研究者とともに研究結果をまとめることができた。また、科研の研究成果の公表を行うことができ、共同研究者としての役割を担うことができた。

学科運営においては、看護学科学生進路支援委員会の委員長を担い委員会のスムーズな運営に努め、概ね計画通りに遂行することができた。

Ⅶ 次年度の目標

平成 29 年 3 月にて退職。

准教授 雨宮 有子 博士（スポーツ健康科学）

対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、引き続き効果的な教授方法を探求しより洗練させた講義内容にするとともに、講義・演習・実習を連動させ段階的に学べる内容・方法を工夫していく。研究に関しては、これまでの研究成果を論文として公表するとともに、それをベースにした次の研究テーマに関する探求を進める。社会貢献としては「新人保健師の現任教育としてのワークショップ」を改良・継続や保健活動業務研究指導等により保健師の現任教育に貢献できるようにする。

Ⅱ 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護ふれあい体験学習。
- ・地域看護学概論。
- ・地域看護学方法論Ⅱ。
- ・地域看護学方法論Ⅲ。
- ・地域看護学実習。
- ・地域看護学総合実習。
- ・看護研究
- ・看護学統合。
- ・千葉県の健康づくり。
- ・専門職間の連携活動論。

Ⅲ 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・2017 年版保健師国家試験問題 解答と解説，成人保健指導・高齢書保健指導，2016，医学書院，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・丸谷美紀，佐藤紀子，大澤真奈美，宮崎美砂子，雨宮有子，細谷紀子：〔‘住民の価値観・生活・つながり’を大切にす
る保健指導方法 ABC〕 研修受講者の文化的能力の発展，文化看護学会誌，第 8 巻，1 号，2-13，2016。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等 本人下線）

- Norik Hosoya, Saori Miyazawa, Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato: Review on the Community Health Improvement by Japanese Public Health Nurses, The 3rd Korea- Japan Joint Conference on Community Health Nursing, July 1-3, 2016, Busan Bexco, Korea.
- Mina Ishimaru, Rie Iino, Reiko Tokita, Misako Miyazaki, Tomoko Ando, Yuko Amamiya, Noriko Sato, Yumiko Okada, Akiko Suzuki, Miwa Suzuki, Shizuka Harada, Shinobu Sakurai, Yukari Sugita, Hiromi Fuji, Akiko Tsuruoka: Conference on public health services & administration/ Health program evaluation, The 3rd Korea- Japan Joint Conference on Community Health Nursing, July 1-3, 2016, Busan Bexco, Korea.
- 雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石川志麻, 丸谷美紀, 宮澤早織: 保健師が価値を感じた活動体験から形成された考え・スキル- Inner Branding を活用した質の高い保健師活動への支援方法の開発- , 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 平成 28 年 8 月 26-27 日, 栃木県.
- 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 石川志麻, 宮澤早織: ワークショップに参加した新人保健師のリフレクションスキルの特徴, 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 平成 28 年 8 月 26-27 日, 栃木県.
- 細谷紀子, 石川志麻, 雨宮有子, 佐藤紀子, 宮澤早織: 地域づくりを意図した保健師活動に関する文献レビュー, 日本地域看護学会第 19 回学術集会, 平成 28 年 8 月 26-27 日, 栃木県.
- Yuko Amamiya, Noriko Sato, Shima Ishikawa, Noriko Hosoya, Soari Miyazawa: A Support Method that Allows New Public Health Nurses to Develop Reflection Skills: Examination of Feedback from Workshop Participants, The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Symposium, 15-16 September 2016, Canterbury, UK.
- Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Soari Miyazawa: Facilitators' intent to promote reflection in novice public health nurses, The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Symposium, 15-16 September 2016, Canterbury, UK.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H28-31, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究代表者.
- 文部科学省科学研究費（挑戦的萌芽）H25-28, 公衆衛生看護への意欲を継続し実践の質を高めていくための支援モデルの開発, 研究代表者.
- 文部科学省科学研究費（基盤研究（B））H26-29, 高齢者のエンパワメントを促す介護予防事業従事者向け教育プログラムの開発, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H27-30, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費（挑戦的萌芽）H27-28, 大学間連携による保健師業務研究サポートを通じたファカルティ・ディベロップメント, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H27-30, 地域包括的視点に基づく看護管理方法論の探求, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H27-29, 療養の場の移行支援構築に向けた退院支援に係る看護技術の体系化, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費（基盤研究（C））H27-29, 在宅療養の場における倫理的ビリーフの解明とケアマネジメント能力育成プログラムの開発, 研究分担者.
- 平成 28 年度千葉県立保健医療大学学内共同研究費（学長裁量）, 新人保健師がリフレクションを通じて実践能力を向上する OFF-JT の方法とリフレクティブな実践能力評価指標試案の開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- 千葉県准看護師試験委員会. 千葉県准看護師試験委員会. 2016 年 5 月 1 日～2018 年 4 月 30.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県看護協会 保健師職能委員会, 副委員長, 2015年6月18日～2017年6月。

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本難病看護学会, 日本家族看護学会, 日本在宅看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護管理学会, 日本看護科学学会, 文化看護学会, 千葉看護学会, 日本保健医療福祉連携教育学会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・文化看護学会, 広報委員, 2014年6月20日-2017年3月31日。
- ・文化看護学会第8回学術集会, 企画委員, 査読委員, 2015年9月17日～2016年5月22日。
- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2014年4月1日～2018年3月31日。
- ・一般社団法人日本看護管理学会, 第20回学術集会実行委員, 2016年4月1日-2016年8月20日。
- ・日本家族看護学会 専任査読者, 2016年8月1日～2019年7月31日。

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・平成28年度第1回千葉県印旛健康福祉センター保健師業務連絡会, 千葉県印旛健康福祉センター, 保健師活動における研究への視点, 印旛健康福祉センターの保健師, 2016年5月19日, 千葉県印旛健康福祉センター。
- ・平成28年度第1回管内保健師等業務連絡研究会, 野田健康福祉センター, 保健師に求められる能力, 野田健康福祉センター管内の保健師, 2016年8月2日, 野田健康福祉センター。
- ・平成28年度第1回夷隅健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会, 千葉県夷隅健康福祉センター, 保健師活動の実践の質を高める業務研究, 夷隅健康福祉センター管内の保健師, 2016年8月8日, 夷隅健康福祉センター。
- ・平成28年度第3回印旛郡市保健指導者研究会, 印旛郡市保健指導者研究会, 保健師活動における研究への取り組み方, 印旛郡市の保健師, 2016年9月5日, 佐倉市健康管理センター。
- ・平成28年度第2回千葉県松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会 (新任期), 千葉県松戸健康福祉センター, 保健師業務の基本を学ぶ, 松戸健康福祉センター管内の新任保健師, 2016年8月29日, 松戸健康福祉センター。
- ・平成28年度第2回管内保健師等業務連絡研究会, 野田健康福祉センター, 評価を踏まえた保健活動・事業計画書の作成, 野田健康福祉センター管内の保健師, 2016年9月20日, 野田健康福祉センター。
- ・平成28年度第3回千葉県松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会 (中堅前期), 千葉県松戸健康福祉センター, 日々の保健師活動の質の向上を図る; 保健事業の評価, 松戸健康福祉センター管内の中堅前期保健師, 2016年10月24日, 我孫子市保健センター。
- ・平成28年度第3回千葉県海匝健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会, 千葉県海匝保健所管内保健衛生連絡協議会, 保健師活動につなげる業務研究について, 海匝健康福祉センター管内の保健師, 2016年10月31日, 八日市場地域保健センター。
- ・平成28年度第5回印旛郡市保健指導者研究会, 印旛郡市保健指導者研究会, 事業評価のあり方, 印旛郡市の保健師, 2016年11月11日, 成田市保健福祉館。
- ・平成28年度第2回千葉県松戸健康福祉センター管内保健活動業務検討会, 千葉県松戸健康福祉センター, 保健活動業務研究, 松戸健康福祉センター管内の保健師, 2016年11月25日, 松戸健康福祉センター。
- ・平成28年度第5回千葉県松戸健康福祉センター管内保健師等業務連絡研究会, 千葉県松戸健康福祉センター, 保健師に求められる能力, 松戸健康福祉センター管内の保健師, 2017年1月5日, 小金保健福祉センター。
- ・平成28年度中堅前期保健師研修会, 千葉県健康福祉部健康づくり支援課, 保健事業の評価および評価を踏まえた事業計画立案のグループワーク, 千葉県内の中堅前期保健師, 2017年1月26-27日, 千葉市文化センター。
- ・平成28年度第4回夷隅健康福祉センター管内保健師業務連絡研究会, 千葉県夷隅健康福祉センター, 保健師活動に必要な業務研究とは, 夷隅健康福祉センター管内の保健師, 2017年3月16日, 夷隅健康福祉センター。
- ・保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ, 千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域, 新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得を目指すワークショップ, 千葉県内および近県の平成26・27・28年度採用保健師, 2016年10月22日, 12月18日, 2月18日。

日、千葉県立保健医療大学。

7 その他

- ・放送大学、看護師国家試験学習支援ツールの作成。2016年。
- ・東葛北部圏域在宅医療・介護連携に関する5市連携会議。2016年8月2日。柏地域医療連携センター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ネットワーク委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科社会貢献委員会、総合実習作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、地区活動計画立案に関する講義内容を改善した。研究に関しては、研究代表者として科学研究費助成事業（基盤研究（C））を獲得できた。学会発表は7本出せたが、論文執筆はできなかった。社会貢献として、「新人保健師の現任教育としてのワークショップ」の改良・継続実施および7自治体の保健師現任教育に貢献した。管理・運営に関しては、HP掲載内容（教員情報）のデータ更新・全学のデータ更新システムを整えた。

VII 次年度の目標

教育に関しては、地区活動計画立案に関する講義・演習の内容を改善し、それに連動させた実習展開を意図し、教育効果を上げる。保健師に関心を持つ学生を増やすとともに保健師国家試験合格率を改善する。研究に関しては、代表者を担う研究の順調な推進・研究成果の論文文化に重点を置く。社会貢献に関しては、県内保健師の現任教育の向上に貢献する。管理・運営に関しては、明瞭な予算管理システムを整えていく。

准教授 三枝 香代子 修士（教育学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、効果的な教授方法を探究し、より洗練させた講義内容にする。研究活動では、積極的に取り組み研究成果をまとめる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・救命・救急の理論と実際。
- ・成人看護学概論。
- ・成人看護学方法論Ⅰ。
- ・成人看護学方法論Ⅱ。

- ・ターミナルケア論.
- ・成人看護学実習(急性期).
- ・総合実習(成人看護学領域).
- ・看護学統合.
- ・看護研究.
- ・看護ふれあい体験学習.
- ・専門職間の連携活動論.

Ⅲ 研究記録

1 著書(著者本人下線:著書,発行年,発行所,発行場所.)

- ・三枝香代子: skill マニュアル除細動器(DC)の介助, 第Ⅲ章救急時の看護技術, 看護学テキストNice 成人看護学成人看護技術(改訂第2版)(野崎真奈美, 林直子, 佐藤まゆみ, 鈴木久美編), 2017年, 南江堂, 東京

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金(基盤研究(C)), ICU 看護師の臨床判断能力を育成・開発するためのシミュレーション教育方法開発, 研究分担者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・多数傷病者発生合同災害訓練(千葉県救急医療センター・千葉市立海浜病院・千葉市美浜消防署合同). 2016年10月15日.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本クリティカルケア看護学会, 日本看護学教育学会, 千葉看護学会, 日本看護科学学会, 日本外傷学会, 日本看護研究学会.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県救急医療センター院内研修, 看護師の事例検討指導および発表会講評を行った, 年5回(5月19日・7月21日・9月13日・12月8日・2月16日) 千葉県救急医療センター.
- ・千葉県循環器病センター看護研究, 看護師の看護研究指導および発表会講評を行った, 年4回(8月18日・11月9日・12月16日・1月17日) 千葉県循環器病センター.

7 その他

- ・大学見学, 富山県立高等学校, 大学見学, 8月25日.
- ・高校訪問, 千葉県立検見川高等学校, 模擬授業, 12月19日.
- ・高校訪問, 千葉敬愛学園高校, 模擬授業, 3月22日.

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・社会貢献委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科総務・企画委員会、医療・生活支援看護領域会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

平成28年度は、教育活動・大学運営・社会貢献にかかわる業務は予定通り行うことができた。研究活動においては、データ収集にとりかかることができたが成果をまとめることができなかった。

VII 次年度の目標

平成29年度は、今年度引き続き教育活動・大学運営・社会貢献にかかわる業務を推進していき、研究活動に力を注ぎ研究成果をまとめる。

准教授 細谷 紀子 修士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、担当科目において、教授内容・方法の工夫を一層図ると共に、保健師国家試験合格率改善に向けて取り組む。研究については、代表者を担う研究課題の推進と論文執筆に重点をおいて取り組む。社会貢献については、地域の保健医療の発展および防災対策に寄与できるように努める。以上を、ワーク・ライフ・バランスをはかりながら、タイムマネジメントを意識して取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・地域看護学概論
- ・地域看護学方法論Ⅱ
- ・地域看護学方法論Ⅲ
- ・地域看護学実習
- ・災害看護学
- ・総合実習
- ・看護研究
- ・看護学統合

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・丸谷美紀、佐藤紀子、大澤真奈美、宮崎美砂子、雨宮有子、細谷紀子：〔‘住民の価値観・生活・つながり’を大切にする保健指導方法ABC〕研修受講者の文化的能力の発展、文化看護学会誌、第8巻、1号、pp2-13、2016年。

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・Noriko Hosoya, Saori Miyazawa, Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato: Review on the Community Health Improvement

by Japanese Public Health Nurses, The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, 1-3 jul. 2016, Busan, Republic of Korea.

- ・細谷紀子, 石川志麻, 雨宮有子, 佐藤紀子, 宮澤早織: 地域づくりを意図した保健師活動に関する文献レビュー, 日本地域看護学会第19回学術集会, 2016年8月26日~27日, 栃木県下野市.
- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 石川志麻, 宮澤早織: ワークショップに参加した新人保健師のリフレクシオンスキルの特徴, 日本地域看護学会第19回学術集会, 2016年8月26日~27日, 栃木県下野市.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石川志麻, 丸谷美紀, 宮澤早織: 保健師が価値を感じた活動体験から形成された考え・スキル Inner Branding を活用した質の高い保健師活動への支援方法の開発, 日本地域看護学会第19回学術集会, 2016年8月26日~27日, 栃木県下野市.
- ・牛尾裕子, 山田洋子, 塩見美紗, 佐藤紀子, 細谷紀子, 石丸美奈, 松下光子, 宮崎美砂子, 北山三津子: 保健師活動における「個」と「地域」の概念 - 保健師の語りの分析から -, 日本地域看護学会第19回学術集会, 2016年8月26日~27日, 栃木県下野市.
- ・Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Shima Ishikawa, Saori Miyazawa, A Support Method that Allows New Public Health Nurses (PHN) to Develop Reflection Skills: Examination of Feedback from Workshop Participants, International Collaboration for Community Healty Nursing Reserch International Symposium, 15-16 Sep. 2016, UK.
- ・Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Saori Miyazawa, Facilitators' intent to promote reflection in novice public health nurses, International Collaboration for Community Healty Nursing Reserch International Symposium, 15-16 Sep. 2016, UK.
- ・Noriko Hosoya, Mina Ishimaru, Misako Miyazaki, Review on the influence of local residents on children with developmental disorders and their families during times of disaster, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 9-10 mar. 2016, Hong Kong.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成27~30年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究代表者.
- ・平成26~29年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)), 高齢者のエンパワメントを促す介護予防従事者向けプログラムの開発, 分担研究者.
- ・平成28~30年度科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)), 地域ニーズに基づく施策化を展開するための中堅保健師向け教育プログラムの開発, 分担研究者.
- ・平成28~31年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (C)), 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 分担研究者.
- ・平成28年度学長裁量研究費, 新人保健師がリフレクションを通じて実践能力を向上する Off-JT の方法とリフレクティブな実践能力評価指標試案の開発, 共同研究者.

6 受賞・特許

- ・一般社団法人日本地域看護学会第19回学術集会優秀ポスター賞

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 千葉看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本ルーラルナーシング学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会. 査読委員. 2015年4月より現在に至る.
- ・第36回日本看護科学学会学術集会. 査読委員. 2016年4月~8月.

・平成28年度（第55回）千葉県公衆衛生学会。一般口演座長。2017年3月2日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・健康意識調査に関する指導。千葉市緑保健福祉センター。A地区の健康意識調査について、業務研究としてまとめるための指導・助言。千葉市緑区健康課職員。2016年6月～2017年2月。千葉市緑保健福祉センター
- ・千葉市保健師会研修。千葉市保健師会。効果的なデータの見せ方とアンケートの取り方。千葉市保健師会会員および健康課等職員。2016年7月27日。千葉市総合保健医療センター。
- ・保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざしたワークショップ。千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科健康支援看護領域。新人保健師が保健師活動に必要な実践能力を高めるリフレクション力の修得をめざすワークショップ。千葉県内平成26・27・28年度新規採用保健師。2016年10月22日、12月18日、2017年2月11日。千葉県立保健医療大学。

7 その他

- ・放送大学。看護師国家試験学習支援ツールの作成。2016年。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試検討委員会。看護学科看護研究ワーキンググループ。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、地域看護学方法論Ⅲにおけるフィールドワークの導入、災害看護学における放射線事故災害に関する内容の追加等の工夫改善を図った。保健師国試合格率については引き続きの課題である。研究については、研究代表者を担う課題に関する成果発表に対し優秀ポスター賞を得ることができ、論文執筆を行った（現在投稿中）。社会貢献については県内の保健師への研修指導の役割を担った。

VII 次年度の目標

教育については、担当科目においてアクティブ・ラーニングを増やし、学生の主体的な学修を強化する。研究については、代表者を担う課題を計画的に遂行させ着実に成果を発表していく。分担者を務める研究課題についても精力的に取り組む。社会貢献および大学の管理運営についても、引き続き責任をもって役割を遂行する。

准教授 川城 由紀子 博士（医学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、研究活動を充実させ研究成果を報告する。教育活動では、新たな実習施設において学生の学習環境の調整を図り、助産学実習を軌道に乗せる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産学概論.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
 - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
 - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
 - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
 - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
 - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
 - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
 - ・総合実習.
 - ・看護学研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・横尾京子, 石井邦子, 川城由紀子, 他: 助産学講座第5版8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期, 2017, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・川城由紀子, 宮宗秀伸, 石井邦子, 松野義晴: 中高年女性における酸化ストレスの関連要因の検討, 千葉県立保健医療大学紀要, 8巻, 1号, 53-59, 2017.
- ・川城由紀子: 妊婦が注意すべき魚介類の種類とその摂取量の目安, 周産期医学, 46巻, 12号, 1505-1506, 2016.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・川城由紀子, 大滝千智, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 川村紀子: 介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職に対する期待, 第22回千葉看護学会学術集会, 平成28年9月, 千葉.
- ・大滝千智, 川城由紀子, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 川村紀子: 介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の意向, 第22回千葉看護学会学術集会, 平成28年9月, 千葉.
- ・竹内久美子, 鳥田美紀代, 川村紀子, 川城由紀子, 大滝千智, 石井邦子: 介護保険施設および訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職の雇用と業務の実態 第22回千葉看護学会学術集会, 平成28年9月, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 更年期女性の QOL 向上のための日常生活に関する研究-酸化ストレスを指標にして-, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費, 産後ケアプログラムの効果検証, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本母性看護学会, 日本母性衛生学会, 日本解剖学会, 日本内分泌学会.

日本衛生学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本母性看護学会, 査読委員, 2014年4月～現在に至る.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・教務委員会.
- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・看護学科運営会議, 看護学科教務委員会.
- 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>
 - ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

研究活動では, 新たな研究費を獲得し, 千葉県内の医療施設との共同研究を計画通りに遂行することができた. また, 研究論文を投稿し採択され, 目標は達成できたと評価する. 教育活動では, 特に助産学実習の新たな施設において環境調整や実習方法を整えることができ, 目標は達成したと評価する.

VII 次年度の目標

現在取り組んでいる研究を計画通りに遂行する. 昨年度までに調査が終わっている研究の成果について, 学会発表及び論文として投稿する. 教育については, 講義・演習・実習の連動を強化し, より効果的な学習となるよう授業内容や方法について充実させる.

准教授 平尾 由美子 修士 (看護学)

対象期間: 2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては, 時代のニーズに対応できる人材の育成に向け, 授業内容の検討を強化すること, 研究活動においては, 学内共同研究を確実に遂行すると共に, 教育方法の研究に取り組むことを具体的目標とした. また, 教育・研究と社会貢献活動との有機的な充実を図っていくこととした.

II 教育記録

- 1 教育の記録
 - 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学入門.
 - ・看護ふれあい体験学習.

- ・療養支援看護概論.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・ターミナルケア論.
- ・在宅看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・平尾由美子，原田光子，山田志枝，大桐四季子，佐藤富子：病棟業務から訪問看護業務に移行した直後に看護師が感じる戸惑い・困難，千葉県立保健医療大学紀要，第8巻，第1号，69-76，2017年.
- ・成玉恵，平尾由美子：千葉県の地域包括ケアシステムにおける看護に関わるNPO法人の特性—二次資料を用いた分析から—，千葉県立保健医療大学紀要，第8巻，第1号，83-90，2017年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・三宅理江子，海老原泰代，平尾由美子，豊島裕子：「在宅医療のための専門職連携講座」の評価と在宅における栄養食事指導の現状，日本在宅栄養管理学会第4回学術集会，2016年6月25～26日，西宮市.
- ・平尾由美子，原田光子，山田志枝，大桐四季子，佐藤富子：病棟勤務から訪問看護ステーション業務に移行した直後に看護師が感じる戸惑い・困難，日本在宅ケア学会第21回学術集会，2016年7月，東京都.
- ・原田光子，中江秀幸，松丸直美，富安眞理，平尾由美子：在宅におけるパーキンソン病療養者の看護職に関する服薬管理プログラム，日本在宅ケア学会第21回学術集会，2016年7月，東京都.
- ・松丸直美，原田光子，富安眞理，平尾由美子：在宅におけるパーキンソン病療養者の日常生活を維持・拡大する上で困難となる要因への支援について—自己効力感を高める支援方法—，日本在宅ケア学会第21回学術集会，2016年7月，東京都.
- ・成玉恵，平尾由美子：千葉県の地域包括ケアシステムにおける在宅看護に関わるNPO法人の特性，第35回千葉県看護研究学会，2017年2月，千葉市.
- ・平尾由美子，小笠原祐子：在宅療養者に対する訪問看護師のフットケア—文献の動向—，日本フットケア学会第15回年次学術集会，2017年3月，岡山市.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，在宅療養高齢者に対する訪問看護師によるフットケアの実態と意識調査，研究代表者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護学会，日本公衆衛生学会，日本老年看護学会，日本老年社会科学会，日本在宅ケア学会，日本看護学教育学会，北日本看護学会，日本フットケア学会，千葉看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本看護学教育学会，評議員，2016年2月～現在に至る.
- ・日本看護学教育学会第27回学術集会，査読委員.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・平成28年度実習指導者講習会. 千葉県. 看護論演習. 看護職対象. 平成28年10月27日. 千葉県ナースセンター.
- ・千葉県勤労者医療協会研修会. 高齢者の看護. 当該団体の看護奨学生対象. 平成28年12月24日. 生活福祉センターからたち.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・キャンパスハラスメント防止対策委員会.
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科教務委員会. 看護学科倫理審査委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、授業内容の検討により演習方法等の工夫を要する課題を明確化し、改善を図ることができた。研究活動においては、学内共同研究を計画的に遂行することができた。社会貢献活動については、教育・研究活動とリンクさせながら、活動の機会を意識的にとらえ、幅を広げて積極的に取り組む必要があると考える。

VII 次年度の目標

教育活動においては、授業内容および実習内容と指導方法の更なる充実を目指し検討を継続する。研究活動においては、学内共同研究を確実に遂行し成果を発表すること、それらと社会貢献活動との有機的な充実を図っていくことを目標とする。

准教授 小笠原 祐子 博士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に本学の教育活動と大学の管理運営に力を入れることを目標とした。また、研究活動、社会貢献活動も継続的に取り組んでいく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（共通基本技術）.
 - ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント）.
 - ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護研究.

Ⅲ 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・目良綾子，河原和俊，小笠原祐子：糖尿病専門病棟以外の病棟に勤務する看護師のフットケアに関するニーズの検討，第14回日本フットケア学会学術集会，2017年3月24日，岡山市。
- ・平尾由美子，小笠原祐子：在宅療養者に対する訪問看護師のフットケア - 文献の動向 - ，第14回日本フットケア学会学術集会，2017年3月25日，岡山市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，在宅療養高齢者に対する訪問看護師によるフットケアの実態と意識調査，分担研究者。

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本フットケア学会，日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本看護技術学会，埼玉フットケア研究会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本フットケア学会，理事，2013年2月～現在に至る。
- ・日本フットケア学会，学術委員，2008年10月～現在に至る。
- ・日本フットケア学会，査読委員，2008年10月～現在に至る。
- ・第13回日本フットケア学会びわ湖セミナーin京都，シンポジウム座長，2016年10月9日。
- ・第15回日本フットケア学会学術集会，教育講演座長，2017年3月24日。
- ・埼玉フットケア研究会，世話人，2007年6月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・東京歯科大学市川総合病院，研究指導，看護師対象，2016年6月～2017年3月，東京歯科大学市川総合病院。
- ・公立長生病院，研究指導，看護師対象，2016年4月～2017年3月，公立長生病院。

7 その他

- ・放送大学「看護師国家試験学習支援ツール」の作成。

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ネットワーク委員会，学部長選挙に関する予備選挙委員，共同研究審査部会員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試検討委員会，看護学科学生・進路支援委員会，看護学科2年生担任。

Ⅵ 評価（成果および改善すべき事項）

教育では，教員評価，学生の反応から教育方法の示唆を得て，その後の授業に活かし，学生の自発的な学びを支援した。大学・学科の運営についても多くの役割を担当し，本学・本学科の理解を深められた。研究では，2 演題を学会発表するとともに，論文作成についてもアウトラインを作成することができ，ほぼ計画どおり進捗させることができた。

准教授 竹内 久美子 博士 (看護学)

対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に教育活動においては、新カリキュラム開始に伴い4年次生に初めて開講する3科目(看護学統合、リーダーシップ論、継続看護方法論)の授業準備および教育活動の実施おこなう予定である。さらに研究活動においては、縦断的調査継続最終年度となるため計画的な準備と手続きを実施する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・看護学入門.
- ・看護ふれあい体験.
- ・看護キャリア発達論.
- ・基礎看護学実習.
- ・看護倫理.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護管理学.
- ・看護管理学実習.
- ・看護政策論.
- ・総合実習.
- ・看護学総合.
- ・リーダーシップ論.
- ・継続看護方法論.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・竹内久美子, 松下由美子: 新人看護職員研修に関する病院専任教育担当者の悩み, 日本看護学科(教育), 2016年8月3・4日, 大津.
- ・竹内久美子, 松下由美子: 看護師の初期キャリア発達支援に関する研究—入職10か月後の組織適応と個人の認知傾向との関連—, 日本看護研究学会第42回学術集会, 2016年8月20・21日, つくば国際会議場.
- ・竹内久美子, 西山正恵, 口元志帆子, 河部房子: 看護学生の倫理的感受性に関する研究—2年次「看護倫理」講義前後の比較—, 日本看護教育学会第26回学術集会, 2016年8月20・21日, 新宿.
- ・竹内久美子, 松下由美子: 看護師の初期キャリア発達に関する研究, 日本応用心理学会第83回大会, 2016年9月1～3日, 札幌.
- ・山本寛, 松下由美子, 田中彰子, 吉田文子, 竹内久美子, 雨宮久子: 専門性マネジメントの実証的研究—専門職のキャリア自律重視のキャリア開発の観点から—, 2016年9月3・4日. 立教大学新座キャンパス.
- ・竹内久美子, 鳥田美紀代, 川村紀子, 石井邦子, 川城由紀子, 大滝千智: 介護保険施設および訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職の雇用と業務の実態, 千葉看護学会第22回学術集会, 2016年9月10日, 千葉大学.
- ・川城由紀子, 大滝千智, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 川村紀子: 介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の意向—セカンドキャリア看護職への期待—, 千葉看護学会第22回学術集会, 2016

年9月10日, 千葉大学.

- ・大滝千智, 川城由紀子, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 川村紀子: 介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の意向 ～セカンドキャリア看護職の雇用体制～, 千葉看護学会第22回学術集会, 2016年9月10日, 千葉大学.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文科省科学研究費補助金基盤研究 (C), 看護師の初期キャリア発達に関する研究, 研究代表者
- ・学内共同研究, 看護学生の倫理的感受性を高める教育方法の検討, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会, 日本看護管理学会, 日本看護教育学会, 千葉看護学会, 日本応用心理学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本応用心理学会, 論文査読担当, 2016年4月～2017年3月.
- ・日本看護研究学会, 評議員, 2016年5月～2017年3月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・看護研究指導, 国立病院機構村山医療センター, 2015年5月～2016年3月, 国立病院機構村山医療センター.
- ・千葉県立保健医療大学公開講座, 見つめよう自分の心と身体～毎日を楽しくころのお話～, 2016年10月23日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県看護協会, 臨床指導者講習会「看護過程演習」指導, 2015年11月, 千葉県看護協会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教務委員会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育に関しては, 毎回の授業評価の結果をもとに, 学生のニーズに応えわかりやすい授業を工夫するよう努力した. 概ね学生の反応は良好であり, 積極的に授業に参加しているように感じる事ができた. 研究活動に関しては, 8件の学会発表を実施することができ, さまざまな分野の先生方との意見交換を通じて見識を広げることができた. また縦断的調査の最終年度であったため, これまでの研究データについて調査施設に報告も一部行うことができた. しかし, 学術論文として公表することができず, 学術論文にまとめ公表していくことが今後の課題である. 社会貢献に関しては, 千葉県立保健医療大学公開講座をはじめ, 県民のニーズに応えるよう努力することができた.

VII 次年度の目標

退職に伴い渡米するため, これまでに研究成果を学術論文として公表すること, さらに国際学会への参加を課題としたい. またさまざまな経験を通し, 医療者, 教育者, 研究者として研鑽したい.

講師 西山 正恵 修士 (医療保健学情報学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

1年間の大学の様々な取り組みを理解し取り組んでいく。2年生の担当の10名の学生と、ゼミの3名の学生に関しては学生が目標を達成できるよう責任を持って指導する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・基礎看護学実習.
- ・体験ゼミ.
- ・看護倫理.
- ・感染看護学.
- ・リスクマネジメント論.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護政策論.
- ・リーダーシップ論.
- ・継続看護方法論.
- ・看護管理学実習.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・ラスパ 過去門対策 看護師国家試験問題 担当問題数問 2016 医学評論社.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・竹内久美子, 西山正恵, 河部房子:看護学生の倫理的感受性に関する研究, ~2年次「看護倫理」講義前後の比較~, 第26回 日本看護学教育学術集会 2016年8月22日, 東京.
- ・Yuki Mochizuki1, Ariko Noji1, Mari Kondo2, Yukiko Iioka3, Akiko Nosaki1, Masae Nishiyama4, Eiko Ootomo5, Manami Sakamoto6, Daisuke Sumitani1 : Modifying the educational application to cultivate cultural competence for nursing in Japan, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars , 9 - 10 March 2017 , Hong Kong.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・医療マネジメント学会, 日本看護管理学会, 日本看護科学学会, 日本看護教育学会, 日本看護評価学会, 日本臨床医学リスクマネジメント学会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本看護科学学会 抄録原稿 査読者.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県立保健医療大学公開講座、「毎日を楽しく一こころのおはなし」 平成28年10月23日 大講義室.
- ・一般社団法人 上尾中央医科グループ協議会 主催、日本看護協会認定 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル 研修 「統合演習」、看護管理者、平成29年1月～2月（5日間）、キャリアサポートセンター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・専門職間の連携活動論作業部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科・進路支援委員会、看護学科総務・企画委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

1年間のおおよその授業準備・実習準備や大学の行事や委員会活動内容は理解できた。しかし、新たな科目が増え、また公開講座の準備など慌ただしく満足できる内容とはいえない。計画的に準備を進めその都度振り返りをし改善点を考えるようにする必要があった。

VII 次年度の目標

平成29年度は、看護管理学領域の欠員により漏れがないように責任をもって授業・実習の調整ができる。委員会が学生・進路支援委員会から教務委員会に変わりネットワーク委員会も担うことになったので、それぞれの委員会での活動を理解し役割を果たす。

講師 植田 麻実 Ph. D.（第二言語習得）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に、自分にとっての初年度なので、看護学科所属の教員として学科における与えられた職務をきちんと果たせる事。また、全学科の共通教育の英語教員として全学科の学生たちが共に学ぶ英語クラスや体験ゼミを担当する事で協働学習を推進できるよう工夫をする事。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・英語Ⅰ（基礎講読）.
- ・英語Ⅱ（基礎英会話）.

- ・英語Ⅲ（講読・記述）.
 - ・英語Ⅳ（英会話）.
 - ・英語Ⅴ（保健医療英語）看護学科.
 - ・英語Ⅴ（保健医療英語）栄養学科.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師
- ・日本語（防衛大学校）.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線）

- ・Ueda, Mami, & Kanda, Minami. Japanese University Students' Attitudes toward the Usage of Social Media in Autonomous English Study. *Proceedings and Abstracts of the 28th Japan-U. S. Teacher Education Consortium*. 28, 59, 2016.
- ・Abe, Emika, Ueda, Mami, & Sugino, Toshiko. Unwilling Students of Using Social Networking Services for Learning English: Their Worries and Support by Teachers. *Proceedings and Abstracts of the 28th Japan-U. S. Teacher Education Consortium*. 28, 42, 2016.
- ・久松美佐子, 荒井春生, 植田麻実, 前田則子. がんを合併した統合失調症患者を看取る精神科看護師の緩和ケアを促進される要因, 死の臨床, 39(1), 153-158, 2016.
- ・植田麻実. 英語学習におけるソーシャルメディア使用の提案. 日本実用英語学会論叢, 22, 15-26, 2016.
- ・Abe, Emika, Ueda, Mami, & Sugino, Toshiko. Unwillingness to Use Social Networking Services for Autonomous Language Learning among Japanese EFL Students. *工学院大学研究論叢*, 53(2), 55-68, 2016.
- ・荒井春生, 植田麻実, 単科精神科病院における保護室の物的環境, 日本看護学会論文集 精神看護, 46, 260-263, 2016.
- ・Ueda, Mami, Emika, Abe. Japanese University Students' Attitudes toward SNS s and English Studying Motivation, Selected Papers from the Twenty-fifth International Symposium on English Teaching (24), 502-509, 2016. Taipei: Crane Publishing Company Ltd.
- ・Harumi, Arai, Watanabe, Toshiyuki, Hayashi, Fumi, Ueda, Mami, & Hisamatsu, Misako. Schizophrenic Patients with Cancer Hospitalized at Psychiatric Hospitals in Japan. *Journal of Palliative Medicine*, 20, 5, 2017.
- ・Sugino, Toshiko, Abe, Emika, & Ueda, Mami. Coping with Teacher Demotivation toward Directed Motivational Currents. *Journal of Literature and Art Studies*, 7 (5), 555-567, 2017.
- ・阿部恵美佳, 植田麻実, 杉野俊子. 大学生の英語学習における SNS 利用状況とその利用促進への一考察, 語学教育研究論叢 34, 161-175, 2017.

3 発表（発表者：発表タイトル, 主催学会（学会名称）, 開催日, 場所等. 本人下線）

- ・Sugino, Toshiko, Ueda, Mami, & Abe, Emika, Coping with Teacher Demotivation toward Directed Motivational Currents, The 3rd AILA East-Asia and 2016 ALAK-GETA Joint International Conference, 2016年9月10日, Honam University, Gwangju, South KOREA.
- ・Ueda, Mami, & Kanda, Minami. Japanese University Students' Attitudes toward the Usage of Social Media in Autonomous English Study. Japan-U. S. Teacher Education Consortium (JUSTEC), 2016年11月6日, 愛媛大学.
- ・Abe, Emika, Ueda, Mami, & Sugino, Toshiko. Unwilling Students of Using Social Networking Services for Learning English: Their Worries and Support by Teachers. (JUSTEC), 2016年11月6日, 愛媛大学.
- ・Ueda, Mami, Emika, Abe. Japanese University Students' Attitudes toward SNS s and English Studying Motivation, The 25th International Symposium (ETA-ROC). 2016年11月12日, Chien Tan Overseas Youth Activity Center, Taipei, Taiwan.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究, 課外英語学習環境の構築の試み—図書館内の英語多読図書コーナー, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 英語学習におけるソーシャルメディア使用に関する学生の意識調査, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

2) 千葉県外

- ・ ミュゼ・スワロー, 2012年～現在. 仮設住宅, 老人ホーム等. (2016年9月18日東京都新宿区ケヤキ園にて活動).

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本実用英語学会. The Japan Association for Language Teaching. 日本心身健康科学会. 日本臨床死生学会. 日本緩和医療学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・ The Japan Association for Language Teaching (Japanese Proofreader& Translator).

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 教務委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 看護学科教務委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

成果としては、まず教育面では、英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳにおいてますます学生たちが満足できる授業をする事ができた事や看護学科対象の英語Ⅴでは学生と共に充実した内容の授業ができた事である。体験ゼミでは学生に英語とは違う調査の仕方を教えられた。改善すべき点は属している看護学科での役割がなかなか果たせない事である。一年経過したが理解できていない事が多く早くもって理解をする必要を感じている。

VII 次年度の目標

次年度の目標は、看護学科全体の事をきちんと理解し役割を果たせるようにする事、そして、共通教育に属する者としての役割もきちんと果たす事である。

講師 成 玉恵 修士（政治学）

対象期間：2017年4月1日～2018年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度採用のため当初目標は設定していない。

今年度は、本学の教育および運営について理解することに努め、次年度に備えることを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
- ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
- ・在宅看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他(著者:題名,雑誌名,巻,号,ページ,発行年,本人下線)

- ・成玉恵:千葉県地域包括ケアシステムにおける在宅看護に関わるNPO法人の特性—二次資料を用いた分析から—,千葉県立保健医療大学紀要,第8巻第1号,83-90,2017.

3 発表(発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等,本人下線)

- ・成玉恵,平尾由美子:千葉県地域包括ケアシステムにおける在宅看護に関わるNPO法人の特性—二次資料を用いた分析から—,第35回千葉県看護研究学会,2017年2月24日,千葉市.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名,研究テーマ,研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究,高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸性の集団発生予防:通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態調査,研究分担者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

5 学会,学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本在宅ケア学会,日本地域看護学会,行政学会.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称,主催団体名称,講演テーマ等,対象,開催日,時場所)

- ・平成28年度千葉県看護教員養成講習会,千葉県看護協会,看護論演習,看護職対象,平成28年11月7日,千葉県ナースセンター.

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称,活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・自己点検・評価委員会報告書作成部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称,活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学生・進路支援委員会,4年生担任,看護学科入試検討委員会,看護学科「総合実習」作業グループ会議.

Ⅵ 評価(成果および改善すべき事項)

教育に関しては,1年を通じて講義や実習・演習において全体の流れが把握できた.その中で,講義資料に国試の過去問題を使用するなど,工夫した点が学生から評価を得た.また,実習に関しては施設との調整,実習準備,指導等,滞りなく実施できた.看護学科の運営に関しては,各種委員会での役割や業務を把握した.特に4年生担任業務は,数名の学生に個別対応を実施し,的確な対応ができた.研究に関しては,学会での口頭発表や学内紀要へ論文(資料)を掲載することがで

きた。しかし、無難な業務の遂行に留まった感があり、次年度は質の向上や改善に向けた実施が必要と考える。

VII 次年度の目標

教育に関しては、引き続き講義・演習・実習の質の向上をはかり、系統的に実施したい。また、実習施設との連携を強化し、学生指導に生かすよう努めたい。学科運営に関しては、各種委員会の業務を円滑に遂行し理解を深める。研究に関しては、学内共同研究の研究分担者として調査・研究を進める。また、研究資金の獲得に努めたい。次年度は特に、訪問看護師の研究活動に貢献したい。

講師 石川 紀子 修士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、教育活動では、実習病棟が変更となるため、臨床側と調整をはかりながら、実習運営に努める。研究活動では、取り組んでいる研究課題の計画に沿って、必要な活動を推進していく。委員会活動では、前年度での気づきを踏まえ、円滑に役割や業務を果たしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・小児看護学方法論Ⅰ。
- ・小児看護学方法論Ⅱ。
- ・小児看護学実習。
- ・総合実習。
- ・看護研究。
- ・看護学統合。

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・石川紀子：第3章消化器疾患 21. 腸重積患者の看護，病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程（改定第3版）（井上智子，窪田哲朗編集），P396-403，2016年，医学書院，東京。
- ・石川紀子：第IV章 日常生活援助技術 4. 排泄の援助技術，小児看護技術（改訂第3版） 子どもと家族の力をひきだす技（今野美紀，二宮啓子編集），P197-206，2017年，南江堂，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・放送大学「看護師国家試験学習ツール 第105回」2016。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・齊藤千晶，石川紀子，西野郁子，石井由美：食物アレルギーをもつ中高生のセルフケア行動に関する研究，千葉県立保健医療大学共同研究発表会，平成28年8月30日，千葉県。

- ・齊藤千晶, 石川紀子, 西野郁子, 石井由美, 鈴木修一: 食物アレルギーをもつ中高生のセルフケア行動の実態, 第53回日本小児アレルギー学会, 2016年10月9日, 前橋市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 (基盤研究 (C)), 小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働・調整. 2016年4月～2017年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会, 日本小児保健協会, 日本家族看護学会, 日本小児がん看護学会, 日本看護科学学会, 千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本小児看護学会, 日本小児看護学会誌, 査読委員, 2016年4月～2017年3月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県こども病院における看護師の看護研究指導の講師. 千葉県こども病院において, 就職4年目の看護師1名に対し, 1件の研究指導を実施した. 面接指導, メールでの指導, 発表会での全体講評を実施した. 2016年6月から2017年2月, 千葉県こども病院, 個別指導7回, 発表会講評1日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・キャンパス・ハラスメント相談員.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学生・進路支援委員会, 看護学科「総合実習」作業グループ会議, 看護学科運営会議, 看護学科小児看護学領域会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 新たな場所での実習となったが, 病棟側とコミュニケーションをはかりながら, 円滑に実習を進めることができた. 研究活動では, 研究代表者として関わっている研究の計画に則り, 活動を進めることができたと考える. また, 継続して取り組み・調整を行っている千葉県こども病院でのボランティア活動では, 積極的に学生や病院側との調整をはかって活動を支えていくことができおり, 地域への貢献を果たすことができたと考える.

VII 次年度の目標

教育活動では、本年度の振り返りを活かして、講義・演習・実習に取り組んでいく。研究活動では、研究代表者として関わっている研究が3年目に当たるため、計画に則り進めて行く。また、全学・看護学科内の委員では新たに担う役割について必要な業務を果たしていく。社会貢献については、引き続きボランティア活動の調整や学会での役割を行っていく。

講師 鳥田 美紀代 博士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に学生が能動的に学習できる事を目指した効果的な教授方法の工夫と、研究活動の推進を目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・ターミナルケア論.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)
 - ・看護実践研究方法論 (東京医療保健大学大学院).

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・鳥田美紀代：第Ⅲ章 老年看護の対象となる人々の特徴 2. ところ、3. かかわり、第Ⅴ章 老年看護における対象の見方・とらえ方 2. 対象理解、正木治恵、真田弘美編集、老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは【改訂第2版】、2016、南江堂、東京.
- ・鳥田美紀代：Ⅲ. ケーススタディ 身体拘束廃止に向けたケア、正木治恵編集、パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護【第2版】、2017、照林社、東京.
- ・鳥田美紀代：第2章 高齢者の暮らしを支える援助 IV排泄 (排尿・排便) の援助、IXセクシュアリティを考慮した援助、亀井智子編集、新体系 看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護【第4版】、2016、メヂカルフレンド社、東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・鳥田美紀代、杉本知子、佐伯恭子、上野佳代：要介護高齢者が主体的に療養生活の場を移行するプロセス—国内文献の検討によるプロセスの構造—、千葉県立保健医療大学紀要、8巻、1号、77-82、2017.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者)

- ・平成27-29年度 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C))、在宅強化型老健における要介護者主体の在宅移行のための看

護実践モデルの開発, 研究代表者.

- ・平成 28-30 年度 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築, 研究分担者.
- ・平成 28 年度 学内共同研究 (萌芽), 高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の予防: 通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・認知症の人と家族の会 (千葉県支部) ホームページ更新ボランティア. 平成 26 年 4 月～継続.
- ・認知症の人と家族の会 (千葉県支部) アルツハイマーデー街頭啓発活動 (リーフレット配り). 2016 年 9 月 19 日. JR 千葉駅 (千葉市中央区).
- ・認知症の人と家族の会 (千葉県支部) 認知症メモリーウォーク. 2016 年 10 月 1 日. 青葉の森公園 (千葉市中央区).
- ・うたせ認知症を考える会. 2016 年 6 月 30 日～不定期. うたせ地域連携センター等.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本老年看護学会, 千葉看護学会, 文化看護学会, 日本認知症ケア学会, 日本在宅ケア学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本老年看護学会, 査読委員. 2015 年 8 月 22 日～現在に至る.
- ・千葉看護学会会誌専任査読者. 2015 年 4 月 1 日～現在に至る.
- ・第 36 回日本看護科学学会学術集会 一般演題査読者. 2016 年 3 月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県生涯大学校 京葉学園 講師, 千葉県生涯大学校. 「高齢期の健康管理②(1) (生活習慣病). 地域活動過程 2 年次生. 2016 年 7 月 5・7 日. 京葉学園 (千葉市中央区).
- ・一般社団法人日本精神科看護協会. チーム医療研修 (演習サポート) (チームアプローチ論 2). 精神科認定看護師資格取得を目指す者. 2016 年 7 月 15 日 (東京品川)・7 月 29 日 (京都).
- ・千葉県立佐原病院. 高齢者倫理研修. 同病院看護師. 2016 年 6 月 3 日・2017 年 2 月 20 日. 千葉県立佐原病院 (千葉県香取市).
- ・東京歯科大学市川総合病院. 研究指導. 年 3 回程度. 看護師. 東京歯科大学市川総合病院.

7 その他

- ・事例検討会の企画・運営に関するサポート・参加. 千葉県立佐原病院. 高齢者看護に関する事例検討. 同病院副看護師長. 2016 年 7 月～月 1 回程度. 千葉県立佐原病院 (千葉県香取市) 又は千葉県立保健医療大学 (千葉市美浜区).

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究等倫理委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議. 看護学科教務委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学生の能動的な学習を目指した教授方法の工夫をするという目標について、高齢者看護学方法論Ⅰ・Ⅱにおいて、学生と双方向の授業展開ができることを目指し、書き込み式の授業資料を一部採用した。資料の使いやすさについて学生から意見が寄せられたため、次年度の改善点としたい。

研究活動については、研究成果の講評が論文1本にとどまっているが、次年度の研究計画の立案と倫理審査の申請など、次年度に向けた準備を行うことができた。引き続き、計画的な研究活動の遂行に努める。

VII 次年度の目標

今年度に引き続き、学生主体の授業展開をめざす。具体的には、各担当講義で使用しているレスポンスシートを学生本人に返却し、ポートフォリオ等を用いて学生自身が自己の学びを客観的に振り返ることができるように支援する。

研究活動については、具体的な成果として、論文投稿1本以上、学会発表1回以上を目標として計画的に進める。

講師 今井 宏美 修士（保健学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は継続している吸引シミュレータの開発に向けた、研究の競争的資金の獲得が課題である。教育活動では引き続き自律的学習の支援を継続すると共に、科研費を中心とした研究成果の学内教育への還元及び臨床に則した顎モデルをメーカーと共同開発し、学生の口腔ケア習得への適用を図る。加えて、実習室の設備整備等の教育環境の整備と、実習施設との密な連絡調整等を実施し、教育体制を整える。併せて社会貢献活動を充実させたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）。
 - ・看護技術論Ⅱ（看護共通技術）。
 - ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント技術）。
 - ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）。
 - ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）。
 - ・基礎看護学実習。
 - ・看護研究。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・今井宏美：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③，P220-228，2017.1. 医学書院，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 今井宏美, 山中紗綾, 金子潤, 鈴鹿裕子, 吉田直美: 歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoster” 動画教材の有効性に関するパイロット研究, 日本歯科衛生教育学会雑誌第7巻第1号, 65-72, 2016. 5.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・今井宏美, 岩城重次: IPW を叫ぶ前にまずは私たちがやります! ~効果的な口腔ケア教材の開発教育場面での活用~, 日本看護技術学会第15回学術集会, 2016. 9. 24-25. 高崎.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・平成28年度看護研究指導. 千葉市海浜病院. 2016年4月~2017年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会会員. 日本環境感染学会会員. 日本看護教育学会. 日本看護技術学会. 日本看護科学学会. お茶の水看護学研究会. 口腔保健協会学会.

2) 学会, 各術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・平成28年度第35回千葉県看護研究学会座長および演題評価. 2016. 2.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・東京医科歯科大学歯科衛生士勉強会. 呼吸を整える援助: 吸引. 歯科衛生士. 2016. 3. 11. 千葉県立保健医療大学.

7 その他

- ・放送大学. 看護師国家試験学習支援ツールの作成, 2016.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・自己点検・評価委員会報告書作成部会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科総務・企画委員会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

科研費の取得には至らなかったが, 取得に向けての基盤づくりのための交流セッションの開催を行い, 額モデルのサンプル作成を行った. 教育活動では専門職としての自己の態度の振り返りを促し, 自己分析の向上を図りつつ, 看護技術修得へ向けての意欲向上を図った. 加えて他学科での講義, 他のコメディカル等との共同研究を実施し, 動画教材を導入し, 本学科教育に還元した. 全学および学科内の委員活動は役割を遂行した.

VII 次年度の目標

平成29年度は口腔ケア修得を促進する額モデルの開発をテーマに科研費の獲得を課題とする. 教育活動では領域内教員の密な意思疎通を図り, 学生の自律的学習の支援を継続する. 併せて, 教育・研究時間の確保を行いつつも, 社会貢献活動を充実させたい.

講師 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、担当する科目の教授内容が最新の知見であるかを見直すとともに、実践や国家試験にも対応できるように心がける。研究に関しては研究成果を論文として投稿できるように努力する。社会貢献については、実習病院から依頼された臨床看護師への指導を積極的に引き受ける。大学の管理・運営に関しては、委員会等で割り当てられた役割を確実に果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・専門職間の連携活動論.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・成人看護学方法論Ⅰ.
- ・成人看護学方法論Ⅱ
- ・成人看護学実習(急性期).
- ・総合実習 (成人看護学領域).
- ・看護研究
- ・看護学統合
- ・看護ふれあい体験学習

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.)

- ・田口智恵美：skill 気管吸引 (開放式・閉鎖式)，3. 救急外来・ICUにおける看護技術B 気管吸引，第Ⅲ章救急時の看護技術，看護学テキストNice 成人看護学成人看護技術 (改訂第2版) (野崎真奈美，林直子，佐藤まゆみ，鈴木久美編)，2017年，南江堂，東京.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 (基盤研究 (C))，ICU 看護師の臨床判断能力を育成・開発するためのシミュレーション教育方法開発，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本クリティカルケア看護学会. 日本循環器看護学会. 日本看護学教育学会. 千葉看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献 (学会・学術団体名，役職，活動期間)

- ・日本クリティカルケア看護学会. 倫理委員会委員，2016年5月～現在.
- ・日本クリティカルケア看護学会. 査読委員，2004年～現在.
- ・日本循環器看護学会. 査読委員，2013年2月～現在.

- ・千葉看護学会. 第23回学術集会. 企画委員. 2016年12月～現在.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）

- ・千葉県救急医療センター. 事例検討指導. 年5回, 看護師. 千葉県救急医療センター.
- ・東京歯科大学市川総合病院. 研究指導. 年4回, 看護師. 東京歯科大学市川総合病院.
- ・実習指導者研修. 千葉県看護協会. 看護過程展開演習指導. 看護師. 10月31日. 千葉県看護協会.

7 その他

- ・高校訪問. 中央学院高等学校, 集団説明. 6月23日.
- ・高校訪問. 市川東高校, 模擬授業. 11月2日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会紀要編集部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議. 教務委員会. 教務委員会実習検討部会. 医療・生活支援看護領域会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、実践や国家試験を意識した内容にすることができ、成果が得られた。社会貢献については、臨床看護師に対して研究指導や事例検討指導を行い、その成果が学会で発表された。大学の管理・運営については、業務を調整しながら与えられた役割を果たすことができた。一方、研究活動については、論文投稿には至らず、次年度の課題となった。

VII 次年度の目標

次年度も引き続き、教育、社会貢献、大学の管理運営に積極的に取り組む。今年度成果を上げることのできなかつた研究については、計画的に実施して成果を公表する。

講師 加藤 隆子 博士（看護学）

対象期間：2016年10月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

後期からの着任であるため、大学組織の一員として、本学の教育理念や組織運営について理解を深めることを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・精神看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・魚津信恵，加藤隆子，高松美保子：解離・転換症状を伴う患者の対人関係における困難 —20 歳代女性の体験に焦点をあてて—，第 23 回日本精神科専門学術集会，H28 年 11 月，新潟。
- ・渡辺尚子，中村博文，加藤隆子：新卒看護師が捉える精神科入院患者の退院支援について，第 36 回日本看護科学学会，H28 年 12 月，東京。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，新卒看護師が捉える精神科入院患者の退院支援について，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本精神保健看護学会，日本精神科看護協会，日本保健医療行動科学学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・H28 年度千葉県看護協会，実習指導者講習会，看護論，臨地実習指導看護師，平成 28 年 10 月 28 日，千葉県ナースセンター。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

後期からの活動であったが，精神看護学実習においては病院の臨床指導者や病棟スタッフとの関係性を築きながら，学生指導が円滑にいくよう取り組むことができた。研究に関しては 2 つの学会発表と投稿中の論文 1 本にとどまったため，次年度は計画的に進めていきたい。また，委員会活動においては看護学科教務委員会において公文書を担当していたが，助言を受けながら進めることが多かった。今後は業務が順調に運ぶよう，担当者間，事務局担当者と連携を取りながら進めていきたい。

VII 次年度の目標

精神看護学方法論の講義や演習，実習をにおいて，学生が主体的に学び，質の高い教育が提供できるよう工夫していきたい。看護学科や全学の委員会に所属し，組織運営について理解し，確実に役割を果たしたい。また，研究活動においては研究の競争的資金を獲得し，研究テーマを発展させることが課題である。

講師 北川 良子 博士（看護学）

対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、助産学実習の総括者として全施設の状況をふまえながら、実習施設担当者との連携を図り、科目責任者に報告し教育内容の検討・修正を提案していく。研究活動においては、研究成果を論文にして発表することができなかったため、学会発表に留まっている研究と自分自身の研究の論文執筆を進めていくことを課題とする。社会貢献事業に参加することができなかったため、学術集会の企画委員を引き受け責務を果たす予定である。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎).
- ・助産診断・技術学Ⅱ(ライフサイクル各期).
- ・助産診断・技術学Ⅲ(分娩期).
- ・助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク分娩).
- ・助産学実習Ⅰ(産婦ケア体験).
- ・助産学実習Ⅱ(継続支援).
- ・助産学実習Ⅲ(分娩期ケア).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・体験ゼミナール.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他(著者:題名,雑誌名,巻,号,ページ,発行年.本人下線)

- ・北川良子, 成田伸: 出産・子育てによる退職後ブランクを経て職業生活を再開した助産師の体験, 栃木県母性衛生学会雑誌「とちぼ」, 43, 22-25, 2017.
- ・北川良子, 成田伸: 助産師の職業生活の変化とその変化に影響する要因, 日本母性看護学会誌, 17 (1), 61-70, 2017.

3 発表(発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等.本人下線)

- ・北川良子, 大滝千智, 林ひろみ, 川村紀子, 石井邦子: 臨地実習指導者が捉える男子学生に対する母性看護学実習の実際, 第18回日本母性看護学会学術集会, 2016年6月18日, 久留米
- ・北川良子, 成田伸: 助産師の職業生活の変化と変化に影響する要因, 第18回日本母性看護学会学術集会, 2016年6月18日, 久留米
- ・林ひろみ, 鈴木幸子, 石井邦子, 大井けい子, 北川良子, 山本英子, 森美紀, 岡津愛子: 改良版模擬産婦養成プログラムの評価ー試行版と改良版の参加者評価の比較ー, 第18回日本母性看護学会学術集会, 2016年6月18日, 久留米.
- ・北川良子, 成田伸: 出産・子育てによる退職後ブランクを経て職業生活を再開した助産師の体験, 第41回栃木県母性衛生学会学術集会, 2016年6月25日, 獨協医科大学.
- ・北川良子, 成田伸: 助産師の職業生活の変化の様相, 第57回日本母性衛生学会学術集会, 2016年10月14-15日, 東京.
- ・山本英子, 鈴木幸子, 石井邦子, 大井けい子, 森美紀, 岡津愛子, 林ひろみ, 北川良子: 模擬産婦を体験した助産師の評価, 第57回日本母性衛生学会学術集会, 2016年10月14-15日, 東京.
- ・岡津愛子, 鈴木幸子, 石井邦子, 大井けい子, 山本英子, 森美紀, 林ひろみ, 北川良子: 胎児心拍陣痛再生装置と模擬産婦を導入した分娩介助演習の効果, 第57回日本母性衛生学会学術集会, 2016年10月14-15日, 東京.

- ・鈴木幸子, 石井邦子, 大井けい子, 山本英子, 森美紀, 林ひろみ, 北川良子, 岡津愛子: 分娩介助演習における模擬産婦の演技とフィードバックに関する評価, 第57回日本母性衛生学会学術集会, 2016年10月14-15日, 東京.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)「長期的に活動できる助産師を育む助産師キャリア発達促進プログラムの開発と検証」研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)「模擬産婦と分娩シーンシナリオ(CTG含む)を活用した分娩介助演習の効果」連携協力者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), ナラティブ・アプローチによる育児困難乳幼児の祖父母支援の検証とガイドラインの創生, 共同研究者.
- ・平成28年度千葉県立保健医療大学共同研究, 「分娩介助演習における助産学生の気づきを促す模擬産婦のフィードバックの要素」, 共同研究者.
- ・平成28年度千葉県立保健医療大学共同研究, 「産後ケアプログラムの効果検証」, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・千葉県助産師会船橋市部会員として, 子育て応援メッセ(船橋)のボランティア. 平成28年10月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性衛生学会, 日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会, 千葉看護学会, 千葉県母性衛生学会, 日本助産師会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本家族看護学会第24回学術集会, 企画委員, (H28.8.1~H29.10.1).

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・特色科目委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学学生進路支援委員会, 4年生担任リーダー.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動において, 講義・演習科目の母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱおよび助産の科目において, 昨年度の自己評価および他者評価を踏まえ教育内容を再検討し学生にとって効果的な学習となるよう取り組むことができた. また, 母性看護学実習および助産学実習の担当教員として, 学内で学習した内容を踏まえ, かつ個々の学生のレディネスに応じた実習支援に取り組み, 担当した学生は全員実習目標を達成することができた. 研究活動においては, 科学研究費および学内共同研究費を獲得し, 研究結果をまとめ, 学会への発表および学会誌への投稿および掲載に至った. 学科運営においては, 看護学科学学生進路支援委員会において担当部会のスムーズな運営に努め, 計画通りに遂行することができた.

Ⅶ 次年度の目標

教育に関しては、母性看護学並びに助産学においてより効果的かつ現場に即した学習内容となるよう講義・演習内容を精選し充実させていく。また助産学実習の総括者として4施設の状況をふまえながら、施設担当者との連携を図り、効果的な教育を円滑に遂行していく。研究活動においては、学会発表に留まっているの論文執筆を進めていくことを課題とする。また平成29年度から新たに科研費を獲得することができたのでライフワークになっている助産師のキャリア支援に関する研究をさらに進めていく。委員会活動においては昨年度から所属委員会が変わり、看護学科教務委員会のカリキュラム実施部会長と拝命した。仕事の内容を十分理解した上で委員長と連会して責務を果たしていく。社会貢献では、学術集会の企画委員を引き受けているため8月の学会が成功するように責務を果たす。

講師 石川 志麻 博士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、具体的な公衆衛生看護実践を素材にした新たな教材開発に取り組みたい。自身の研究成果や国内外の研究成果も教育活動の中に取り入れていきたい。引き続き保健師の現任教育に携わり、実践能力向上への支援方法を迫っていききたい。研究活動では今年度に新たに獲得した科研費における自身の研究課題を積極的に推進したい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・地域看護学方法論Ⅱ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・看護研究
 - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・公衆衛生看護管理展開論（慶應義塾大学）.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・細谷紀子、石川志麻、雨宮有子、佐藤紀子、宮澤早織：地域づくりを意図した保健師活動に関する文献レビュー，日本地域看護学会第19回学術集会，2016年8月26日～27日，宇都宮市。
- ・雨宮有子、佐藤紀子、細谷紀子、石川志麻、丸谷美紀、宮澤早織：保健師が価値を感じた活動体験から形成された考え・スキル—Inner Branding を活用した質の高い保健師活動への支援方法の開発—，日本地域看護学会第19回学術集会，2016年8月26日～27日，宇都宮市。
- ・佐藤紀子、雨宮有子、細谷紀子、石川志麻、宮澤早織：ワークショップに参加した新人保健師のリフレクシオンスキルの特徴，日本地域看護学会第19回学術集会，2016年8月26日～27日，宇都宮市。

- Noriko Hosoya, Saori Miyazawa, Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato : Review on the Community Health Improvement by Japanese Public Health Nurses, The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, July 1~3, Busan, South Korea.
- Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Saori Miyazawa : Facilitators' intent to promote reflection in novice public health nurses. International Collaboration for Community Health Nursing Research International Symposium, September 15~16, Canterbury, UK.
- Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Shima Ishikawa, Saori Miyazawa : A Support Method that Allows New Public Health Nurses to Develop Reflection Skills: Examination of Feedback from Workshop Participants, International Collaboration for Community Health Nursing Research International Symposium, September 15~16, Canterbury, UK.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者）

- 文部科学省科学研究費助成事業（若手B）, 市町村保健師が外部委託を活用するためのマネジメント行為評価ツールの開発, 研究代表者.
- 文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究B）, 高齢者のエンパワメントを促す介護予防事業従事者向け教育プログラムの開発, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費助成事業（挑戦的萌芽）, 公衆衛生看護への意欲を継続し実践の質を高めていくための支援モデルの開発, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）, 災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針, 研究分担者.
- 学長裁量研究, 新人保健師がリフレクションを通じて実践能力を向上する Off-JT の方法とリフレクティブな実践能力評価指標試案の開発, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績（活動団体名称, 委員名称, 活動期間）

- 千葉県国民健康保険団体連合会. 千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会ワーキンググループ. 2016年7月1日~2017年2月28日.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本地域看護学会, 千葉看護学会.

6 講演会（公開講座を含む）/研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所）

- 平成 28 年度千葉県保健活動業務研究発表会, 千葉県健康福祉部, 千葉県内行政保健師, 2017 年 3 月 7 日, 千葉県教育会館.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 図書・情報委員会.

2 学科/専攻内委員会（委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 看護学科学学生・進路支援委員会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科運営会議, 看護学科3年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では昨年度に作成した教材を改善し、講義・演習を行うことができた。研究活動では研究代表者として学長裁量研究費を獲得することができた。一昨年度に引き続き新任保健師の現任教育に携わりつつ、昨年度同様に国保連のワーキングメンバーとして千葉県内のデータヘルス計画担当保健師の支援も行うことができた。

VII 次年度の目標

教育活動においては、基礎教育から新任期の現任教育までつながりを持たせた教材開発に取り組みたい。自身の研究成果や国内外の研究成果も教育活動の中に取り入れていきたい。

講師 塩原 由美子 修士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は講師となり担当講義数が増えるが、全てにおいて質の高い講義を提供できるよう努力する。科研費は初年度となるので、授業や実習との両立をはかり、計画通り進めていく。未だ公表できていない成果があるので、学術論文として公表する。さらに特色科目委員会の部会員となるので、他学科の教員と協働しつつ自身の役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール。
- ・成人看護学方法論Ⅰ。
- ・成人看護学方法論Ⅱ。
- ・成人看護学実習(慢性期)。
- ・総合実習(成人看護学領域)。
- ・看護研究。

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・佐藤まゆみ, 大内美穂子, 塩原由美子他：終末期がん患者への食事/栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難, 第31回日本がん看護学会学術集会, 2017年2月4日, 高知。

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 (若手研究 (B)), 終末期がん患者の食事/栄養サポートを可能にする訪問看護師教育プログラムの開発, 研究代表者。
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 (C)), ICU 看護師の臨床判断能力を育成・開発するためのシミュレーション教育方法開発, 研究分担者。
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 (B)), 外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練, 研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本がん看護学会. 日本看護学教育学会. 千葉看護学会. 日本動物病院協会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）

- ・千葉県がんセンター看護研究会. 研究指導. 看護師. 2016年4月～2016年12月・千葉県がんセンター.
- ・千葉県がんセンター看護研究会講演会. 看護研究論文の書き方. 看護師. 2016年11月22日. 千葉県がんセンター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目委員会体験ゼミナール部会員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議. 看護学科医療生活支援領域会議. 看護学科入試検討委員会. 看護学科学生進路支援委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当した講義については質の高い内容を提供できた。科研費は、年度途中まで計画通り進められていたが、諸事情によりその後着手することが困難となり、予定していた研究計画の実施には至らなかった。過去の研究で得られた成果も、学術論文として公表することができなかった。特色科目については、部会員として他学科の教員と協働して自身の役割を遂行できた。

助教 齊藤 千晶 修士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、教育については、実習環境の変更にもなう調整を行い、学生が効果的な学びを得て満足度の高い実習ができるように努める。また、社会貢献・大学運営については、予定通り遂行できるよう周囲と協働していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児看護学実習.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・放送大学「看護師国家試験学習ツール 第105回」2016.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・齊藤千晶，石川紀子，西野郁子，石井由美：食物アレルギーをもつ中高生のセルフケア行動に関する研究，千葉県立保健医療大学共同研究発表会，平成28年8月30日，千葉県.
- ・齊藤千晶，石川紀子，西野郁子，石井由美，鈴木修一：食物アレルギーをもつ中高生のセルフケア行動の実態，第53回日本小児アレルギー学会，2016年10月9日，前橋市.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），健康障害をもつ子どもときょうだいがいる家庭の子育て力支援ガイドラインの開発，研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究分担者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県子ども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働・調整. 2016年4月～2017年3月.
- ・特定非営利法人千葉アレルギーネットワーク理事. 2016年4月～2017年3月.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会. 日本小児保健協会. 日本小児アレルギー学会. 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会. 食物アレルギー研究会. 千葉看護学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県子ども病院における看護師の看護研究1件の個別研究指導および発表会講評を行った. 平成28年5月～7月個別指導，2月発表会講評1日.
- ・小学校におけるアレルギー緊急時対応研修. 小学校の教職員. 平成28年7月5日. 千葉市立幕張東小学校.
- ・アレルギー大学ベーシックプログラムの緊急時対応研修. 看護師，保育士，養護教諭，栄養士等およびそれらを目指す大学生. 平成28年7月10日. 千葉大学.
- ・小学校におけるアレルギー緊急時対応研修. 小学校の教職員. 平成28年7月19日. 千葉市立幸町第3小学校.
- ・アレルギーの患者会の小中学生向けワークショップ. サークルどんぐり主催. 食物アレルギーをもつ小中学生とそのきょうだい. 平成28年12月23日. 佐倉市西部保健福祉センター.
- ・アレルギーの患者会のワークショップ成果報告会. サークルどんぐり主催. 食物アレルギーをもつ子どもの母親. 平成29年1月18日. 佐倉市西部保健福祉センター.
- ・旅行代理店におけるアレルギー研修会. 旅行代理店職員. 2017年3月16日. 沖縄ツーリスト（株）東京支店.

Ⅴ 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科教務委員会、看護学科倫理審査委員会、看護学科運営会議、看護学科小児看護学領域会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育・社会貢献・大学運営に関することは、予定通りに遂行できた。研究については、前年度の研究の発表と論文投稿で成果をまとめた。昨年度立ち上げた「千葉小児アレルギー・コメディカル」の世話人として教育・医療職者向けの研修に多く携わり、地域貢献にもつなげることができた。

助教 川村 紀子 修士（保健学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、学生の学習効果が向上するよう指導内容を工夫・検討し、学生指導の質を高める。計画的に研究活動を行い活動の幅を広げ、研究成果を報告する。大学運営における円滑な委員会運営となるよう業務を遂行し、社会貢献活動に積極的に参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・川村紀子：周産期看護における安全管理の現状と課題，日本母性看護学会誌，17，1，71-80，2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・北川良子，大滝千智，林ひろみ，川村紀子，石井邦子：臨地実習指導者が捉える男子看護学生に対する母性看護学実習の実際，第18回日本母性看護学会学術集会，2016年6月18日，久留米.
- ・大滝千智，川城由紀子，石井邦子，鳥田美紀代，竹内久美子，川村紀子：介護保険施設および訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の意向，千葉看護学会第22回学術集会，2016年9月10日，千葉大学.
- ・竹内久美子，鳥田美紀代，川村紀子，川城由紀子，大滝千智，石井邦子：介護保険施設および訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職の雇用と業務の実態，千葉看護学会第22回学術集会，2016年9月10日，千葉大学.

- ・川城由紀子, 大滝千智, 石井邦子, 鳥田美紀代, 竹内久美子, 川村紀子: 介護保険施設および訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職に対する期待, 千葉看護学会第22回学術集会, 2016年9月10日, 千葉大学.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・平成26~28年度科学研究費補助金若手研究(B), 周産期におけるインシデント・アクシデントレポートのフィードバックシステムの構築, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会, 日本母性衛生学会, 千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会誌, 編集幹事, 2015年7月24日~現在に至る.

V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科学学生・進路支援委員会, 看護学科総務企画委員会, 看護学科2年生担任.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

学生が教育目標を達成できるよう学習状況に応じた個別的な指導内容を工夫した。研究活動は、計画よりやや遅れたが研究成果を報告することができた。大学の教員としての役割を遂行するため大学運営および社会貢献に積極的に取り組んだ。

VII 次年度の目標

学生の学習効果が向上するよう指導内容を工夫・検討し、学生指導の質を高める。保健医療に貢献できる研究活動に取り組み活動の幅を広げる。大学運営における円滑な委員会運営となるよう業務を遂行し、社会貢献活動に積極的に参加する。

助教 上野 佳代 修士 (老年学)

対象期間: 2016年4月1日~2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に本学の基礎教育活動、学科の委員会活動、社会活動を調整しながら研究活動を計画的に遂行することを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・体験ゼミ.

Ⅲ 研究記録

- 1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)
 - ・瑠璃川正子, 澤岡詩野, 連建夫, 河合秀之, 関屋利治, 上野佳代他; 荻窪家族プロジェクト物語〜住む人・使う人・地域の人みんなでつくり多世代で暮らす新たな住まい方の提案〜第3章3. 荻窪暮らしの保健室, p133-144, 萬書房, 平成28年5月.
- 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)
 - ・鳥田美紀代, 杉本知子, 佐伯恭子, 上野佳代: 要介護高齢者が主体的に療養生活の場を移行するプロセス—国内文献の検討によるプロセスの構造—, 千葉県立保健医療大学紀要, 8巻, 1号, 77-82, 2017.
 - ・山本 由子, 小玉 敏江, 亀井 智子, 上野 佳代: 高齢者のウェルネス型健康生活チェック表の作成—デルファイ法による内容妥当性の検討, 日本看護科学会誌, 36巻 P103-113, 2016. 12
- 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)
 - ・上野佳代. 菊池和美, 長田久雄: 「まちの暮らしの保健室」における研究課題—地域で継続した生活(エイジング・イン・プレイス)実現のために, 日本老年社会学会, 2016. 6. 12.
 - ・菊池 和美, 宮崎 幹和, 長田 久雄, 上野 佳代, 菊池 恵美子: 介護予防サロンのサポーター向けブラッシュアップ講座のニーズ: 参加者へのアンケート調査結果より, 日本応用老年学会大会, 2016. 10. 29.
- 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)
 - ・平成28年度 学内共同研究 (萌芽), 高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の予防: 通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態, 研究分担者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

- 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)
 - 2) 千葉県外
 - ・荻窪暮らしの保健室において, 看護職として月に1~2回の土曜日に健康相談をうけている. 荻窪暮らしの保健室(東京都杉並区).
 - ・杉並区大人塾祭り「荻窪暮らしの保健室」出展—保健室の紹介—セッション杉並 (東京都杉並区).
- 5 学会, 学術団体への貢献
 - 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本老年看護学会. 日本老年社会学会. 日本応用老年学会. 日本看護科学学会. 日本看護診断学会.
 - ・桜美林大学加齢・発達研究所.
 - 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・桜美林大学加齢・発達研究所 連携研究員 2008年~継続中.
- 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)
 - ・板橋中央総合病院 研究指導—年6回—看護師. (東京都板橋区).
 - ・神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師 (グループワークアドバイザー). 年4回. 「看護教育課程演習 (各看護別)」。教員・教育担当者養成課程—看護コースの学生. (横浜市旭区).

Ⅴ 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科入試検討委員会、看護学科総務企画委員会、看護学科2年担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、4年次生への高齢者看護学実習における学内演習講義及び、看護学方法論Ⅱの講義を行った。根拠づけを大切に説明を行い、学生が講義や演習内容を臨地実習で活かせるようにした。

研究活動では、高齢者を対象とした学会において、ポスター発表や、シンポジウムへの参加を通して、最新の看護事情を把握することで、学生指導に活かすことができた。社会活動は、教育活動、研究活動の調整をしながら貢献ができた。

昨年度課題としていた自身の研究については、倫理審査を経て調査を開始できた。成果のまとめには至っていない。さらに計画的に遂行する努力が必要である。

VII 次年度の目標

教育活動では、今年度に引き続き、高齢者看護学実習、総合実習における実習指導では、当学生に対して学習効果のある指導方法の工夫を行う。加えて担当する授業内容の検討と精選に努める。大学における運営活動においては積極的に責務を果たせるように取り組む。研究活動については、計画的にすすめ終了した調査における成果を投稿することを目標とする。

助教 佐伯 恭子 修士（人間科学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、講義、実習、看護研究などの教育全般において、前年度の経験を活かして質向上に努め、特に実習については本学が初めて実習に入る施設を担当するため、施設側と密に連携し、よりよい実習環境になるよう取り組むことを目標とした。研究活動については、自分の研究テーマに取り組む時間を確保できるように、計画的に業務に取り組むことを目標とした。大学の管理運営については、引き続き責任をもって自分の役割を果たせるように取り組むことを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ。
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ。
 - ・高齢者看護学実習。
 - ・総合実習（高齢者看護学）。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・佐伯恭子：第2章 高齢者のくらしを支える援助 VIII食事の援助、亀井智子編集、新体系看護学全書 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 第4版、100-112、2016、メヂカルフレンド社、東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・鳥田美紀代，杉本知子，佐伯恭子，上野佳代：要介護高齢者が主体的に療養生活の場を移行するプロセス —国内文献の検討によるプロセスの構造—，千葉県立保健医療大学紀要，第8巻，第1号，77-82，2017.
- ・有江文栄，桂川純子，佐伯恭子，大西香代子：看護研究倫理の課題：研究倫理教育に焦点を当てて，日本看護倫理学会誌，9(1)，45-52，2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鳥田美紀代，杉本知子，佐伯恭子，上野佳代：要介護高齢者の主体的な療養生活の移行に関連する要因 —国内文献による検討—，日本老年看護学会第21回学術集会，2016年7月23-24日，大宮ソニックシティ.
- ・有江文栄，佐伯恭子，桂川純子，大西香代子：交流集会：看護研究における倫理を一緒に学び考えましょう，日本看護倫理学会第9回年次大会，2016年5月21-22日，京都テルサ.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），在宅療養強化型老健における要介護者主体の在宅移行のための看護実践モデルの開発，平成27年度～平成29年度，連携研究者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），がん高齢者の地域生活への移行と継続を支援する看護師のスキルアップ教育枠組みの構築，平成28年度～平成30年度，研究分担者.
- ・平成28年度千葉県立保健医療大学学内共同研究費，高齢者のノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の予防：通所・入所・訪問サービス提供者の認識と行動の実態調査，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生命倫理学会．日本医学哲学・倫理学会．日本看護科学学会．日本看護倫理学会．日本老年看護学会．千葉看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本看護倫理学会，監事，平成27年6月～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・チーム医療（東京，京都）．演習補助．一般社団法人日本精神科看護協会．チームアプローチ論 2．精神科認定看護師資格取得を目指す者．平成28年7月15日（東京），平成28年7月29日（京都）.
- ・高齢者看護倫理研修．千葉県立佐原病院看護師．平成28年6月3日・平成29年2月20日．千葉県立佐原病院（千葉）.

7 その他

- ・事例検討会への参加．千葉県立佐原病院副看護師長．高齢者看護に関する事例検討．平成28年7月から12月（月1回）．千葉県立佐原病院または千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会．看護学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動は、講義・演習・実習のいずれにおいても、毎年少しずつ増えている中でも、経験を重ねることが自信にもつながっており、今後も丁寧に取り組んでいきたい。研究活動では、共同で取り組んでいるものについては少しずつ成果が出ており、また教科書の一部の執筆という新しい経験もできた一方で、研究費獲得や筆頭著者の論文投稿はできなかった。今後は、業務の時間配分や優先順位を考えて研究活動にも時間やエネルギーを費やせるよう努力する必要がある。大学管理運営については、担当業務を積極的に責任をもって遂行することができた。

VII 次年度の目標

平成 29 年度は、教育活動では担当講義および演習が各 1 つ増えるため、質を保つことができるよう科目責任者の指導を受けながら準備する。臨地実習では、知識と実践のつながりを意識した指導を心がける。研究については、成果を発信できるよう、自律的かつ計画的に取り組む。大学管理運営については、学科での所属委員会が変わるため、年間スケジュールや業務内容を確認しながら他の委員とも協力して取り組む。

助教 宮澤 早織 修士（看護学）

対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、地域看護学実習では、学生の個性に応じた関わり方を工夫すると共に、実習プログラムがより充実したものとなるよう、各実習施設の担当者との連携を強化したい。研究活動では、共同研究者として、それぞれの研究への貢献度を高める。また、自らの研究テーマについても研究費を獲得し、より積極的に取り組んでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細谷紀子，石川志麻，雨宮有子，佐藤紀子，宮澤早織：地域づくりを意図した保健師活動に関する文献レビュー，日本地域看護学会第 19 回学術集会，2016 年 8 月 26 日～27 日，宇都宮市。
- ・雨宮有子，佐藤紀子，細谷紀子，石川志麻，丸谷美紀，宮澤早織：保健師が価値を感じた活動体験から形成された考え・スキル—Inner Branding を活用した質の高い保健師活動への支援方法の開発—，日本地域看護学会第 19 回学術集会，2016 年 8 月 26 日～27 日，宇都宮市。
- ・佐藤紀子，雨宮有子，細谷紀子，石川志麻，宮澤早織：ワークショップに参加した新人保健師のリフレクションスキルの特徴，日本地域看護学会第 19 回学術集会，2016 年 8 月 26 日～27 日，宇都宮市。
- ・Noriko Hosoya, Saori Miyazawa, Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato: Review on the Community Health Improvement by Japanese Public Health Nurses, The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, July 1～3, Busan, South Korea.

- Shima Ishikawa, Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Saori Miyazawa : Facilitators' intent to promote reflection in novice public health nurses. International Collaboration for Community Health Nursing Research International Symposium, September 15~16, Canterbury, UK.
- Yuko Amamiya, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Shima Ishikawa, Saori Miyazawa : A Support Method that Allows New Public Health Nurses to Develop Reflection Skills: Examination of Feedback from Workshop Participants, International Collaboration for Community Health Nursing Research International Symposium, September 15~16, Canterbury, UK.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 科学研究費助成事業（基盤研究（B）），高齢者のエンパワメントを促す介護予防従事者向けプログラムの開発，研究分担者。
- 科学研究費補助金（基盤研究（C）），保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，研究分担者。
- 科学研究費助成事業（基盤研究（C）），災害時の共助を意図した住民主体の健康な地域づくりを推進する行政保健師の活動指針，研究分担者。
- 学内共同研究（若手），飲酒問題を抱える子育て中の女性に対する行政保健師の支援の実態，研究代表者。
- 学長裁量研究，新人保健師がリフレクションを通じて実践能力を向上するOff-JTの方法とリフレクティブな実践能力評価指標試案の開発，研究分担者。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，千葉看護学会，日本アルコール関連問題学会，日本公衆衛生看護学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 教務委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

地域看護学実習では，学生の個別性に応じた関わり方を工夫したこと，実習プログラムがより充実したものとなるよう，各実習施設の担当者との連携を強化したことにより，学生の「地域看護学」および「保健師活動」への関心を高めることができた。研究活動では，研究分担者として，それぞれの研究に貢献した。自らの研究については学内共同研究費を獲得し，平成28年度の研究計画を概ね達成することができた。

VII 次年度の目標

教育活動では，特に地域看護学実習において，実習プログラムがより充実したものとなるよう，各実習施設の担当者との連携をさらに強化することで，学生の学習意欲を高めていきたい。研究活動では，共同研究者として，それぞれの研究への貢献度を高める。自らの研究については，前年度の研究成果を社会に還元すると共に，新たに研究費を獲得し，これまでの研究で得た知見をさらに深めていきたい。

助教 小野 真希子 博士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

講義・演習・実習では、各科目間のつながりを意識し、学習成果が積み重なるよう指導していく。研究活動では、外部資金の獲得も含め、より積極的に取り組んでいく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護技術論Ⅰ (生活援助技術).
 - ・看護技術論Ⅱ (看護共通技術).
 - ・看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術).
 - ・看護技術論Ⅳ (検査治療技術).
 - ・看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術).
 - ・基礎看護学実習.

III 研究記録

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・小野真希子, 小川純子, 鈴木美和, 田中秀子, 臨地実習全領域を通して活用できる「臨地実習ルーブリック」の作成と試用 -学生および教員への効果-, 第36回日本看護科学学会, 2016.12.10., 東京.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会, 日本生理学会, 千葉看護学会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・東京歯科大学市川総合病院 平成28年度看護研究, 研究指導.

7 その他

- ・交流集会の企画, 全臨地実習に共通したルーブリック開発の取り組み, 第36回日本看護科学学会, 2016.12.11

V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会, 看護学科1年担任.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では、講義および演習を一部担当し、昨年度より学生がイメージしやすいように改善した内容で実施することができた。研究活動では、学会発表や交流集会において研究成果を共有することができた。

助教 大内 美穂子 修士 (看護学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、科目責任者の指導の下、担当させていただき講義の内容の評価と改善を図る。科学研究費補助金に研究計画書の申請を行う。委員会では、業務が円滑に進むように他教員に相談して、自分の役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・救命・救急の理論と実際.
 - ・成人看護学方法論Ⅰ.
 - ・成人看護学方法論Ⅱ.
 - ・成人看護学実習(急性期).
 - ・総合実習 (成人看護学領域).

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・佐藤まゆみ, 大内美穂子, 塩原由美子他：終末期がん患者への食事/栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難, 第31回日本がん看護学会学術集会, 2017年2月4日, 高知.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 (若手研究 (B)), 終末期がん患者の食事/栄養サポートを可能にする訪問看護師教育プログラムの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 (C)), ICU 看護師の臨床判断能力を育成・開発するためのシミュレーション教育方法開発, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 (B)), 外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会. 日本がん看護学会. 日本看護学教育学会. 千葉看護学会. 日本遠隔医療学会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等. 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県がんセンター看護研究会. 研究指導. 看護師. 2016年4月～2016年12月・千葉県がんセンター.

V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・看護学科運営会議. 看護学科医療生活支援領域会議. 看護学科総務企画委員会. 看護学科学生進路支援委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

科目責任者の指導の下，担当した講義については昨年度の授業を評価・見直し，より良い内容を提供できた．共同研究者として，研究参加したり，研究方法を学習したりすることができた．科学研究費助成金の計画書申請を行ったが，自分の研究遂行は不十分だったと思うので，来年度の課題とする．委員会では諸事情により途中で他教員に依頼する部分が多くなったが，依頼前の役割は果たせた．

助教 椿 祥子 修士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は，保育園における障害児への看護支援についての事例報告の発表が課題である．教育活動では，本学の物品購入システムを理解し，教育目標に沿った授業が行えるよう授業や演習の準備を行うとともに，学生が効果的な自己学習ができるよう実習室環境を整備することが課題である．

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
- ・看護技術論Ⅱ（看護共通技術）.
- ・看護技術論Ⅲ（フィジカルアセスメント技術）.
- ・看護技術論Ⅳ（検査治療技術）.
- ・看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）.
- ・基礎看護学実習.
- ・看護学統合.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本小児保健協会. 日本看護科学学会. 日本看護教育学会. ナイチンゲール学会. 文化看護学会.
全国保育園保健師看護師連絡会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動では、倫理審査を通したが、研究協力の説明後、同意が得られなかったため、継続ができなかった。共同研究者としてフィジカルアセスメントに関する調査に参加し集計を行った。教育では、他の教員とのコミュニケーションを取りながら、本学での物品購入システムに則りながら、物品の準備を行うことができた。効率的な自己学習が行えるための実習室環境の整備は十分には行えなかった。

Ⅶ 次年度の目標

重症心身障害児の家族のヘルスリテラシーについての研究における科研費取得が課題である。教育活動では、4月から新たに着任する教員とコミュニケーションをとりつつ、教育目標に沿った授業が行えるよう授業や演習の準備を行うとともに、学生が効果的な自己学習ができるよう実習室環境を整備することが課題である。

助教 大滝 千智 修士（看護学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、学生が主体的に学習に取り組み、明らかになった課題や新たに学んだことを今後の学習にいかしていけるような指導を行う。研究に関しては、学会発表や論文投稿を行い、これまでの研究成果を発信する。社会貢献としては、会計幹事として役割を遂行し、他の社会貢献活動を充実させる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・大滝千智：系統別看護師国家試験問題 解答と解説 2017年版，2016，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大滝千智，石井邦子，日下和代，麻生智子，岡田忍：更年期女性における口腔の健康とQOLおよび口腔保健行動に関連した要因，千葉県立保健医療大学紀要，第8巻，第1号，19～25，2017.

- ・大滝千智：働く女性の月経痛軽減の対処行動に関連する要因，母性看護学会誌，第17巻，第1号，53～60，2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・大滝千智：働く女性の月経痛軽減の対処行動に関連した要因，第18回母性看護学会学術集会，2016年6月18日，久留米市 石橋文化センター.
- ・北川良子，大滝千智，林ひろみ，川村紀子，石井邦子：臨地実習指導者が捉える男子看護学生に対する母性看護学実習の実際，第18回母性看護学会学術集会，2016年6月18日，久留米市 石橋文化センター.
- ・大滝千智，川城由紀子，石井邦子，鳥田美紀代，竹内久美子，川村紀子：介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職雇用の意向，千葉看護学会第22回学術集会，2016年9月，千葉大学大学院看護学研究科.
- ・川城由紀子，大滝千智，石井邦子，鳥田美紀代，竹内久美子，川村紀子：介護保険施設及び訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職に対する期待，千葉看護学会第22回学術集会，2016年9月，千葉大学大学院看護学研究科.
- ・竹内久美子，鳥田美紀代，川村紀子，川城由紀子，大滝千智，石井邦子：介護保険施設および訪問看護ステーションにおけるセカンドキャリア看護職の雇用と業務の実態，千葉看護学会第22回学術集会，2016年9月，千葉大学大学院看護学研究科.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成25～29年度科学研究費補助金基盤研究（B），歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質向上に対する研究，研究分担者.
- ・平成28年度学内共同研究，産後ケアの効果の検証，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性衛生学会. 日本母性看護学会. 日本看護科学学会. 千葉県母性衛生学会. 千葉看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県母性衛生学会，幹事. 2014年4月1日～現在に至る.

7 その他

- ・放送大学. 看護師国家試験学習支援ツール. 2016.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会. 看護学科運営会議. 看護学科3年生担任.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては，学生自身が主体的に学習に取り組めるように実習指導者と調整を行い，自己の学習過程を客観的に評価できるように指導を行った。研究に関しては，学会での発表と学会誌への投稿を行い，これまでの研究成果を発信することができた。社会貢献としては，学会の会計幹事として正確で明瞭な会計収支となるように役割を遂行することができた。

助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2016年10月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は後期からの着任となった。教育に関しては、講義補佐を行いながら領域で行われている教育内容等を理解し、科目責任者、領域の先生方の下、領域実習における指導で学生の学びが多い内容となるよう努力する。大学の運営業務に関しては、委員会の先生方の下、着実にを行う。研究に関しては、着任前より取り組んでいる研究題目を継続し、研究成果を発表すること、また来年度以降取り組む新たな研究課題の準備を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・成人看護学実習（慢性期）。
 - ・成人看護学実習（急性期）。

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・坂本明子，正木治恵，大原裕子，黒田久美子：他職種からみた高齢者ケアの継続・連携に関するチーム医療を促進する看護師のコーディネイト機能，第36回日本看護科学学会学術集会，2016年12月11日，東京国際フォーラム。
- ・坂本（上床）明子：慢性心不全とともに生きる在宅後期高齢者の再入院を予防する訪問看護ケア，第13回日本循環器看護学会学術集会，2016年10月23日，宮城県仙台市 仙台国際センター。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会。日本循環器看護学会。日本慢性看護学会。日本老年看護学会。看護質的統合法研究会。日本アロマコーディネーター協会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議。看護学科教務委員会。看護学科医療生活支援領域会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

領域での教育内容を理解し、領域実習において、患者様が示した症状や現象を理論や既習資料を用いて説明し、体得できるよう支援を行えた。実習記録の作成・看護計画の立案・実践が難しい学生には、困難の原因について、図式化して共に考え、気づきを促し、打開方法を示して学習を再開できるよう支援を行った。研究に関しては、研究結果の成果報告として筆頭者で2つの題目の発表を行い、質疑応答より考察の新しい視点を持つことができた。来年度原著論文の投稿を行えるようすすめていく。

Ⅶ 次年度の目標

来年度は、科目責任者の指導の下、講義方法や研究方法について学び、よりよい教育・指導ができるよう自己研鑽する。研究に関しては、今年度は過去の研究発表を学術論文としてまとめることができなかつたので、原著論文投稿をすすめ、社会に還元していくとともに、新たな研究課題についてもすすめていく。

助教 栗林 一人 修士（保健学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

学生への教育、大学の管理運営業務を、科目指導者、委員会の先生方の下、着実に進行。精神看護学領域における講義、実習が充実し、学生の学びが多い内容となるよう努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・精神看護学方法論。
- ・精神看護学実習。
- ・総合実習。
- ・看護研究。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・産業精神保健学会。日本看護科学学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議。看護学科教務委員会。看護学科総務・企画委員会。

Ⅵ 評価（成果および改善すべき事項）

講義においては、具体的な事例を交え、学生が精神看護学の知識、技術、根拠を理解しやすいように講義資料を作成し、学生の理解度を質問等で把握しつつ双方向の授業を展開した。実習においては、事前に管理者や実習指導者、スタッフの意見を聞き、効果的な実習となるよう調整した。実習中も、患者や、実習指導者、学生等の意見を聞き、困っていることはないか、改善策について話し合っていた。研究に関しては、研究の時間を捻出することに苦労する部分はあったが、論文をジャーナルに投稿し、査読を受けている段階に至った。教務委員会の活動では、JANPUの大学紹介ページに、本学の紹介文、写真を掲載し、受験生等に本学に興味を持ってもらえるようにアピールした。総務・企画委員会では、共同研究室、標本室の管理、学科長選挙を実施することができた。

VII 次年度の目標

平成 29 年 3 月にて退職。

栄養学科

教授 土橋 昇 修士（農学） 博士（農学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、特に学科長として学科および大学の運営の円滑化と教育、研究の充実ならびに管理栄養士国家試験の 100%合格および就職率 100%の達成。さらに、入試実施部会長として H29 年度の各入学試験の円滑的実行。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 食品学総合演習.
- ・ 理化学演習.
- ・ 食品加工学演習.
- ・ 食品微生物学.
- ・ 総合演習.
- ・ 卒業研究.
- ・ 体験ゼミナール.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・ 発酵食品実習.（東京バイオテクノロジー専門学校）.
- ・ 食品化学分析実習.（東京バイオテクノロジー専門学校）.
- ・ 発酵食品学.（東京バイオテクノロジー専門学校）.
- ・ 食品微生物実習.（東京バイオテクノロジー専門学校）.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ ちば食育ボランティア. 2005年4月1日～現在に至る.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・ 千葉県調理師試験委員.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本農芸化学会. 日本生化学会. 日本ビタミン学会. 日本栄養・食糧学会. 日本栄養改善学会.
日本食品低温保蔵学会. 日本衛生学会. 日本食品科学工学学会. 日本食育学会. 日本学校保健学会.
日本災害食学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・ 日本栄養改善学会、評議員. 2006年11月～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 教授会（大学）、大学運営委員会、自己・点検評価委員会、将来構想委員会、入試委員会、FD委員会、入試実施部会、入試評価部会、教員資格審査委員会、キャンパス・ハラスメント防止委員会、防火対策委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 学科長、栄養学科教授会、栄養学科学科運営会議、国試対策委員。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育分野では4年制大学の卒業生としての素質（一般教養、専門性）を持つ人材の育成を行った。学科長として2回/月の割合で学科会議を開催し、教授会をはじめ委員会の議事内容、学生の現状について、教員への共通認識を促した。学生募集の分野では、オープンキャンパスの開催、特別選抜、編入学および一般選抜の各入学試験に貢献できた。卒業研究の履修生を2名担当。4期生の卒業生は23名。全員卒業の目標を達成。管理栄養士の国家試験合格者は23名【合格率100%（全国平均92.4%）】。就職率は100%だった。定年退職に備え、引継ぎも順調に終了した。

教授 長谷川 卓志 博士（医学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に教育に関しては、国家試験を念頭に、わかりやすい講義に努め、教材等への改善を行う。研究では、公衆衛生の観点から、地域特性を解析する最新の手法を導入する。さらに保健所等との共同研究連携を進める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 体験ゼミナール。
- ・ 健康論。
- ・ 公衆衛生Ⅰ。
- ・ 公衆衛生Ⅱ。
- ・ 疫学統計Ⅰ。
- ・ 疫学統計Ⅱ。
- ・ 保健医療福祉論Ⅱ。
- ・ 総合演習。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・ 長谷川卓志：日本の人口動態統計からみた老衰死亡割合の地域差について、社会医学研究, 34, 89-93, 2017。
- ・ 長谷川卓志：認知症対策に関する社会医学的考察, 社会人文学会雑誌, 13, 73-82, 2016。
- ・ 長谷川卓志, 藤川真理子：アスベスト対策における建築と保健衛生の多職種連携, 社会人文学会雑誌, 14, 21-27, 2017。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 平沢マキ，三津越千絵，諸澤実袖，渡邊由望，宮本佳代子，長谷川卓志：高齢者施設における食事摂取量調査，63回日本栄養改善学会総会，2016.
- ・ 長谷川卓志：認知症対策に関する社会医学的考察，14回社会人文学会，2016.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本老年医学会，日本高血圧学会，日本糖尿病学会，日本公衆衛生学会，日本社会医学会，日本社会人文学会，日本栄養改善学会，日本健康教育学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・ 日本老年医学会代議員
- ・ 日本社会人文学会第23回大会委員長（～2016.8.24）
- ・ 日本老年医学会査読委員
- ・ 日本社会医学会査読委員

7 その他

- ・ 仁済大学学術交流協定書調印式，28年8月23日

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 教授会，教員資格審査委員会，共通教育運営委員会，図書情報委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 栄養学科教授会，栄養学科運営会議，入試委員.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ オープンキャンパス相談員，大学説明会，模擬講義（県立君津高校）.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では，授業評価の結果等一定の評価が見られた．教材の改善もみられた．さらに国家試験の結果も目標に沿うものであった．研究においても当初の目標に到達する成果を得た．

VII 次年度の目標

教育：国家試験の合格率は安定した成果が出ている．今後はさらに発展的な学習内容を加えて，実践的な能力を養うべく教材の内容を強化する．

研究：新しい公衆衛生，統計手法を用い地域研究等すすめる．

教授 渡邊 智子 博士（医学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

27年度の総括を踏まえ、教育、研究、大学の運営、社会貢献などにベストを尽くす。それぞれに関わる方々と連携・共働し努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 千葉県の健康づくり (特別講義 I).
- ・ 職種間の連携活動論.
- ・ 食育論 I.
- ・ 食育論 II.
- ・ 食事設計と栄養.
- ・ 調理実習.
- ・ 食事設計と調理実習.
- ・ 調理科学実験.
- ・ 食生活教育論.
- ・ 学校栄養教育論.
- ・ 教職実践演習.
- ・ 卒業論文.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・ 新潟大学医歯学総合研究科口腔健康学講座の大学院生 (博士課程栄養分野) 5名の博士論文のための研究指導 (1名は学位を取得した), 2016年4月~2017年3月.
- ・ 長野県短期大学 特別講義, 長野県短期大学, 日本食品標準成分表とは~活用のポイントと 2015年版 (七訂) 改訂にあたって~, 長野県短期大学 生活科学科 健康栄養専攻 1, 2年, 2016. 7. 7, 長野県短期大学.
- ・ 女子栄養大学 特別講義, 女子栄養大学, 栄養士実践セミナー 特別講義, セミナー受講者, 2016. 10. 18, 女子栄養大学 坂戸キャンパス.
- ・ 管理栄養士演習 I 特別講演, 相模女子大学, 日本食品成分表 2015の活用について, 管理栄養学科 3年生, 2016. 6. 11, 相模女子大学.
- ・ 平成 28年度 緑窓栄養士会 特別講演会, 東京家政大学 緑窓栄養士会, 日本食品標準成分表 2015年版 (七訂) について, 緑窓栄養士会会員 東京家政大学卒業生・栄養科教職員・在校生, 2016. 6. 18, 東京家政大学.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・ 監修: 日本栄養改善学会, 著者: 伊達ちぐさ, 吉池信男, 渡邊智子他: 食事調査マニュアル改訂 3版, 2016年6月, 南山堂, 東京.
- ・ 渡邊智子, 都築毅: 和食文化ブックレット 4 和食と健康, 2016年8月, 思文閣, 京都.
- ・ 黒川清監修, 中尾俊之, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆他編著: 腎臓病食品交換表 9版治療食の基準, 2016年9月, 医歯薬出版, 東京.
- ・ 文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会 (安井明美, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆他) 編: 日本食品標準成分表 2015年版 (七訂) 追補, 2017年1月, 全国官報販売協同組合, 東京.
- ・ 森高初恵, 渡邊智子, 板垣康治: サクセス管理栄養士講座 食べ物と健康 1 [食品学][食品機能学] 2016年, 6月, 第一出版, 東京.
- ・ 大橋麻美, 鈴木亜夕帆, 渡邊智子: 食育用クリアファイル「元気の 60歳からのけんこう掲示板」, 2017年3月, 千葉県立保健医療大学, 千葉.
- ・ 岡瑞希, 鈴木亜夕帆, 渡邊智子: 食育用クリアファイル「がんばりすぎない朝ごはんのすすめ」, 2017年3月, 千葉県

立保健医療大学, 千葉.

- ・ 大谷美佳, 鈴木亜夕帆, 渡邊智子: 食育用パンフレット「せいかつすごろく」, 2017年3月, 千葉県立保健医療大学, 千葉.

2 学術論文・その他(著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ 渡邊智子: 日本食品標準成分表 2015 年版の概要と活用, 学校給食, 67 巻 4 号, P31~41, 2016 年.
- ・ 渡邊智子: 日本食品標準成分表 2015 年版(七訂)改訂のポイント~栄養表示義務化の中での成分表の役割~, 製パン技術資料, No, 830, P1-18, 2016 年.
- ・ 渡邊智子: 日本食品標準成分表 2015 年版(七訂)を使ってみよう!, キューピーニュース, 2016 年 3 月号, P505-13~505-22, 2016 年.
- ・ 渡邊智子: 日本食品標準成分表 2015 年版(七訂)改訂のポイント, 食品と科学, 58 巻 7 号, P59~65, 2016 年
- ・ 渡邊智子: 特集日本食品標準成分表 2015 年版一改訂の背景を知り, 食品・栄養への理解を深める 菓子類, 調味料類, 調理加工食品類, 臨床栄養, 129 巻 1 号, P70~76, 2016 年 7 月.
- ・ 渡邊智子: 特集日本食品標準成分表 2015 年版一改訂の背景を知り, 食品・栄養への理解を深める 食品成分表 2015 年版のそう菜, 臨床栄養, 129 巻 1 号, P77~80, 2016 年.
- ・ 渡邊智子: 水道水の無機質, 臨床栄養, 129 巻 1 号, P86~87, 2016 年.
- ・ 渡邊智子, 鈴木亜夕帆: 日本食品標準成分表 2010 掲載食品の調理による成分変化率の算定と適用—重量, エネルギー, 一般成分, 脂肪酸, コレステロール, 食物繊維—, 日本食生活学会誌, 27 (3), P175-184, 2017 年.
- ・ (インタビュー) 渡邊智子: 日本食品標準成分表 2015 年版(七訂) 改訂の概要と活用のポイント, 臨床栄養, 128 巻 3 号, P338~347, 2016 年 3 月.
- ・ (監修) 渡邊智子: 新・食品成分表で比較してみました, 学校給食, 67 巻 4 号, P42-43, 2016 年 4 月.
- ・ (インタビュー) 渡邊智子: 「鉄充分」むずかしくなった? 「日本食品標準成分表 2015 年版(七訂)」のとらえ方, 栄養と料理, 82 巻 4 号, P118~120, 2016 年 4 月.
- ・ (監修) 渡邊智子: 食品成分表③野菜の下処理のデータはどう見たらいい?, 栄養と料理, 82 巻 5 号, P118, 2016 年 5 月.
- ・ (監修) 渡邊智子: 特集毎日の暮らしに活用したい! 改訂版 日本食品標準成分表, 全国の J A 広報通信, http://lakeootu.jp/info/whats_new/201605seibunhyo.html, 2016 年 6 月.
- ・ (監修) 渡邊智子: 食品成分表⑤もっとお菓子のカロリーを知りたいときは?, 栄養と料理, 82 巻 7 号, P50, 2016 年 7 月.
- ・ 渡邊智子: 食品成分表⑥一般的な「そう菜」の標準値が活用できるようになった, 栄養と料理, 82 巻 10 号, P118-120, 2016 年 10 月.
- ・ 渡邊智子 (解説): 成分表を使う時に留意点, 文部科学広報 2016 年 10 月号/No.203, p22-25, 2016 年 10 月

3 発表(発表者: 発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ 鈴木亜夕帆, 阿曾(染矢)菜美, 海老原泰代, 田村友峰子, 三宅理江子, 滑川美朝, 渡邊智子: 学生を対象とした大学生のための食生活支援パンフレットの作成, 日本調理科学会平成 28 年度大会, 2016 年 8 月 28 日, 名古屋市.
- ・ 渡邊智子, 柳沢幸江, 今井悦子, 石井克枝, 大竹由美, 梶谷節子, 鈴木亜夕帆, 中路和子, 米田千恵: 別企画 1 「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理」 千葉県の家庭料理 主食の特徴 —豊かな自然が育んだ米料理—, 日本調理科学会平成 28 年度大会, 2016 年 8 月 28 日, 名古屋市.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・ 第 63 回日本栄養改善学会, 教育講演 日本食品標準成分表 2015 年版(七訂)~改訂の要点と活用~, 2016 年 9 月 8 日, 青森.
- ・ 第 63 回日本栄養改善学会, シンポジウム(企画と座長)「日本食品標準成分表を实践, 研究, 教育に活用しましょう」 2016 年 9 月 8 日, 青森.
- ・ 2016 International Conference of the Korean Nutrition Society, Session 1. Functional Food Food composition table in Japan, 2016 年 10 月 21 日, Jeonju-si Korea.
- ・ 第 4 回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会, 第 4 回日本栄養改善学会九州・沖縄支部, 日本栄養改善学会, 講

演 日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）の理解と活用について，2016 年 9 月 17 日，福岡市中村学園大学。

- ・平成 28 年度一般社団法人日本調理科学会講演会，和食と食品成分表，2016 年 11 月 26 日，世田谷区東京農業大学。
- ・東京都学校給食研究会「特別講演会」，「日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）の改訂のポイント」－成分表の使い方と食育への活用について－，2016 年 5 月 10 日，東京都学校給食会館。
- ・公益社団法人長野県栄養士会第 5 回通常総会特別講演，日本食品標準成分表 2015 年版 その概要と使い方，長野県栄養士会会員，2016 年 5 月 28 日，長野県農協ビルアクティール。
- ・青森県栄養士会栄養学術研究会 特別講演，日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）理解と活用，青森県栄養士会会員，2016 年 5 月 29 日，リンクステーションホール青森。
- ・市川市保健所管内栄養士会総会 記念講演，「日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）の概要と活用について」，2016 年 5 月 24 日，市川保健所。
- ・日本臨床栄養研究会，山口県栄養士会，日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）の活用，山口県栄養士会会員及び管理栄養士・栄養士，2016 年 7 月 2 日，山口県セミナーパーク。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学技術・学術政策局 政策課委託費，食品成分表の基礎データに関する研究，研究代表者。
- ・学長裁量研究費，千葉県における栄養教諭および食育の現状と課題，研究代表者。
- ・学長裁量研究費，千葉県立保健医療大学のための調理実習を行う食育プログラムの実施と評価Ⅱ：研究分担者。
- ・日本調理科学会特別研究費，次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・食育・健康づくり活動（千葉市食育のつどい 2016），2016 年 6 月 25 日，千葉市 イオンモール幕張新都心 ファミリーモール（ちば食育応援隊によるステージ，ブースの総括）。
食育・健康づくり活動（幕張ベイタウン祭り 2016），2016 年 5 月 21 日，千葉市幕張ベイタウン，（ちば食育応援隊によるステージ，ブースの総括）。
- ・食育・健康づくり活動（幕張ベイタウン夏祭り 2016），2016 年 8 月 19 日，千葉市幕張ベイタウン，（ちば食育応援隊によるステージ，ブースの総括）。
- ・食育・健康づくり活動（千葉市食育情報誌 Vol. 2 掲載のちば食育応援隊による料理開発，小学校での親子料理教室），2016 年 5 月～11 月，千葉市保健福祉局健康部健康支援課。
- ・食育・健康づくり活動（コープみらいフェスタきやっせ物産展 2016），2017 年 2 月 26 日，幕張メッセ，（ちば食育応援隊によるステージ，食育教室の総括）。
- ・「高校生のための食育：グーパー食生活」のリーフレットと指導案の作成（依頼：千葉県教育委員会），2016 年（総括）。
- ・ちば食育研究会（ちば食育応援隊：千葉県ちば食育ボランティア登録団体）代表。地域の食育活動の実践，2006 年～現在，千葉市。
- ・NPO 法人千葉自然学校 理事。2009 年～現在，千葉市。
- ・千葉県立衛生短大栄養学科卒業生有志のネットワーク（約 200 名）構築・運営，栄養情報求人情報を提供，2006 年～現在。
- ・千葉県農林水産部「おいしさいっぱい！」ちばの恵み体験ツアー事業，2017 年 1～2 月，（学生募集，とりまとめ）。

2) 千葉県外

- ・文部科学省インターンシップ学生（本学栄養学科 3 名）への支援。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省。科学技術・学術審議会資源調査分科会（食品成分委員会）。臨時委員。2015 年～現在。

- ・ 文部科学省、科学技術・学術政策局、技術審査専門員、2013年～2016年。
- ・ 厚生労働省、管理栄養士国家試験委員、2015年～2016年。
- ・ 千葉県食育推進県民協議会委員、2008年～2016年。
- ・ 千葉県健康格差検討作業部会委員、2014年～2016年。
- ・ 平成28年度千葉県調理師試験委員、2016年。
- ・ 千葉市食育推進協議会委員、2008年～現在。
- ・ 市川市教育振興委員会議委員、2009年～現在。
- ・ 柏市保健衛生審議会特別委員（母子保健専門分科会）委員、2015年～現在。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ 千葉県栄養士会研究教育協議会役員、2008年～現在。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本食生活学会、日本家政学会、日本家政学会食文化研究部会、日本調理科学会、日本口腔衛生学会、日本災害食学会、日本食品科学工学会、
日本公衆衛生学会、日本民族衛生学会、日本きのこ学会、日本体力医学会、日本食育学会、
儀礼文化学会、和食文化国民会議、更年期と加齢のヘルスケア学会、千葉県学校保健学会、
新潟歯学会、新潟食品技術研究会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・ 千葉県学校保健学会、理事、2007年～現在。
- ・ 日本栄養改善学会、評議員、2003年～現在。
- ・ 千葉県学校保健学会、ニューズレター編集長、2007年～現在。
- ・ 日本調理科学会、代議員、2014年～現在。
- ・ 日本調理科学会、関東支部会役員、2015年～現在。
- ・ 日本調理科学会、平成29年度大会実行委員会委員、2016年～現在。
- ・ 日本調理科学会、『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』研究委員会委員（千葉県責任者）、2013年4月～現在。
- ・ 和食文化国民会議、調査・研究部会幹事、2015年～現在。
- ・ 千葉県学校保健学会、第19回千葉県学校保健学会実行委員会委員、2016年6月～2016年12月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・ 栄養士研修会、市原栄養士会、日本食品標準成分表2015年版（七訂）の改訂と活用、市原栄養士会員及び市原市内の給食施設に勤務する（管理）栄養士、2016年4月12日、五井会館。
- ・ 千葉県栄養士会公衆衛生事業部中央研修会、千葉県栄養士会公衆衛生事業部、日本食品標準成分表2015年版（七訂）の改訂と活用、保健所・市町村等行政機関栄養士及び一般の方（栄養士）等、
2016年4月26日、ホテルプラザ菜の花。
- ・ 香取保健所管内栄養士会研修会、香取保健所管内栄養士会、「日本食品標準成分表2015年版（七訂）について、香取保健所管内栄養士会員、2016年5月13日、香取健康福祉センター。
- ・ 平成28年度 第1回給食施設従事者講習会、江戸川区保健所、「日本食品標準成分表2015年版」の理解と活用、江戸川区区内給食施設勤務 栄養士および調理師等、2016年5月17日、東部フレンドホール。
- ・ 平成28年度 栄養管理講習会、千代田区保健所、日本食品標準成分表2015～改訂のポイントと活用～、区内特定給食施設及びその他の給食施設245施設、2016年5月20日、いきいきプラザ一番町カスケードホール。
- ・ 平成28年度千葉県栄養士会 研究教育事業部・学校健康教育事業部主催 第一回研修会、千葉県栄養士会 研究教育事業部・学校健康教育事業部、日本食品標準成分表2015年版（七訂）の改訂の概要と活用のポイント、栄養士会会員・学生・その他、2016年5月21日、和洋女子大学。
- ・ 平成28年度東京都立食品技術センター第1回講演会、東京都立食品技術センター、日本食品標準成分表2015年版（七訂）の改訂と活用、2016年5月21日、東京都立食品技術センター。

- 訂)～改訂のポイントと実務への活用～. 都内食品加工業者及び食品加工に関心のある都民. 2016年5月26日. 東京都産業労働局秋葉原庁舎.
- ・ 特定給食施設(病院・福祉施設等)栄養士講習会. 荒川区保健所. 日本食品標準成分表2015年版(七訂)～改訂のポイントと概要について～. 特定給食施設の栄養士. 2016年5月27日. 荒川区保健所
 - ・ 給食施設管理講習会. 品川区保健所. 給食施設における日本食品標準成分表2015年版(七訂)～改訂のポイントと実務への活用について～. 給食施設の管理者・管理栄養士・栄養士・調理師等の給食従事者. 2016年5月31日. 品川区役所.
 - ・ 海匝保健所管内栄養士会研修会. 海匝保健所管内栄養士会. 「日本食品標準成分表2015年版について」～精度の高い栄養価計算実践のために～. 海匝保健所管内栄養士会員(銚子市・旭市・匝瑳市に勤務または在住する栄養士). 2016年6月2日. 匝瑳市民ふれあいセンター.
 - ・ 新潟県栄養士会 生涯教育研修会. 公益社団法人 新潟県栄養士会. 「日本食品標準成分表2015年版(七訂)」の概要と活用について. 新潟県栄養士会会員. 2016年6月4日. 新潟市民プラザ.
 - ・ 印旛保健所管内栄養士会研修会. 印旛保健所管内栄養士会. 食品成分表改訂について. 印旛保健所管内栄養士会員. 2016年6月7日. 印旛合同庁舎.
 - ・ 平成28年度 特定給食施設等講習会及び地域活動栄養士研修会. 神奈川県平塚保健福祉事務所. 日本食品標準成分表2015年版(七訂)の改訂のポイントとその活用方法について. 特定給食施設等に勤務する管理栄養士・栄養士等 地域活動栄養士. 2016年6月9日. 平塚保健福祉事務所.
 - ・ 東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会利用者支援研究会 平成28年度第2回学習会. 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会. 食品成分表2015年版の理解と活用について. 本会員の知的障害者施設の栄養士など. 2016年6月11日. 飯田橋セントラルプラザ.
 - ・ 平成28年度第1回栄養技術講習会. 豊島区池袋保健所. 日本食品標準成分表2015年版 改訂のポイントとその活用. 豊島区内 特定給食施設等に勤務する栄養士及び関係職員. 2016年6月14日. 豊島区生活産業プラザ.
 - ・ 千葉県自治研修センター 主任保育士研修. 千葉県自治研修センター. 食育と保健所の役割. 千葉県内 主任保健師級以上の職員. 2016年6月21日. 千葉県自治研修センター.
 - ・ 平成28年度埼玉県市町村行政栄養士協議会 第2回研修会. 埼玉県市町村行政栄養士協議会. 日本食品標準成分表2015(七訂)について. 埼玉県市町村行政栄養士協議会会員. 2016年6月21日. さいたま共済会館.
 - ・ 平成28年度千葉県特定健診・特定保健指導実践者育成研修. 千葉県健康福祉部. 生活習慣病予防に関する保健指導・食生活(アルコール含む)に関する保健指導. 千葉県内特定保健指導実践者. 2016年6月23日. 千葉県教育会館本館.
 - ・ 平成28年度栄養士委員会関東信越支部研修会講演. 公益社団法人日本メディカル給食協会. 日本食品標準成分表(七訂)の概要と活用について. 日本メディカル給食協会会員. 2016年6月29日. 日本教育会館.
 - ・ 栄養管理講習会. 東京都多摩立川保健所生活環境安全課. 日本食品標準成分表2015版(七訂)について～改訂の概要と給食での活用のポイント～. 多摩立川保健所管内(立川市, 昭島市, 国分寺市, 国立市, 東大和市, 武蔵村山市)の病院, 高齢者施設, 社会福祉施設, 保育園等に勤務する栄養士等. 2016年6月30日. 立川市女性総合センター(アイム)ホール.
 - ・ 平成28年度給食施設講習会. 江東区保健所. 日本食品標準成分表2015年版(七訂)の理解と活用. 江東区内給食施設関係者. 2016年7月1日. 江東区教育センター.
 - ・ 平成28年度特定給食施設管理者講習会. 中野区健康福祉部. 日本食品標準成分表2015年度改訂について～ポイントを踏まえたうえで献立作成の具体的な活用～. 中野区内特定給食施設等の管理栄養士. 栄養士. 調理師及び施設管理者. 2016年7月5日. 中野区中部すこやか福祉センター.
 - ・ 特定給食施設管理講習会. 新宿区健康部健康づくり課. 日本食品標準成分表2015(七訂)～改訂ポイントと活用方法. 給食施設栄養士. その他給食施設従事者. 2016年7月12日. 四谷保健センター.
 - ・ 平成28年7月講演会. (一社)日本パン技術研究所. 日本食品標準成分表2015年版(七訂)改訂のポイント～栄養表示義務化の中での成分表の役割～. パン製品業者. 2016年7月15日. パン科学会館.
 - ・ 第46回栄養学連続講義. 一般財団法人 若さの栄養学協会. 日本食品標準成分表2015年版(七訂)改訂の要点と今後の課題. 栄養学連続講義参加者. 2016年7月16日. 大阪大学中之島センター.
 - ・ 特定給食施設講習会. 大田区保健所. 日本食品成分表2015年版～改訂のポイントと活用について～. 大田区内給食施

- 設の管理栄養士、栄養士、2016年7月19日、池上会館。
- 平成28年度特定給食施設全体講習会、神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所、食品成分表改定のポイントと給食管理への活用、茅ヶ崎管内の給食施設等の管理者、管理栄養士、栄養士、2016年7月21日、茅ヶ崎保健福祉事務所。
 - 給食施設栄養管理研修会、瀬谷福祉保健センター、日本食品標準成分表2015年版（七訂）の理解と活用、保土ヶ谷区・旭区・瀬谷区内の給食施設の管理栄養士、栄養士、調理師、管理者、2016年7月26日、瀬谷区役所。
 - 平成28年度生涯教育研修会、公益社団法人 大分県栄養士会、日本食品標準成分表2015年版 各種ガイドライン・食事摂取基準・最新の栄養療法の取り組み・各職種の取り組み、大分県栄養士会会員及び非会員、2016年7月30日、大分商工会議所。
 - 平成28年度千葉県学校栄養職員等研究協議会、千葉県教育委員会、日本食品成分表2015年版（七訂）の概要と活用のポイント、千葉県立小・養護・第二養護学校、千葉県学校給食センター栄養教諭・学校栄養職員、2016年8月2日、千葉県教育会館。
 - 給食施設栄養管理研修会、鶴見富士保健センター、日本食品標準成分表2015年版（七訂）の正しい理解と上手な活用、横浜市鶴見区・神奈川区・港北区の給食施設の管理栄養士、栄養士、管理者、2016年8月2日、鶴見区公会堂。
 - 平成28年度 習志野市食育研修会、習志野市学校保健会、元気な習志野を創る「ちば型食生活」のすすめ、学校保健・栄養関係職員、学校保健会役員、2016年8月4日、谷津コミュニティセンター。
 - 印旛郡市保健指導者研究会 栄養士部会 講演、印旛郡市保健指導者研究会、日本食品標準成分表2015年版の改訂について、印旛健康福祉センター及び管内市町の行政栄養士、2016年8月8日、佐倉市健康管理センター。
 - 豊橋市保健所管内栄養士会 第2回研修会、豊橋市保健所管内栄養士会、日本食品成分表改定の活用のポイントについて、豊橋市保健所管内栄養士会会員、2016年8月20日、豊橋市保健所・保健センター。
 - 平成28年度 第2回 栄養教諭・学校栄養職員研修会、静岡県学校給食栄養士会、健康な食事について、静岡県学校給食栄養士会会員、2016年8月22日、静岡県男女共同参画センター。
 - 平成28年度千葉県学校給食センター研究会職員研修会、千葉県学校給食センター研究会、新しい日本食品標準成分表改訂の動向、学校給食センター所長及び栄養職員、2016年8月23日、アパホテル&リゾート東京ベイ。
 - 平成28年度南多摩保健医療圏地域保健・医療・福祉推進研修及び特定給食施設栄養管理講習会、東京都南多摩保健所、「日本食品標準成分表2015年版（七訂）」の上手な読み方・使い方、南多摩保健医療圏の給食施設及び保健・医療・福祉関係業務に従事している管理栄養士、栄養士、調理従事職員等、2016年8月24日、東京都多摩市永山公民館。
 - 平成28年度特定給食施設従事者研修会、京都府乙訓保健所、日本食品標準成分表2015年版（七訂）改訂の概要と活用のための留意点、乙訓保健所管内の特定給食施設、その他の給食施設に在籍している者、栄養価計算等の栄養管理を行っている者、2016年9月2日、京都乙訓保健所。
 - 特定給食施設研修会、福岡市保健福祉局、日本食品標準成分表2015年版の概要と活用について、市内給食施設従事者、2016年9月14日、福岡市役所。
 - 平成28年度 学校栄養職員10年経験者研修、千葉県教育庁、今後の栄養教諭・学校栄養職員の役割について、県内学校栄養職員、2016年9月16日、千葉県総合教育センター。
 - 仙台市地域活動栄養士会 講演、仙台市地域活動栄養士会、日本食品標準成分表2015年版（七訂）について、仙台市地域活動栄養士会会員、2016年9月18日、仙台市民会館。
 - 平成28年度 第3期「いちほら市民大学」専門講座、市原市教育委員会 生涯学習部、「グー・パー食生活を実践しよう」、いちほら市民大学 講座受講生、2016年9月20日、市原市保健センター。
 - 平成28年度 秋田謙栄養士会研修会、秋田県栄養士会、日本標準食品成分表2015年版（七訂）～改訂の要点と今後の課題～、秋田県栄養士会会員、2016年10月1日、秋田県栄養士会。
 - 安房保健所管内栄養士会 研修会、安房保健所管内栄養士会、日本食品標準成分表の改訂について、安房保健所管内栄養士会、2016年10月4日、安房保健所。
 - 長生保健所 給食施設管理者等研修会、長生保健所、日本食品標準成分表2015年版（七訂）の改訂のポイントとその活用、長生保健所管内給食施設の管理者、管理栄養士、栄養士、調理従事者、2016年10月6日、長生合同庁舎。
 - 平成28年度佐賀県栄養士会研修会、佐賀県栄養士会、食品成分表改訂のポイント、佐賀県栄養士会会員、2016年10月16日、西九州大学短期大学。
 - 千葉県自治研修センター 主任保育士研修、千葉県自治研修センター、食育と保健所の役割、千葉県内 主任保健師級

以上の職員。2016年6月21日。千葉県自治研修センター。

- ・平成28年度東京都市栄養士事務連絡会 第3回定例会。東京都市栄養士事務連絡会。日本食品標準成分表(七訂)の改定のポイント。東京都26市の保健衛生及び福祉部門担当栄養士、保健師、歯科衛生士。2016年10月31日。東京自治会館。
- ・平成28年度第2回特定給食管理講習会。目黒区保健所。日本食品成分表2015版(七訂)。目黒区内特定給食施設の管理者、栄養士等。2016年11月1日。目黒区総合庁舎。
- ・平成28年度 第二回静岡県行政栄養士会研修会。静岡県行政栄養士会。日本食品標準成分表2015年版(七訂)の活用について。静岡県行政栄養士会会員。2016年11月15日。静岡県男女共同参画センター。
- ・平成28年度栄養管理研修会。山梨県福祉保健部健康増進課。日本食品標準成分表2015年版(七訂)の改訂と活用のポイントを理解する。山梨県内管理栄養士、栄養士。2016年11月20日。山梨学院大学。
- ・平成28年度第4回特定給食施設講習会。世田谷保健所健康増進課。日本食品標準成分表の改訂と活用のポイント。給食管理者、管理栄養士、栄養士、調理師、給食担当者。2016年11月22日。世田谷区民会館。
- ・平成28年度栄養改善事業研修会。北九州市保健福祉局健康医療部健康増進課。日本食品標準成分表を活用するために。北九州市管内 管理栄養士、栄養士、関係職員。2016年12月20日。総合保健福祉センター。
- ・平成28年度 栄養管理講習会。渋谷区保健所管内。日本食品標準成分表2015年度改訂について。渋谷区保健所管内特定給食私設担当者。2017年1月27日。渋谷区保健所。
- ・第3回食育指導推進全体連絡協議会。千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課。今後の食育の推進について。食育指導推進委員・教育事務所担当指導主事。2017年2月1日。千葉県総合教育センター。
- ・印旛地域食育活動交換会。印旛農業事務所。グーパー食生活の推進について。印旛地域農業振興、食育推進関係者。2017年2月7日。印旛合同庁舎。
- ・平成28年度スキルアップ講習会。学校法人食糧学院。七訂日本食品標準成分表について。東京栄養食糧専門学校、校友会。2017年2月11日。東京栄養食糧専門学校。
- ・平成28年度日本体育協会公認スポーツ栄養士更新講習会。NPO法人日本スポーツ栄養学会。日本食品標準成分表2015年版(七訂)改訂と活用のポイント。公認スポーツ栄養士。2017年2月12日。江東区有明TFTビル。
- ・給食施設従事者研修会。千葉県松戸健康福祉センター。精度の高い栄養計算の実践～日本食品標準成分表2015年版を使用して～。給食施設従事者、管理栄養士、栄養士等。2017年2月17日。聖徳大学。
- ・事例研究会。千葉県栄養士会地域活動事業部。食品成分表を理解する。千葉県栄養士会、地域活動事業部。2017年2月19日。千葉県栄養士会。
- ・食と健康スペシャル講座(後期)。茨城県立健康プラザ。健康づくり情報部。日本食品標準成分表2015年版(七訂)について。健康づくり及び生活習慣病予防を推進する指導者。2017年2月23日。茨城県立健康プラザ。
- ・第58回「味の素KKセミナー」。味の素株式会社。日本食品標準成分表2015年版(七訂)改訂と活用のポイント。近畿地区栄養士会会員。2017年3月11日。大阪リバーサイドホテル。

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会。務企画委員会。教員資格審査委員会。健康診断時の食事調査。推薦入学試験業務。センター入学試験業務。一般入学試験業務。

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科会議。オープンキャンパス業務。大学説明会業務。

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等>

- ・文部科学省。 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu3/shiryo/attach/1287215.htm。
- ・千葉県。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokuiku/guide-book.html>。
- ・千葉県。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/sakana/hajimetedokidokiosakanaresipi.html>。
- ・千葉県。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/hoken/keihatsu.html>。
- ・社団法人日本青果物輸入安全推進協会。 <http://www.fruit-safety.com/education/1302.html>。

- ・ (独) 農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所.
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/vegetea/pamph/010749.html.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育，研究，大学の運営，社会貢献などに，それぞれに関わる方々と連携し共働し精一杯，工夫し努力しました。4年生担任として，学生の就職活動と国家試験受験への支援，社会活動として日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）を活用していただくための管理栄養士・栄養士を主な対象者とした講演，食育および健康づくり活動による地域貢献に取り組みベストを尽くせたことは有意義でありそれぞれ大きな学びとなりました。

VII 次年度の目標

今年度の総括を踏まえ，教育，研究，大学の運営，学科の運営，社会貢献などにベストを尽くし，今後も，それぞれに関わる方々と連携・共働し努力したいと思います。

教授 豊島 裕子 博士（医学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は，研究活動では，平成 27 年度学会報告内容での論文執筆を行う予定であった。学外活動としての，千葉県の介護職のストレス調査を継続的に行い，千葉県への提言に至るよう努めたいと考えていた。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 応用栄養学Ⅰ.
- ・ 応用栄養学Ⅱ.
- ・ 応用栄養学Ⅲ.
- ・ 運動生理学総論.
- ・ 応用栄養学実習.
- ・ 総合演習（ストレスと自律神経）.

2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）

- ・ 生理学実習，東京慈恵会医科大学.
- ・ 臨床医学特論 D（神経系の基礎と病態・内科学），上智大学大学院.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 佐藤まゆみ，大内美穂子，豊島裕子，他：終末期がん患者への食事／栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難，千葉県立保健医療大学紀要，第 8 巻，1 号，9-18，2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 豊島裕子，椿真理子，津田真由子，桑原真菜実：高齢者の自律神経機能の概日リズムと睡眠の質，第 58 回日本老年医学学会学術集会，2016. 6. 9，金沢。
- ・ 池浦あゆみ，戸田帆南，八木麻妃，世木秀明，豊島裕子：表面筋電図で評価した嚥下機能と栄養状態の比較，第 38 回日本臨床栄養学会総会，2016. 10. 7，大阪。
- ・ 戸田帆南，八木麻妃，池浦あゆみ，加藤則子，加藤光敏，豊島裕子：血圧脈波計による糖尿病腎症発症の推定と経過観察，第 38 回日本臨床栄養学会総会，2016. 10. 7，大阪。
- ・ 八木麻妃，池浦あゆみ，戸田帆南，加藤則子，加藤光敏，豊島裕子：血圧脈波計を利用した，糖尿病患者の自律神経機能評価，第 38 回日本臨床栄養学会総会，2016. 10. 7，大阪。
- ・ 豊島裕子：介護職のストレス，第 75 回日本公衆衛生学会総会，2016. 10. 26，大阪。
- ・ 豊島裕子，加藤則子，加藤光敏：血圧脈波検査による糖尿病合併症の評価，第 20 回日本病態栄養学会総会，2017. 1. 15，京都。
- ・ 佐藤まゆみ，大内美穂子，塩原由美子，豊島裕子，他：終末期がん患者への食事/栄養サポートにおいて訪問看護師が抱く困難，第 31 回日本がん看護学会総会，2017. 2. 4，高知。
- ・ 豊島裕子，多田紀夫，杉原浩，小林正之：千葉県で働く介護士のストレス—業務内容・背景別比較—，第 55 回千葉県公衆衛生学会，2017. 3. 2，千葉。
- ・ 加藤則子，豊島裕子，加藤光敏：Cardio Ankle Vascular Index (CAVI) の糖尿病神経障害評価への応用，第 81 回日本循環器病学会，2017. 3. 19，金沢。
- ・ 豊島裕子，多田紀夫，杉原浩，小林正之，伊藤美子：A 県の介護職のストレスの現状—生理学的手法による業務内容・背景別比較—，第 87 回日本衛生学会総会，2017. 3. 27，宮崎。
- ・ Ryota Watanabe，Hideaki Seki，Hiroko Toshima：The evaluation of swallowing function by analyzing the smoothing wave form of surface EMG on the neck, The 94th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, 2017. 3. 28, Hamamatsu.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・ 第 69 回日本自律神経学会総会 シンポジウム 3 自律神経と体外環境 座長・演者「心理的ストレスと自律神経；就労中のストレスを自律神経機能で測る」，2016. 11. 10，熊本。
- ・ Complex Peripheral Angioplasty Conference (CPAC) 2016, コメディカルスタッフのための EVT 基礎知識「血圧脈波計を用いた糖尿病合併症の評価・管理」，2016. 11. 26，豊橋。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 平成 27 年度千葉県立保健医療大学学内共同研究（一般），介護職のストレス—業務中ストレス測定と調査票による総合評価—，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ 「お父さんのためのヘルシーメニュー，お兄さんのためのエコメニュー」イベント開催（応用栄養学実習で作成した成人期メニュー提供）。2016. 11. 7～11. 日本たばこ産業（株）虎ノ門本社ビル社員食堂。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・ 日本学術振興会，特別研究員等審査会専門委員，国際事業委員会書面審査員・書面評価員。2016. 4～2017. 3。
- ・ 労災保険情報センター。理事。2006～現在。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本内科学会，日本神経学会，日本自律神経学会，日本脳卒中学会，日本糖尿病学会，日本老年医学会，日本産業衛生学会，日本衛生学会，日本公衆衛生学会，日本生理学会，日本体力医学会，日本臨床栄養学会，日本栄養改善

学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 日本生理学会, 評議員, 2013 年～現在に至る.
- ・ 日本自律神経学会, 評議員, 2002 年～現在に至る.
- ・ 日本衛生学会, 評議員, 2010 年～現在に至る.
- ・ 日本産業衛生学会, 代議員, 2005 年～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・ 千葉県立保健医療大学平成 28 年度公開講座, 共通テーマ 見つめよう, 自分の心と身体. 「ストレスを測る」, 地域住民対象, 2016. 10. 9. 千葉県立保健医療大学図書館棟大講義室.

7 その他

- ・ 第 12 回保健医療大学・健康福祉部意見交換会, わたしたちに今すぐできることは何か? -福祉人材確保・定着推進事業への協力-, 2017. 1. 23. 千葉県立保健医療大学大会議室.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 教授会, 学術推進企画委員会, 図書情報委員会, 共通教育運営会議, ネットワーク委員会, 専門職間の連携活動論作業部会長, 特色科目委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 卒業研究委員.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

作成した論文は, 年度内に雑誌掲載に至ることができず, 平成 29 年度発行の雑誌に掲載されることになり, 平成 28 年度業績として残すことができなかった. 千葉県内で働く介護士のストレス研究に関しては, 柏市立老人保健施設はみんぐと, 北柏ナーシングケアホームの 2 か所の施設で 35 人の介護福祉を対象に研究し, 結果を複数の学会および, 第 12 回保健医療大学・健康福祉部意見交換会において結果報告した.

教育に関しては, 実習成果物を企業に提供することで, 実習の成果を見えるようにし, また卒後の職業につながる教育を実施できた.

VII 次年度の目標

平成 29 年度は, 平成 28 年度に続き, 研究面では受理される論文作成と目指す. また, 教育面では,
①社会環境の多様性に対応できる管理栄養士の育成 ②国家試験合格率の維持を目標とした教育に努めたいと考えている.

教授 東本 恭幸 博士 (医学)

対象期間 : 2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、着任 1 年目のため特に教育に重点を置き、学生が担当科目の知識を効率よく修得できることを目指した。また与えられた委員会業務等の責務を全うすることによって学部・学科の運営に貢献することを目指した。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 解剖学総論.
- ・ 生理学総論.
- ・ 解剖学実験.
- ・ 生理学実験.
- ・ 臨床検査学.
- ・ リスクマネジメント論.
- ・ 総合演習.
- ・ 専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 東本恭幸，小松秀吾，四本克己，菱木知郎，岩井 潤：下痢型過敏性腸症候群に対する五苓散の応用，小児外科，48 (7)，743～746，2016.
- ・ Takeshi Saito, Akemi Sakamoto, Masahiko Hatano, Jun Iwai, Yasuyuki Higashimoto, Hideo Yoshida : Systemic and Local Cytokine Profile in Biliary Atresia, Eur Pediatr Surg, DOI:10. 1055/s-0036-1592136, 2016.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 藤岡直子，東本恭幸，山出晶子，四本克己，若松貞子，太田康子，上田紀江：NST が介入した大腿骨頭すべり症の肥満患者に対する栄養療法の評価と今後の方策，第 24 回千葉県 NST ネットワーク，2016 年 5 月 14 日，千葉市.
- ・ 菱木知郎，東本恭幸，四本克己，勝俣善夫，岩井 潤：重症心身障がい児に対する腹腔鏡下噴門形成術における予防的抗菌薬投与期間に関する検討，第 53 回日本小児外科学会学術集会，2016 年 5 月 24 日，福岡市.
- ・ 四本克己，岩井 潤，東本恭幸，堀江 弘：複数回手術を要したきわめてまれな縦隔脂肪芽腫症の 1 例，第 53 回日本小児外科学会学術集会，2016 年 5 月 25 日，福岡市.
- ・ 興津葉月，中山 茂，太田康子，櫻井美夏子，藤岡直子，東本恭幸，山出晶子：外来にて NST が定期的に栄養評価および栄養管理を行い良好な発育・発達が得られた短腸症候群の 1 例，第 4 回日本静脈経腸栄養学会関東甲信越支部学術集会，2016 年 9 月 25 日，飯田市.
- ・ 東本恭幸，松浦 玄，光永哲也，岩井 潤，堀江 弘：廃用性萎縮大腸に対する synbiotics 注腸療法の効果，日本食物繊維学会 第 21 回学術集会，2016 年 11 月 26 日，静岡市.
- ・ 光永哲也，笈田 諭，勝俣善夫，東本恭幸，岩井 潤：胆道閉鎖症の肝移植適応評価における 99mTc-GSA 肝シンチグラフィの有用性，第 1347 回千葉医学会例会，2016 年 12 月 3 日，千葉市.
- ・ 興津葉月，中山 茂，太田康子，櫻井美夏子，藤岡直子，東本恭幸，山出晶子：外来での定期的な NST フォローが栄養管理に有効であった短腸症候群の 1 例，第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会，2017 年 2 月 24 日，岡山市.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ 小児外科外来診療指導. 2016 年 4 月～12 月. 千葉県こども病院.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本静脈経腸栄養学会, 日本外科代謝栄養学会, 欧州静脈経腸栄養学会 (ESPEN), 日本病態生理学会, 日本食物繊維学会, 日本在宅静脈経腸栄養研究会, 日本サルコペニア・フレイル学会, 日本老年医学会, 千葉県医師会, 千葉県庁医師会, 千葉医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 日本小児外科学会, 評議員, 2012年4月～現在に至る.
- ・ 日本静脈経腸栄養学会, 学術評議員, 2014年2月～現在に至る.
- ・ 千葉県 NST ネットワーク, 世話人, 2015年5月～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・ 大学模擬授業, 「みんなで栄養を考える」, 高校2年生対象, 2016年6月29日, 千葉県立成東高等学校.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 教授会, 教務委員会, 国際交流委員会, 共通教育運営会議, 入試評価部会, コンピテンシー作業部会, 報告書等作成部会, 教員資格審査委員会 (栄養学科教授) 2016年8～12月, 教員資格審査委員会 (看護学科□助教) 2016年9～12月, 教員資格審査委員会 (看護学科助教) 2016年12月～2017年2月, 教員資格審査委員会 (看護学科助教) 2017年2～3月, 大学紀要査読委員.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 栄養学科教授会, 栄養学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育に関しては, 講義科目では一方的な講義に終わらないよう適宜学生に発表の機会を設けたり, すべての学生が他の学生にレクチャーを行うポスターツアー法等のアクティブ・ラーニングの手法の導入して分かりやすい授業展開を心がけた. また実験科目では, 学生同士のディスカッションを促して, 楽しくかつ主体的に参加できるように工夫するとともに, 自身のレポートをループリック形式で客観的に自己評価するしくみを取り入れた. 授業評価はおおむね良好であった. 研究活動は, 教育・委員会業務に追われて十分な業績を残すまでには至らなかったが, 地域包括ケアに関連するいくつかの学会の学術集会への参加を通して, 次年度からの研究テーマにつながる数々の貴重な知見を得ることができた.

VII 次年度の目標

教育については, 学生がさらに主体的に学びを深め, 修得した知識や技術を自分の財産として将来まで応用できるように双方向授業を工夫して指導していきたい. 研究については, 地域包括ケアの中でも特に医療的側面にテーマを設定して, 今後管理栄養士が在宅医療の分野でより一層の活躍ができるような方策について研究をすすめたい. また学内の管理・運営については, 与えられた職務を迅速性と正確性をもって全うしていきたい.

教授 井上 裕光 修士 (教育学)

対象期間: 2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、提供する教育の質を向上させる。また、自習用教材をもっと充実させる。とくに、新学習指導要領に基づく新課程入学生の対応のため、習熟度別学習体制（統計学）を含め、初学者教育の充実を図る。さらに、新課程学生への学修に対応できるように、統計学Ⅰ・統計学Ⅱの科目変更の準備を行う。

研究するだけの時間を確保する。

官能評価の普及活動を行う。

学内情報システムが次の更改まで 2 年となるので、次世代システムの構想を学内で共有できるようにする。東京五輪 2020 を控えて、サイバーテロ対策など、サイバーセキュリティ法も改正されたことに対応し、セキュリティの向上を図るため、定期的にセキュリティ講習会を開き、情報漏洩などの事故を未然に防ぐ体制づくりへと移行する。学生のみならず教員への啓発活動を十分に行う。学内学生用端末・ゼミ用 PC を安全に運用する。

大学ホームページ刷新のために、予算請求し、対応できる体制を作る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 体験ゼミナール.
- ・ 統計学.
- ・ 情報リテラシーⅠ.
- ・ 情報リテラシーⅡ.
- ・ 情報倫理.
- ・ 教育の方法と技術.
- ・ 事前指導.
- ・ 総合演習.
- ・ 卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・ 井上裕光：保健情報統計学，2017，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 井上裕光：第 1 部臨床的であるということ—教育実践臨床研究の視点 第 1 章 授業の流れを作るもの，藤沢市教育文化センター 教育実践臨床研究「目の前の子どもと向き合う—教師として欠かせないもの—」，21-26，2017.
- ・ 井上裕光：官能評価の言葉—官能評価こぼれ話：官能評価・パネル，日本官能評価学会誌，19（2），36-37，2015.
- ・ 井上裕光：官能評価の言葉その 2—官能評価こぼれ話：分析型・嗜好型，評価基準・尺度・モノサシ・評価用語，日本官能評価学会誌，20（1），39-40，2016.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ Naotsune Hosono, Hiromitsu Inoue, Miwa Nakanishi, Yutaka Tomita: Sensory Evaluation Method with Multivariate Analysis for Pictograms on Smartphone, 2016-7, AAATE, HCI International 2016, Toronto, Canada.
- ・ 二宮克美，氏家達夫，五十嵐敦，井上裕光，山本ちか：中学生の社会的行動についての研究（106）—「いじめをしたこと」「いじめをうけたこと」の縦断的变化—，日本教育心理学会第 58 回大会，2016-10，香川大学（かがわ国際会議場）.
- ・ 五十嵐敦，氏家達夫，二宮克美，井上裕光，山本ちか：中学生の社会的行動についての研究（107）—親の年収と夫婦関係の評価から不適応行動との関連を探る—，日本教育心理学会第 58 回大会，2016-10，香川大学（かがわ国際会議場）.
- ・ 山本ちか，氏家達夫，二宮克美，五十嵐敦，井上裕光：中学生の社会的行動についての研究（108）

一自殺念慮の変化と全体的自己価値及び学校適応の関連の検討，一日本教育心理学会第58回大会，2016-10，香川大学（かがわ国際会議場）。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・ ISO/TC34 国内審議会事務局（FAMIC 国際課）. ISO/TC34/SC12 国内対策委員. 2004～現在に至る.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・ （一財）日本科学技術連盟，官能評価セミナー委員長，1990～現在に至る.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本心理学会. 日本教育心理学会. 日本人間工学会. 日本教育工学会. 日本発達心理学会.
日本パーソナリティ学会. 日本家政学会. 日本家庭科教育学会. 日本教師学学会. 日本官能評価学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・ 日本官能評価学会. 常任理事（企画・編集）. 1996～現在に至る.
- ・ 日本官能評価学会. 査読. 2016.
- ・ 日本官能評価学会. 学会司会，大会委員，常任編集委員.
- ・ 日本食品工学会誌. 査読委員. 2016.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・ 日本官能評価学会基礎統計講習会. 講師. 官能評価学会会員向け 官能評価のための基礎統計講習会. 2016/8/6. 日本獣医生命科学大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 特色科目委員会（体験ゼミナール部会長）. 入試評価部会（部会長）. 入試実施部会. 図書・情報委員会（情報部会長）. ネットワーク委員会（委員長）. 学術推進企画委員会（共同研究部会長）. 共通教育運営会議. 認証評価部会. 自己点検・評価部会（部会員）. 将来構想検討委員会（指定）. 学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート. 学内情報システム・企画運営課サポート. 学内ネットワーク運営保守. 教員サポート. 学生サポート. JMP 講習会（図書・情報委員会 FD）. 学内セキュリティ講習会（ネットワーク委員会 FD）. 情報ネットワーク・ゼミ用 PC メンテナンス. 卒業生 ML メンテナンス.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

提供する教育の質を向上させることに関しては，高校の新課程で「情報」がまともに行われていないことに対応し，新入生の情報に対する感度や対応能力の向上に努めた．新課程入学生の対応のため，とくに，高等学校数学Ⅰの「データ分析」の履修が不十分（教科書どおりに学習せず，センター試験前にまとめて説明した，など高校側の不十分な体制）が判明したため，統計学での習熟度別学習のため，復習プリント・予習プリント類を用意し，自習可能なように教材を整備しなおした．さらに，講義・演習の受講方法がわからない学生のために，授業の受け方（ノートの取り方）を初學者教育として，扱うことになった．また，レポートの書き方について，（榎本先生発案の）教材を用意し体系的な指導を行った．ただし，新課程学生への学修に対応できるよう，統計学Ⅰ・統計学Ⅱの科目変更については実現できていない．

研究時間はほとんど確保できなかった．

官能評価の普及活動については，可能な限り（ISO 国内対策委員としての活動を含めて）対応した．

学内情報システムが3年目を迎え，次々に不調が見つかった（サーバーのファンが異常など）．次の更改までどのような方法が可能なかの検討を開始した．更新だけであるため，大規模なシステム変更はできないが，次世代システムの

構想を学内で共有できるように、質問を受けた場合に学内共有を図った。東京五輪 2020 を控えて、サイバーテロ対策など、サイバーセキュリティ法も改正されたことに対応し、セキュリティの向上を図るため、定期的にセキュリティ講習会を開き、情報漏洩などの事故を未然に防ぐ体制づくりを行ったが、実効は上がっていない。学内への啓発活動は攻撃のタイプごとにできるだけ情報発信した。学内学生用端末・ゼミ用 PC の運用については、スケジュールどおりのメンテナンスなど、Windows 7 の脆弱性対応に追われた。

大学ホームページ刷新を行う予算がつかず、停滞を余儀なくされた。

Ⅶ 次年度の目標

平成 29 年度は、提供する教育の質をさらに向上させる。また、自習用教材をもっと充実させ、エクセルファイルでも用意する。次の新学習指導要領を視野に入れ、さらに現行課程の入学生の対応のため、習熟度別学習体制（統計学）を含め、初学者教育の充実を図る。さらに、今後の学修に対応できるよう、統計学Ⅰ・統計学Ⅱの科目変更の準備を行う。

できるだけ研究するだけの時間を確保する。

可能な限り官能評価の普及活動を行う。

学内情報システム更改の準備を開始する。セキュリティの一層の向上を図るため、定期的にセキュリティ講習会を開き、情報漏洩などの事故を未然に防ぐ体制づくりを行う。Windows Vista・Office2007 の延長サポートが切れる年度であり、危険性がますます高まることに備える。学生のみならず教員への啓発活動を十分に行う。学内学生用端末・ゼミ用 PC を安全に運用する。

大学ホームページ刷新のために、対応できる体制を作る。

准教授 細山田 康恵 博士 (医学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 29 年度は、教育において、わかりやすいプリントを作成し、授業内容に興味をもてるように心がけたい。また、研究においては、データをまとめ、論文として投稿できるように努めたい。

Ⅱ 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 生化学総論.
- ・ 生化学.
- ・ 栄養生化学.
- ・ 臨床検査学.
- ・ 生化学実験.
- ・ 解剖学総論.
- ・ 解剖学実験.
- ・ 臨床検査実習.
- ・ 卒業研究.
- ・ 総合演習.
- ・ 体験ゼミナール.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・ 青井啓悟，内田浩二，川上文貴，坂井孝，坂上茂，柴田貴広，鈴木敏和，田淵正樹，八村敏志，細山田康恵：ヒトの基礎生化学，2016年9月，（株）アイ・ケイコーポレーション，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 山田正子，松尾美砂，細山田康恵：水筒の細菌汚染および使用実態調査，日本食生活学会誌，27巻1号，75-79，2016。
- ・ 山田正子，布施望，石井國男，細山田康恵：給食施設における適温給食の方法および保温保冷配膳車の使用状況，千葉県栄養士会雑誌，No. 19，2-5，2016。
- ・ 細山田康恵，山田正子：肥満ラットにおけるアルコール性脂質異常症に及ぼすリンゴポリフェノールの影響，日本補完代替医療学会誌，13巻2号，63-68，2016。
- ・ Y. Hosoyamada, M. Yamada:Effect of Dietary Fish Oil and Apple Polyphenol on the Concentration Serum Lipids and Excretion of Fecal Bile Acids in Rats, J Nutr Sci Vitaminol, 63, 21-27, 2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 細山田康恵，山田正子：アルコール投与肥満ラットにおける脂肪肝に及ぼすポリフェノールの効果，平成27年度共同研究発表会，2016年8月30日，千葉県立保健医療大学。
- ・ 山田正子，細山田康恵：希釈塩素系漂白剤の保存条件による経時的変化，平成27年度共同研究発表会，2016年8月30日，千葉県立保健医療大学。
- ・ 細山田康恵，山田正子：エタノール投与肥満ラットの脂肪蓄積に及ぼすリンゴポリフェノールの影響，第63回日本栄養改善学会学術総会，2016年9月7日～9日，リンクステーションホール青森。
- ・ 山田正子，細山田康恵：市販および一般家庭の塩素系漂白剤の有効塩素濃度，第63回日本栄養改善学会学術総会，2016年9月7日～9日，リンクステーションホール青森。
- ・ 細山田康恵，山田正子：魚油とリンゴポリフェノール摂取がラットの糞中胆汁酸排に及ぼす影響，日本脂質栄養学会第25回大会，2016年9月16日～17日，秋田市にぎわい交流館AU。
- ・ 山田正子，細山田康恵：希釈塩素系漂白剤の保存条件による有効塩素濃度の経時変化，第12回日本給食経営管理学会学術総会，2016年11月26日～27日，大手前大学。
- ・ 細山田康恵，川崎優人，宮木貴之，角田宗一郎，市村浩一郎，坂井建雄：糸球体内皮細胞の超微立体構造～FIB/SEM法を活用した解析，第122回日本解剖学会総会・全国学術集会，2017年3月28日～30日，長崎大学坂本キャンパス。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 学内共同研究，脂肪酸組成の異なる油脂投与ラットにおける肝間質の微細構造について，研究代表者。
- ・ 学内共同研究，給食施設の献立を前提とした加熱条件の違いによるビタミン損耗率の測定，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本栄養食糧学会，日本栄養改善学会，日本脂質栄養学会，日本解剖学会，日本生化学会，日本咀嚼学会，日本食生活学会，日本脂質生化学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・ 日本栄養改善学会，評議員，2003年4月から現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 入試評価部会、動物実験研究倫理審査部会、キャンパスハラスメント相談員、紀要編集部会、
- ・ 学内共同研究審査部会、大学院構想 WG。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 栄養学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、プリントやスライドを活用し、授業内容に興味をもたせることができた。研究では、学内・学外で共同研究する時間を作り、成果を学会発表や論文にすることができた。大学運営では、担当した部会において、積極的に取り組むことができた。社会貢献は、学会の評議員として活動ができた。今後、研究をさらに進められるように、努力したい。

VII 次年度の目標

教育では、最新の情報を提供し、授業内容に興味をもてるように心がけたい。研究では、学内・学外で共同研究を行い、成果発表できるようにしたい。大学運営には、積極的に取り組むように努めたい。

准教授 山田 正子 博士（農学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、全体的な時間の調整をすることで、昨年度より多く研究および論文投稿に時間を費やしたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 管理栄養士導入教育。
- ・ 食品衛生学。
- ・ 食品衛生学実験。
- ・ 給食経営管理論Ⅰ。
- ・ 給食経営管理論Ⅱ。
- ・ 給食経営管理実習。
- ・ 臨地実習事前指導。
- ・ 臨地実習事後指導。
- ・ 給食経営管理臨地実習。
- ・ 栄養管理臨地実習。
- ・ 体験ゼミナール。

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・ 栄養学（千葉市青葉看護専門学校）。
- ・ 栄養学（共立女子大学看護学部）。

III 研究記録

1 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 山田正子，松尾美砂，細山田康恵：水筒の細菌汚染および使用実態調査，日本食生活学会誌，27（1），66-70，2016.
- ・ 山田正子，布施望，石井國男，細山田康恵：給食施設における適温給食の方法および保温保冷配膳車の使用状況，千葉県栄養士会雑誌，19，2-5，2016.
- ・ 細山田康恵，山田正子：肥満ラットにおけるアルコール性脂質異常症に及ぼすリンゴポリフェノールの効果，日本補完代替医療学会誌，13（2），63-68，2016.
- ・ Yasue Hosoyamada，Masako Yamada：Effect of dietary fish oil and apple polyphenol on concentration serum lipids and excretion of fecal bile acids in rats. Journal of Nutritional Science and Vitaminology，63（1），21-17，2017.

2 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 山田正子，細山田康恵：市販および一般家庭の塩素系漂白剤の有効塩素濃度，第63回日本栄養改善学会学術総会，2016年9月7-9日，リンクステーションホール青森他（青森）.
- ・ 細山田康恵，山田正子：エタノール投与肥満ラットの脂肪蓄積に及ぼすリンゴポリフェノールの影響，第63回日本栄養改善学会学術総会，2016年9月7-9日，リンクステーションホール青森他（青森）.
- ・ 細山田康恵，山田正子：魚油とリンゴポリフェノール摂取がラットの糞中胆汁酸排泄に及ぼす影響，日本脂質栄養学会第25回大会，2016年9月16-17日，秋田市にぎわい交流館AU（秋田）.
- ・ 山田正子，細山田康恵：ペットボトルに分注した塩素系漂白剤の有効塩素濃度の変化，第12回日本給食経営管理学会学術総会，2016年11月26日，27日，大手前大学（兵庫）.

3 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 学内共同，給食施設の献立を前提とした加熱条件の違いによるビタミン損耗率の測定，山田正子／細山田康恵.
- ・ 学内共同，脂肪酸組成の異なる油脂投与ラットにおける肝間質の微細構造について，細山田康恵／山田正子.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・ 千葉県栄養士会，役員選任管理委員長.

2 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本給食経営管理学会，日本食品衛生学会，日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，日本調理科学学会，日本畜産学会，日本酪農科学会，日本食生活学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・ 日本給食経営管理学会，評議員，2013年～現在に至る.
- ・ 日本栄養改善学会，評議員，2012年年～現在に至る.
- ・ 日本酪農科学会，評議委員，2006年年4月～現在に至る.

3 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・ 地域における健康づくり推進事業，市原市の地域保健福祉課，味を感じる仕組み～減塩でも美味しく食べる～，食生活改善推進員・飲食店関係者・事業所給食施設関係者対象，平成28年10月19日，市原市保健センター.
- ・ 成田市生涯大学院での講習会，楽しむ食生活のすすめ，成田市，2016年2月8日，2月10日，成田市生涯大学院.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 入試実施部会、入試問題を考えるWG、動物実験研究倫理審査部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 卒業研究係。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育について予想以上に時間を費やしたため、研究や論文投稿が予定通りにできなかった。次年度は、教育に関する時間の調整を行い、論文投稿への時間にまわしたい。

VII 次年度の目標

時間の調整をすることで、もう少し研究および論文投稿に時間を費やしたい。

准教授 越川 求 博士（教育学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、栄養教諭養成課程の1年生から4年生まで全学年を担当するので、健やかな成長と学習目標が達成できるよう努力したい。また、2年生の担任でもあるので学生に対して的確なアドバイスをしたい。研究活動においては、学会発表と論文掲載・著作発行の積み重ねを行い、学術的な貢献を果たしたい。社会貢献や国際交流活動についても、守備範囲を広げていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・ 体験ゼミナール。
 - ・ 教職論。
 - ・ カリキュラム論。
 - ・ 道德教育・特別活動論。
 - ・ 教育学概論。
 - ・ 教育制度論。
 - ・ 生徒指導論。
 - ・ 教職実践演習。
 - ・ 教育学

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・ 越川求編『中央教育研究所をつくった人々―③村上俊亮・矢口新』中央教育研究所、2016年9月。
- ・ 越川求編『キューバ教育研究会調査報告集2016』キューバ教育研究会、2016年9月。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 越川求「海後宗臣による戦後教育の出発—1946・47年雑誌『教育文化』と中央教育研究所—」日本教育学会第75回大会，2016年8月，北海道大学。
- ・ 越川求・金馬国晴「キューバの学校と教師教育～2016年現地調査から～」日本教師教育学会第26回大会，2016年9月，帝京大学。
- ・ 前田一男・越川求「1930年代「長野県教員赤化事件（「二・四事件」）」の研究」教育史学会第60回大会，2016年9月，横浜国立大学。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

3) 海外

- ・ 2016年2月にキューバ教育調査に団長として訪問，報告集の発行を2016年9月に行い，訪問先にも届けた。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本教育学会，日本教師教育学会，教育史学会，日本教育史学会，日本社会教育学会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 共通教育運営会議，特色科目委員会，学術推進委員会，教職課程カリキュラム委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 栄養学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

着任後1年半から，2年半の期間で，大学の教育活動や研究，運営にも充実したとりくみができる。

28年度においては，栄養教諭養成課程のカリキュラムの充実・改善をはかった。体験ゼミナール・教職論・カリキュラム論・道徳教育・特別活動論・教育学概論・教育制度論・生徒指導論・教職実践演習とそれぞれの授業の改善をはかり効果をあげた。科研研究会，教育学の研究会，研究所での研究会に参加し，調査や報告をし論文作成等を行った。学会発表を8月と9月に行い著作（紀要）の編者や調査報告集の編集人も担当し，学術的な貢献ができた。学級担任としての活動や学校管理運営活動についても貢献していった。

VII 次年度の目標

教育活動においては，栄養教諭養成課程の1年生から4年生まで全学年を担当するので，引き続き健やかな成長と学習目標が達成できるよう努力したい。研究活動においては，学会発表と論文掲載・著作発行を重点的に絞り込み，学術的な貢献を果たしたい。学校運営・社会貢献・国際交流活動についても，責任を果たしていきたい。

准教授 谷内 洋子 博士（学術）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、特に講義・実習において、身体や栄養に関する専門的知識・技能の修得に加え、実践力の習得ができるよう、臨床栄養学に関する理解と洞察を深める授業の工夫に取り組む。並行して研究面では、科学研究費助成事業の研究課題である“日本人妊婦における栄養摂取量および身体活動量が母児の健康に及ぼす影響の検証”に関するプロジェクトの進行を含め、論文化に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 臨床栄養学 I.
- ・ 臨床栄養学 II.
- ・ 総合演習.
- ・ 管理栄養士導入教育.
- ・ 臨床栄養学実習.
- ・ 栄養ケアマネジメント論実習.
- ・ 栄養ケアマネジメント論演習.
- ・ 事前・事後指導 (臨地実習).
- ・ 臨床栄養臨地実習.
- ・ 栄養管理臨地実習.
- ・ 健康支援論演習.
- ・ 体験ゼミナール.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・ 臨床栄養学実践演習。(日本女子大学)
- ・ 血液・内分泌・代謝内科学分野。新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線 : 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・ 谷内洋子: 新スタンダード栄養・食物シリーズ 12 “臨床栄養学”, 2016, 東京化学同人.

2 学術論文・その他 (著者 : 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

すべて査読あり

- ・ Tajima R, Yachi Y, Tanaka Y, Kawasaki YA, Nishibata I, Hirose AS, Horikawa C, Kodama S, Iida K, Sone H. : Carbohydrate intake during early pregnancy is inversely associated with abnormal glucose challenge test results in Japanese pregnant women. Diabetes Metab Res Rev. 2017, in press. (Corresponding author).
- ・ Kodama S, Fujihara K, Ishiguro H, Horikawa C, Ohara N, Yachi Y, Tanaka S, Shimano H, Kato K, Hanyu O, Sone H. Unstable bodyweight and incident type 2 diabetes mellitus: A meta-analysis. J Diabetes Investig. 2017, in press.
- ・ Kodama S, Fujihara K, Ishiguro H, Horikawa C, Ohara N, Yachi Y, Tanaka S, Shimano H, Kato K, Hanyu O, Sone H. Quantitative assessment of genetic testing for type 2 diabetes mellitus based on findings of genome-wide association studies. Ann Epidemiol. ;26 (11) :816-818. e6, 2016.
- ・ Ibe Y, Miyakawa H, Fuse-Nagase Y, Hirose AS, Hirasawa R, Yachi Y, Fujihara K, Kobayashi K, Shimano H, Sone H. Association of eating three meals irregularly with changes in BMI and weight among young Japanese men and women: A 2-year follow-up. Physiol Behav. 1;163:81-7. 2016.
- ・ Ishiguro H, Kodama S, Horikawa C, Fujihara K, Hirose AS, Hirasawa R, Yachi Y, Ohara N, Shimano H, Hanyu O, Sone H. In Search of the Ideal Resistance Training Program to Improve Glycemic Control and its Indication for Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: A Systematic Review and Meta-Analysis. Sports Med. 46

(1) :67-77. 2016.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・ Yoko Yachi, Yasuhiro Tanaka, Hirohito Sone : Association between risk of glucose intolerance and physical activity, and carbohydrate intake during early pregnancy, 68th Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology, 2016, Apr., Tokyo, Japan.
- ・ 谷内洋子, 田中康弘, 曾根博仁: 妊娠初期空腹時血糖値およびHbA1c値と妊娠糖尿病発症との関連の検討-TWC Study, 第70回 日本栄養・食糧学会大会, プレスリリース トピックス演題, 平成28年5月, 武庫川女子大学.
- ・ 堀川千嘉, 谷内洋子, 曾根博仁: 糖尿病の有無で食事摂取状況や食行動は異なるか: 平成22年国民健康・栄養調査の解析, 第70回 日本栄養・食糧学会大会, 平成28年5月, 武庫川女子大学.
- ・ 由澤咲子, 藤原和哉, 谷内洋子, 曾根博仁: 2型糖尿病患者の摂取エネルギー量及び身体活動量が過体重者の有病率に与える影響の検討, 第70回 日本栄養・食糧学会大会, 平成28年5月, 武庫川女子大学.
- ・ 堀川千嘉, 由澤咲子, 谷内洋子, 藤原和哉, 曾根博仁: わが国における糖尿病の食事摂取状況: 平成22年国民健康・栄養調査の解析: 平成22年国民健康・栄養調査の解析, 第59回 日本糖尿病学会年次学術集会, 平成28年5月, 京都.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・ 平成28年度千葉県特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修, 食生活に関する保健指導について, 2016年9月, 千葉県文化会館.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B）），日本人妊婦における栄養摂取量および身体活動量が母児の健康に及ぼす影響の検証，研究代表者.
- ・ 平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（B）），地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成，研究分担者.
- ・ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED），女性の健康の包括的支援実用化研究事業，出産後の糖尿病・メタボリックシンドローム発症のリスク因子同定と予防介入に関する研究，研究開発協力者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・ 食育出前教室. 2016年8月～9月. 久ヶ原スポーツクラブ.
- ・ 日本マタニティフィットネス協会: 食育講座. 2016年9月. ゆうぼうと世田谷レクセンター.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ 食事・栄養相談. 平成28年4月～平成29年3月. 久ヶ原スイミングクラブ.

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・ 人間ドック学会. 人間ドック健診の有用性に関する大規模研究委員会. 委員. 平成28年6月～平成29年3月.
- ・ 日本糖尿病・妊娠学会. 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト. ワーキングメンバー. 平成28年4月～平成29年3月.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本栄養改善学会. 日本臨床栄養学会. 日本病態栄養学会. 日本成人病（生活習慣病）学会.
日本栄養・食糧学会. 日本糖尿病・妊娠学会. DOHaD研究会. 日本疫学会. European Association for the Study

of Diabetes (EASD ; 欧州糖尿病学会).

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 日本栄養・食糧学会 参与, 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月.
- ・ 日本栄養改善学会 評議員, 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月.
- ・ 日本病態栄養学会 評議員, 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月.
- ・ 日本糖尿病妊娠学会 評議員, 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 図書情報委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 栄養学科運営会議, 管理栄養士国家試験対策委員.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ 久ヶ原スイミングクラブ.

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20160506.html>,

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20160707.html>,

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20160818.html>,

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20161013.html>,

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20161215.html>,

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20170124.html>,

<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20170304.html>.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

着任 2 年目となり, 授業運営も軌道にのりつつある. 研究活動については, 複数の取り組みを同時並行で進行していることから, 作業効率も考慮しながら, 研究成果を社会に還元・貢献できるよう取り組みたい.

VII 次年度の目標

日々進歩が著しい臨床栄養分野の情報を取り入れながら, エビデンスに基づいた情報提供の重要性について, 授業を通して学生に教育していきたい. また一方で, 実臨床ではエビデンスだけでは食事療法を含めた治療方針は決まらず, 患者の病状や背景, 患者を取り巻く環境や患者の主観を含めて, 総合的に判断することが求められることから, 最終的に患者とともに最適な治療方針を決める姿勢についても培えるような授業運営を目指したい. また研究活動については, 現在取り組んでいる研究課題の成果を学会発表および論文執筆を通して, 社会に還元・貢献したい.

講師 荒井 裕介 博士 (農芸化学)

対象期間 : 2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は, 教育面では, 担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう, 講義・実習を実施する. 研究面では新たな学内共同研究に取り組むとともに, 千葉県からの依頼業務を進める.

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 公衆栄養学Ⅰ.
- ・ 公衆栄養学Ⅱ.
- ・ 公衆栄養学実習.
- ・ 公衆栄養臨地実習.
- ・ 事前指導.
- ・ 事後指導.
- ・ 管理栄養士導入教育.
- ・ 卒業研究.
- ・ 千葉県の健康づくり.
- ・ 専門職間の連携活動論.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・ 公衆衛生学 (金沢医科大学)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・ 高橋佳子, 高松まり子, 荒井裕介他: 公衆栄養概論 (エスカパーシク) (第5版), 2016年4月, 同文書院, 東京.
- ・ 荒井裕介, 稲山貴代, 今井具子他: 管理栄養士課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 公衆栄養学 2017年版, 2017年2月, 医歯薬出版, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ 荒井裕介, 林美英, 佐藤ななえ, 吉池信男: 事業者における加工食品の栄養成分表示に関する全国保健所での相談, 支援の現状と課題, 厚生労働省, 63, 8, 35-40, 2016.
- ・ 小山達也, 由田克士, 荒井裕介: 自立高齢者における摂取食品数と栄養素摂取量および食品群別摂取量との関連, 日本栄養士会雑誌, 59, 11, 28-37, 2016.
- ・ Nguyen HN, Miyagawa N, Miura K, Okuda N, Yoshita K, Arai Y, Nakagawa H, Sakata K, Ojima T, Kadota A, Takashima N, Fujiyoshi A, Ohkubo T, Abbott RT, Okamura T, Okayama A, Ueshima H: Dietary tofu intake and long-term risk of death from stroke in a general population, Clinical Nutrition, (<http://dx.doi.org/10.1016/j.clnu.2016.11.021>).
- ・ 荒井裕介, 久保有加: 平成27年千葉県県民・健康栄養調査報告書. 2016年12月.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 由田克士, 近藤今子, 荒井裕介, 尾島俊之, 藤吉朗, 中川秀昭, 岡村智教, 上島弘嗣, 岡山明, 三浦克之, NIPPON DATA2010 研究グループ: 高血圧指摘の有無と野菜の積極摂取への留意が食事内容に及ぼす影響: NIPPON DATA2010, 第86回日本衛生学会学術総会, 2016年5月, 旭川市.
- ・ 近藤今子, 荒井裕介, 小嶋汐美, 由田克士: 保健所行政栄養士の専門能力と保健所行政栄養士以外の業務経験との関連, 第75回日本公衆衛生学会学術総会, 2016年10月, 大阪市.
- ・ 由田克士, 岩橋明子, 中川夕美, 荒井裕介, 宮川尚子, 尾島俊之, 藤吉朗, 中川秀昭, 門田文, 奥田奈賀子, 大久保孝義, 岡村智教, 上島弘嗣, 岡山明, 三浦克之, NIPPON DATA2010 研究グループ: 野菜の積極的摂取の留意とNa・K摂取量排泄量の関連: NIPPON DATA2010, 第75回日本公衆衛生学会学術総会, 2016年10月, 大阪市.
- ・ 中村美詠子, 尾島俊之, 長幡友実, 近藤今子, 二宮利治, 由田克士, 荒井裕介, 大久保孝義,

村上慶子, 西信雄, 村上義孝, 高嶋直敬, 奥田奈賀子, 門田文, 宮川尚子, 近藤慶子, 岡村智教, 上島弘嗣, 岡山明, 三浦克之, NIPPON DATA 2010 研究グループ: 歯数と食品群, 栄養素摂取量の横断的関連: NIPPON DATA 2010, 第27回日本疫学会学術総会, 2017年1月, 甲府市.

- ・ 五領田小百合, 西信雄, 寶澤篤, 由田克土, 荒井裕介, 近藤慶子, 宮川尚子, 早川岳人, 藤吉朗, 門田文, 大久保孝義, 岡村智教, 奥田奈賀子, 上島弘嗣, 岡山明, 三浦克之: 社会的要因と食習慣に関する態度の関連: NIPPON DATA 2010, 第27回日本疫学会学術総会, 2017年1月, 甲府市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 平成28年度学内共同研究費, 千葉県民における習慣的な栄養素摂取量推定と評価に関する研究, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ 千葉県健康福祉部健康づくり支援課, 千葉県民健康・栄養調査解析検討会, 2016年6月~11月.
- ・ 墨田区福祉保健部保健計画課, 災害時食支援ネットワーク検討会, 2016年7月~2016年12月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本栄養改善学会, 日本公衆衛生学会, 日本高血圧学会, 日本疫学会, 日本循環器病学会.
- ・ 日本栄養士会, 神奈川県栄養士会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 評議員, 2006年11月~現在に至る.
- ・ 特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 栄養学雑誌編集委員, 2015年11月~現在に至る.
- ・ 特定非営利活動法人日本栄養改善学会, 理事候補者選挙管理委員, 2016年12月~現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・ 平成28年度管内行政栄養士業務連絡会研修会, 長生健康福祉センター, アンケート調査を実施するにあたってのチェックポイント, 長生健康福祉センター及び管内市町行政栄養士, 2016年6月9日, 2016年9月26日, 2017年2月20日, 長生健康福祉センター.
- ・ 第1回現場で活躍する管理栄養士・栄養士のための実践栄養学研究セミナー初級編, 日本栄養改善学会関東・甲信越支部, 学会で発表するために必要なこと, 2017年3月18日, 女子栄養大学駒込キャンパス.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 研究等倫理委員会, 防災対策委員会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育面では学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう, 講義・実習では各回ワークシートを作成した. 研究面では学内共同研究の代表者として関係機関の協力を得て実施した. また千葉県からの依頼業務を遂行して報告書の作成を行った.

VII 次年度の目標

教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、講義・実習を実施する。研究面では学内共同研究の解析をすすめて論文化に取り組む。

講師 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

- ・研究の推進及び研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。
- ・授業や実習の内容の更なる充実を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 体験ゼミナール.
- ・ 化学.
- ・ 栄養学Ⅰ（基礎）.
- ・ 栄養学Ⅱ（応用）.
- ・ 食品学各論.
- ・ 食品学実験.
- ・ 基礎栄養学.
- ・ 基礎栄養学実習.
- ・ 卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・ いのちと生活Ⅰ（栄養学）、千葉科学大学.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・ 金澤匠：卵巣摘出ラットの肝臓におけるオートファジーの変動、日本農芸化学会 2017 年度京都大会、平成 29 年 3 月 19 日、京都女子大学.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ 千葉県調理師試験委員、2016 年.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本農芸化学会、日本生化学会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品科学工学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・ 日本栄養改善学会. 評議員. 2016年11月1日～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 教務委員会. 特色科目委員会. 動物実験研究倫理審査部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究成果の学会発表については目標を達成できた。ただし、論文投稿はできず、競争的資金の獲得もできなかった。講義内容については、学生の理解度が向上するよう工夫を心掛け、実践できた。

VII 次年度の目標

- ・ 研究の推進及び研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。
- ・ 授業や実習の内容の更なる充実を図る。

講師 海老原 泰代 博士（生活環境学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に教育面で栄養教諭教育実習などの校外実習において、学内外の関係者との連携を深めることにより、教育効果の向上を目標にし、より積極的な教育活動に励みたい。また研究面では、引き続き千葉県における健康課題に取り組んでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 専門職間の連携活動論.
- ・ 管理栄養士導入教育.
- ・ 栄養教育論Ⅰ.
- ・ 栄養教育論Ⅱ.
- ・ 栄養教育手法論.
- ・ 栄養教育論実習.
- ・ 栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
- ・ 栄養教諭教育実習.
- ・ 卒業研究.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル, 主催学会（学会名称）, 開催日, 場所等. 本人下線）

- ・ 工藤芳子, 海老原泰代, Jonathan Guevarra, 綿引信義, Nina G. Gloriani, 兵井伸行: フィリピンにおける非感染性疾患 (NCDs) 対策に用いる臨床検査項目の検討, 日本国際保健医療学会, 平成28年5月21日, 国立保健医療科学院.

- ・ 鈴木亜夕帆, 阿曾 (染矢) 菜実, 海老原泰代, 田村友峰子, 三宅理江子, 滑川美朝, 渡邊智子: 本学学生を対象とした大学のための食生活支援パンフレットの作成, 一般社団法人日本調理科学会, 平成 28 年 8 月 28 日 29 日, 名古屋学芸大学.
- ・ Yasuyo Ebihara, Yoshiko Kudo, Jonathan P. Guevarra, Nobuyoshi Watahiki, Nina G. Gloriani, Nobuyuki Hyoui : The role of nutritionists in the prevention and control of NCDs in developing countries, APACPH, September16~19, 2016. Tokyo.
- ・ Yoshiko Kudo, Yasuyo Ebihara, Jonathan P. Guevarra, Nobuyoshi Watahiki, Nina G. Gloriani, Nobuyuki Hyoui : Essential clinical examinations related to NCDs prevention and control in the primary healthcare facilities, National Capital Region, Philippines, APACPH, September16~19, 2016. Tokyo.
- ・ 海老原泰代, 田村友峰子: 小児生活習慣病予防検診における生活習慣教育についての検討, 日本肥満学会, 平成 28 年 10 月 7 日 8 日, 東京.
- ・ 海老原泰代, 田村友峰子, 豊島裕子: 児童とその家族に対する生活習慣病予防に向けた栄養教育内容の検討, 千葉県学校保健学会, 平成 28 年 12 月 10 日, 聖徳大学.
- ・ 田村友峰子, 海老原泰代, 豊島裕子: 小児生活習慣病に関する食事・ライフスタイルの検討, 千葉県学校保健学会, 平成 28 年 12 月 10 日, 聖徳大学.
- ・ 海老原泰代, 渡邊智子, 渡辺満利子: 特定健診・特定保健指導受診者の現状解析—千葉県内某事業所勤労者を対象として—, 千葉県公衆衛生学会, 平成 29 年 3 月 2 日. 千葉文化センター.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構, 平成 29 年度女子大生等を学習者とした「3・1・2 弁当箱法」体験セミナー事業, 事業主担当者.
- ・ 学内共同研究, 千葉県民における習慣的な栄養素摂取量推定と評価に関する研究, 研究分担者.
- ・ 学長裁量研究, 子どもの健康と食生活に関する環境要因の検討, 研究代表者.
- ・ 学長裁量研究, 千葉県における栄養教諭および食育の現状と課題, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ 千葉県栄養士会, 役員, 2016 年 4 月 1 日~現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本公衆衛生学会, 日本健康教育学会, 日本臨床栄養協会, 日本肥満学会, NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会, 日本糖尿病学会, 千葉県学校保健学会, 日本栄養改善学会.
- ・ 日本栄養士会, 千葉県栄養士会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 千葉県栄養改善学会, 千葉県栄養士会, 平成 29 年 2 月 4 日.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・ 館山市養護教諭研修会, スッキリ! 親子元気プロジェクト報告他, 館山市養護教諭, 平成 29 年 3 月 1 日, 館山市菜の花ホール.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ ネットワーク委員会, 栄養教諭教職課程運営委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 栄養学科運営会議、栄養学科3年生担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

本年度は、科目責任者としてはじめて前期科目の栄養教育論Ⅱや栄養教育論実習および栄養教諭教育実習関係科目を担当した。初年度であり特に、学生の理解を確認しながら進めることで教育効果の向上に努めた。また、栄養教諭教育実習に関しては学内外との連携を心がけた。研究面では引き続き千葉県健康課題に取り組むことで、千葉県についての理解を深めた。さらに国際学会等で一定の成果を発表した。

VII 次年度の目標

次年度は、教育面では科目責任者として2年目を向かえるので、より積極的に教育活動に励みたい。学生の学びを推進するよう授業内容について工夫を重ね、学内外の関係者との連携を深めることにより、さらなる教育効果の向上に努める。研究面では、引き続き千葉県における健康課題に取り組んでいくとともに、共同研究の成果をまとめ論文文化を進めたい。

助教 阿曾 菜美 博士（人間環境学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は育児休業のため、教育研究活動は中断する。復帰後、スムーズに教育研究活動を再開できるよう、健康管理や他教職員との連携を心掛ける。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・ 鈴木亜夕帆、阿曾（染矢）菜美、海老原泰代、田村友峰子、三宅理江子、滑川美朝、渡邊智子：本学学生を対象とした大学生のための食生活支援パンフレットの作成、日本調理科学会大会研究発表要旨集、28、0、117、2016。

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・ 鈴木亜夕帆、阿曾（染矢）菜美、海老原泰代、田村友峰子、三宅理江子、滑川美朝、渡邊智子：本学学生を対象とした大学生のための食生活支援パンフレットの作成、日本調理科学会平成28年度大会、平成28年8月28日・29日、名古屋学芸大学。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・ 文部科学省・科学研究費補助金（若手B）、痩せ願望に起因する食行動が食事に関連する感覚入力感受性に与える影響、研究代表者。（中断中）

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本生理学会、日本体力医学会、The American Physiological Society。

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 日本生理学会, The Journal of Physiological Sciences, 査読者, 2016 年.
- ・ PLOS, PLOS ONE, 査読者, 2016 年.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

育児休業中であったが, 共同研究者の学会発表や論文執筆への貢献, 学術雑誌からの査読依頼への対応等, できる範囲で自身の役割を果たすことができた. また, 休業前後の担当科目の科目担当者や, 産休代替の教員と連絡を取るなど, スムーズな復帰に向けて準備を行うことができた.

VII 次年度の目標

まずは基本となる教育活動に専念する. 研究活動については, これまでの成果の発表や今後の研究計画の立案に力を入れる. 時間配分を工夫し, 子育て休暇等を活用することで, ワークライフバランスを意識した無理のない活動を続けていきたい.

助教 鈴木 亜夕帆 博士 (学術)

対象期間: 2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

前年度の内容を吟味して, 教育, 研究の面で計画的に進める

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 職種間の連携活動論.
- ・ 調理実習.
- ・ 食事設計と調理実習.
- ・ 調理科学実験.
- ・ 食品化学実験.
- ・ 食品学実験.
- ・ 食品加工実習.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・ 黒川清監修, 中尾俊之, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆 他 編著: 腎臓病食品交換表 9 版治療食の基準, 2016 年 9 月, 医歯薬出版, 東京.
- ・ 文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会 (安井明美, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆 他) 編: 日本食品標準成分表 2015 年版 (七訂) 追補, 2017 年 1 月, 全国官報販売協同組合, 東京.
- ・ 大橋麻美, 鈴木亜夕帆, 渡邊智子: 食育用クリアファイル「元気な 60 歳からのけんこう掲示板」, 2017 年 3 月, 千葉県立保健医療大学, 千葉.

- ・ 岡瑞希, 鈴木亜夕帆, 渡邊智子: 食育用クリアファイル「がんばりすぎない朝ごはんのすすめ」, 2017年3月, 千葉県立保健医療大学, 千葉.
- ・ 大谷美佳, 鈴木亜夕帆, 渡邊智子: 食育用パンフレット「せいかつすごろく」, 2017年3月, 千葉県立保健医療大学, 千葉.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ 渡邊智子, 鈴木亜夕帆: 日本食品標準成分表 2010 収載食品の調理による成分変化率の算定と適用一重量, エネルギー, 一般成分, 脂肪酸, コレステロール, 食物繊維一, 日本食生活学会誌, 27 (3), p. 175-184, 2017年.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 鈴木亜夕帆, 阿曾 (染矢) 菜美, 海老原泰代, 田村友峰子, 三宅理江子, 滑川美朝, 渡邊智子: 学生を対象とした大学生のための食生活支援パンフレットの作成, 日本調理科学会平成 28 年度大会, 2016年8月28日, 名古屋市.
- ・ 渡邊智子, 柳沢幸江, 今井悦子, 石井克枝, 大竹由美, 梶谷節子, 鈴木亜夕帆, 中路和子, 米田千恵: 別企画1「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理」千葉県の家庭料理 主食の特徴 一豊かな自然が育んだ米料理一, 日本調理科学会平成 28 年度大会, 2016年8月28日, 名古屋市.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・ 食育・健康づくり活動 (千葉市食育のつどい 2016). 2016年6月25日. 千葉市 イオンモール幕張新都心 ファミリーモール (ちば食育応援隊によるステージ, ブースの演出・準備).
- ・ 食育・健康づくり活動 (幕張ベイタウン祭り 2016). 2016年5月21日. 千葉市幕張ベイタウン (ちば食育応援隊によるステージ, ブースの演出・準備).
- ・ 食育・健康づくり活動 (幕張ベイタウン夏祭り 2016). 2016年8月19日. 千葉市幕張ベイタウン (ちば食育応援隊によるステージ, ブースの演出・準備).
- ・ 食育・健康づくり活動 (コープみらいフェスタきやっせ物産展 2016). 2017年2月26日. 幕張メッセ (ちば食育応援隊によるステージ, 食育教室の演出・準備).
- ・ 「高校生のための食育: グーパー食生活」のリーフレットと指導案の作成 (依頼: 千葉県教育委員会). 2016年.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・ 文部科学省. 科学技術・学術政策局 技術審査専門員.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 日本食生活学会, 日本家政学会, 日本調理科学会, 日本災害食学会, 日本民族衛生学会, 日本食育学会, 千葉県学校保健学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・ 千葉県学校保健学会. ニュースレター編集員. 2007年~2016年.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 学生委員会. 推薦入学試験業務, センター入学試験業務, 一般入学試験業務.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 栄養学科会議. オープンキャンパス業務, 2年副担任.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ 千葉県. <http://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokuiku/guide-book.html>
- ・ 千葉県. <http://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/sakana/hajimetedokidokiosakanaresipi.html>
- ・ 社団法人日本青果物輸入安全推進協会. <http://www.fruit-safety.com/education/1302.html>
- ・ (独) 農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所. http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/vegetea/pamph/010749.html.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

実験・実習がスムーズな流れになるように前年度の学生の動き等を把握して、準備から片付けまでを計画し実施した。それぞれの授業で、前年度の内容をもとに、準備の方法の改善、資料の修正などをおこなった。副担任として教室の管理や学生のサポートを行った。これまでに行っている研究課題について、実験試料の実験を開始したが終了までできなかった

助教 田村 友峰子 修士（生命科学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

計画的かつ柔軟に研究教育をこなせるように努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・ 体験ゼミナール.
 - ・ 食品衛生学実験.
 - ・ 給食経営管理実習.
 - ・ 総合演習.
 - ・ 給食経営管理臨地実習.
 - ・ 事前指導.
 - ・ 事後指導.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・ 鈴木亜夕帆, 阿曾（染矢）菜美, 海老原泰代, 田村友峰子, 三宅理江子, 滑川美朝, 渡邊智子：本学学生を対象とした大学のための食生活支援パンフレットの作成，一般社団法人日本調理科学会平成28年度大会，2016年8月28日，名古屋.
- ・ 海老原泰代, 田村友峰子：小児生活習慣病予防検診における生活習慣教育についての検討，第37回日本肥満学会，2016年10月7日，東京.
- ・ 田村友峰子, 豊島裕子：社員食堂における売上食数の要因解析，第12回日本給食経営管理学会学術総会，2016年11月27日，神戸.
- ・ 海老原泰代, 田村友峰子, 豊島裕子：児童とその家族に対する生活習慣病に向けた栄養教育内容の検討，第20回千葉県学校保健学会年次大会，2016年12月10日，千葉.

- ・ 田村友峰子, 海老原泰代, 豊島裕子: 小児生活習慣病に関する食事・ライフスタイルの検討, 第20回千葉県学校保健学会年次大会, 2016年12月10日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 学内共同研究, 給食施設における健康支援に効果的なマーケティング戦略の検討, 研究代表者.
- ・ 学内共同研究, 子どもの肥満に影響する環境因子の検討と栄養教育的なアプローチ, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本栄養士会, 日本栄養改善学会, 日本給食経営管理学会.

V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・ 栄養学科運営委員, 管理栄養士国家試験対策委員, 栄養学科4年生副担任 (2017年1月~).

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

研究面では, 周りのサポートのおかげで納得のいく結果が出せたように思えるが, 学位取得のための時間を作ることができなかったのが心残りである.

VII 次年度の目標

論文投稿できるように研究の時間を有効活用する.

助教 三宅 理江子 博士 (生活科学)

対象期間: 2016年4月1日~2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は, 臨床栄養栄養分野の担当教員とともに教育活動に励み, 研究成果の論文執筆を行う. また, 昨年度に引き続き社会貢献活動を行う.

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・ 専門職間の連携活動論.
- ・ 臨床栄養学実習.
- ・ 栄養ケアマネジメント論実習.
- ・ 栄養ケアマネジメント論演習.
- ・ 事前指導.

- ・ 事後指導.
 - ・ 臨床栄養臨地実習.
 - ・ 臨床検査実習.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)
- ・ 臨床栄養代謝学Ⅱ. 神奈川県立衛生看護専門学校.
 - ・ 栄養学. 千葉市青葉看護専門学校.

Ⅲ 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・ 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会監修, 中村丁次, 川島由起子, 加藤昌彦編, 三宅理江子, 谷内洋子他著: 管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 第4巻 臨床栄養学 基礎, 2016年, 医歯薬出版株式会社, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・ 島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 三宅理江子, 保坂誠, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 雄賀多聡, 雨宮有子, 中島悠介, 中島一郎: 軽度認知障害が疑われる地域高齢者の「日常役割機能一身体」, 千葉県立保健医療大学紀要, 8巻, 1号, 35-40, 2017.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・ 三宅理江子, 海老原泰代, 平尾由美子, 豊島裕子: 「在宅医療のための専門職連携講座」の評価と在宅における栄養食事指導の現状, 第4回日本在宅栄養管理学会学術集会, 2016年6月25日, 兵庫.
- ・ Nobuko (Kay) Hongu, Mieko Shimada, Rieko Miyake, Yusuke Nakajima, Ichirou Nakajima, Yutaka Yoshitake: Promoting Routine Stair Use: Effectiveness Of A Community Physical Activity Program For Older Adults, South West Chapter, 36th American College of Sports Medicine Annual Meeting Costa Mesa, October 21, 2016, California, USA.
- ・ 島田美恵子, 三宅理江子, 岡村太郎, 松尾真輔, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 雨宮有子, 雄賀多聡, 中島一郎: 高齢者における主観的健康観の変化と体重・体力の変化との関係, 平成28年度 (第55回) 千葉県公衆衛生学会, 2017年3月2日, 千葉.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 学内共同研究, 若年女性の冷え感に及ぼす安静時および食後の熱産生と末梢血流量・外殻温度の関係について, 研究代表者.
- ・ 学内共同研究, 地域健康教室に参加する高齢者における Body Mass Index の加齢変化について, 研究分担者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 一般社団法人 日本体力医学会, 公益社団法人 日本栄養・食糧学会, 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会, 日本公衆衛生学会, 一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会, 一般社団法人 在宅栄養管理学会, 一般社団法人 日本病態栄養学会.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・ いきいき夢情報教室における栄養学講座, 白井市役所高齢者福祉課, バランスの良い食事について, 食事の負担を減らすコツと気にかけてほしい栄養成分, 千葉県白井市の65歳以上の住民, 2016年8月23日, 9月27日, 富士センター.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・ 社会貢献委員会. 専門職間の連携活動論作業部会.
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・ 栄養学科運営会議. 4年生副担任. 管理栄養士国家試験対策委員.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

臨床栄養分野の担当教員とともに臨床栄養分野の教育活動に励むことができた。また、地域住民に対して栄養教育を行う事ができた。学内の研究費を獲得し、共同研究者の協力のもと研究を終えることができた。研究成果を学会にて発表することができた。しかし、筆頭論文は発表できなかった。4年生副担任として学習面や就職活動の支援、国家試験対策のアドバイスを適宜行うことができ、国家試験の全員合格に貢献した。

VII 次年度の目標

平成 29 年度は育児休業のため積極的に研究教育活動を行うことは難しいが、復帰後の業務が円滑に進むよう、臨床栄養分野の担当教員をはじめとする教職員との情報共有や連携に努めたい。

助教 岡田 亜紀子 修士（学術）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は着任初年度であるため、次年度以降、円滑な演習・実習支援、研究活動ができるよう準備期間と設定する。演習・実習支援では、各科目の特性の把握をしっかりとこない、研究活動では、研究分担者としての責務を果たすことを目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・ 公衆栄養学実習.
 - ・ 公衆栄養臨地実習.
 - ・ 事前指導.
 - ・ 事後指導.
 - ・ 栄養教育論実習.
 - ・ 栄養教諭教育実習.
 - ・ 栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
 - ・ 専門職間の連携活動論.
 - ・ 発達歯科衛生学Ⅱ.

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・ 学内共同研究、千葉県民における習慣的な栄養素摂取量推定と評価に関する研究、研究分担者。
 - ・ 学長裁量研究、千葉県の栄養教諭・学校栄養職員の職務および食育の現状と課題、研究分担者。
 - ・ 学長裁量研究、糖尿病発症予防を目的としたライフスタイル教育プログラムの評価、研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

- 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）
- ・ 千葉県白井市、地域ケア会議助言者（管理栄養士）、2016年9月～2017年3月。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本栄養改善学会、クリニカルパス学会、日本臨床栄養協会、千葉県学校保健学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・ 高齢者向け食育講座、幸手市立図書館、「大人のための食育講座」、2016年8月23日、幸手市立図書館視聴覚室。
- ・ 子ども向け食育講座、幸手市立図書館、「お母さんに知ってほしい：子どものための食育講座」、2017年1月29日、幸手市立図書館視聴覚室。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 社会貢献委員会、専門職間の連携活動論作業部会（2017年1月～3月）。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 栄養学科運営会議、3年生副担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

平成 28 年度は着任初年度であったため、状況把握に注力した。教育・研究・社会貢献活動いずれにおいても十分な成果を発揮することはできなかった。業務遂行中の気づきに対し、できる限りの対応をおこなった。

VII 次年度の目標

今年度把握・収集した情報や知識を活用し、学生や地域に還元できるよう、次年度も努力を続けたい。研究分担者として平成 28 年度に収集したデータを整理、分析し、学会発表や論文作成にあたりたい。

齒科衛生學科

教授（兼）学科長 大川 由一 歯学博士

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、特色科目「千葉県の健康づくり」が担当の最終年度にあたるため、人々の健康づくりのために学生が連携を深められるよう、さらに授業内容の工夫に努めたい。研究活動については、教育活動や管理・運営にエフォートの多くを配分せざる得ない中で、効率的に共同研究に関わる研究テーマについて取組み、一定の成果を残すことを目標とする。社会貢献活動では、これまでと同様に学会や学術団体等の事業に貢献すべく積極的に取り組みたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・口腔衛生学.
- ・チーム歯科医療論.
- ・地域歯科衛生学.
- ・歯科衛生統計学.
- ・演習V（地域歯科衛生）.
- ・総合演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・継続個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習I（小児）.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・歯科医療管理学（東京歯科大学）.
- ・衛生学・公衆衛生学（アポロ歯科衛生士専門学校）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，吉田直美，日下和代，酒巻裕之，大川由一：筆記具・スケーラーの把持動作における筋活動の関連，日歯衛教会誌，7，2，97～102，2016.
- ・Yoshikazu Okawa，SoIchiro Hirata，Ikuo Nasu and Yukio Hirata：Intentions and Factors regarding Selection of Place of Work of Postgraduate Dental Trainees after Clinical Training，Bull of Tokyo Dent Coll，58（1）：33-40，2017.
- ・麻賀多美代，麻生智子，吉田直美，大川由一：健康成人女性における口腔内マッサージの生理的・主観的効果の検証，千葉県立保健医療大学紀要，8，1，25～31，2017.3

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等、本人下線）

- ・日下和代, 大川由一, 金子 潤, 鈴鹿祐子, 西村克枝, 斎藤英生: 千葉県における歯科衛生士の需給状況の実態調査, 第17回千葉県歯科医学大会, 2017年2月5日, 京成ホテルミラマーレ, 千葉市.
- ・日下和代, 大川由一, 金子 潤, 鈴鹿祐子, 西村克枝, 斎藤英生: 千葉県内の病院および介護関連施設における口腔ケアの実施状況の調査, 第17回千葉県歯科医学大会, 2017年2月5日, 京成ホテルミラマーレ, 千葉市.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本歯科衛生学会 第11回学術大会・研究討論会, 2016年9月19日, 広島国際会議場, 広島市.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 基盤研究(C), 徒手マッサージにおける口腔機能の賦活とリラクゼーション効果に関する実証的研究, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 千葉県内の言語聴覚士による口腔ケアの実施状況の調査, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療. 2009年4月～現在に至る, 本学歯科診療室.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会. 運営委員. 2013年4月1日～2017年3月31日.
- ・全国歯科衛生士教育協議会. 理事. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・全国歯科衛生士教育協議会. 教育委員会理事. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・全国歯科衛生士教育協議会. 教育問題検討委員会委員. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・全国歯科衛生士教育協議会. 認定委員会委員. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・全国歯科衛生士教育協議会. 法人化検討委員会委員. 2014年4月1日～2017年3月31日.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会. 理事. 2015年4月1日～現在に至る.
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会. 教育・研究委員会委員. 2015年4月1日～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本口腔衛生学会. 日本公衆衛生学会. 国際歯科研究学会(IADR). 国際歯科研究学会日本部会(JADR). 日本老年歯科医学会. 日本歯科医療管理学会. 日本歯科医学教育学会. 社会歯科学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本口腔ケア学会. 東京歯科大学学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科衛生教育学会. 評議員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会. 顧問. 2015年7月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会. 外部査読委員. 2013年5月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会. 編集委員会査読委員. 2013年4月1日～現在に至る.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・歯科衛生士の業務および教育についての説明会. 千葉県歯科衛生士育成協議会. 養成校での歯科衛生士教育. 千葉県内高校生. 2016年7月2日. 千葉県立保健医療大学.
- ・平成28年度全国歯科衛生士教育協議会歯科衛生士専任教員講習会Ⅲ. 全国歯科衛生士教育協議会. 保健情報処理・活用法(情報科学). 歯科衛生士養成校専任教員. 2016年8月23日. 鶴見大学短期大学部.

- ・平成 28 年度東京歯科大学大学院講義. 東京歯科大学大学院. 臨床・基礎研究に必要な統計解析について. 歯学部大学院生. 2016 年 9 月 6～7 日. 東京歯科大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 教授会. 自己点検・評価委員会. 自己点検・評価委員会認証評価部会. 将来構想検討委員会. 入試委員会. 学術推進企画委員会. 衛生委員会（衛生管理者）. 防災対策委員会. 特色科目委員会. FD 委員会. 教員資格審査委員会（歯科・教授）2016. 7. 29～. 教員資格審査委員会（基礎看護学・准教授）2016. 9. 26～. 教員資格審査委員会（母性看護学・講師）2016. 9. 28～. 教員資格審査委員会（栄養・助教）2016. 2. 24～. 大学院構想作業部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科長（2015 年 4 月 1 日～現在に至る）. 歯科診療室長（2015 年 4 月 1 日～現在に至る）. 歯科診療室医療安全管理者（2015 年 4 月 1 日～現在に至る）. 学科会議（歯科衛生学科）.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、平成 27 年度に続き特色科目「千葉県の健康づくり」の科目責任者として授業内容の改善と工夫をし、学生から高い評価を受けることができた。研究活動では、学内外共同研究に参加し、研究成果の公表や総括に向けて尽力した。限定されたものとなった。社会貢献活動では学会や学術団体等の事業の役員として貢献することができた。

VII 次年度の目標

教育活動では新たに臨地実習 3 科目を担当することになったため、臨地実習施設との連携を深め、学生実習が充実したものとなるよう努める。研究活動については、少ないエフォートながら他の学内外の研究者と共同研究に取り組み、成果を残すことを目標とする。社会貢献活動および学内の管理運営においても精力的に対応していきたい。

教授（兼）図書館長 日下 和代 医学博士

対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、特に教育活動については、学生の学習意欲を喚起する授業を展開できるよう工夫・改善に努める。研究については、論文に纏めることが課題である。社会貢献については、引き続き積極的に協力できるよう努める。大学の管理運営についても積極的に協力することに努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・歯科衛生学概論.

- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・演習 V (地域歯科衛生).
- ・歯科診療所実習.
- ・総合演習.
- ・発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・地域歯科衛生実習.
- ・卒業研究.
- ・亥鼻 IPE ステップ 3.

Ⅲ 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・可児徳子, 高坂利美, 遠藤圭子, 合場千佳子, 藤原愛子, 白鳥たかみ, 日下和代等: 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (第6刷), 平成26年3月20日, 医歯薬出版, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・大滝千智, 石井邦子, 麻生智子, 日下和代, 岡田 忍, : 更年期女性における口腔の健康と QOL および口腔保健行動に関連した要因, 千葉県立保健医療大学紀要, 第8巻, 第1号, 19-25, 2017.
- ・吉田 隆, 有泉祐吾, 日下和代, 田中宣子, 鈴木幸江, 土田智子, 本間和代, 久本たき子, 畠中能子, 中村真理子, 和食沙紀, 升井一朗, 市川順子, 高阪利美, 石川隆義, 足立了平, 野村慶雄: 歯科衛生士教育における学生の就学実態からみた学生支援に関する検討 - 就学支援対策の効果と影響 -, 日本歯科医学教育学会雑誌, 第32巻, 第3巻, 第3号, 19-28, 2016.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・秋山恭子, 遠藤圭子, 天野秀昭, 日野出大輔, 日下和代, 藤原愛子, 三阪美恵, 秋房住郎, 木下淳博, 品田佳世子: 歯科衛生士の生活に影響を与える因子調査-学生のストレスに関して-, 第11回日本歯科衛生学会, 2016年9月18日-19日, 広島国際会議場.
- ・鈴鹿祐子, 山中紗都, 麻生智子, 麻賀多美代, 日下和代: 臨床実習時における学生のインシデント対策に関する検討, 第11回日本歯科衛生学会, 2016年9月18日-19日, 広島.
- ・日下和代, 大川 由一, 金子 潤, 鈴鹿祐子, 西村克枝, 斎藤英生: 千葉県における歯科衛生士の需給状況の実態調査, 千葉県歯科医学大会, 2017年2月5日, 千葉市.
- ・日下和代, 大川 由一, 金子 潤, 鈴鹿祐子, 三和真人, 雄賀多 聡: 千葉県内の病院および介護関連施設における口腔ケアの実施状況の調査, 千葉県歯科医学大会, 2017年2月5日, 千葉市.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・外部資金, 科学研究費補助金基盤研究B, 歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質の向上に関する研究, 研究分担者.
- ・学長裁量, 千葉県内の言語聴覚士による口腔ケアの実施状況の調査, 研究代表者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・千葉市36連絡協議会町内自治会防犯パトロール隊員, 2009年10月~現在, 千葉市幸町

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・ヘルシーカムカムちば, 地域住民への歯科衛生の啓発, 2016年5月29日, 千葉そごう, 千葉市

・デンタルカップちば. ミニサッカー大会での歯みがき指導. 2065年11月27日. 千葉ポートアリーナ. 千葉市

4 職能団体委員等(職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

・千葉県歯科衛生士育成協議会役員, 2016年4月~2017年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本咀嚼学会. 口腔衛生学会. 口腔ケア学会. 抗加齢歯科医学研究会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科医学教育学会.
日本歯科衛生教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

a 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

・日本歯科衛生学会. 幹事・編集委員, 査読委員. 2016年4月~2017年3月
・日本歯科衛生教育学会常任理事, 評議員, 教育問題検討委員, 査読委員, 2016年4月~2017年3月
・全国大学歯科衛生士教育協議会監事. 理事, 教育検討委員, 雑誌査読委員. 2016年4月~2017年3月

b 学会開催など, その他の貢献(学会・学術団体名. 役割・役職. 活動期間)

・日本歯科衛生学会学術大会編集委員会主催ワークショップ開催. コーディネーター
・日本歯科衛生教育学会学術大会教育検討委員会主催ワークショップ開催. 2016年12月10日. 東京医科歯科大学

6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所)

・千葉県歯科医師会, 日歯認定歯科助手講習会. 千葉県歯科衛生士育成協議会役員として歯科助手としての心得と患者対応について講義した. 2016年9月11日千葉県口腔保健センター.
・千葉県歯科医師会, 日歯認定歯科助手講習会. 千葉県歯科衛生士育成協議会役員として高齢者の対応としてのバイタルサインの取り方について実技指導した.. 2016年9月25日千葉県立保健医療大学.
・未就業歯科衛生士リカバリーコース. 千葉県歯科衛生士育成協議会運営委員として歯科衛生士の社会的使命と心得について講義した.. 2016年9月11日千葉県口腔保健センター
・千葉市社会福祉協議会社会福祉研修センター. 「いつまでも, 健口にお口のケアで老化予防」. 2016年12月7日・千葉市ハーモニープラザ

7 その他

・千葉大学大学院修士論文審査員
・歯科衛生士の業務及び教育についての説明会開催. 千葉県歯科衛生士育成協議会開催で, 高校生に歯科衛生士職について理解して, 進路の参考にしてもらう. 2016年7月2日. 千葉県立保健医療大学
・千葉県立保健医療大学紀要の論文の査読
・日本歯科衛生学会誌の論文の査読
・日本歯科衛生教育学会抄録担当
・日本歯科衛生士会長賞の応募における推薦状の作成
・千葉市長賞の応募における推薦状の作成およびランチミーティング参加

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・図書館長. 運営会議. 将来構想委員会. 自己評価点検委員会. 教授会. 教務委員長. キャンパス・ハラスメント防止委員会. 特色科目委員会, FD委員, 教員資格審査委員会. 教員の授業負担調査部会長.
・ハラスメント対策委員会として「ハラスメントのないキャンパスづくりーハラスメント防止対策のポイントー」のタイトルで学生対象のセミナーを開催し, 講師を務めた. 平成29年3月6日

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動については、学生の理解度を確認しながら教育効果が向上する方法を検討しながら実践した。・研究については、学長裁量研究費により、千葉県内の言語聴覚士による口腔ケアの実施状況の研究課題に着手した。社会貢献については、専門職また一般の方々の講演会・研修会の講師を積極的に受けて支援ができ、このことは自身の教育活動に活かすことができた。

大学の管理運営については、教務委員長として大学教育が円滑に推進できるよう運営に努めた。特に、特に、教員の授業負担の調査を実施し、平準化を図った。また、千葉県立保健医療大学の教育の質向上のため、新新カリキュラム検討作業部会とコンピデンス検討作業部会を立ち上げ、検討した。その結果、学部ディプロマポリシーが完成した。学生が卒業時に発揮できる能力”を明らかにする目的で、昨年に続き2回目の教員によるワークショップを開催した。

教授 吉田 直美 博士（歯学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、学生の自学自習のための支援ならびにキャリアカウンセリングをより重視して働きかける。研究では、更年期女性を対象とした介入研究についての分析を行い、これまでの研究成果を論文として公表するように努める。大学運営、社会貢献については、引き続き積極的に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・専門職間の連携活動論。
 - ・千葉県の健康づくり。
 - ・歯科衛生アセスメント論。
 - ・歯科保健指導・健康教育論。
 - ・演習IV(歯科保健指導・カウンセリング)。
 - ・病院実習。
 - ・国際歯科衛生学。
 - ・卒業研究。
 - ・総合演習。
 - ・歯科診療室総合実習。
 - ・継続・個別支援実習。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Ohara Y, Yoshida N, Kawai H, Obuchi S, Yoshida H, Mataka S, Hirano H, Watanabe Y: Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults. Geriatric and Gerontology International, DOI: 10.1111/ggi.12873, 2016. (IF: 2.229)
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 吉田直美, 日下和代, 酒巻裕之, 大川由一: 筆記具・スケーラーの把持

動作における筋活動の関連. 日本歯科衛生教育学会雑誌, 7(2): 97-102, 2016.

- ・日本歯科衛生士会・日本歯科衛生学会監修, 吉田直美著: 口腔機能をチェック! 向上! 診療室で使える保健指導ツール ⑩口腔粘膜ケアを始めよう! 加齢や機能低下により現れる口腔内の変化. デンタルハイジーン, 医歯薬出版, 36(11): 1245-1247, 2016.
- ・日本歯科衛生士会・日本歯科衛生学会監修, 吉田直美著: 口腔機能をチェック! 向上! 診療室で使える保健指導ツール ⑦口腔周囲筋のアセスメントとトレーニング 食べこぼし, していませんか? デンタルハイジーン, 医歯薬出版, 36(8):903-905, 2016.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Yoshida N, Sugimoto K, Yamanaka S, Sakamaki H, Yamazaki Y, Kimura A, Imura H, Kono Y, Kubota A: Oral and holistic health evaluation and dental health status in dental hygienists at menopausal stage. International Symposium of Dental Hygiene 2016, 2016. 6. 23-25, Basel, Switzerland.
- ・Sugimoto K, Yoshida N, Yamazaki Y, Imura H, Kono Y, Kubota A, Yamanaka S, Sakamaki H, Kimura A: Objective assessment of oral and holistic health in dental hygienists at menopausal stage. International Journal of Dental Hygiene 2016, 2016. 6. 23-25, Basel, Switzerland.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 金子潤, 麻生智子, 山中紗都, 今井宏美, 鈴鹿祐子, 吉田直美: 歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース”CyberCoaster” 動画教材の有用性に関する研究-歯科衛生教育における動画教材の有用性-. 第7回日本歯科衛生教育学会学術大会, 2016年12月10-11日, 東京.
- ・村田友見恵, 金子潤, 保坂誠, 吉田直美: グラスアイオノマーセメント硬化中の唾液接触が硬化後の物性に与える影響. 第11回日本歯科衛生学会学術大会, 2016年9月17-19日, 広島.
- ・浅黄理佳, 保坂誠, 金子潤, 吉田直美: スポーツ飲料の摂取が歯面へ及ぼす影響 -ブラッシング作用による歯面の変化-. 第11回日本歯科衛生学会学術大会, 2016年9月17-19日, 広島.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2016年度千葉県立保健医療大学学内共同研究萌芽: がん患者のための口腔機能管理アセスメントツールの開発と評価. 萌芽E1, 代表.
- ・2016年度千葉県立保健医療大学学内共同研究若手: 術後頭頸部がんサバイバーの口腔機能状態および口腔関連の諸問題とその対処における質的研究. 若手Y2, 分担.
- ・文部科学省研究費補助金 基盤研究C: 女性更年期における口腔症状改善のための介入プログラムの構築と評価. 2015~2017年度, 代表

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・自主グループ船橋市中央生活学校への「若さは健口から」健康教育. 2016年10月23日, 船橋市中央公民館.

2) 千葉県外

- ・NPO法人ピース・ビルダーズ. 事業担当理事, 2012年4月~現在に至る.
- ・アザレア(東京医科歯科大学同窓会有志) 公開講座. 2016年度 東京医科歯科大学.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般財団法人歯科医療振興財団. 歯科衛生士試験企画評価委員会委員. 2013年4月~現在に至る.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本歯科衛生士会. 常務理事. 2013年6月~現在に至る.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯周病学会、日本カウンセリング学会、日本健康教育学会、保健行動科学会、口腔病学会、口腔衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科衛生学会、日本歯科医学教育学会、日本口腔ケア学会、日本老年歯科学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・Prevensione & Assistenza Dentale. Editorial board member. 2011年1月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生士会、常務理事(学会担当)。2013年6月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会、学会長。2015年6月～現在に至る。
- ・口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員 2015年～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、研究等倫理審査委員会、教員資格審査委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学生の自学自習のための支援をより重視して、キャリアカウンセリングをより重視して働きかけた。研究では、更年期女性を対象とした介入研究についての分析を行った。これまでの研究成果の論文を完成し、投稿した。しかし、まだ成果について全て公表していないため、早急に着手する必要があると考える。大学運営、社会貢献について積極的に取り組み、日本歯科衛生士会の運営、日本歯科衛生学会の開催、学術雑誌の発行などに貢献した。

VII 次年度の目標

学生の自学自習のための支援ならびに卒業後に継続学習ができるように継続して支援を行う。更年期研究で収集したデータ解析を実施し、研究成果を公表するための準備を行うとともに、がん患者のための歯科衛生アセスメントツールを開発するための基礎資料を2017年3月までに収集する。

教授 酒巻 裕之 博士（歯学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に教育面では、学年に応じて、学生自ら考えて学ぶ内容をより多く取り入れるように工夫する。歯科診療室業務について、歯科診療の充実とともにTeamSTEPPS[®]を取り入れた医療安全の向上を図り、学生の歯科診療室における臨床実習に貢献する。研究について、科研費や学内共同研究費における研究を進め、歯科診療につながる臨床研究や、教育に有効な教材制作等の研究を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・口腔病理学。

- ・歯科感染予防学.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学 I (小児).
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・臨床実習Ⅲ (病院実習).
- ・歯科診療室総合実習 (3 年生).
- ・歯科診療室総合実習 (4 年生).
- ・卒業研究.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②. 口腔外科学 (診療の基本-②) (日本大学松戸歯学部 兼任講師).

Ⅲ 研究記録

1 著書 (著者本人下線 : 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・栢 豪洋, 升井一朗, 石川隆義, 玄 景華, 小菅直樹, 雫石 聰, 濱元一美, 本間和代, 鱒見進一 編, 酒巻裕之 (著者 131 名中 46 人目) : すぐひける, 現場で役立つ 歯科衛生士のための ポケット版 最新歯科用語辞典, 2016, クインテッセンス出版, 東京.
- ・全国歯科衛生士教育協議会 監修/合場千佳子, 高阪利美, 松井恭平 編著/石井拓男, 松田裕子, 山崎忍, 仁井谷善恵, 鈴鹿祐子, 畑山千賀子, 足立了平, 筋野真紀, 荒木美穂, 山田小枝子, 酒巻裕之, 麻賀多美代, 小倉千幸, 多田美穂子, 宮崎晶子, 大塚紘未, 中村まゆみ, 升井一朗, 前田豊美, 市川智恵, 玉木裕子, 渥美信子, 白鳥たかみ, 有井真弓, 片岡あい子, 麻生智子, 石井実和子, 土田智子, 深山治久, 上原弘美, 新居直実, 宮坂孝弘 : 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第 2 版, 2016, 医歯薬出版, 東京.

2 学術論文・その他 (著者 : 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 吉田直美, 日下和代, 酒巻裕之, 保坂 誠, 大川由一 : 口腔周囲のマッサージによる咀嚼筋の疲労回復とリラクゼーションに関する研究, 日本口腔ケア学会雑誌, 10 巻, 117-122, 2016.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 今井宏美, 山中紗都, 金子 潤, 鈴鹿祐子, 吉田直美 : 歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関するパイロット研究, 日本歯科衛生教育学会雑誌, 7 巻, 65-72, 2016.
- ・秋葉雄登, 増田 光, 山本淳一郎, 高橋香織, 酒巻裕之, 秋葉正一 : ビスフォスフォネート (BP) 製剤服用者のドライソケット対処法 血餅を充填する試み : 日大口腔科学, 42 巻, 67-71, 2016.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 吉田直美, 日下和代, 酒巻裕之, 大川由一 : 筆記具・スケーラーの把持動作における筋活動の関連 : 日本歯科衛生教育学会雑誌, 7 巻, 97-102, 2016.

3 発表 (発表者 : 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・河島 睦, 酒巻裕之, 久山佳代, 金子 潤, 麻賀多美代, 末光正昌, 長谷川一弘, 福本雅彦, 近藤壽郎 : 接触拡大粘膜鏡視検査による診断が困難であった症例に関する検討, 第 26 回日本口腔内科学会・第 29 回日本口腔診断学会合同学術大会, 2016 年 9 月 23 日, 岡山.
- ・長谷川一弘, 酒巻裕之, 河島 睦, 伊藤 耕, 末光正昌, 樋口真弘, 金子 潤, 麻賀多美代, 深津 晶, 福本雅彦, 近藤壽郎, 久山佳代 : 口腔扁平苔癬の接触拡大鏡視検査所見, 臨床病理のおよび病理組織学的検討, 第 26 回日本口腔内科学会・第 29 回日本口腔診断学会合同学術大会, 2016 年 9 月 24 日, 岡山.
- ・酒巻裕之, 河島 睦, 久山佳代, 金子 潤, 麻賀多美代, 末光正昌, 福本雅彦, 伊藤 耕, 近藤壽郎 : がん関連口腔粘膜病変に対する接触拡大粘膜鏡視検査と細胞診による分類に関する検討, 第 61 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2016

年11月26日, 千葉.

- ・河島 睦, 酒巻裕之, 久山佳代, 金子 潤, 麻賀多美代, 末光正昌, 長谷川一弘, 福本雅彦, 伊藤 耕, 近藤壽郎: 接触拡大粘膜鏡視検査により扁平上皮癌を疑った舌白色病変の1例, 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2016年11月26日, 千葉.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 金子 潤, 麻生智子, 山中紗都, 今井宏美, 鈴鹿祐子, 吉田直美: 歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェイス“CyberCoaster”動画教材の有用性に関する検討—歯科衛生教育における動画教材の有用性—, 第7回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2016年12月10日, 東京.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・久山佳代, 松本 敬, 浮ヶ谷匡恭, 二谷悦子, 森川美雪, 末光正昌, 齊藤隆明, 山本 泰, 酒巻裕之: 口腔細胞診に関する技術—採取器具別およびLBC法と従来法の差異の検討—, 第55回日本臨床細胞学会秋期大会(教育講演), 2016年11月19日, 別府.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費 基盤研究(C), 平成26-28年, がん関連口腔粘膜病変の臨床的診断基準の作成, 研究代表者
- ・科学研究費 基盤研究(C), 平成27-29年, 女性更年期における口腔症状改善のための介入プログラムの構築と評価, 研究分担者
- ・平成28年度学内共同研究費, 萌芽, 事前学習や講義, 実習にCyberCoaster動画教材を用いた教育効果に関する検討, 研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療 平成21年4月から現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室
- ・日本口腔外科学会専門医 1996年10月1日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会指導医 2001年10月1日～現在に至る.
- ・千葉市口腔がん検診 2016年7月1日～12月22日 検診数17件 千葉県立保健医療大学歯科診療室
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医 2013年9月1日～現在に至る 糖尿病患者の歯科診療に当たる.
- ・がん患者歯科医療連携登録医 2013年10月3日～現在に至る 2015年2月16日全国に名簿が公表される.
- ・日本大学松戸歯学部付属病院 診療指導, 2009年4月1日～現在に至る.
- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導, 2011年4月1日～現在に至る.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・歯科衛生士試験委員, 2011年7月1日～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, 日本口腔外科学会, 日本口腔科学会, 日本口腔内科学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔診断学会, 日本臨床口腔病理学会, 日本臨床細胞診学会, 日本有病者歯科医学会, 日本老年歯科医学会, 日本小児歯科学会, 日本大学口腔科学会, 日本看護技術学会, 日本医療安全学会, 日本口腔ケア学会, 日本公衆衛生学会, 日本顎顔面インプラント学会, 日本医学教育学会

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本大学口腔科学会, 評議員, 2007年4月1日～現在に至る.

- ・日本口腔科学会. 評議員. 2009年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔内科学会. 評議員. 2009年6月1日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会. 代議員. 2012年9月2日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 代議員. 2014年4月1日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 広報委員. 2016年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会雑誌. 外部査読員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・Journal of Oral Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology. 査読者. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔外科学会. 専門医制度に伴う准研修施設実地調査. 2016年4月1日～2017年3月31日. 1件参加.

7 その他

- ・日本医療安全学会 高度医療安全管理者（登録番頭 H2810191）. 2016年10月19日認定
- ・日本口腔科学会認定医・指導医（登録番号 第1-16088号）. 2016年12月1日登録
- ・J-STOP 禁煙治療版 知識編終了（第0001041号）日本禁煙推進医師歯科医師連盟. 2017年3月25日
- ・J-STOP 禁煙治療版 実践編終了（第0000896号）日本禁煙推進医師歯科医師連盟. 2017年3月26日

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 入試実施部会. 「入学試験の諸課題」を考えるワーキンググループ.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

口腔外科の専門性を生かし、かつ各学年の学生の理解度に応じて講義の進行や教授法を工夫した。歯科診療室では、歯科診療を通じ、地域住民の方々に社会貢献するとともに、3、4年生の臨床実習に携わり、TeamSTEPPSを用いた医療安全向上に努めた。また歯科衛生学科用 Snap shot を作成して各症例ごとのフィードバックを行い、新カリキュラムでの本格導入のきっかけづくりができ、2017年度で検証する運びとなった。研究では、口腔粘膜病変の分類案について検討し、成果を発表した。今後、得られた成果を積極的に発表していく。

VII 次年度の目標

平成29度は、特に教育面では、学年に応じて、学生自ら考えて学ぶ内容をより多く取り入れるように工夫する。歯科診療室業務について歯科診療の充実とともに、TeamSTEPPSを取り入れた医療安全の向上を図り、その効果について共同研究で検討する。学生の歯科診療室における臨床実習に貢献する。研究について、歯科診療における教育に関わる研究として、歯科衛生学科用 Snap shot の有用性等の共同研究を進める。大学の管理・運営について、入試実施副部長として、入学試験が円滑にできるよう所掌事項を遂行する。また平成32年度入学試験改革に向けて、入学者選抜要綱や入学試験実施要領の改変に携わる。社会貢献について、歯科診療室での歯科診療と千葉市口腔がん検診（個別検診）において、地域住民に貢献する。

教授 島田 美恵子 博士（体育学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は採択された科学研究費の最終年度にあたる。高齢者の健康状態をおった 5 年間の縦断調査をまとめ、少なくとも 3 編の論文を掲載したい。共通教育運営会議長最終年度となる平成 28 年度に、基礎系科目のカリキュラムポリシーや事務・運営上の骨子を明確にしたい。保健体育科目教員として、学生のスポーツ活動への支援やスポーツへの関心を高めるためのイベント開催、健康増進を促す「身体活動」を実践する講義内容を構築していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・健康スポーツ科学.
- ・生涯身体運動科学.
- ・健康と運動.
- ・生理学実験.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・ Patrick Gallaway, Hiroji Miyake, Maciej Buchowski, Mieko Shimada, Yutaka Yoshitake, Angela Kim, Nobuko Hongu. Physical Activity: A Viable Way to Reduce the Risks of Mild Cognitive Impairment, Alzheimer's Disease, and Vascular Dementia in Older Adults. *Brain Sciences*, 7(2): Published online 10.3390/brainsci7020022, 2017.
- ・ 島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 三宅理江子, 保坂誠, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 雄賀多聡, 雨宮有子, 中島悠介, 中島一郎. 地域健康教室に参加する「MMSE26 点以下」の高齢者における健康関連指標 (SF-36). *千葉県立保健医療大学紀要*, Vol 8, 1, 35-40, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ 芹澤 奈保, 児玉 直子, 島田 美恵子, 吉武 裕, 西牟田 守, ミネラル (Na, K, Ca, Mg, P, Zn) の摂取量と早朝第二尿 (EMU) 中排泄量との関係, 第 70 回日本栄養・食糧学会大会, 2016.
- ・ Naofumi Yamamoto, Hiroshi Nagayama, Mieko Shimada, Naoki Nakagawa, Susumu S. Sawada, Mamoru Nishimuta, Yasuo Kimura, Hidenori Asai, Hideo Miyazaki, I-Min Lee, Steven N. Blair, Yutaka Yoshitake. Pedometer-determined physical activity and all-cause mortality in Japanese elderly individuals: A cohort study. *ACSM 63th Annual Meeting* 2016.
- ・ Y. Kimura, K. Ohki, N. Nakagawa, M. Hisatomi, S. Yamazaki, M. Shimada. Comparison of three walking modalities on physical fitness in overweight and obese middle-aged and elderly women *Canadian Society for exercise physiology, Annual conference*, 2016. 10. 12, Canada.
- ・ Kimura Yasuo, Ohki Kazuko, Hisatomi Mamoru, Nakagawa Naoki, Shimada Mieko, Mizunuma Toshimi. "Daily Home-based Exercise" intervention improves fall risks in community dwelling elderly people. *9th World Congress of Active Aging*, 2016.
- ・ 島田美恵子, 本宮暢子, 西牟田守, 吉武裕. 疾患のない 80 歳高齢者の 70 歳時の特性. 第 71 回日本体力医学会, 2016. 岩手.
- ・ 芹澤 奈保, 西牟田 守, 児玉 直子, 島田 美恵子, 吉武 裕. ミネラル (Na, K, Ca, Mg, P, Zn) 出納と早朝第二尿 (EMU) 中排泄量との関係, 第 71 回日本体力医学会, 2016, 岩手.

- Hongu, Nobuko, Shimada, Mieko, Miyake, Rieko, Nakajima, Yusuke, Nakajima, Ichirou, Yoshitake, Yutaka. Promoting routine stairs use: effectiveness of a community physical activity program for older adults. the Southwest Chapter of the ACSM 36th annual meeting, 2016.10.21, California, USA.
- 島田美恵子, 三宅理江子, 岡村太郎, 松尾伸介, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 雨宮有子, 雄賀多聡, 中島一郎. 高齢者における主観的健康観の変化と体重・体力の変化の関係, 第55回千葉県公衆衛生学会, 2017, 千葉.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 文部科学省研究費補助金基盤研究(C), 高齢者への運動支援が健康状態・関節痛に及ぼす影響について, 研究代表者.
- 平成28年度学内共同研究, 地域健康教室に参加する高齢者におけるBody Mass Indexの加齢変化について, 研究代表者.
- 平成28年度学内共同研究, 若年女性の冷え感に及ぼす基礎代謝量および朝食の有無における末梢血流量・表面温度の違い, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

2) 千葉県外

- 横須賀市浦上台北町内会 町内美化活動 2016年4月~2017年3月 計3回 町内会館 公園等.

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- 流山市南部地域包括支援センター 体力測定と講演 2回 2016.6・7 2017.01 流山ケアセンター
- 中国帰国家族の会 体力測定と運動指導 2017.02 高洲コミュニティセンター
- 鋸南町地域包括支援センター 体力測定と講演 2016.11 2017.03 鋸南町役場.
- 八千代市大和田地域包括支援センター 介護予防普及啓発事業(いきいき教室) 平成29年1月23日, 1月31日, 2月7日, 2月14日 計4回

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本測定評価学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 日本口腔衛生学会, 日本公衆衛生学会, 大学体育連合, 日本疫学会, American College of Sports Medicine.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- 千葉市社会福祉協議会 千葉市社会福祉セミナー 老後を考える「高齢者の身体機能 - 心身豊かにサクセスフルエイジング -」, 2017年2月9日, ハーモニープラザ.
- 千葉県栄養士会 健康づくり栄養講座「健康寿命を延ばそう 健康寿命と運動:動いてわかる, わたしのからだ」, 2016年11月13日, 千葉県立保健医療大学.

7 その他

- 公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大学連携チーム 広報活動
- 千葉市保健福祉局 地域包括ケア推進課との情報交換会 参加 2017年1月24日
- ぽーれぽーれ 71号 巻頭言執筆

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・総務・企画委員会 教務委員会 特色科目委員会. 自己点検評価委員会. 入試委員会. 資格審査委員会. 教授会. 共通教育運営会議議長.
- ・大学院構想ワーキンググループ

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・体験ゼミナール作業部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究成果をまとめた論文は、共同研究者を含め6編投稿したが、2016年度中の採択は2編であった。学外研究助成は4件申請したがいずれも採択されなかった。今年度の業績数は目標を達せなかったが、学会からの講演依頼、地域からの講演依頼、新たな研究チームの結成など、2017年度にむけての準備ができた。今後も地道に努力を重ねていきたい。

2016年度、スポーツを主体としたサークルの顧問を新たに2団体、計6団体引き受け、学内のスポーツ活性化に努めた。共通教育運営会議報告書を発行するなど、委員会活動に積極的に取り組んだ。

VII 次年度の目標

学内共同研究費をいただき、過去5年間、地域に出向いての健康づくり活動を通じた研究を継続してきた。2017年度に社会貢献委員会委員長を担うにあたり、この経験を大学としての社会・地域貢献に活かしていく。具体的に、①地域のニーズをくみ取り（アンケート調査 学内共同研究課題）、②地域との連絡体制の組織化、③評価（成果）を学内・地域とで共有、④地域での活動を教育カリキュラムに反映させる試みを想定している（学長裁量研究課題）。引き続き、学生の教養教育の充実に尽力する。学外研究助成を2017年度中に1件は採択を目指す。既に査読中の論文含め、筆頭で3件の論文掲載を目標とする。

准教授 金子 潤 博士（歯学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

研究代表者として取り組んだ学内共同研究の成果を学会発表し論文にまとめる。日本歯科審美学会認定医の資格を取得する。歯科診療に関して、引き続き担当患者の診療記録を残すために画像データを確実に収集していく。これらの画像から自分の診療内容を評価し、臨床技能向上に努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・歯科治療学Ⅰ（保存修復学・歯内療法学）.
 - ・歯科診断学.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・継続・個別支援実習.
 - ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・栢 豪洋，升井一朗，石川隆義，玄 景華，小菅直樹，零石 聰，瀨本一美，本間和代，鱒見進一 編，金子 潤，他著：歯科衛生士のためのポケット版最新歯科用語辞典，2016，クインテッセンス出版，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・酒巻裕之，麻賀多美代，麻生智子，今井宏美，山中紗都，金子 潤，鈴鹿祐子，吉田直美：歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関するパイロット研究．日本歯科衛生教育学会雑誌，第7巻，第1号，65-72，2016。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・金子 潤，山中紗都，保坂 誠，大下貴也，沖野晃俊：大気圧低温プラズマの歯科ホワイトニングへの応用に関する基礎的研究－漂白効果の高いガス種の検討－．第144回日本歯科保存学会学術大会，2016年6月9-10日，宇都宮。
- ・金子 潤，山中紗都：大気圧低温プラズマによるホワイトニングガス種別の漂白効果について－．第27回日本歯科審美学会学術大会，2016年8月27-28日，札幌。
- ・浅黄理佳，保坂 誠，金子 潤，吉田直美：スポーツ飲料の摂取が歯面へ及ぼす影響－ブラッシング作用による歯面の変化－．第11回日本歯科衛生学会学術大会，2016年9月17-19日，広島。
- ・村田友見恵，金子 潤，保坂 誠，吉田直美：グラスアイオノマーセメント硬化中の唾液接触が硬化後の物性に与える影響．第11回日本歯科衛生学会学術大会，2016年9月17-19日，広島。
- ・河島 睦，酒巻裕之，久山佳代，金子 潤，麻賀多美代，末光正昌，長谷川一弘，福本雅彦，近藤壽郎：接触拡大粘膜鏡視検査による診断が困難であった症例に関する検討．第26回日本口腔内科学会学術大会，2016年9月23-24日，岡山。
- ・長谷川一弘，酒巻裕之，河島 睦，末光正昌，樋口真弘，金子 潤，麻賀多美代，深津 晶，福本雅彦，近藤壽郎，久山佳代：口腔扁平苔癬の接触拡大粘膜鏡視検査所見，臨床病理的および病理組織学的検討．第26回日本口腔内科学会学術大会，2016年9月23-24日，岡山。
- ・坂下優果，金子 潤：弱酸性次亜塩素酸水の漂白効果について－褐色鶏卵卵殻を用いた検討－．第16回美容口腔管理学会学術講演会，2016年11月5-6日，千葉。
- ・酒巻裕之，河島 睦，久山佳代，金子 潤，麻賀多美代，末光正昌，福本雅彦，伊藤 耕，近藤壽郎：がん関連口腔粘膜病変に対する接触拡大粘膜鏡視検査と細胞診による分類に関する検討．第61回日本口腔外科学会学術大会，2016年11月25-27日，千葉。
- ・河島 睦，酒巻裕之，久山佳代，金子 潤，麻賀多美代，末光正昌，長谷川一弘，福本雅彦，伊藤 耕，近藤壽郎：接触拡大粘膜鏡視検査により扁平上皮癌を疑った舌白色病変の一例．第61回日本口腔外科学会学術大会，2016年11月25-27日，千葉。
- ・酒巻裕之，麻賀多美代，金子 潤，麻生智子，山中紗都，今井宏美，鈴鹿祐子，吉田直美：歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関する研究－歯科衛生教育における動画教材の有用性－．第7回日本歯科衛生教育学会学術大会，2016年12月10-11日，東京。
- ・日下和代，大川由一，金子 潤，鈴鹿祐子，西村克枝，斎藤英生：千葉県における歯科衛生士の需給状況の実態調査．第17回千葉県歯科医学大会，2017年2月5日，千葉。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究（萌芽），プラズマ技術を応用した安全で効果的な歯科ホワイトニング法の検討，研究代表者。
- ・学内共同研究（萌芽），事前学習や講義・実習にCyberCoaster 動画教材を用いた教育効果に関する検討，研究分担者。
- ・学内共同研究（萌芽），がん患者のための口腔機能管理アセスメントツールの開発と評価，研究分担者。
- ・学内共同研究（一般），味覚の鋭敏さを利用した新たなう蝕（むし歯）リスク判定法の確立，研究分担者。
- ・学内共同研究（若手），術後頭頸部がんサバイバーの口腔機能状態および口腔関連の諸問題とその対処における質的研究，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療、2013年8月1日～現在に至る、千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・日本歯科保存学会歯科保存治療専門医、2004年7月1日～現在に至る。
- ・日本歯科審美学会認定医、2016年9月15日～現在に至る。
- ・日本歯科色彩学会認定医、2002年7月14日～現在に至る。
- ・美容口腔管理学会指導医（Diplomate）、2005年10月23日～現在に至る。
- ・日本アンチエイジング歯科学会認定ホワイトニングエキスパート、2017年1月1日～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会、日本歯科審美学会、日本歯科色彩学会、美容口腔管理学会、日本接着歯学会、日本歯内療法学会、日本歯科医学教育学会、日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本アンチエイジング歯科学会、日本口腔外科学会、日本口腔内科学会、北海道歯学会、明倫短期大学学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科審美学会、代議員、2010年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科審美学会、編集委員会委員、「歯科審美」査読委員、2012年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科色彩学会、理事、2004年4月1日～現在に至る。
- ・美容口腔管理学会、幹事、2003年1月1日～現在に至る。
- ・美容口腔管理学会、「The Journal of Cosmetic Oral Care」編集委員、2006年1月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会、「日本歯科衛生学会雑誌」外部査読委員、2014年5月1日～現在に至る。
- ・第16回美容口腔管理学会総会・学術講演会、大会長、2016年11月5-6日、千葉。
- ・第16回美容口腔管理学会学術講演会、特別講演座長、2016年11月6日、千葉。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、入試評価部会、報告書作成等部会、専門職間の連携活動論作業部会、紀要編集部会、大学院構想作業部会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科1年次チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

昨年度の学内共同研究の成果を2度の学会発表で公表することはできたが、論文としてまとめるには至らなかった。日本歯科審美学会認定医および日本アンチエイジング歯科学会認定ホワイトニングエキスパートの資格を取得することができた。患者の画像データは前歯部の補綴治療など審美性に関わる部分についてできる限り撮影したが、治療の一時点の撮影になってしまい、初診時からの一連の治療経過を追うことができなかった。

VII 次年度の目標

「専門職間の連携活動論」の科目責任者として、充実した IPE となるよう取り組む。研究面では、平成 28 年度の学内

共同研究の成果を学会発表するとともに、過去2年間で得た研究成果を論文にまとめる。歯科診療に関して、日曜日など
に開催される講演会やセミナーなどに積極的に参加して臨床技能の向上を心がける。学術団体への貢献として、理事・幹
事などの役員を引き受けている学会では運営業務を着実にこなし、指導医となっている学会については認定医および認定
歯科衛生士の指導・育成に努める。

准教授 荒川 真 博士 (歯学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては学生に判り易い講義、実習を行いたい。研究活動では歯科的な臨床研究に取り組んでみたい。また、診
療室において歯科診療に励むほか、大学運営に貢献できるよう努力したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・歯科治療学Ⅱ (歯周治療).
- ・歯科治療学Ⅲ (補綴治療).
- ・歯科材料学.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Shaik FA, Singh N, Arakawa M, Duan K, Bhullar RP, Chelikani P : Bitter taste receptors: Novel insights into the biochemistry and pharmacology, The International Journal of Biochemistry & Cell Biology, 77, 197-204, 2016.
- ・Yoshikawa T, Sadr A, Arakawa M, Tagami J : Bond strength of resin composites to cavity floor and cavity wall dentin, Asian Pac J Dent, 16, 23-28, 2016.
- ・Jaggupilli A, Singh N, Upadhyaya J, Sikarwar AS, Arakawa M, Dakshinamurti S, Bhullar RP, Duan K, Chelikani P : Analysis of human bitter taste receptors expression in extraoral tissues, Molecular and Cellular Biochemistry , 426 (1-2), 137-147, 2017.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究：「味覚の感受性を利用した、新たなう蝕 (むし歯) リスク判定法の確立」 研究代表者
- ・学内共同研究：「プラズマ技術を応用した安全で効果的な歯科ホワイトニング法の検討」 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・ 歯科診療 2016年4月～2017年3月 於：学内歯科診療室

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・ 日本歯科保存学会、日本歯周病学会、歯科理工学会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 総務企画委員会、ネットワーク委員会、国際交流委員会、紀要編集部会、学内共同研究審査部会

2 学科/専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 歯科衛生学科会議
- ・ 歯科診療室会議
- ・ 歯科衛生学科4年次チューター

VI 評価（成果および改善すべき事項）

【教育活動】

講義に関しては、期末試験の結果、不合格者は1名のみであった。ゆえに講義内容は概ね理解してもらえたと考えている。卒業論文は2名を担当した。1名は適切な完成度であったが、もう1名はやや改善の余地があった。

「体験ゼミナール」「多職種間の連携活動論」等、本学における特色科目の進行法を概ね理解できたと考えている。

【教育活動】

当初の目標を上回り、3編のペーパーが掲載となった。

【大学運営】

《総務・企画委員会》

学科内の意見を取りまとめ、委員会に報告した。委員会としても業績評価票の策定に至った。

《ネットワーク委員会》

年2回の学内PCメンテナンスの補助を行った。

《国際交流委員会》

WCTC (Waukesha County Technical College) との交流協定を締結するべく、交渉を担当。

《紀要編集部会》

査読委員から寄せられた査読結果を取りまとめ、採択を決定した。

《学内共同研究審査部会》

17件の申請に対し、審査を行った。

【社会貢献】

本学歯科診療室にて、夏休み期間中や学生実習が無い期間も、基本的にはお週4日9:30から16:00の間診療を継続してきた。

VII 次年度の目標

平成29年度は着任2年目となることから、教育、研究および診療の三面において、初年度以上の成果を出していきたい。

講師 麻賀 多美代 修士（学術）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、学生が学びを深められる講義、演習、実習を实践し、評価方法について検討する。大学の運営に関しては、より積極的に関わられるよう努めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者).
- ・顎口腔機能リハビリテーション論.
- ・演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助).
- ・演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション).
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・総合演習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者).
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・看護技術論Ⅱ(生活援助技術).
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書(著者本人下線:著書,発行年,発行所,発行場所.)

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修,石井拓男,松田裕子,山崎 忍,仁井谷善恵,鈴鹿祐子,畑山千賀子,足立了平,筋野真紀,荒木美穂,山田小枝子,酒巻裕之,麻賀多美代,合場千佳子,小倉千幸,多田美穂子,宮崎昌子,大塚絃未,中村まゆみ:歯科診療補助論 第2版,2017年3月,医歯薬出版,東京.

2 学術論文・その他(著者:題名,雑誌名,巻,号,ページ,発行年,本人下線)

- ・酒巻裕之,麻賀多美代,麻生智子,今井宏美,山中紗都,金子潤,鈴鹿祐子,吉田直美:歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関するパイロット研究,日本歯科衛生教育学会雑誌,第7巻(1),65-72,2016.5
- ・麻賀多美代,麻生智子,鈴鹿祐子,山中紗都,吉田直美,日下和代,酒巻裕之,大川由一:筆記具・スケーラーの把持動作における筋活動の関連,日本歯科衛生教育学会雑誌,第7巻(2),97-102,2016.10
- ・麻賀多美代,麻生智子,吉田直美,大川由一:健康成人女性における口腔内マッサージの生理的・主観的効果の検証,千葉県立保健医療大学紀要,第8巻(1),25-31,2017.3
- ・島田美恵子,岡本太郎,松尾真輔,三宅理江子,保坂誠,麻賀多美代,麻生智子,山中紗都,雄賀多聡,雨宮有子,中島悠介,中島一郎:軽度認知障害が疑われる地域在住高齢者の「日常役割機能一身体」,千葉県立保健医療大学紀要,第8巻,第1号,35-40,2017.3

3 発表(発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等,本人下線)

- ・鈴鹿祐子,麻生智子,麻賀多美代,酒巻裕之,日下和代:臨床実習時における学生のインシデント対策に関する検討,第11回日本歯科衛生学会(広島国際会議場),平成28年9月

- ・酒巻裕之, 河島陸, 久山佳代, 金子潤, 麻賀多美代, 末光正昌, 福本雅彦, 伊藤耕, 近藤嘉朗: がん関連口腔粘膜病変に対する接触拡大粘膜鏡視検査と細胞診による分類に関する検討, 第61回日本口腔外科学会(幕張メッセ), 平成28年11月
- ・島田美恵子, 三宅理江子, 岡本太郎, 松尾真輔, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 雨宮有子, 雄賀多聡, 中島一郎: 高齢者における主観的健康観の変化と体重・体力の関係, 第55回千葉県公衆衛生学会(千葉市文化センター), 平成29年2月

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金 基盤研究(C), 徒手マッサージにおける口腔機能の賦活とリラクゼーション効果に関する実証的研究, 研究代表者
- ・平成28年度学内共同研究費, 萌芽, 事前学習や講義, 実習にCyberCoaster 動画教材を用いた教育効果に関する検討, 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・障害者の口腔衛生指導. 2016年4月~2017年3月の第3木曜日午前. 千葉県リハビリテーションセンター更生園.
- ・リハビリテーション病院での口腔衛生指導及び口腔ケア. 2016年4月~2017年3月の第3木曜日午後. 千葉県リハビリテーションセンター病棟.
- ・老人保健施設のボランティア. 平成28年9月3日. 老人保健施設うらら.

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・白井市地域ケア会議. 白井市地域包括支援センター. 平成28年1月, 3月

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本医療振興財団. 歯科衛生士試験委員会委員. 2015年7月~現在に至る

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本歯科衛生士会, 千葉県歯科衛生士会, 日本歯周病学会, 日本口腔ケア学会, 日本咀嚼学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 日本歯科医学教育学会, 日本口腔衛生学会, 日本介護歯科衛生士養成協会, 日本口腔内科学会, 日本口腔外科学会.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・更生施設入所者健康教育の講師. 千葉県リハビリテーションセンター更生園. 歯は全身の健康の原点. 更生園入所者. 2016年11月24日. 千葉県リハビリテーションセンター更生園
- ・千葉県立保健医療大学公開講座の講師. 唾液と口腔の乾燥について. 一般の方. 2016年10月9日. 千葉県立保健医療大学
- ・千葉県管理栄養学会の特別講演の講師. 口腔機能と食習慣, 栄養とのかかわり~摂食・嚥下を理解する~. 千葉県管理栄養学会会員. 2017年2月4日. 千葉県立保健医療大学
- ・八千代市介護予防普及啓発講演会の講師. 若さと元気はお口の健康から. 八千代市在住高齢者. 2017年2月7日. 八千代市役所
- ・八街市介護予防普及啓発講演会の講師. 誤嚥性肺炎の予防~口腔機能の維持と口腔ケア~. 八街市在住高齢者. 2017年2月17日. 八街市役所

7 その他

- ・第12回千葉県立保健医療大学保健福祉部意見交換会。認知症と歯科について。2017年1月23日。千葉県立保健医療大学

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・進路支援委員会。ネットワーク委員会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・歯科衛生学科会議。歯科診療室会議。歯科衛生学科3年副チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、学生の理解度を確認しながら教育効果が向上する方法を検討し実践した。担当科目と関連する内容を研究テーマとして研究を行い、成果については論文投稿することができた。進路支援委員として今年度は県内就職率を高めることができ、また、オープンキャンパス、高校説明会や入試などの学内行事においては積極的に協力するよう努めた。社会貢献として、口腔機能管理が必要な障害者や要介護高齢者に対して口腔ケアを通して支援することができた。

VII 次年度の目標

1 一年間の総括

教育については責任を持って行うことができていると考える。担当科目と関連する内容を研究テーマとして考えて研究を実践し、成果は論文投稿することができた。大学の運営に関しては、進路支援委員として県内就職率と高め、国家試験の100%合格を目標に支援することができた。口腔機能管理が必要な障害者や高齢者に対する口腔ケアや介護予防普及講習会、地域のケア会議等の参加を通して社会貢献はできたと考える。

2 次年度の目標

教育、研究を通して歯科衛生士の資質向上に努める。また、大学の運営に関しては、担当する委員会を通して貢献する。

講師 麻生 智子 学士（教養）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、担当科目については特に授業評価で割合の少なかった予習について学生が取り組むための工夫をしたいと考えている。具体的には「歯科疾患予防学」において次の講義に関するテーマを1つ与え、予習シートを作成するようにする。予習した内容は、講義中に学生の発言を促し、ディスカッションを行いたいと考えている。研究に関しては、特に齲蝕予防に関する研究を計画し、実施したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・専門職間の連携活動論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助).
- ・演習Ⅱ(歯科予防処置).
- ・演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング).
- ・総合演習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ(小児).
- ・発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)
- ・地域歯科衛生実習
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・卒業研究.

Ⅲ 研究記録

1 著書(著者本人下線:著書,発行年,発行所,発行場所.)

- ・石井拓男, 松田裕子, 山崎 忍, 仁井谷善恵, 鈴鹿祐子, 畑山千賀子, 足立了平, 煤筋野真紀, 荒木美穂, 山田小枝子, 酒巻裕之, 麻賀多美代, 合場千佳子, 小倉千幸, 多田美穂子, 宮崎晶子, 大塚紘未, 中村まゆみ, 升井一朗, 前田豊美, 玉木裕子, 渥美信子, 市川智恵, 白鳥たかみ, 有井真弓, 片岡あい子, 麻生智子, 石井美和子, 土田智子, 深山浩久, 上原弘美, 新居直美:最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論第2版, 2017, 医歯薬出版, 東京.
- ・末瀬一彦, 高橋英和, 船奥律子, 白鳥たかみ, 片岡あい子, 麻生智子, 石井美和子, 土田智子, 南 弘之, 米山隆之, 伴 清治, 玉木裕子, 荒木美穂, 市川智恵, 宮崎晶子:最新歯科衛生士教本 歯科材料, 医歯薬出版, 東京.

2 学術論文・その他(著者:題名,雑誌名,巻,号,ページ,発行年,本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 今井宏美, 山中紗都, 金子 潤, 鈴鹿祐子, 吉田直美:歯科衛生士教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関するパイロット研究, 日本歯科衛生教育学会誌, 第7巻, 第1号, 65-72, 2016.
- ・麻賀多美代, 麻生智子, 吉田直美, 大川由一:健康成人女性における口腔内マッサージの生理的・主観的効果の検証, 千葉県立保健医療大学紀要, 第8巻, 第1号, 25-31, 2017.
- ・大滝千智, 石井邦子, 麻生智子, 日下和代, 岡田 忍:更年期女性における口腔の健康とQOLおよび口腔保健行動に関連した要因, 千葉県立保健医療大学紀要, 第8巻, 第1号, 19-25, 2017.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 三宅理江子, 保坂 誠, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 雄賀多聡, 雨宮有子, 中島悠介, 中島一郎:千葉県立保健医療大学紀要, 第8巻, 第1号, 35-40, 2017.

3 発表(発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等,本人下線)

- ・鈴鹿祐子, 麻生智子, 麻賀多美代, 酒巻裕之, 日下和代:臨床実習時における学生のインシデント対策に関する検討, 日本歯科衛生学会第11回学術大会, 2016年9月18・19日, 広島国際会議場.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 金子 潤, 麻生智子, 山中紗都, 今井宏美, 鈴鹿祐子, 吉田直美:歯科衛生士教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関する研究-歯科衛生士教育, 日本歯科衛生教育学会第7回学術大会, 2016年12月10・11日, 東京医科歯科大学.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名,研究テーマ,研究代表者/研究分担者)

- ・外部資金, 科学研究費補助金基盤研究C, 徒手マッサージにおける口腔機能の賦活とリラクゼーション効果に関する実証的研究, 研究分担者.
- ・外部資金, 科学研究費補助金基盤研究B, 歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質の向上に関

する研究，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療補助，歯科保健指導，歯科予防処置，2016年8-9月・3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯周病学会，日本咀嚼学会，日本歯科衛生学会，日本歯科医学教育学会，日本口腔内科学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔衛生学会，日本口腔ケア学会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会第7回学術大会，ポスター発表座長，2016年12月10日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・日歯認定歯科助手講習会，千葉県歯科医師会主催「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」，歯科助手，2016年9月25日，千葉県立保健医療大学。
- ・千葉県立保健医療大学公開講座，見つめよう，自分の心と身体，一般住民，2016年10月9日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，新々カリキュラム作業部会，コンピテンシー作業部会，障がいを持つ学生への支援体制を考えるWG，社会貢献委員会，キャンパスハラスメント相談員

VI 評価（成果および改善すべき事項）

当初目標とした担当科目の学生の予習者を増加させるために予習シートを導入し，講義中に発表することとしたところ，授業評価において少しそう思う・そう思うと答えた学生が28年度は予習89%，復習94%と大きく増加し，学生の積極的な取り組みが確認できた。他の科目についても見直しや修正を加えて教育効果が向上するために努力した。研究では，当初は齶齶予防に関する研究をあげたが，担当科目「継続・個別支援実習」の実習記録を見直し，ポートフォリオの手法を取り入れ導入し，教育的効果について次年度に結果をまとめ報告したい。また，他の研究でも研究分担者として研究を行った。委員会，部会，学科会議には，必ず出席し，積極的に大学・学科の業務を遂行した。時間的に難しい時期もあるが，歯科衛生士として臨床での患者との関わりは，学生への指導に生かすことができるのでできるだけもっと増やしていきたい。

VII 次年度の目標

次年度は，担当科目については，さらに充実した学びとなるように講義内容，演習・実習内容を改善，充実させたいと考えている。具体的には，28年度までは学生間の症例発表会は口演発表としていたが，他の科目でも口演発表の形式をとっていることから，卒業後の研究・学会発表につながるようにポスター作成・発表の形式に変更したい。研究では，28年度に見直しを行い導入した実習記録の教育的効果について結果をまとめ，学会発表を行いたいと考えている。

講師 梶本 輝樹 修士（理学・学術）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、社会貢献としての安全教育、理科教育について引き続きとりくみ、情報提供技術の向上をはかることとむことと、研究成果の論文文化を行うことを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績(科目名)
 - ・情報リテラシー1.
 - ・情報リテラシー2.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・事前指導(栄養学科, 1時限分演習を担当).
 - ・卒業研究.

- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師(科目名, 大学名)
 - ・生物学(亀田医療大学)

III 研究記録

2 学術論文・その他(著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・榎本輝樹, 青木美鈴, 中川雅博, 佐々木美貴, 多留聖典, 森敬介, つる詳子, 鈴木孝男: 八代海の生物多様性の検討ー市民調査法による周回調査, 不知火海・球磨川流域圏学会誌, Vol. 10, No. 1, 9-20, 2016. 不知火海・球磨川流域圏学会, 熊本
- ・榎本輝樹, 柚原剛, 多留聖典, 風呂田利夫, 西栄二郎, 駒井智幸, 黒住耐二, 佐々木美貴, 中川雅博: 東京湾盤洲干潟(小櫃川河口干潟)における大型ベントスの調査手法による出現種の差異および群集解析比較, 千葉県立保健医療大学紀要, Vol. 8, No. 1, 41-52, 2017, 千葉県立保健医療大学, 千葉.
- ・榎本輝樹: 海にもどった花, 理科の探検, 2016年6月号, 60-63, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 海に出かけよう 海岸付近の生態系, 理科の探検, 2016年6月号, 42-47, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 海水浴場の適否基準と大腸菌, 理科の探検, 2016年6月号, 42-47, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 気象兵器! その幻想と限界, 理科の探検, 2016年12月号, 74-79, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: お天気かえる, 2016年12月号, 42, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 「鍋もの」の科学, 理科の探検, 2017年2月号, 48-53, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 携帯電話で医療機器が止まるの?, 理科の探検, 2017年2月号, 55, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 暗いところを本を読むと視力が落ちるの?, 理科の探検, 2017年2月号, 56, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 扇風機にあたったまま寝ると死ぬの?, 理科の探検, 2017年2月号, 57, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 筋肉にたまる乳酸は疲労物質なの?, 理科の探検, 2017年2月号, 68, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: ウンチは食べ物の残りカスなの?, 理科の探検, 2017年2月号, 69, 2016, 文理, 東京.
- ・榎本輝樹: 天然・自然 vs. 人工・合成, 理科の探検, 2017年4月号, 50-53, 2017, 文理, 東京.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県消防局応急手当インストラクター、2016年3月-2017年4月

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生態学科、日本ベントス学会、応用生態工学会、日本教育工学会

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・付着生物学学会、英文誌 Sessile Organisms 査読担当、2017年3月

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書・情報委員会、ネットワーク委員会、入試実施部会
- ・共通教育運営会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

科学教育の普及の試みとして、雑誌「理科の探検」に複数回記事を執筆した。また、千葉県消防局応急手当インストラクターとして地域の救急救命講習の実施に協力した。また、学会の査読委員を担当するなど学術的貢献も一定程度行えた。

VII 次年度の目標

引き続き学術論文の投稿等で研究のアウトカムを充実させることと、科学教育に関してはNPO等の環境教育に協力するなど、今後とも積極的な活動を行って行きたい。

講師 鈴鹿 祐子 修士（学術）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28度は、特に教育については、授業評価を参考により学生にとって理解しやすい授業を行う工夫をする。研究については、データをまとめ、学会発表、論文投稿をする。また、他の業務との兼ね合いを調整し、歯科診療室の診療にも関わりたいと思う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・チーム歯科医療論。
- ・歯科感染予防学。
- ・リスクマネジメント論。

- ・演習Ⅰ（歯科材料・歯科診療補助）.
- ・演習Ⅱ（歯科予防処置）.
- ・総合演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・卒業研究.

Ⅲ 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・石井拓男，松田裕子，山崎忍，仁井谷善恵，鈴鹿祐子他：最新歯科衛生士教本歯科診療補助第2版，2017，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・鈴鹿祐子：医療安全教育をどのように体系化するか―歯科衛生士教育現場における現状と課題―本学の医療安全教育の取り組みについて―歯科診療室実習での取り組み，日本歯科衛生教育学会雑誌，7巻，1号，45-50，2016.
- ・酒巻 裕之，麻賀 多美代，麻生 智子，今井 宏美，山中 紗都，金子 潤，鈴鹿 祐子，吉田 直美：歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関するパイロット研究，日本歯科衛生教育学会雑誌，7巻，1号，65-72，2016.
- ・麻賀 多美代，麻生 智子，鈴鹿 祐子，山中 紗都，吉田 直美，日下 和代，酒巻 裕之，大川 由一：筆記具・スクレーターの把持動作における筋活動の関連，日本歯科衛生教育学会雑誌，7巻，2号，97-102，2016.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴鹿 祐子，山中 紗都，麻生 智子，麻賀 多美代，日下 和代：臨床実習時における学生のインシデント対策に関する検討，日本歯科衛生学会，2016年9月17～19日，広島市.
- ・酒巻 裕之，麻賀 多美代，金子 潤，麻生 智子，山中 紗都，今井 宏美，鈴鹿 祐子，吉田 直美：歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関する研究―歯科衛生教育における動画教材の有用性，日本歯科衛生教育学会，2016年12月10～11日，東京.
- ・日下和代，大川 由一，金子 潤，鈴鹿祐子，西村克枝，斎藤英生：千葉県における歯科衛生士の需給状況の実態調査，千葉県歯科医学大会，2017年2月5日，千葉市.
- ・鈴鹿祐子，大川 由一，日下和代，三和真人，雄賀多 聡：千葉県内の病院および介護関連施設における口腔ケアの実施状況の調査，千葉県歯科医学大会，2017年2月5日，千葉市.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量，千葉県内の言語聴覚士による口腔ケアの実施状況の調査，研究分担者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・本大学歯科衛生学科，歯科診療室.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会、ヘルスカウンセリング学会、日本歯周病学会、日本歯科衛生学会、日本咀嚼学会、日本歯科医学教育学会、日本口腔内科学会、日本歯科衛生教育学会、日本口腔ケア学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会・評議員、編集委員会事前抄録担当委員、2016年4月～2017年3月

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究等倫理委員会、図書・情報委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学科会議、歯科診療室会議、2年生の副チューター。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・歯科衛生士の業務及び教育についての説明会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育においては、主である歯科診療室での実習では学生の医療安全の配慮をしながら学生にとって有意義な実習ができるように努めた。また、講義、演習は資料を見直し、より学生が理解しやすく修正、加筆した。研究においては、データをまとめ学会発表までではできたが、論文投稿には至らなかった。

VII 次年度の目標

教育については、特に新たに担当する科目について学生が理解しやすい授業、実習ができるように工夫し、心がける。また、研究については、研究に費やす時間を確保するために、他の業務との兼ね合いを調整、工夫をし、新たな課題に取り組みたいと思う。

助教 山中 紗都 修士（障害科学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

学生実習の場として相応しい環境の歯科診療室にしていくことと、受診患者にとっても心地良い診療室をつくり、地域貢献の一助となるように努める。研究面では、論文投稿および新規研究にも取り組みたいと考える。大学運営に関しても、引き続き委員会活動を通して貢献したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・歯科診療室基礎実習。

- ・ 歯科診療室総合実習.
- ・ 継続・個別支援実習.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 酒巻裕之，麻賀多美代，麻生智子，今井宏美，山中紗都，金子潤，鈴鹿祐子，吉田直美：歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関するパイロット研究，日本歯科衛生教育学会雑誌，7巻，1号，65-72，平成28年5月.
- ・ 麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，吉田直美，日下和代，酒巻裕之，大川由一：筆記具・スケーラーの把持動作における筋活動の関連，日本歯科衛生教育学会雑誌，第7巻(2)，97-102，平成28年10月.
- ・ 山中紗都，有村奈己，岸本菜月：周術期患者における術後口腔保健行動に及ぼすと推測された術前口腔ケア介入の効果，日本歯科衛生学会雑誌，Vol. 11No. 2，50-58，平成29年2月.
- ・ 島田美恵子，岡本太郎，松尾真輔，三宅理江子，保坂誠，麻賀多美代，麻生智子，山中紗都，雄賀多聡，雨宮有子，中島悠介，中島一郎：軽度認知障害が疑われる地域在住高齢者の「日常役割機能一身体」，千葉県立保健医療大学紀要，第8巻，第1号，35-40，平成29年3月.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ Naomi Yoshida, Kumiko Sugimoto, Sato Yamanaka, Hiroyuki Sakamaki, Yoko Yamazaki, Asako Kimura, Hiroko Imura, Yoko Kono, Ayako Kubota: Oral and holistic health evaluation and dental health status in dental hygienists at menopausal stage, ISDH, 平成28年6月, バーゼル.
- ・ Kumiko Sugimoto, Naomi Yoshida, Yoko Yamazaki, Hiroko Imura, Yoko Kono, Ayako Kubota, Sato Yamanaka, Hiroyuki Sakamaki, Asako Kimura: Objective assessment of oral and holistic health in dental hygienists at menopausal stage, ISDH, 平成28年6月, バーゼル.
- ・ 金子潤，山中紗都，保坂誠，木下貴也，沖野晃俊：大気圧低温プラズマの歯科ホワイトニングへの応用に関する基礎的研究—漂白効果の高いガス種の検討—，第144回日本歯科保存学会秋季学術大会，平成28年6月，宇都宮.
- ・ 金子潤，山中紗都：大気圧低温プラズマによるホワイトニング—ガス種別の漂白効果について—，第27回日本歯科審美学会学術大会，平成28年7月，北海道.
- ・ 鈴鹿 祐子，山中 紗都，麻生 智子，麻賀 多美代，日下 和代：臨床実習時における学生のインシデント対策に関する検討，日本歯科衛生学会，平成28年9月，広島.
- ・ 酒巻裕之，麻賀多美代，金子潤，麻生智子，山中紗都，今井宏美，鈴鹿祐子，吉田直美：歯科衛生教育におけるインタラクティブ映像インターフェース“CyberCoaster”動画教材の有用性に関する研究—歯科衛生教育における動画教材の有用性，第7回日本歯科衛生教育学会学術大会，平成28年12月，東京.
- ・ 島田美恵子，岡本太郎，松尾伸介，麻賀多美代，麻生智子，山中紗都，雨宮有子，雄賀多聡，中島一郎：高齢者における主観的健康観の変化と体重・体力の変化の関係，第55回千葉県公衆衛生学会，平成29年3月，千葉.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 学内共同研究(若手)，術後頭頸部がんサバイバーの口腔機能状態および口腔関連の諸問題とその対処における質的研究，研究代表者.
- ・ 学内共同研究(萌芽)，がん患者のための口腔機能管理アセスメントツールの開発と評価，研究分担者
- ・ 学内共同研究(萌芽)，プラズマ技術を応用した安全で効果的な歯科ホワイトニング法の検討，研究分担者.
- ・ 学内共同研究(萌芽)，事前学習や講義・実習にCyberCoaster 動画教材を用いた教育効果に関する検討，研究分担者.
- ・ 文部科学省研究費補助金 基盤研究C：女性更年期における口腔症状改善のための介入プログラムの構築と評価，2015～2017年度，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・千葉県立保健医療大学歯科診療室、2013年10月1日～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生士会、日本歯科衛生教育学会、日本歯周病学会、日本歯科審美学会、日本口腔外科学会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、入試実施部会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・大学説明会（二松学舎大学附属柏高等学校）、平成28年4月16日
- ・大学説明会（柏商工会議所）、平成28年7月12日

VI 評価（成果および改善すべき事項）

歯科診療室の運営は通年で実施することができ、長期休業期間においても学生の自主学習を受け入れるなどして教育の場として提供することができた。また、歯科診療室受診患者の声を掬うために「意見箱」を設置し、受診患者の利用しやすい診療室づくりを心がけた。研究面では、目標として掲げていた、論文の投稿と新規研究への着手に取り組むことが出来た。一方で過去の研究について論文にできていないものがあるため、引き続き論文の執筆を行う。

大学運営については学生委員会、入試実施部会に所属し、積極的に活動できたと考える。

VII 次年度の目標

引き続き、歯科診療室の運営に取り組むと共に、歯科診療室を教育、臨床の現場として相応しい場が提供出来る様に努める。研究面では学内共同研究にて新規に取り組んだ、がんサバイバーにおける質的研究をまとめて、学会発表することに加え、過去の研究の論文投稿にも引き続き取り組む。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

教授 三和 真人 博士 (障害科学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、大学各委員会の円滑な運営は勿論、教授会の運営の効率化を図ることを心掛けたい。国際交流事業を展開するために「国際交流検討会」から「国際交流委員会」への組織上の昇格と古流事業を進めていく。今年度8月23日に本学ではじめて交流事業を展開し、Inje University(韓国)とMemorandum of Understanding(以下MOU)を提携することができた。一方、Wisconsin州のConcordia University Wisconsin(CUW)を進めており、平成27年度3月後半にCUWの薬学部の教員4名が来学し、大学間交流を進めるように促した。また、歯科衛生学科を中心にWaukesha County Technical College(WCTC)を継続的に大学間交流を進めて頂いている。個人的には、研究データをまとめて学会発表等に結びつけてきたが、論文の掲載にまで至らなかったことが残念である。今後は、本学の国際交流をはじめ、学部の円滑な運営を図っていくことは勿論、一人の研究者として人類の健康に寄与するよう、研究を積み重ねていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・理学療法概論.
- ・人体の機能実習.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法測定学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・理学療法発展領域論.
- ・理学療法技術論.
- ・臨床実習Ⅰ(体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ(評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).

2) 他大学、大学院等の非常勤講師(科目名、大学名)

- ・神経機能理学療法学特論(山形県立保健医療大学大学院).
- ・神経機能理学療法学特論演習(山形県立保健医療大学大学院).
- ・リハビリテーション論(東邦大学看護専門学校).

Ⅲ 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・三和真人・他：中枢麻痺の基礎科学・原理；図解 運動療法ガイド. 内山 靖・奈良 勲編，文光堂，東京，pp.272-297，2017.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大谷拓哉，雄賀多聡，三和真人：転子果長測定における大転子測定点に関する調査—理学療法士を対象として—，形態・機能，15巻2号，p.48-55，2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・三和真人，雄賀多 聡，小川真司：高齢者の運動単位リクルートメントとデクルートメントが身体運動機能に及ぼす影響. 第51回日本理学療法学会大会，5月26日～29日，札幌.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・平成28年度学内共同研究助成，「微弱電流による電気刺激が脊髄抑制 Ia 介在ニューロンに及ぼす影響の研究」，三和真人，雄賀多聡，大谷拓哉，高橋伸佳，小川真司.

6 受賞・特許

- ・平成27年度千葉県理学療法士会永年勤続賞受賞.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・平成28年度 社会福祉法人みやげ島あじさいの会（施設利用者の理学療法評価とスタッフ教育指導，平成28年4月1日～平成29年3月31日，三宅島あじさいの里）.

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構（評価認定委員会評価委員，平成28年4月1日～平成29年3月31日）.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会機関誌「理学療法の科学と研究」編集委員長現在に至る.
- ・第52回日本理学療法学会の副大会長就任現在に至る.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会，日本理学療法士協会，日本臨床神経生理学学会，日本電気生理運動学学会，日本運動療法学会，世界理学療法士学会，世界電気生理運動学学会，日本体力医学会，全国大学理学療法教育学会，全国大学肺理学療法研究会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・第51回日本理学療法学会大会の学会抄録査読委員（平成元年12月から現在に至る）.
- ・第53回日本リハビリテーション医学会学術集会座長.

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・評議会. 教授会. 運営会議. FD 委員会. 研究等倫理委員会. 将来構想検討委員会. 自己評価委員会. 入試委員会. ハラスメント委員会. 防災対策委員会.
- ・国際交流委員会.
- ・特色科目委員会.
- ・教員資格審査委員会（看護学科 講師）平成 28 年 3 月～5 月. 教員資格審査委員会（栄養学科 教授）平成 28 年 6 月～8 月. 教員資格審査委員会（歯科衛生科 准教授）平成 28 年 8 月～11 月. 教員資格審査委員会（理学療法学専攻 助教）平成 28 年 9 月～11 月. 教員資格審査委員会（看護学科 准教授）平成 28 年 9 月～11 月. 教員資格審査委員会（看護学科 助教）平成 28 年 9 月～12 月. 教員資格審査委員会（看護学科 助教）平成 28 年 9 月～12 月. 教員資格審査委員会（看護学科 助教）平成 28 年 10 月～12 月. 教員資格審査委員会（看護学科 助教）平成 28 年 12 月～平成 29 年 2 月. 教員資格審査委員会（歯科衛生科 教授）平成 28 年 12 月～平成 29 年 3 月.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学部長として大学運営や学部長下の委員会の整備をした。FD 委員会の整備や学生との懇談会は継続している。また今年度は新規に韓国の Inje 大学と MOU を提携することができ、同年 11 月に国際交流委員会を各部長下付きで立ち上げることができた。

今後に積み残した課題は、大学認証評価で指摘された事項で組織運営体制の在り方が問われており、改善していく必要がある。特に、指示・命令系統の確立が喫緊の課題であろう。

VII 次年度の目標

今年度は、特に大学運営とにエネルギーを注ぐ状況にあった。また来年度からの研究データ積み残しを整理するように心掛けた。空いた時間を有効に使い、研究論文を作成することを目標にした。しかし、2 本の投稿論文が採用されず、課題の残る本年度であった。

再度、論文を修正・推考して海外へ投稿する予定である。また、併せて共同研究助成で測定したデータを分析し、投稿したい。

教授 雄賀多 聡 医学博士

対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度目標は、教育活動を基本とし、専攻長兼学科長の活動および、県内リハビリテーション専門職についての調査研究およびロコモアドバイスドクターとしての活動の継続

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名).
 - ・体験ゼミナール.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・リハビリテーション概論.
 - ・人体の構造 I (骨・関節・筋).
 - ・人体の構造実習.
 - ・医学総論.
 - ・整形外科学総論.
 - ・整形外科学各論.
 - ・理学療法測定学.
 - ・臨床実習 II (評価実習).
 - ・臨床実習 III (総合実習).
 - ・臨床実習 IV (総合実習).
 - ・卒業研究.
 - ・病態学 II.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・雄賀多聡, 高橋伸佳, 竹内弥彦, 真寿田三葉, 小林毅, 松尾真輔, 田中康之, 池澤直行, 吉田浩滋:
千葉県におけるリハビリテーション専門職の需要動態, 理学療法の科学と研究, 27 巻 1 号, 39-44 頁, 2016.
- ・Yoshinobu Hagihara, Satoshi Ogata, Atsushi Chuma, Shinobu Saitoh, Tetsuro Nakazawa and Toshikazu Kunishi:
Do we really need steroids in nerve root block for lumbar disc herniation? -A randomized control study
Chiba Medical J. (千葉医学), 92E 巻 3 号, 25-29 頁, 2016 年.
- ・大谷拓哉, 雄賀多聡, 三和真人: 転子果長測定における大転子測定点に関する調査-理学療法士を対象として-,
形態・機能, 15 巻 2 号, 48-56 頁, 2017 年.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 三宅里江子, 保坂誠, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 雄賀多聡, 雨宮有子, 中島悠介, 中島一郎: 軽度認知障害が疑われる地域在住高齢者の「日常役割機能一身体」, 千葉保医大紀要, 8 巻 1 号, 35-40 頁, 2017 年.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・竹内弥彦, 三和真人, 雄賀多聡: 頭部と体幹部の立ち直り角度からみた高齢者の後方ステップ反応特性, 第 51 回日本理学療法学会大会, 2016 年 5 月 27-29 日, 札幌
- ・三和真人, 雄賀多聡, 小川真司: 高齢者の運動単位リクルートメントとデクルートメントが身体運動機能に及ぼす影響, 第 51 回日本理学療法学会大会, 2016 年 5 月 27-29 日, 札幌
- ・雄賀多聡, 三和真人, 竹内弥彦, 島田美恵子: 介護予防教室に参加した千葉県内在住高齢者の介入前口コモ度, 第 28 回日本運動器科学会, 2016 年 7 月 9-10 日, 福島.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, 腰痛者における腹横筋の収縮動態の解明, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・労災協力医. 2016 年 4 月~2017 年 3 月.

- ・千葉労災保険診療費審査委員. 2016年4月～2017年3月.
- ・財団法人労災サポートセンター千葉労災特別介護施設. 苦情解決委員会 第三者委員. 2016年4月～2017年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・千葉医学会. 日本整形外科学会. 東日本整形災害外科学会. 関東整形災害外科学会. 日本脊椎脊髄病学会. 日本小児整形外科学会. 日本職業・災害医学会. 日本骨粗鬆症学会. 日本腰痛学会. 日本足の外科学会. 日本抗加齢医学会. 日本リハビリテーション医学会. 日本運動器科学会. 日本小児股関節研究会. 千葉県ロコモティブシンドローム研究会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

・日本職業・災害医学会 評議員. 2016年4月～2017年3月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・大学運営会議. 教授会. 自己点検評価委員会. 将来構想検討委員会. 入試委員会. 入試実施部会. 衛生委員会. 防災対策委員会. 研究等倫理委員会. 研究等倫理委員会動物部会. 共通教育運営会議. 教員資格審査委員会 (母性・助産看護・准教授). 教員資格審査委員会 (歯科・教授). 教員資格審査委員会 (理学・助教). 教員資格審査委員会 (栄養・助教). 教員資格審査委員会 (成人看護・講師). 教員資格審査委員会 (母性・助産看護・助教). 教員資格審査委員会 (母性・助産看護・講師). 教員資格審査委員会 (栄養・准教授). 教員資格審査委員会 (基礎看護・助教). 教員資格審査委員会 (公衆衛生看護・講師). 教員資格審査委員会 (精神看護・助教).

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動に加え, 理学療法学専攻長兼リハビリテーション学科長としての管理・運営に注力した. さらに, ロコモアドバンスドクターとしてロコモティブシンドロームの認知率上昇を目指した広報・教育活動の一環として, いずみ祭において千葉県健康づくり支援課と共同して, ロコモチェックのブースを開催した. また, 以前より本学教員が実施している千葉県の地域住民を対象とした健康教室参加者のロコモ度を検討し, 日本運動器科学会へ報告した.

VII 次年度の目標

平成29年度は学部長として, 大学全体の管理・運営に注力しつつ, 教育研究活動のレベルを維持する.

准教授 竹内 弥彦 博士 (工学)

対象期間: 2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、学生の理解度に配慮しつつディプロマポリシーを達成できるよう教育内容を工夫する。研究については、社会へ有用な情報発信を行えるよう、論文執筆を行う。社会貢献活動については、多くのリハ専門職が県民の健康増進・介護予防活動に参画し貢献できるよう、行政等とも連携しながら、職能団体役員としての立場から支援を行っていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・運動学Ⅰ.
- ・運動学Ⅱ.
- ・臨床運動学.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学特論.
- ・理学療法研究方法論.
- ・理学療法概論.
- ・臨床実習Ⅰ(体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ(評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Yahiko Takeuchi: Sagittal plane spinal mobility is associated with dynamic balance ability of community-dwelling elderly people, J Phys Ther Sci, 29(1), 112-114, 2017.
- ・中野拓, 竹内弥彦, 太田直樹: 講座後のアンケート調査からみる理学療法士に対する地域住民のニーズ, 理学療法の科学と研究, 8巻, 1号, 31-35, 2017.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・竹内弥彦, 三和真人, 雄賀多聡: 頭部と体幹部の立ち直り角度からみた高齢者の後方ステップ反応特性, 第51回日本理学療法学会大会, 2016年5月27日, 札幌.
- ・竹内弥彦: 地域在住高齢者における脊柱可動域の性差と歩行速度との関連性, 日本人間工学会第57回大会, 2016年6月25日, 三重県立看護大学.
- ・竹内弥彦, 薄直宏, 田中康之: 地域リハ活動支援事業における県行政と協働した千葉県理学療法士会の取り組み, 第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 2016年10月30日, パシフィコ横浜.
- ・竹内弥彦: 高齢者の脊柱形態と足位変化による足圧中心動揺比率との関連性, 第15回姿勢と歩行研究会, 2017年3月18日, 東京.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・長生郡長柄町が実施する「いきいきサポーター」養成事業におけるアドバイザー、2016年6月、長柄町役場。
- ・「ちばし いきいき体操DVD」監修、体操指導、2017年3月、千葉市総合保健医療センター。

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県介護保険関係団体協議会、幹事、2014年4月～現在。
- ・千葉県介護予防市町村支援検討会議、構成員、2014年10月～現在。
- ・リハビリテーション教育評価機構、評価員、2016年2月～現在。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会、理事、2011年6月～現在。
- ・一般社団法人 千葉県理学療法士会、副会長、公益事業局長、2013年6月～現在。
- ・公益社団法人 日本理学療法士協会、代議員、2014年6月～現在。
- ・日本地域理学療法学会 学術集会実施部会 協力員、2015年12月～現在。
- ・千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連携推進会議 専門職育成研修委員、2016年6月～現在。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会、臨床歩行分析研究会、日本人間工学会、日本生理人類学会、理学療法科学学会、バイオメカニクス学会、International Association of Physiological Anthropology。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本生理人類学会誌、論文査読、2016年6月～2016年10月。
- ・人間工学、論文査読、2016年7月～2016年8月。
- ・理学療法の科学と研究、論文査読、2016年11月～2017年1月。
- ・第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会、演題抄録査読、2016年6月。
- ・第52回日本理学療法学術大会、演題抄録査読、2016年11月。
- ・第22回千葉県理学療法士学会、演題抄録査読、2016年11月。
- ・第1回千葉県予防理学療法フォーラム、指定演題座長、2016年8月。
- ・第22回千葉県理学療法士学会、一般演題座長、2017年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・野田市民講演会、野田市保健福祉部、ロコモティブシンドローム～今日から始めるロコモ予防～ 一般住民、2016年7月21日、野田市保健センター。
- ・県介護予防従事者研修会、千葉県高齢者福祉課、認知症予防に向けた運動～コグニサイズの基礎知識と実践～、保健医療従事者、2016年9月15日、千葉県教育会館。
- ・いすみ市介護予防ボランティア研修会、いすみ市健康高齢者支援課、地域普及啓発できる運動指導～コグニサイズの基礎知識と実践～、一般住民、2016年10月4日、いすみ市役所。
- ・県保健医療従事者等研修会、千葉県健康づくり支援課、ロコモティブシンドローム、保健医療従事者、2016年10月20日、千葉県文化会館。
- ・千葉市シニアリーダー交流会、千葉市地域包括ケア推進課、特別講演 千葉県における介護保険を取りまく課題と「シニアリーダー」活動の意義、千葉市シニアリーダー、2016年11月8日、千葉市総合保健医療センター。
- ・東金市地域リーダー研修会、東金市長寿の会連合会、介護予防の鍵は健康寿命の延伸にあり、一般住民、2016年12月5日、東金市老人福祉センター。
- ・東金市ロコモティブシンドローム予防講演会、東金市高齢者支援課、ロコモティブシンドローム～自宅でできる予防体操～、一般住民、2016年12月17日、東金市保健福祉センター。

- ・日本理学療法士協会 地域包括・介護予防推進リーダー導入研修. 千葉県理学療法士会. 介護予防と理学療法士. 理学療法士. 2017年1月29日. 千葉県立保健医療大学.
- ・日本理学療法士協会 地域包括・介護予防推進リーダー導入研修. 千葉県理学療法士会. 介護予防と理学療法士. 理学療法士. 2017年3月12日. 千葉県立保健医療大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務企画委員会. 教務委員会. コンピテンシー作成作業部会（部会長）. リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面とくに授業内容を工夫した成果については、今後の学生による授業評価アンケートも参考に検証を行う。研究活動については、講義や委員会活動、職能団体の活動に多くの時間を割き、論文執筆の時間を工面することが困難であった。原著論文を1編しか公表できなかったことは反省し、次年度以降は論文執筆に費やせる時間を確保したい。社会貢献活動においては、介護予防に資するリハ専門職合同の研修会を開催するなど、県内の地域リハビリテーション活動支援事業の推進に貢献できたと考える。

VII 次年度の目標

本年度作成のコンピテンシーを意識した教育が実践できるよう努力する。研究活動においては、社会へ有用な情報発信ができるよう論文執筆を行う。社会貢献活動においては、職能団体の役員として、県内のリハ専門職が活躍できる場を多く提供できるよう行政とも連携しながら、地域リハビリテーション活動事業を推進していく。

講師 高杉 潤 博士（医学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動を基本とし、研究活動、学術活動に従事し、学生の教育および後進の育成を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・理学療法測定学.
 - ・理学療法臨床測定学.
 - ・神経系障害評価学.

- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・運動療法学.
- ・臨床運動学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床実習Ⅰ(体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ(評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).
- ・卒業研究.

Ⅲ 研究記録

1 著書(著者:著書, 発行年, 発行所, 発行場所, 本人下線)

- ・高杉潤:病的把握現象, 脳機能と基礎知識と神経症候ケーススタディー脳血管障害を中心にー, 第6章 Case Study. 第1項「前頭葉の障害に起因するもの」P.100~P.108, 2017, メジカルビュー社.
- ・松澤和弘, 高杉潤:利用行動・模倣行動, 脳機能と基礎知識と神経症候ケーススタディー脳血管障害を中心にー, 第6章 Case Study. 第1項「前頭葉の障害に起因するもの」P.114~P.118, 2017, メジカルビュー社.
- ・高杉潤:純粹失読, 脳機能と基礎知識と神経症候ケーススタディー脳血管障害を中心にー, 第6章 Case Study. 第3項「後頭葉の障害に起因するもの」P.164~P.169, 2017, メジカルビュー社.
- ・高杉潤:視床性運動失調, 脳機能と基礎知識と神経症候ケーススタディー脳血管障害を中心にー, 第6章 Case Study. 第4項「後頭葉の障害に起因するもの」P.170~P.176, 2017, メジカルビュー社.
- ・高杉潤:知覚転位, 脳機能と基礎知識と神経症候ケーススタディー脳血管障害を中心にー, 第6章 Case Study. 第7項「その他の皮質下の障害に起因するもの」P.261~P.265, 2017, メジカルビュー社.
- ・高杉潤:高次脳機能ー注意障害, 図解 運動療法ガイド, 第51章, P.518~P.524, 2017, 文光堂.
- ・高杉潤:感覚障害に対する対応, 脳卒中に対する標準的理学療法介入ー何を考え, どう進めるか?ー 第2版, 第14章, P.277~P.288, 2017, 文光堂.

2 学術論文・その他(著者:題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・高杉潤:評価に難渋する脳損傷例の特徴と解決方法. 脳科学とリハビリテーション, 16巻1号, 1-5, 2016.
- ・加藤将暉, 植木亜希, 城野加奈子, 足立真理, 後藤恭子, 大賀辰秀, 乳原善文, 井田雅祥, 高杉潤:頭蓋形成術後に著明な神経症状の改善を認めなかった脳梗塞例ー神経症状及びリハビリテーションの経過ー. 脳科学とリハビリテーション, 16巻1号, 7-16, 2016.
- ・高杉潤:論文を書きましょうー論文を書く意義ー Vol.1. 千葉県理学療法士会 NEWS 第189号, 11-12, 2016.

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・藤井信濃, 市村大輔, 高杉潤:動作能力改善に難渋した前大脳動脈領域, 中大脳動脈領域梗塞例. 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2016年4月, 千葉.
- ・鈴木雄峰, 市村大輔, 高杉潤:重度の地誌的失見当を呈した両側後大脳動脈領域梗塞例の症候学的分析. 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2016年4月, 千葉.
- ・高橋幸, 市村大輔, 高杉潤:左後頭葉皮質下出血後, 失読・失書を呈した症例. 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2016年4月, 千葉.
- ・加藤将暉, 植木亜希, 城野加奈子, 足立真理, 後藤恭子, 大賀辰秀, 乳原善文, 井田雅祥, 高杉潤:頭蓋形成術後に著明な神経症状の改善を認めなかった脳梗塞例, 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2016年4月, 千葉.

- ・今村武正, 高杉潤: 街並失認と道順障害を併発した症例に対する病棟内歩行自立を目指した取り組み, 第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会, 2016年4月, 千葉
- ・藤本修平, 今法子, 高杉潤, 中山健夫: 理学療法士における診療ガイドラインへの意識・態度の状況および関連する要因の検討, 第51回日本理学療法学術大会, 2016年5月, 北海道
- ・加藤将暉, 植木亜希, 山田史恵, 足立真理, 後藤恭子, 大賀辰秀, 井田雅祥, 高杉潤: 重度の夜尿症と覚醒障害を呈した右半球深部白質梗塞例, 第40回日本神経心理学会学術集会, 2016年9月, 熊本

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 演題査読.
- ・「理学療法の科学と研究」論文査読.
- ・「脳科学とリハビリテーション」論文編集担当および査読.
- ・第22回千葉県理学療法士学会. 演題査読.
- ・第22回千葉県理学療法士学会. 一般演題「基礎I」座長.
- ・第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会 教育講演座長.
- ・第52回日本理学療法学術大会 演題査読.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会 理事, 千葉県理学療法士会 定款検討委員会委員長, 日本理学療法士協会 代議員.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

脳機能とリハビリテーション研究会, 北米神経科学会, 日本神経科学会, 日本臨床神経生理学会, 日本神経心理学会, 日本神経精神医学会, 日本高次脳機能障害学会, 認知神経科学会, 日本光脳機能イメージング研究会, 日本理学療法士協会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・脳機能とリハビリテーション研究会会長.
- ・脳機能とリハビリテーション研究会学術誌「脳科学とリハビリテーション」編集委員.
- ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」編集委員.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県理学療法士会 生涯学習研修会 I. 学会で失敗しないための症例研究, 症例報告のススメ. 千葉県理学療法士会 会員. 2016年9月, 千葉.
- ・Total Approach 研究会研修会. 脳画像を臨床で生かすにはどうすればいいの?. 医療職種. 2016年10月, 東京
- ・千葉県理学療法士会 生涯学習研修会. 投稿論文で失敗しないための症例研究, 症例報告のススメ. 千葉県理学療法士会 会員. 2016年12月, 千葉.
- ・千葉県理学療法士会 新人教育プログラム講習会. 生涯学習と理学療法の専門領域, 千葉県理学療法士会 会員. 2017年1月, 千葉.
- ・第20回脳機能とリハビリテーション研究会定例勉強会 特別講演. 症例報告の再考—症例報告の意義とその方法—. 医療職種. 2017年2月, 東京
- ・Total Approach 研究会研修会. 脳科学からみた高次脳機能障害と臨床応用. 医療職種. 2017年3月, 東京.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・進路支援委員会, 自己点検評価委員会 報告書作成部会, 紀要編集部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議, 理学療法学専攻会議.
- ・第2学年（7期生）担任, 臨床実習Ⅱ統括セミナー担当, 臨床実習OSCE, 実技チェックテスト担当.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動に加え, 第2学年の担任としての管理・運営に注力した. さらに, 千葉県理学療法士会の学術局理事および脳機能とリハビリテーション研究会会長として, リハビリテーション関連職種, 千葉県内の理学療法士の育成に従事した.

VII 次年度の目標

教育活動を基本とし, 研究活動, 学術活動に従事し, 学生の教育および後進の育成を図る.

講師 大谷 拓哉 博士（保健学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育・研究ともに前年度の活動をベースとし, より発展した内容・成果を達成できるよう努力していく.

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・理学療法測定学.
- ・理学療法測定学演習.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・理学療法研究方法論.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・機能解剖学.
- ・生体機能計測学.
- ・体験ゼミナール.

- ・臨床実習Ⅰ(体験実習).
- ・臨床実習Ⅱ(評価実習).
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).
- ・卒業研究.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他(著者:題名,雑誌名,巻,号,ページ,発行年,本人下線)

- ・大谷拓哉, 雄賀多聡, 三和真人: 転子果長測定における大転子測定点に関する調査 ―理学療法士を対象として―, 形態・機能, 15, 2, 48-56, 2016.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称,委員名称,活動期間)

- ・千葉県理学療法士会, 学術局学術誌編集部, 2016.4~2017.3.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士学会.
- ・日本基礎理学療法学会.
- ・コ・メディカル形態機能学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・第52回日本理学療法学術大会, 演題査読, 2016.11.
- ・第22回千葉県理学療法士学会 座長 口述発表(フレッシュマン演題 脳血管②), 2017.3.

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会.
- ・ネットワーク委員会.
- ・学術推進企画委員会.
- ・国際交流委員会.
- ・自己点検評価実施推進部会.
- ・共同研究審査部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・臨床実習担当.
- ・4年生担任.

Ⅵ 評価(成果および改善すべき事項)

測定の信頼性に関するデータをまとめて論文として発表することができた。学会活動の幅を広げることができた。

Ⅶ 次年度の目標

平成 29 年度は、特に学内共同研究が計画通り遂行できるように取り組んでいきたい。

助教 仲 貴子 修士（理学療法学）

対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

論文執筆に注力したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・運動学 I.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法測定学演習.
- ・理学療法臨床測定学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・臨床実習 I（体験実習）.
- ・臨床実習 II（評価実習）.
- ・臨床実習 III（総合実習）.
- ・臨床実習 IV（総合実習）.
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・仲貴子，理学療法士がかかわる入所リハビリテーションサービス，「シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト」，細田多穂監修，山田和政・他編，2017 年，pp169-173，南江堂，東京.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・仲貴子，石井香織，柴田愛，原田和弘，岡浩一朗：地域在住高齢者の“Disabling Foot Pain”の実態に関する疫学的調査 第 3 報 足部自己管理行動と“Disabling Foot Pain”発生との関連，第 51 回日本理学療法学会，平成 28 年 5 月 29 日，札幌市.
- ・田舎中真由美，木野秀郷，久保田武美，仲貴子：理学療法士による褥婦 903 名の産後のマイナートラブルの実態調査とその分析，第 75 回日本公衆衛生学会総会，平成 28 年 10 月 26 日，大阪市.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体.
 - ・日本理学療法士協会, 日本公衆衛生学会, 日本体力医学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・第2回予防理学療法学会サテライト集会 シンポジウム座長 (平成29年3月5日).

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・特色科目委員会, 図書情報委員会, 入試評価部会, 体験ゼミナール作業部会, 千葉県の健康づくり作業部会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

担当授業以外で国家試験対策業務, 卒業研究論文集編集業務等を行うなどした.
学術活動では平成24年度より継続中の縦断研究の成果が形になりつつあるが, 論文業績につながっていない.

助教 太田 恵 博士 (スポーツ科学)

対象期間: 2016年4月1日~2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

引き続き, 助教としての責務を果たしたい.

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・人体の機能実習.
 - ・運動学 I.
 - ・運動学実習.
 - ・機能解剖学.
 - ・理学療法測定学演習.
 - ・理学療法臨床測定学.
 - ・日常生活活動学演習.
 - ・物理療法学演習.
 - ・生体機能計測. 学
 - ・理学療法研究方法論.
 - ・運動器障害理学療法学.
 - ・臨床実習 I (体験実習).
 - ・臨床実習 II (評価実習).

- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).
- ・卒業研究.

Ⅲ 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・市橋則明 編集, 太田恵 他: 理学療法評価学, 2016年, 文光堂, 東京.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・太田恵: 理学療法士・作業療法士養成校の学生における進路希望, 日本理学療法士学会 (第51回日本理学療法学会), 2016年5月27-29日, 北海道.
- ・太田恵, 雄賀多聡, 金岡恒治: 咳嗽時における腹横筋の筋厚と変化率の左右対称性, 日本リハビリテーション医学会 (第53回日本リハビリテーション医学会学術集会), 2016年6月9-11日, 京都.
- ・真寿田三葉, 太田恵, 雄賀多聡, 黒澤一: 横隔膜強化を目的とした吸気筋トレーニングの効果, 日本呼吸ケアリハビリテーション学会 (第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会), 2016年10月10・11日, 神奈川.
- ・M. Ota, S. OGATA, K. KANEOKA: Change in thickness of the transversus abdominis muscle as a result of coughing, (The 9th Interdisciplinary World Congress on Low Back & Pelvic Pain), 2016年10月31日-11月3日, シンガポール.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科研費 若手研究B, 体幹機能不全に関する治療法の確立, 研究代表者.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会, 学術局雑誌編集部, 査読協力員, 2015年度～.
- ・千葉県理学療法士会, 事務局総務部, 部長, 2015年度～.
- ・千葉県理学療法士学会, 準備委員, 2015年度～.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会, 理学療法科学学会, 臨床スポーツ医学会, 体力医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会, 理学療法の科学と研究 査読・編集委員, 2013年度～.
- ・千葉県理学療法士会 事務局総務部, 部長, 2015年度～.
- ・日本理学療法学会, 査読協力者, 2010年度～.
- ・関東甲信越ブロック理学療法士学会, 査読協力者, 2016年度.
- ・千葉県理学療法士学会, 査読協力者, 2013年度～.
- ・第22回千葉県理学療法士学会, 準備委員, 2015年度～.

Ⅴ 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試実施部会, パンフレット作業部会, 学術推進企画委員会 (イブニングセミナー・共同研究・システムティックレビュー)

一). ネットワーク委員会. 専門職間の連携活動論作業部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

科研費を取得し、研究環境の整備・データの測定および解析、さらには一部の成果を学術大会で発表した。

VII 次年度の目標

引き続き、助教としての責務を果たしたい。

リハビリテーション学科
作業療法学専攻

作業療法学専攻長 教授 岡村 太郎 博士 (医学)

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、学生の教育や指導に重点的にいき、臨床実習で問題のあった学生の指導を行う。国家試験対策と同時に就職活動の援助を行い、国家試験の全員合格と全員就職を目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・作業療法概論.
- ・作業療法管理学.
- ・作業療法研究法.
- ・社会的適応支援学.
- ・社会的適応支援評価学.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

・岡村太郎, 他：転倒予防白書 2016 (「精神障害 2, 統合失調症を対象とした作業療法の事例」単著) pp155-160, 2016, 日本医事新報社, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

・Taro Okamura, Akiko Hayashi, Shinsuke Matsuo, Kunihiko Shinoda, Isamu Konishi, Haruna Makio, Miwa Tsuji, A fall predictive indicator for dementia in the hospital-A prospective study, Journal of Human Ergology, vol.45, No.2: 27-32, 2016.

・島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 三宅利江子, 保坂誠, 麻賀多美代, 他7名. 軽度認知障害が疑われる地域在住高齢者の「日常役割機能 - 身体」千葉県立保健医療大学紀要 Vol.8 No1. 2017.

・岡村太郎, 古西 勇, 篠田邦彦, 松尾真輔, 林安希子, 認知症を対象とした作業療法による転倒予防の効果 比較対象実験, 日本衛生学雑誌, 71巻. PageS198, 2016.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

岡村太郎, 古西 勇, 篠田邦彦, 松尾真輔, 林安希子, 認知症を対象とした作業療法による転倒予防の効果 比較対象実験, 日本衛生学会, 2016年5月12日, 旭川.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・認知症のひと家族の会千葉県支部主催のアルツハイマー啓発活動。2016年9月19日、千葉駅前。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会。千葉県作業療法士会。日本公衆衛生学会。日本衛生学会。

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・一般社団法人作業療法士会。学術部査読委員、平成27年4月1日から平成29年3月31日。
- ・一般社団法人作業療法士会学会委員会、演題査読委員、平成28年から30年3月31日。
- ・千葉県立保健医療大学、紀要査読員、平成28年度。

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・さとり会(作業を取り扱う勉強会)、「認知能力障害モデルで用いられるアレンの認知(Allen Cognitive Level)」, 作業療法士等, 2017年2月12日, 関西福祉科学大学。
- ・医療安全研修会, 独立行政法人国立病院機構千葉東病院, 行動障害と転倒の関係や日中の係り方について, 医療職, 2016年9月13日, 千葉東病院。
- ・現職共通研修会, 一般社団法人作業療法士会, 職業倫理, 作業療法士, 2016年10月16日, 千葉帝京平成大学。
- ・現職者共通研修会(一般社団法人千葉県作業療法士会)。作業療法士を対象に「事例報告・事例検討」の講師。2017年2月5日, 千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・総務・企画委員会。図書・情報委員会。自己点検・評価委員会。認証評価部会(部会長)。自己点検推進実施部会(部会長)。教員資格審査委員会。ネットワーク委員会。教員再任資格審査委員会。教授会。将来構想委員会。入試委員会。大学運営委員会。

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議。作業療法学専攻会議。

VI 評価(成果および改善すべき事項)

大学の管理運営に関して、大学の認証評価で指摘された努力課題と改善勧告について対応方法とその実施に準備し、大学の重点施策を基に自己点検評価として実施した。また、教育方面では、学生が100%の国家試験合格率达到してくれた。改善点として、特に実習中の学習の伸び悩んでいる学生指導について検討する必要がある。

VII 次年度の目標

学校運営に関しては、認証評価で得られた結果から、内部質保証について検討実施する。教育分野においては退学、休学学生に関して原因とその対応について検討し、効果ある対応を実施したい。研究分野においては、作業療法における認知機能の評価と治療の開発に注力したい。

教授 高橋 伸佳 博士(医学)

対象期間: 2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成 28 年度は、特に研究・発表に取り組むことを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミ.
- ・人体の構造 I (筋・骨・神経系の構造).
- ・人体の構造実習.
- ・神経内科学総論.
- ・神経内科学各論.
- ・臨床医学概論.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・神経系の解剖・生理・病理 (国立障害者リハビリテーションセンター学院)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線: 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・高橋伸佳: ラクナ梗塞による運動失調性構音障害, 脳卒中症候学, 田川皓一ら 編, 2016, 西村書店, 東京.
- ・高橋伸佳: 両側後大脳動脈領域梗塞による相貌失認, 脳卒中症候学, 田川皓一ら 編, 2016, 西村書店, 東京.
- ・高橋伸佳: 空間認知障害. 高次脳機能障害の考えかたと画像診断. 武田克彦ら 編, 2016, 中外医学社, 東京.

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・菊池雷太, 高橋伸佳: 左頭頂葉病変による視覚性代償を伴わない肢節運動失行. 神経内科, 84, 4, 415-417, 2016
- ・溝渕敬子, 高橋伸佳: 脳弓病変により重度の逆行性健忘を呈した健忘症候群の 1 例. 神経内科, 84, 5, 496-498, 2016

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・菊池雷太, 高橋伸佳, 瀧瀬康洋: 中心後回皮質・白質病変により avoiding reaction を呈した一例. 第 40 回日本高次脳機能障害学会学術集会, 2016 年 11 月 11 日, 松本.
- ・揚戸薫, 前島潤子, 阿部里子, 高橋伸佳, 吉永勝訓, 大塚恵美子: 「やる気が出ない」高次脳機能障害者への訪問型家事支援, 行動を起こすきっかけ作りが奏功した一例. 第 40 回日本高次脳機能障害学会学術集会, 2016 年 11 月 11 日, 松本.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・言語聴覚士国家試験委員 (財団法人医療研修推進財団, 言語聴覚士試験委員, 平成 28 年度)

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本神経学会, 日本高次脳機能障害学会, 日本神経心理学会, 日本認知症学会, 日本リハビリテーション医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本神経心理学会, 理事, 編集委員.
- ・日本高次脳機能障害学会, 評議員, 編集委員.
- ・日本神経学会, 査読委員.

- ・第40回日本高次脳障害学会学術総会. プログラム委員. 一般演題座長.
- ・第40回日本神経心理学会総会. プログラム委員.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 教務委員会. キャンパスハラスメント防止対策委員会. 共通教育運営会議. 教員資格審査委員会. 社会貢献委員会. FD委員会. 将来構想委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育・研究・社会貢献・管理、運営のすべてについて、比較的満足のいく結果であった。

VII 次年度の目標

本年度と同様の活動を継続する。

准教授 安部 能成 博士（保健学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に講義方法と内容の改善に留意し、評価法、治療学、治療学演習という Stepwise Method を導入する。さらに評価学Ⅱにおいては OSCE の実施においてフィードバック方法を更新する。さらに担当している臨床実習において、大学、臨床実習施設、臨床実習指導者、学生という多元的教育の円滑化を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・作業療法評価学概論.
- ・作業療法評価学Ⅱ.
- ・作業療法治療学Ⅱ.
- ・作業療法治療学Ⅱ演習.
- ・社会的適応支援学演習.
- ・人体の機能実習
- ・作業運動学実習.
- ・見学実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名. 大学名）

- ・神戸学院大学総合リハビリテーション学部作業療法学専攻（がん患者に対する作業療法）
- ・聖学院大学大学院人間福祉学研究科（スピリチュアルケア論）

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・安部能成編，終末期リハビリテーションの臨床アプローチ，2016年，メジカルビュー，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Shibata H, Kato S, Sekine I, Abe K et al, Diagnostic and treatment of bone metastasis: comprehensive guideline of the Japanese Society of Medical Oncology, Japanese Orthopedic Association, Japanese Urological Association, and Japanese Society for Radiation Oncology, ESMO Open, 2016, 1:e000037. Doi:10.1136/esmooopen-2016-000037.
- ・安部能成，がん緩和ケアの成立と展開，日本癌治療学会誌，Vol.51 No.2, pp.387-391, 2016.
- ・安部能成，骨転移のリハビリテーション，腫瘍内科，vol.18 no.4, pp.340-345, 2016.
- ・安部能成，在宅緩和ケアにおけるリハビリテーションの活用，Progress in Medicine, vol.36 no.10: 1335-1338, 2016.
- ・安部能成，進行・終末期の肺がん患者に対するリハビリテーションの進め方，呼吸・循環ケア，vol.38 no.1; pp.98-104, 2016.
- ・安部能成，ロコモとは何か？ロコモの基礎知識，在宅新療 vol.2 no.1; pp.44-48, 2017.
- ・安部能成，ロコモの広がり—個人的レベルの広がり，在宅新療 vol.2 no.2; pp.150-154, 2017.
- ・安部能成，ロコモの広がり—家族・介護と国民医療費，在宅新療 vol.2 no.3; pp.248-253, 2017.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・安部能成，国際生活機能分類によるがんリハビリテーションの評価に関する文献レビュー，第75回日本癌学会学術総会，2016年10月8日，パシフィコ横浜。
- ・安部能成，ワークショップ11 リハビリテーションQOL，第54回日本癌治療学会，2015年10月20日，パシフィコ横浜。
- ・安部能成，シンポジウム16 がんの全身補助療法と患者ケア，第54回日本癌治療学会，2015年10月21日，パシフィコ横浜。
- ・安部能成，DM/CRC 教育セミナー緩和ケア，第54回日本癌治療学会，2015年10月22日，パシフィコ横浜。
- ・安部能成，がん終末期にリハビリテーションはあり得ない，第22回日本臨床死生学会，2016年11月19日，早稲田大学。
- ・安部能成，在宅ホスピスにおけるリハビリテーション～文献レビューによる検討，第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米，2017年2月4日，久留米シティープラザ。

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第21回日本緩和医療学会，招請講演の座長。
- ・第21回日本緩和医療学会，国際交流セッションの座長。
- ・第49回日本整形外科学会/骨・軟部腫瘍学術集会の教育講演。
- ・第16回日本在宅ホスピス協会全国大会 in 大崎，在宅リハビリテーションセッションの座長。
- ・第45回多施設緩和ケア研究会の司会。
- ・第40回日本死の臨床研究会 年次大会での教育講演の座長。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県MSW協会がん部会勉強会講師。
- ・第3回千葉県立保健医療大学 作業療法学専攻同窓会 第3回敵総会における講演(がん患者に対する作業療法の利点)。
- ・四国がんプロフェッショナル養成講座の講師。
- ・千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師。
- ・国立がん研究センター東病院認定看護師教育課程非常勤講師。
- ・第3回医学生の緩和ケア教育のための授業実践大会での模擬授業。
- ・第40回千葉県病院対抗バレーボール大会の会場運営。

2) 千葉県外

- ・長野県厚生連作業療法研究会の講師.
- ・青森県作業療法学会 貴重講演 (がん患者に対する作業療法).
- ・第135回 広島大学保健学集談会.

3) 海外

- ・Scientific meeting of the European Association for Palliative Care in Ireland.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・国立がん研究センター東病院 (認定看護師教育コース) の講師.
- ・がんカフェの主催 (千葉市).

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・作業療法士国家試験模範解答作成委員.

4 職能団体委員等 (職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会機関紙「作業療法」査読委員.
- ・千葉県作業療法士会アドバイザー.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本癌学会, 日本癌治療学会, 日本がんサポーターティブケア学会, 日本緩和医療学会, 日本臨床死生学会, 日本サイコオンコロジー学会, 日本死の臨床研究会, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 日本在宅ホスピス協会, 多施設緩和ケア研究会, ロコモケア研究会, コクラン日本支部正会員, APHN (Asia Pacific Hospice Network), EAPC (European Association for Palliative Care), UICC (Unio Internationalis Contra Cancrum; International Union against Cancer) .

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・日本癌治療学会 (代議員, 平成23年～現在).
- ・日本緩和医療学会 (理事, 国際交流委員会委員長, 平成23年～平成28年).
- ・日本がんサポーターティブケア学会 (骨転移と骨の健康部会副部会長, 評議員, 平成28年～現在).
- ・多施設緩和ケア研究会 (世話人, 平成23年～現在).
- ・日本在宅ホスピス協会 (世話人, 平成24年～現在).

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所)

- ・千葉大学医学部附属病院在宅医療インテンシブコースの講師 (千葉市, 南房総市).

7 その他

- ・日本癌治療学会 : 学術集会抄録査読委員.
- ・日本緩和医療学会 : 学術集会抄録査読委員.
- ・Disability and Rehabilitation : Manuscript Reviewer.
- ・Scandinavian Journal of Occupational Therapy : Manuscript Reviewer.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会, 社会貢献委員会, 図書・情報委員会, 国際貢献ワーキンググループ.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・臨床実習ワーキンググループ。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・公開講座における司会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

講義に対するフィードバックを踏まえて、講義科目・実習科目について改善を試みる。教材の取捨選択により受講学生の理解度は改善したと感じられたが、網羅的な情報提供が少なくなり、特に臨床実習においては学生の知識不十分、実技に関する不足部分を臨床実習指導者に指摘されたので、この点にも改善の必要性を感じた。

VII 次年度の目標

大学においては知識の獲得が基盤であり、その上に実技を身に付けていく、という学習のステップ、階層構造が重要である。教材精査による講義内容の改善は重要であるが、基礎知識を持たないと実技実習にも支障をきたし、臨床実習において学生が苦勞することになるので、さらなりバランスを取りつつ教育を進める必要がある。

准教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2016年10月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度10月着任のため、主に担当授業を円滑に遂行することとした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・作業運動学Ⅰ。
- ・作業療法治療学Ⅰ。
- ・日常生活活動技術学演習。
- ・日常生活活動援助学演習。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・藤田佳男：運動に関する現状と作業療法士の役割，日本作業療法士協会誌，59，2，18-21，2017。
- ・藤田佳男：提言 - 作業療法士としてのモビリティ支援 - ，作業療法ジャーナル，51，1，4-5，2017。

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）

- ・第36回近畿作業療法学会，認知機能と運動適性～作業療法の視点から～（教育講演），2016年11月13日，和歌山県民文化会館。
- ・日本安全運転・医療研究会，第1回運動に関する合同研究会シンポジウム「作業療法士の立場から」，シンポジスト，2017年1月21日，北九州国際会議場。
- ・日本安全運転・医療研究会，第1回運動に関する合同研究会，抑制課題付有効視野測定法 Visual Field with Inhibitory

Tasks:VFIT の臨床応用について (教育講演), 2017 年 1 月 21 日, 北九州国際会議場.

- ・第 16 回富山県作業療法学会, 自動車運転とリハビリテーション～ 地域での安全な交通社会の実現に向けて～, (50 周年記念市民公開講座), 2017 年 3 月 18 日, 富山県国際会議場.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究C), ドライブレコーダと脳画像による高齢者の実車運転府安全行動に関する特性の検討, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究C), 高齢者の安全運転寿命を延ばすための講習方法の開発, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」, 委員長, 平成 28 年度～平成 29 年度.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会, 日本老年医学会, 日本老年精神医学会, 認知神経科学会, 日本高次脳機能障害学会, 自動車技術会, 日本公衆衛生学会, 日本リハビリテーション工学協会, 運転と認知機能研究会, 運転と作業療法研究会, 日本安全運転・医療研究会, 日本交通心理学会, 日本認知心理学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・運転と認知機能研究会 事務局長, 平成 20 年～.
- ・運転と作業療法研究会 代表 平成 26 年～.
- ・日本安全運転・医療研究会 幹事, 平成 28 年～.
- ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 平成 26 年～.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・高次脳機能障害と自動車運転, 地域生活支援センターあけぼの, シリーズ第 1 弾「日本の動向～これまでの変遷と現状, 今後の課題」, 医療・福祉関係者, 2016 年 12 月 13 日, 府中グリーンプラザ.

V 管理・運営記録

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・週刊文春 12 月 1 日号, 2016 年 12 月 1 日「高齢ドライバー こんな人が危ない」.
- ・千葉日報, 2016 年 12 月 10 日, 「タブレットで高齢運転講習 千葉県立保健医療大学の藤田准教授ソフト開発」.
- ・日本経済新聞電子版, 2016 年 12 月 10 日, 「タブレットで高齢運転講習, 視野の狭まり実感 埼玉県が導入」.
- ・埼玉新聞, 2016 年 12 月 14 日, 「タブレットで高齢運転講習, 視野の狭まり実感 県 来年 1 月から導入」.
- ・朝日新聞朝刊, 2016 年 1 月 4 日「運転卒業 いずれは自分も」.
- ・東京新聞朝刊, 2016 年 2 月 26 日, 「運転リハビリ導入を 欧米は「制限免許」能力により判断」.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

担当する授業のうち, 前任校で担当していた科目については概ね問題なく実施できた. 本学で新たに担当する科目については, 授業資料の準備に追われつつ授業を進行することとなったが, 教科書および作成した参考資料を用いて

実施することが出来た。しかし、学生の理解度、到達度を含めた質の部分ではまだまだ課題があるため次年度の授業資料や方法について見直しを行った上で実施する。また、研究活動については十分な結果を残せなかった。

Ⅶ 次年度の目標

新規に担当する科目について円滑に実施できるよう十分な準備を行って遂行する。研究活動に力を注ぐ。

准教授 有川 真弓 博士（保健科学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は担任の学生が最終学年になるため、進路支援、国家試験の支援に力を入れたい。引き続き、社会貢献活動に力を注ぎたい。

Ⅱ 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・作業運動分析学.
- ・人間発達学.
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法評価学IV.
- ・作業療法治療学IV.
- ・作業療法治療学IV演習.
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ.
- ・評価実習Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・

Ⅲ 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・小西 紀一（監修）、酒井 康年（編集）、有川真弓、田中亮、満井礼子ほか：発達が気になる子どもを地域で支援！保育・学校生活の作業療法サポートガイド、2016、医歯薬出版、東京。
- ・上杉雅之 監修／辛島千恵子 編著／有川真弓・五十嵐剛・石附智奈美・板垣正樹・伊藤信寿・小松則登・笹井久嗣・篠川裕子・仙石泰仁・長野清一郎・西川貴久子・瀨本孝弘・星野藍子・本多ふく代・松井泰行・簗押佐永巳・吉田彬人

著：イラストでわかる発達障害の作業療法，2016，メジカルビュー社，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・立山 清美，伊藤 祐子，有川 真弓，赤松 めぐみ，山田 孝，山西 葉子：感覚統合療法の効果研究の現状と効果研究に用いる指標，感覚統合研究，16，1-7，2016。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・有川真弓，満井礼子，酒井康年，古橋理恵，西方浩一：発達障害児への熟達した作業療法のクリニカルリーズニング（第2報），第50回日本作業療法学会，2016.9.9-11。（札幌）
- ・中路 純子，有川 真弓，吉岡 和哉，森 直樹，酒井 康年：学校を支援する作業療法士の活用に関する調査報告 特別支援学校のセンター的機能充実事業における外部人材の配置・活用の調査，第50回日本作業療法学会，2016.9.9-11。（札幌）
- ・吉岡 和哉，酒井 康年，有川 真弓，森 直樹，三澤 一登：学校を理解し支援ができる作業療法士「学校作業療法士」 特別支援学校のセンター的機能充実事業の外部人材の配置・活用の調査から，第50回日本作業療法学会，2016.9.9-11。（札幌）
- ・立山 清美，伊藤 祐子，有川 真弓，赤松 めぐみ，山田 孝：発達障がい児に対する感覚統合療法の効果 ゴール達成スケールリングおよび日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査を用いた検討，第34回日本感覚統合学会研究大会，2016.11.26-27。（北九州市）
- ・有川 真弓，酒井 康年，満井 礼子，古橋 理恵，西方 浩一：子どもがセラピーを遊びとして受け入れるテクニック 熟達した作業療法士のクリニカルリーズニング，第34回日本感覚統合学会研究大会，2016.11.26-27。（北九州市）
- ・有川 真弓，立山 清美，伊藤 祐子，赤松 めぐみ，山田 孝：発達障害児に対する感覚統合療法の効果 小児版意志質問紙(PVQ)を用いた検討，第26回日本作業行動学会学術集会，2016.6.18-19。（横須賀市）
- ・伊藤 祐子，立山 清美，有川 真弓，赤松 めぐみ，山田 孝：発達障害児に対する感覚統合療法の効果 コミュニケーションと交流技能評価(ACIS)を用いた検討，第26回日本作業行動学会学術集会，2016.6.18-19。（横須賀市）

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・日本作業療法士協会作業療法重点課題研修，学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会，2016年10月15-16日，建設協同組合高松総合センター。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，作業療法学生の臨床実習適応能力の向上のための学内検査測定実習の取り組み，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・大田区西六郷小学校 特別支援学級医療専門相談，2016年12月～2017年3月。
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師，2016年6月1日～2017年3月31日。
- ・練馬区障害児保育巡回指導，2016年4月1日～2017年3月31日。
- ・船橋市感覚統合入門講座講師，2016年6月～2016年12月。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員，2016年4月1日～2017年3月31日。
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員，2016年4月1日～2017年3月31日。
- ・練馬区立こども発達支援センター通所訓練事業等業務委託事業者選定委員会委員，2016年4月1日～2017年3月31日。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会，制度対策部部員，2016年4月1日～2017年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，学術部部員，2016年4月1日～2017年3月31日。

- ・日本作業療法士協会. 学会演題査読委員. 2016年4月1日～2017年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 事務局長. 2016年7月1日～2017年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 学術部発達障害委員会委員. 2016年4月1日～2017年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会. 学術部査読委員. 2016年7月1日～2017年3月31日.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 日本感覚統合学会. 日本作業行動学会. 日本LD学会. 日本発達系作業療法学会. 日本リハビリテーション連携科学学会. 日本発達障害学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本感覚統合学会. 効果研究委員. 2016年4月1日～2017年3月31日.
- ・JDD ネットワーク第12回年次大会. 実行委員. 2016年4月1日～2017年3月31日.
- ・日本発達系作業療法学会. 理事. 2016年4月1日～2017年3月31日.
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会. 2016年4月1日～2017年3月31日.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・足立区教育委員会. 発達障がい等の子どもたちへの指導方法について. 教員. 2016年11月29日. 足立区立千寿本町小学校.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会. 新新カリキュラム作成作業部会. 入試実施部会. 研究等倫理委員会. 進路支援委員会. 大学院構想WG.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

授業外の学生指導も含めた教育活動、職能団体や学会での委員会活動、社会貢献活動に力を注いだ。年度当初の目標については、最終学年の担任学生の指導に力を注ぎ、卒業生全員の国家試験合格、就職内定を達成した。また、県内での地域貢献活動についても、満足できる結果を残すことができた。

VII 次年度の目標

平成29年度は研究結果を原著論文として発表したい。引き続き、社会貢献活動に力を注ぎたい。

講師 吉野 智佳子 修士（工学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

新カリキュラムの完成年度であり、しっかり対応したい。就職相談は必要があれば相談を受け、県内就職者数を確保して

いきたい。実習施設確保のための交渉を引き続き行い、臨床実習の準備を行っていく。学位取得に向けて研究活動を精力的に行う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・人体の構造実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・作業運動学Ⅱ.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法評価学Ⅰ
- ・作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系).
- ・作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系).
- ・日常生活活動技術学
- ・日常生活活動援助学
- ・日常生活活動援助学演習
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ,Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ,Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学,大学院等の非常勤講師 (科目名,大学名)

- ・義肢装具学実習 (目白大学).

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線:著書,発行年,発行所,発行場所.)

- ・清水順市,青木主税,森田千晶,柴田八衣子,大庭潤平,溝部二十四,野坂利也,梅澤慎吾,岩下航大,松本純一,笹川友彦,斎藤和夫,飯塚照史,井上美紀,佐々木和憲,宮内博之,泉美帆子,安部恭子,富金原敦,米津亮,岡野生也,飯田修平,尾田敦,吉野智佳子,木之瀬隆,宮崎学:リハビリテーション義肢装具学,416-423,2017年3月,メジカルビュー社,東京.

2 学術論文・その他 (著者:題名,雑誌名,巻,号,ページ,発行年,本人下線)

- ・吉野智佳子,下村義弘:肘関節屈曲時の段階負荷における筋音図の性差に関する研究,日本人間工学会誌,53巻1号,1-7,2017.

3 発表 (発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等,本人下線)

- ・吉野智佳子,下村義弘:体験用前腕能動仮義手の操作練習過程における筋電図と筋音図の分析,第32回日本義肢装具学会,2016年10月15日-16日,札幌.
- ・日本作業療法士協会教育部養成教育委員会:協会活動資料 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則・指導ガイドラインおよび教員・実習指導者の研修に関するアンケート結果報告,日本作業療法協会誌,第60号,6-12,2017年3月.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・車いすラグビー公開交流会，2016年6月11日，車いすラグビー体験など学生参加調整。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本作業療法士協会，教育部 部員（養成教育委員会），2009年～現在。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本義肢装具学会，脳機能とリハビリテーション研究会，日本作業療法研究学会，日本臨床生理学会，日本生理人類学会，日本人間工学会，日本臨床神経生理学会，日本シーティング・コンサルタント協会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本リハビリテーション医学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本作業療法研究学会，理事，2007年11月～現在に至る。
- ・日本作業療法研究学会，第10回日本作業療法研究学会学術大会 理事会出席，2016年5月21日-21日，新潟。
- ・日本作業療法士協会，事例報告登録制度審査委員，2010年9月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会，学術誌「作業療法」編集協力（論文査読），2011年10月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会，学術誌査読委員，2013年4月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会，生涯教育制度推進委員（千葉県作業療法士会），2015年～現在に至る。
- ・脳機能とリハビリテーション研究会学術大会 運営委員，2016年4月24日，千葉。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県作業療法士会 現職者研修会 「実践のための作業療法研究」 講師 2016年11月13日，千葉。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・専門職間の連携活動論作業部会，キャンパス・ハラスメント防止委員会，学内共同研究審査部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

臨床実習の依頼と合わせて求人があれば学生に情報提供を行った。就職相談は身体障害領域において学生から依頼があれば対応した。研究活動では，学会での発表や学術論文の投稿を進め，採択に至った。

VII 次年度の目標

臨床実習担当が変更となるため，実習施設確保のための交渉を行い，臨床実習の準備を行っていく。就職相談は必要があれば相談を受け，県内就職者数を確保していきたい。学位取得に向けて研究活動を精力的に行う。

講師 佐藤 大介 修士（保健学）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、特に学生の授業評価、臨床実習指導者の実習評価等を基に授業を改善し、教育効果の向上を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績(科目名)

- ・作業療法評価学Ⅱ(精神・心理機能系).
- ・作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系).
- ・作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系).
- ・日常生活活動技術学演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・体験ゼミナール.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書(著者本人下線:著書,発行年,発行所,発行場所.)

- ・石井良和,京極真,長雄眞一郎(編),佐藤大介:精神領域の作業療法 第2版,2016年,中央法規,東京.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名,研究テーマ,研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科研費,基盤研究C,発達障害を基盤に有する強迫性障害の拡散テンソル画像解析,研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会,委員会,国家試験委員等の実績(活動団体名称,委員名称,活動期間)

- ・横須賀市障害程度区分等判定審査会.

4 職能団体委員等(職能団体名称,委員名称,活動期間)

- ・千葉県作業療法士会.代議員.
- ・日本作業療法士協会.代議員.

5 学会,学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会,千葉県作業療法士会.

2) 学会,学術団体への貢献(学会・学術団体名,役職,活動期間)

- ・第51回日本作業療法学会.演題査読委員.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県立保健医療大学平成28年度公開講座、講師、生活にいかすリラクゼーション、2016年10月23日、千葉。
- ・千葉県がんのリハビリテーション研修会、講師、2016年7月2、3日、千葉。
- ・千葉県作業療法士会平成28年度第3回現職者共通研修、座長、2017年2月5日、千葉。
- ・千葉県作業療法士会平成28年度第1回現職者共通研修、講師、2016年10月16日、千葉。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、ネットワーク委員会、予備選挙管理委員会、紀要編集部、入試実施部、国際交流ワーキンググループ。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、精神障害領域の講義と臨床実習指導、研究活動では臨床共同研究、社会貢献活動では職能団体の委員活動を行った。

VII 次年度の目標

各担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、基本的臨床能力の習得に向けて授業内容の工夫を図る。

助教 松尾 真輔 修士（学術）

対象期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

I 年度当初の目標

平成28年度は、国家試験対策と実習前指導に重点を置き、学生へのより良い教育につなげ質を高めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール。
- ・専門職間の連携活動論
- ・基礎作業学実習。
- ・人体の機能実習。
- ・作業運動学実習。
- ・作業療法基礎理論。
- ・作業療法評価学Ⅰ（神経・心肺機能系）。
- ・作業療法治療学Ⅳ（認知・知能機能系）。
- ・作業療法治療学Ⅳ演習（認知・知能機能系）。

- ・日常生活活動援助学演習.
- ・作業療法治療学実習.
- ・地域作業療法学概論.
- ・作業療法セミナー
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Taro Okamura, Akiko Hayashi, Shinsuke Matsuo, Kunihiko Shinoda, Isamu Konishi, Haruna Makio, Miwa Tsuji, A fall predictive indicator for dementia in the hospital-A prospective study, Journal of Human Ergology, vol. 45, No. 2: 27-32, 2016.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 三宅利江子, 保坂誠, 麻賀多美代, 他 7 名. 軽度認知障害が疑われる地域在住高齢者の「日常役割機能 - 身体」千葉県立保健医療大学紀要 Vol. 8 No1. 2017.
- ・岡村太郎, 古西 勇, 篠田邦彦, 松尾真輔, 林安希子, 認知症を対象とした作業療法による転倒予防の効果 比較対象実験, 日本衛生学雑誌, 71 巻. PageS198, 2016.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・岡村太郎, 古西 勇, 篠田邦彦, 松尾真輔, 林安希子, 認知症を対象とした作業療法による転倒予防の効果 比較対象実験, 日本衛生学会, 2016 年 5 月 12 日, 旭川.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・千葉県作業療法士会, 第 2 回もやっと会, 2017 年 2 月 4 日, 千葉市文化センター.
- ・千葉県作業療法士会, 第 18 回千葉県作業療法学会, 2017 年 3 月 12 日, 松戸市民劇場.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究. 若手, 理学療法士・作業療法士学生の進路希望と各養成校におけるその傾向についての基礎調査, 研究代表者.
- ・学内共同研究, 作業療法学生の臨床実習適応能力の向上のための学内検査測定実習の取り組み, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会. 千葉県生活行為向上マネジメント推進委員. 2013 年 4 月～2016 年 6 月.
- ・千葉県作業療法士会. MDLP 担当理事. 2014 年 4 月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック代議員. 2014 年 4 月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県生活行為向上マネジメント委員会委員長. 2013 年 11 月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県作業療法誌. 査読者. 2014 年 4 月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 災害対策委員会. 委員. 2015 年 4 月～現在に至る.
- ・千葉県 POS 連盟. 千葉 POS 災害対策委員会. 委員. 2016 年 1 月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. ブロック活動部. 部長. 2016 年 6 月～現在に至る.
- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック担当理事. 2016 年 6 月～現在に至る.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会, 千葉県作業療法士会, 日本公衆衛生学会, 千葉県 POS 連盟.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・第 18 回千葉県作業療法学会, 学会運営スタッフ, 2016 年 12 月～2017 年 3 月.
- ・千葉県 POS 連盟, 災害対策研修会運営スタッフ, 2016 年 4 月～2016 年 12 月.
- ・長寿・障害総合研究事業障害者対策総合研究開発事業 NIF 後期プロジェクトチームスタッフ, 2016 年 10 月～2017 年 3 月.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2016 年 4 月 20 日, かもめメディカルケアセンター.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2016 年 6 月 19 日, 旭神経内科リハビリテーション病院.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修, 2016 年 7 月 24 日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2016 年 8 月 8 日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 地域ケア会議に資する OT 人材育成研修会, 2016 年 10 月 15 日, 国保旭中央病院.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修, 2016 年 11 月 20 日, 千葉医療福祉専門学校.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2016 年 9 月 16 日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2016 年 10 月 19 日, 佐倉厚生園病院.
- ・千葉県作業療法士会, 現職者選択研修 老年期の作業療法, 2016 年 12 月 11 日, 帝京平成大学幕張キャンパス.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2016 年 12 月 12 日, 千葉中央メディカルセンター.
- ・千葉地域リハビリテーション地域広域センター, ケアマネ研修会, 2017 年 1 月 26 日, 千葉中央メディカルセンター.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修, 2017 年 2 月 5 日, 八千代リハビリテーション学院.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2017 年 2 月 18 日, 船橋市立リハビリテーション病院.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修, 2017 年 2 月 26 日, 千葉柏リハビリテーション学院.
- ・千葉県作業療法士会, 千葉県ブロック・リーダー研修会, 2017 年 3 月 5 日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント事例検討会, 2017 年 3 月 19 日, 千葉県立保健医療大学.
- ・千葉県作業療法士会, 生活行為向上マネジメント基礎研修, 2017 年 3 月 26 日, 八千代リハビリテーション学院.

7 その他

- ・日本作業療法士協会, MTDLP 全国会議, 2016 年 6 月 11 日～12 日, 東京.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・キャンパス・ハラスメント防止委員会, 学術推進企画委員会, 紀要編集部会員, 自己点検・評価委員会報告書作成等部会, 紀要編集部会, 教育研究年報編集部員, 体験ゼミナール部会員, 千葉県の健康づくり部会員.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・千葉県作業療法士会ホームページ: MTDLP 研修会 案内.
- ・千葉県作業療法士会学術広報誌: MTDLP 研修会案内執筆.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

本年度より担任としての臨地実技指導や国家試験対策における学生指導、さらに学内での委員会部会員としても他学科

と専攻との調整を行い、学内での業務に重点的に取り組めた。また学外でも所属県士会の研修会の運営や委員会活動など、社会貢献としても積極的に講演会、広報活動に携わることができた。

VII 次年度の目標

上記活動に加え、研究活動のフィールドを広げていきたい。

資料1 履修規定 別表 (看護学科 平成25年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2		○			30	選択 4単位 (※1)
		哲学	1・2・3・4前		2		○			30	
		文学	1・2・3・4前		2		○			30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○			30	
		生命倫理	1・2・3・4後		2		○			30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○			30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○			30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○			30	選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○			30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○			30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○			30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○			30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○			30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○			30	
		科学論	1・2・3・4前		2		○			30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○			30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○			30	
		生物学	1・2・3・4前後		2		○			30	
	物理学	1・2・3・4前		2		○			30		
	化学	1・2・3・4前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	2後	1				○		30	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	1前	1				○		30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1			○		30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1		○			15	
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○		30		
	英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○		30		
	英語Ⅳ(英会話)	1・2・3・4後		1			○		30		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2後	2			○			30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4後		1			○		30		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 16 単位 + 選択 4 単位
		生化学総論	2 前	1			○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1 後	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1 後		1		○			15	
		心の健康	1・2・3・4 後			1	○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1 後	1			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1 後	1			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1 前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1 前	1			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1 前	1			○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1 前	1			○			15	
		発達心理学	2 前		1		○			15	
	臨床心理学	1 後		1			○		30		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2 後	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3 前	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3 前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	2 後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2 後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2 後	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3 前		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3 前		1		○			15	
		健康と運動	1 後		1		○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
医療経営管理論		4 後		1		○			15		
リスクマネジメント論	2 後	1			○			15			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（骨・筋・神経系）	1 前	1			○			15	【専門科目】 必修 7.5 単位 + 選択 4 単位
		人体の構造と機能Ⅱ（呼吸器・循環器・消化器系）	1 前	1			○			15	
		人体の構造と機能Ⅲ（泌尿器・生殖器・感覚器系）	1 後	1			○			15	
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	2 前	2			○			30	
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	2 前	2			○			30	
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	2 前	1			○			15	
		臨床検査実習	2 前	1				○		30	
		基礎看護科目	看護学入門	1 前	1				○		
	看護倫理		2 後	1				○		30	
	看護技術論Ⅰ（生活援助技術）		1 前	2				○		60	
看護技術論Ⅱ（看護共通技術）	1 後		1				○		30		

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	2 前	2				○		60	【専門科目】 (再掲) 必修 7.5 単位 + 選択 4 単位
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	2 後	2				○		60	
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	2 後	1				○		30	
		看護ふれあい体験学習	1 前	2					○	90	
		基礎看護学実習	2 前	2					○	90	
	医療・生活支援	成人看護学概論	2 後	1				○		15	
		成人看護学方法論Ⅰ	3 前	2				○		30	
		成人看護学方法論Ⅱ	3 前	2				○		30	
		がん看護学	2 後	1				○		15	
		ターミナルケア論	3 前		1			○		15	
		成人看護学実習 (急性期)	3 後・4 前	3					○	135	
		成人看護学実習 (慢性期)	3 後・4 前	3					○	135	
	療養支援	こころの健康と看護	1 後	1				○		15	
		療養支援看護概論	2 前	1				○		15	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		30	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	3 前	2				○		60	
		精神看護学方法論	3 前	2				○		60	
		高齢者看護学実習	3 後・4 前	3					○	135	
		在宅看護学実習	3 後・4 前	1					○	45	
	精神看護学実習	3 後・4 前	2					○	90		
	健康支援	地域看護学概論	2 前	2				○		30	
		地域看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		15	
		地域看護学方法論Ⅱ	3 前	2				○		30	
		地域看護学方法論Ⅲ	3 前	2				○		30	
		地域看護学実習	3 後・4 前	3					○	135	
	育成支援	育成支援看護概論	2 前	1				○		15	
		小児看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		30	
		小児看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○		30	
		母性看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○		30	
		母性看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○		30	
		母性看護学実習	3 後・4 前	2					○	90	
		小児看護学実習	3 後・4 前	2					○	90	
		助産学概論	3 前		1			○		15	
		助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)	3 前		1			○		15	
		助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)	4 前			2		○		60	
助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)		4 通			2		○		60		
助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)		4 後			2		○		60		
助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)		3 後			1			○	45		
助産学実習Ⅱ (継続支援)	4 通			3			○	135			
助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)	4 通			3			○	135			

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	発展看護科目	看護管理学	4 前	1			○			15	【専門科目】 (再掲) 必修 7.5 単位 + 選択 4 単位
		感染看護学	2 後		1		○			15	
		看護政策論	4 後		1		○			15	
		災害看護学	3 前	1			○			15	
		看護キャリア発達論	2 前		1		○			15	
		看護管理学実習	4 前	1					○	45	
		総合実習	4 後	2					○	90	
		看護研究	4 通	2					○	60	
		看護学統合	4 後	1					○	30	
		リーダーシップ論	4 後		1		○			15	
		継続看護方法論	4 後		1		○			15	
		国際看護論	2 前		1		○			15	
		家族看護学概論	2 後		1		○			15	
		家族看護学方法論	3 前		1		○			15	

(看護学科 平成 25 年度以降の入学生用)

先修条件

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																									
		講義科目					演習科目					実習科目															
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤⅥ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	母性看護学方法論ⅠⅡ	小児看護学方法論ⅠⅡ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習
1 前	看護ふれあい体験学習	○																									
2 前	基礎看護学実習	○	○					○									○										
3 後 ～ 4 前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○						○	○									
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○						○	○									
	地域看護学実習					○			○		○						○	○									
	精神看護学実習						○		○			○					○	○									
	在宅看護学実習						○		○					○			○	○									
	高齢者看護学実習						○		○					○			○	○									
	母性看護学実習								○						○		○	○									
4 前	看護管理学実習						○											○	○								
4 後	総合実習																										○:選択する領域の実習

○ : 単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	2 0 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 6 単位	4 単位	2 0 単位
専門科目	7 5 単位	4 単位	7 9 単位
合計	9 8 単位	2 8 単位	1 2 6 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎)」の計2単位を選択必

修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

別表（看護学科 平成24年度以前の入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	2			○			30	必修4単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1前		2		○			30	必修 2単位 + 選択 4単位 (※1)
		哲学	1前		2		○			30	
		文学	1前		2		○			30	
		歴史と文化	1前		2		○			30	
		生命倫理	1後	2			○			30	
		宗教学	1後		2		○			30	
		教育学	1前		2		○			30	
		人間関係論	1前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1前後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1後		2		○			30	必修 2単位 + 選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	1前		2		○			30	
		社会学	1後		2		○			30	
		文化人類学	1前		2		○			30	
		経済学	1前		2		○			30	
		国際関係論	1後		2		○			30	
		社会福祉学	1前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1後		2		○			30	
		科学論	1前	2			○			30	
		環境変化と生態	1後		2		○			30	
		観察生物学入門	1前後		2		○			30	
		生物学	1前後		2		○			30	
		物理学	1前		2		○			30	
	化学	1前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	2後	2			○			30	必修 4単位
		情報リテラシーⅠ	1前	1				○		30	
		情報リテラシーⅡ	1・2後		1			○		30	
		情報倫理	1後	1			○			15	
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1前		1			○		30		
	英語Ⅲ(講読・記述)	1後		1			○		30		
	英語Ⅳ(英会話)	1・2後		1			○		30		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2後	2			○			30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1後		1			○		30		

【一般教養科目】選択科目から選択2単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 1 4 単位 + 選択 2 単位
		生化学総論	1 前	1			○			15	
		栄養学	2 後		2		○			30	
		心の健康	1 前		1		○			15	
		薬理学	1 後	1			○			15	
		病理学	1 前	1			○			15	
		微生物学	1 前	1			○			15	
		小児発達論	1 後	1			○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学	2 通	2			○			30	
		疫学・保健統計	3 前	2			○			30	
		リハビリテーション概論	2 後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
		保健医療福祉論	2 後	2			○			30	
		食育論	3 前		2		○			30	
		健康と運動	1 後		1		○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
		医療経営管理論	4 後		1		○			15	
		リスクマネジメント論	2 後	1			○			15	
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（骨格・筋系）	1 前	1			○			15	【専門科目】 必修 7 7 単位 + 選択 5 単位
		人体の構造と機能Ⅱ（脈管・器官系）	1 前	1			○			15	
		人体の構造と機能Ⅲ（神経系）	1 後	1			○			15	
		病態学Ⅰ(疾病論)	2 前	2			○			30	
		病態学Ⅱ(精神疾病論)	2 前	1			○			15	
		病態学Ⅲ(高齢者疾病論)	2 前	1			○			15	
		周手術期管理論	2 前	1			○			15	
		臨床検査実習	2 前	1					○	45	
	基礎看護科目	看護学原論	1 前	2			○			30	
		看護倫理	2 後	1				○		30	
		看護技術論Ⅰ (フィジカルアセスメント技術)	2 前	2				○		60	
		看護技術論Ⅱ（生活援助技術）	1 後	2				○		60	
		看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	2 後	2				○		60	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	3 前	1				○		30	
		看護技術論演習	3 前	1				○		30	
地域ケア実習	2 前	2					○	90			
基礎看護実習	2 前	2					○	90			

(看護学科 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	医療・生活支援	医療・生活支援看護概論	2後	1			○			15	【専門科目】 (再掲) 必修77単位 + 選択5単位
		成人看護学急性期方法論	3前	2			○			30	
		成人看護学慢性期方法論	3前	1			○			15	
		リハビリテーション看護	3前	1			○			15	
		がん看護学	2後	2			○			30	
		ターミナルケア論	3前		1		○			15	
		成人看護学実習 (急性期看護過程展開)	3後・4前	3					○	135	
		成人看護学実習 (慢性期看護過程展開)	3後・4前	3					○	135	
		療養支援	こころの健康と看護	1後	1			○			
	療養支援看護概論		2前	1			○			15	
	家族看護学方法論		4前		1		○			15	
	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ(総論)		2後	1				○		30	
	高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ(各論)		3前	2				○		60	
	精神看護学方法論		3前	2				○		60	
	高齢者看護学実習		3後・4前	3					○	135	
	在宅看護学実習		3後・4前	1					○	45	
	精神看護学実習		3後・4前	2					○	90	
	健康支援	健康支援看護概論	2前	2			○			30	
		ヘルスプロモーション活動論Ⅰ (地域診断と活動計画)	3前	2			○			30	
		ヘルスプロモーション活動論Ⅱ (対象別保健指導)	3前	2			○			30	
		ヘルスプロモーション活動論Ⅲ (学校・産業保健)	3前	1			○			15	
		地域看護学実習	3後・4前	3					○	135	
	育成支援	育成支援看護概論	2前	1			○			15	
		小児看護学方法論	3前	2				○		60	
		母性看護学方法論	3前	2				○		60	
		母子看護学実習	3後・4前	3					○	135	
		助産学概論	3前		1		○			15	
		助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎)	3前		1		○			15	
		助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)	4前			2		○		60	
		助産診断・技術学Ⅲ(分娩期)	4通			2		○		60	
		助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク分娩)	4後			2		○		60	
		助産学実習Ⅰ(産婦ケア体験)	3後			1			○	45	
		助産学実習Ⅱ(継続支援)	4通			3			○	135	
		助産学実習Ⅲ(分娩期ケア)	4通			3			○	135	

(看護学科 平成 24 年度以前の入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	4 単位	0 単位	4 単位
一般教養科目	10 単位	14 単位	24 単位
保健医療基礎科目	14 単位	2 単位	16 単位
専門科目	77 単位	5 単位	82 単位
合 計	105 単位	21 単位	126 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

千葉県立保健医療大学履修規程第2条2項に基づき編入学した者の授業科目等を次のとおりとする。

別表（看護学科 編入生 3年生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	3後	1					○	30	必修3単位	
	体験ゼミナール	3前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	3・4前		2			○		30	選択 4単位 (※1)
		哲学	3・4前		2			○		30	
		文学	3・4前		2			○		30	
		歴史と文化	3・4前		2			○		30	
		生命倫理	3・4後		2			○		30	
		宗教学	3・4後		2			○		30	
		教育学	3・4前		2			○		30	
		人間関係論	3・4前		2			○		30	
		コミュニケーション理論と実際	3・4前		2			○		30	
		健康スポーツ科学	3・4後		1				○	30	
	生涯身体運動科学	3・4前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	3・4後		2			○		30	【一般教養科目】 選択科目から選択8単位 選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	3・4前		2			○		30	
		社会学	3・4後		2			○		30	
		文化人類学	3・4前		2			○		30	
		経済学	3・4前		2			○		30	
		国際関係論	3・4後		2			○		30	
		社会福祉学	3・4前		1			○		15	
		国際的な健康課題	3・4後		1			○		15	
		人権・ジェンダー	3・4後		2			○		30	
		科学論	3・4前		2			○		30	
		環境変化と生態	3・4後		2			○		30	
		観察生物学入門	3・4前後		2			○		30	
		生物学	3・4前後		2			○		30	
		物理学	3・4前		2			○		30	
	化学	3・4前		2			○		30		
	情報理解群	統計学	3・4後	1					○	30	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	3前	1					○	30	
		情報リテラシーⅡ	3・4後		1				○	30	
		情報倫理	3・4後		1			○		15	
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	3・4前		1				○	30	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	3・4前		1				○	30	
		英語Ⅲ(講読・記述)	3・4後		1				○	30	
英語Ⅳ(英会話)		3・4後		1				○	30		
英語Ⅴ(保健医療英語)		3後	2				○		30		
英語Ⅵ(応用英語)		3・4後		1				○	30		

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 編入生 3年生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	3前		1		○			15	必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	—	1			○			15	
		栄養学Ⅰ(基礎)	—	1			○			15	
		栄養学Ⅱ(応用)	3後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ(総論)	—	1			○			15	
		薬理学Ⅱ(各論)	—	1			○			15	
		病理学Ⅰ(総論)	—	1			○			15	
		病理学Ⅱ(各論)	—	1			○			15	
		微生物学Ⅰ(総論)	—	1			○			15	
		微生物学Ⅱ(各論)	—	1			○			15	
		発達心理学	4前		1		○			15	
		臨床心理学	3後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	3前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	—	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	—	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	3後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	3前	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	3後	1			○			15	
保健医療福祉論Ⅱ(応用)		3後	1			○			15		
食育論Ⅰ(基礎)		3前		1		○			15		
食育論Ⅱ(応用)		3前		1		○			15		
健康と運動		3後		1		○			15		
家族社会学		3前		1		○			15		
医療経営管理論		4後		1		○			15		
リスクマネジメント論	4後	1			○			15			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ(骨・筋・神経系)	—	1			○			15	【専門科目】 必修7.5単位 + 選択4単位
		人体の構造と機能Ⅱ(呼吸器・循環器・消化器系)	—	1			○			15	
		人体の構造と機能Ⅲ(泌尿器・生殖器・感覚器系)	—	1			○			15	
		病態学Ⅰ(内科系疾病論)	—	2			○			30	
		病態学Ⅱ(外科系疾病論)	—	2			○			30	
		病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)	—	1			○			15	
		臨床検査実習	—	1				○		30	

(看護学科 編入生 3年生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
基礎看護科目	看護学入門	—	1				○		30	
	看護倫理	3 後	1				○		30	
	看護技術論Ⅰ(生活援助技術)	—	2				○		60	
	看護技術論Ⅱ(看護共通技術)	—	1				○		30	
	看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント技術)	—	2				○		60	
	看護技術論Ⅳ(検査治療技術)	—	2				○		60	
	看護技術論Ⅴ(看護過程展開技術)	—	1				○		30	
	看護ふれあい体験学習	—	2					○	90	
	基礎看護学実習	—	2					○	90	
専門科目	医療・生活支援	成人看護学概論	3 後	1			○		15	【専門科目】 (再掲) 必修7.5単位 + 選択4単位
		成人看護学方法論Ⅰ	—	2			○		30	
		成人看護学方法論Ⅱ	—	2			○		30	
		がん看護学	3 後	1			○		15	
		ターミナルケア論	3・4 前		1		○		15	
		成人看護学実習(急性期)	—	3				○	135	
		成人看護学実習(慢性期)	—	3				○	135	
	療養支援	こころの健康と看護	3 後	1			○		15	
		療養支援看護概論 (発展看護科目へ移行)	3 前	1			○		15	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	1				○	30	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	2				○	60	
		精神看護学方法論	—	2				○	60	
		高齢者看護学実習	—	3				○	135	
		在宅看護学実習	—	1				○	45	
		精神看護学実習	—	2				○	90	
	健康支援	地域看護学概論	3 前	2			○		30	
		地域看護学方法論Ⅰ	3 後	1			○		15	
		地域看護学方法論Ⅱ	3 前	2			○		30	
		地域看護学方法論Ⅲ	3 前	2			○		30	
		地域看護学実習	3 後	3				○	135	
	育成支援	育成支援看護概論	4 前	1			○		15	
		小児看護学方法論Ⅰ	—	1				○	30	
		小児看護学方法論Ⅱ	—	1				○	30	
		母性看護学方法論Ⅰ	—	1				○	30	
母性看護学方法論Ⅱ		—	1				○	30		
母性看護学実習		—	2				○	90		
小児看護学実習		—	2				○	90		
助産学概論		3 前		1		○		15		
助産診断・技術学Ⅰ(実践基礎)		3 前		1		○		15		

(看護学科 編入生 3年生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	発展看護科目	看護管理学	4 前	1			○			15	【専門科目】 (再掲) 必修7.5単位 + 選択4単位
		感染看護学	4 後		1		○			15	
		看護政策論	4 後		1		○			15	
		災害看護学	3 前	1			○			15	
		看護キャリア発達論	3 前	1			○			15	
		看護管理学実習	4 前	1					○	45	
		総合実習	4 後	2					○	90	
		看護研究	4 通	2				○		60	
		看護学統合	4 後	1				○		30	
		リーダーシップ論	4 後		1		○			15	
		継続看護方法論	4 後		1		○			15	
		国際看護論	3 前		1		○			15	
		家族看護学概論	3 後		1		○			15	
		家族看護学方法論	4 前		1		○			15	

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	20 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	4 単位	20 単位
専門科目	7.5 単位	4 単位	7.9 単位
合計	9.8 単位	2.8 単位	12.6 単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30	必修 3 単位
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2		○		30	必修 9 単位 + 人間理解群、 生活と環境群、 情報理解群から 選択 1 3 単位 + 外国語群から 選択 2 単位
		哲学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4 前	2			○		30	
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後	2			○		30	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後	1			○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○		30	
	物理学	1・2・3・4 前		2		○		30		
	化学	1・2・3・4 前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後		1			○	30	
		情報リテラシー I	1・2・3・4 前	1				○	30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1			○	30	
		情報倫理	1・2・3・4 後	1			○		15	
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1			○	30	
		英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1			○	30	
		英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1			○	30	
英語 IV (英会話)		1・2・3・4 後		1			○	30		
英語 V (保健医療英語)		1・2・3・4 前	2			○		30		
英語 VI (応用英語)		1・2・3・4 後		1			○	30		

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	4 前		1		○			15	必修 11 単位 + 選択 8 単位
		生化学総論	1 前			1	○			15	
		栄養学 I (基礎)	2 後			1	○			15	
		栄養学 II (応用)	2 後			1	○			15	
		心の健康	2・4 後		1		○			15	
		薬理学 I (総論)	1 後	1			○			15	
		薬理学 II (各論)	1 後	1			○			15	
		病理学 I (総論)	2 前	1			○			15	
		病理学 II (各論)	2 前	1			○			15	
		微生物学 I (総論)	1・4 前		1		○			15	
		微生物学 II (各論)	1・4 前		1		○			15	
		発達心理学	1・4 前		1		○			15	
		臨床心理学	1・2・4 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1・4 前		1		○			15	
		公衆衛生学 I (基礎)	2 前	1			○			15	
		公衆衛生学 II (応用)	2 後	1			○			15	
		疫学・保健統計 I (基礎)	3 前	1			○			15	
		疫学・保健統計 II (応用)	3 前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	2・4 後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2・4 前		1		○			15	
保健医療福祉論 I (基礎)		2 後	1			○			15		
保健医療福祉論 II (応用)		2 後	1			○			15		
食育論 I (基礎)		3 前	1			○			15		
食育論 II (応用)	3 前		1		○			15			
健康と運動	1・4 後		1		○			15			
家族社会学	1・4 前		1		○			15			
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2・4 後		1		○			15			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1 前	1			○			15	【専門科目】 必修 7 6 単位 + 選択 4 単位
		解剖学総論	1 前	2			○			30	
		解剖学実験	1 後	1					○	45	
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		生理学実験	2 前	1					○	45	
		生化学	1 前	2			○			30	
		栄養生化学	1 後	2			○			30	
		生化学実験	2 前	1					○	45	
		疾病論	2 前	2			○			30	
		高齢者医療論	3 後		1		○			15	
		食品学各論	1 前	2			○			30	
		食品学実験	2 前	1					○	45	
		食品学総論演習	1 通	2				○		60	
		食品化学実験	2 前	1					○	45	
		理化学演習	1 後		1			○		30	
		食品衛生学	2 後	2			○			30	

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学実験	2 後	1					○	45	【専門科目】 (再掲) 必修 7 6 単位 + 選択 4 単位
		食品加工学	2 前	2			○			30	
		食品加工学実習	4 前	1					○	45	
		食品微生物学	3 後		1		○			15	
		食事設計と調理	1 前	2			○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1					○	45	
		調理実習	1 後	1					○	45	
		調理科学実験	2 後	1					○	45	
	学 基礎	基礎栄養学	1 後	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 後	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 後	2			○			30	
		応用栄養学Ⅱ	3 前	2			○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 後	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1		○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2			○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1					○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2			○			30	
		国際栄養学	4 前		1		○			15	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論演習	3 通	2				○		60	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1					○	45	
		臨床検査学	2 前	2			○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
		障害者栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		公衆栄養学Ⅱ	2 後	1			○			15	
公衆栄養学実習		3 前	1					○	45		
栄養疫学		4 前	1			○			15		
管理論	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2			○			30		
	給食経営管理論Ⅱ	2 後	2			○			30		
	給食経営管理実習	3 前	2					○	90		
	フードマネジメント論	3・4 後		1		○			15		
演習 総合	総合演習	4 前	1					○	30		
	卒業研究	4 通		4				○	120		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 通	2					○	90		
	給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨地実習	3 通		1				○	45		
	栄養管理臨地実習	4 通		1				○	45		
	事前指導	3 通	1					○	30		
	事後指導	3 通	1					○	30		

(栄養学科 平成 25 年度以降の入学生用)

先修条件

1. 「給食経営管理臨地実習」、「臨床栄養臨地実習」および「公衆栄養臨地実習」を履修するには、2 年後期までに配当された必修の専門科目を単位修得済みであり、3 年前期に配当された必修の専門科目を履修中であること。
2. 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	9 単位	1 5 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 1 単位	8 単位	1 9 単位
専門科目	7 6 単位	4 単位	8 0 単位
合 計	9 9 単位	2 7 単位	1 2 6 単位

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学 (再掲)	1・2 前後	1	30	3科目のうち2単位を 選択必修とする
		生涯身体運動科学 (再掲)	1 前後・3 前	1	30	
	環生 境活 と	法学（日本国憲法） (再掲)	1・3 前	2	30	
		理情 解群 報	情報リテラシーⅠ (再掲)	1 前	1	
	情報リテラシーⅡ (再掲)		1・2 後	1	30	
	外国 語群	英語Ⅱ（基礎英会話） (再掲)	1・2 前	1	30	
		英語Ⅳ（英会話） (再掲)	1 → 2 後	1	30	
英語Ⅵ（応用英語） (再掲)		1 → 2 後	1	30		
栄養教諭に関する科目	栄養 に係る 教育 に関する 科目	食生活教育論	3 前	2	30	
		学校栄養教育論	3 後	2	30	
	教職 の意 義	教職論	1 後	2	30	
		教育 の基 礎理 論	教育学概論	2 後	1	
	教育心理		2 前	2	30	
	教育制度論		2 後	1	15	
	教育 課程	カリキュラム論	2 前	1	15	
		教育の方法と技術	3 前	2	30	
		道徳教育・特別活動論	2 前	1	15	
	生徒 指導	生徒指導論	3 前	2	30	
		教育相談	3 後	2	30	
	総合 演習	教職実践演習（栄養教諭）	4 後	2	60	
栄養 教育 実習	栄養教諭教育実習：事前・事後指導	4 通	1	45		
	栄養教諭教育実習	4 通	2	90		

(栄養学科 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	2			○			30	必修4単位	
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1 前		2		○			30	必修9単位 + 人間理解群、 生活と環境群、 情報理解群から 選択13単位 + 外国語群から 選択2単位
		哲学	1・2 前		2		○			30	
		文学	1・2 前		2		○			30	
		歴史と文化	1・2 前		2		○			30	
		生命倫理	1 後	2			○			30	
		宗教学	3 後		2		○			30	
		教育学	1・2 前		2		○			30	
		人間関係論	1・2 前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1 前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1 前後・2 前		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1・3 前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1 後	2			○			30	
		法学（日本国憲法）	1・3 前		2		○			30	
		社会学	1・3 後		2		○			30	
		文化人類学	1 前		2		○			30	
		経済学	1 前		2		○			30	
		国際関係論	3 後		2		○			30	
		社会福祉学	1 前		1		○			15	
		国際的な健康課題	4 後	1			○			15	
		人権・ジェンダー	1 後		2		○			30	
		科学論	1 前		2		○			30	
		環境変化と生態	1・2 後		2		○			30	
		観察生物学入門	1 前後・2 前		2		○			30	
		生物学	1 前後		2		○			30	
	物理学	1・2 前		2		○			30		
	化学	1・2 前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	2 後		2		○			30	
		情報リテラシー I	1 前	1				○		30	
		情報リテラシー II	2 後		1			○		30	
		情報倫理	1 後	1			○			15	
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1 前		1			○		30	
		英語 II (基礎英会話)	1 前		1			○		30	
		英語 III (講読・記述)	1・3 後		1			○		30	
英語 IV (英会話)		1・2・3 後		1			○		30		
英語 V (保健医療英語)		2 前	2			○			30		
英語 VI (応用英語)		1・2 後		1			○		30		

(栄養学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前	1			○			15	必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前	1			○			15	
		心の健康	1 前	1			○			15	
		薬理学	1 後	1			○			15	
		病理学	2 前	1			○			15	
		微生物学	1 前		1		○			15	
		小児発達論	1 後	1			○			15	
	臨床心理学	1 後	1				○		30		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学	2 通	2			○			30	
		疫学・保健統計	3 後		2		○			30	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前		1		○			15	
		保健医療福祉論	2 後	2			○			30	
		食育論	3 前	2			○			30	
		健康と運動	3 後	1			○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
		医療経営管理論	4 後		1		○			15	
		リスクマネジメント論	2 後		1		○			15	
専門科目		専門基礎科目	解剖学総論	1 前	2			○			30
	生理学総論		1 後	2			○			30	
	生化学各論		1 後	2			○			30	
	生化学実験		2 前	1					○	45	
	運動生理学各論		2 後	1			○			15	
	運動生理学実験		2 後	1					○	45	
	内科学概論		2 後	1			○			15	
	高齢者医療論		2 後		1		○			15	
	解剖生理学実験		1 後	1					○	45	
	食品学各論演習		1 通	2				○		60	
	食品学実験		1 後	1					○	45	
	食品化学演習		1 通	2				○		60	
	食品化学実験		1 後	1					○	45	
	理化学演習		1 前		2			○		60	
	食品衛生学		1 後	2			○			30	
	食品衛生学実験		2 前	1					○	45	
	食品加工学演習		2 前	1				○		30	
	食品加工学実習		2 前	1					○	45	
	食品微生物学演習		2 後		1			○		30	
	食事設計と栄養演習		1 前	1				○		30	
	食事設計と栄養実習		2 前	1					○	45	
調理実習	1 後	1					○	45			
調理科学実験	2 後	1					○	45			

(栄養学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	基礎栄養学	栄養学入門演習	1 通		2			○		60	【専門科目】 (再掲) 必修 7 1 単位 + 選択 8 単位
		基礎栄養学	1 前	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 後	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学 (ライフステージ前期)	2 前	2			○			30	
		応用栄養学 (ライフステージ中期)	2 後	2			○			30	
		応用栄養学 (ライフステージ後期)	2 後	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
	栄養教育論	栄養教育論	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 通	2					○	90	
		栄養教育手法演習	3 前	1				○		30	
		栄養調査・評価演習	3 後	1				○		30	
		栄養アセスメント論	3 前	2			○			30	
		健康支援論	4 後		1		○			15	
		健康支援論演習	4 後		1			○		30	
	臨床栄養学	臨床栄養学・基礎	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学・応用	3 前	2			○			30	
		臨床栄養学実習	3 前	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論演習	3 後	2				○		60	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 後	1					○	45	
		臨床検査演習	3 後	1				○		30	
	公衆栄養学	公衆栄養学	2 後	2			○			30	
		公衆栄養学実習	3 前	1					○	45	
		栄養疫学	3 前	2			○			30	
	給食経営管理論	給食経営管理論	2 前	2			○			30	
		給食経営管理演習	2 後	2				○		60	
		給食経営管理実習	3 前	1					○	45	
	総合演習	総合演習	4 前	2				○		60	
卒業研究		4 通		2			○		60		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 後	2					○	90		
	給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨地実習	3 通		1				○	45		
	事前・事後指導 (臨地実習)	3 通	2					○	90		

(栄養学科 平成 24 年度以前の入学生用)

先修条件

1. 「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」を履修するには、2年後期までに担当された必修の専門科目を単位修得済みであり、3年前期に担当された必修の専門科目を履修中であること。
2. 「臨床栄養臨地実習」を履修するには、3年前期までに担当された必修の専門科目を単位修得済みであること。
3. 「栄養教育実習」及び「栄養教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに担当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	4 単位	0 単位	4 単位
一般教養科目	9 単位	1 5 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 6 単位	3 単位	1 9 単位
専門科目	7 1 単位	8 単位	7 9 単位
合 計	1 0 0 単位	2 6 単位	1 2 6 単位

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等	
一般教養科目	理解人間	健康スポーツ科学 (再掲)	1 前後・2 前	1	30	
		生涯身体運動科学 (再掲)	1・3 前後	1	30	
	環境生活と	法学 (日本国憲法) (再掲)	1・3 前	2	30	
	理解情報	情報リテラシー I (再掲)	1 前	1	30	
		情報リテラシー II (再掲)	2 後	1	30	
	外国語群	英語 II (基礎英会話) (再掲)	1 前	1	30	
		英語 IV (英会話) (再掲)	1・2・3 後	1	30	
英語 VI (応用英語) (再掲)		1・2 後	1	30		
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	3 前	2	30	3 科目のうち 2 単位を選択必修とする
		学校栄養教育論	3 後	2	30	
	教職の意義	教職論	1 後・2 前	2	30	
		教育の基礎理論	教育学概論	2 前	1	
	教育心理		2 前	2	30	
	教育制度論		2 後	1	15	
	教育課程	カリキュラム論	2 前	1	15	
		教育の方法と技術	3 前	2	30	
		道徳教育・特別活動論	2 前	1	15	
	生徒指導	生徒指導論	3 前	2	30	
		教育相談	3 後	2	30	
	総合演習	教職実践演習 (栄養教諭)	4 後	2	60	
	栄養教育実習	栄養教育実習：事前・事後指導	4 通	1	45	
栄養教育実習		4 通	2	90		

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30	必修 3 単位		
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45			
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30			
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2			○		30	必修 9 単位	
		哲学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		文学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○		30		
		生命倫理	1・2・3・4 後	2				○		30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○		30		
		教育学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○		30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○		30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後	1					○	30		
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30			
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2			○		30		
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前	2				○		30		
		社会学	1・2・3・4 後		2			○		30		
		文化人類学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		経済学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		国際関係論	1・2・3・4 後		2			○		30		
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1			○		15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1			○		15		
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2			○		30		
		科学論	1・2・3・4 前		2			○		30		
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2			○		30		
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2			○		30		
		生物学	1・2・3・4 前後	2				○		30		
	物理学	1・2・3・4 前		2			○		30			
	化学	1・2・3・4 前		2			○		30			
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1					○	30		
		情報リテラシー I	1・2・3・4 前	1					○	30		
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1				○	30		
		情報倫理	1・2・3・4 後		1			○		15		
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1				○	30		必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1				○	30		
		英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1				○	30		
英語 IV (英会話)		1・2・3・4 後		1				○	30			
英語 V (保健医療英語)		2 前	2				○		30			
英語 VI (応用英語)		1・2・3・4 後		1				○	30			

【一般教養科目】選択科目から選択 13 単位

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学 I (基礎)	1 後	1			○			15	
		栄養学 II (応用)	1 後	1			○			15	
		心の健康	1 後	1			○			15	
		薬理学 I (総論)	1 後	1			○			15	
		薬理学 II (各論)	1 後	1			○			15	
		病理学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		病理学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		発達心理学	1 前		1		○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○			15	
		公衆衛生学 I (基礎)	2 前	1			○			15	
		公衆衛生学 II (応用)	2 後	1			○			15	
		疫学・保健統計 I (基礎)	3 前		1		○			15	
		疫学・保健統計 II (応用)	3 前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
保健医療福祉論 I (基礎)		2 後	1			○			15		
保健医療福祉論 II (応用)		2 後	1			○			15		
食育論 I (基礎)		3 前	1			○			15		
食育論 II (応用)		3 前		1		○			15		
健康と運動		1 後		1		○			15		
家族社会学		1 前		1		○			15		
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2 後		1		○			15			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	1 前	2			○			30	必修 27 単位
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		内科学概論	1 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後	1			○			15	
		口腔解剖学	1 前	2			○			30	
		口腔生理学	2 前	1			○			15	
		口腔病理学	1 後	1			○			15	
		口腔微生物学	1 後	1			○			15	
		歯科薬理学	2 前	1			○			15	
		歯科生化学・臨床検査法	1 後	1			○			15	
		口腔衛生学	1 後	2			○			30	
		歯科感染予防学	2 後	1			○			15	
		歯科診断学	2 後	1			○			15	
		歯科矯正学	3 前	1			○			15	
		歯科材料学	2 前	1			○			15	
		歯科治療学 I (保存修復・歯内療法)	2 前	2			○			30	

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	2 前	1			○		15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択3単位
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	2 前	2			○		30	
		顎口腔外科学	2 前	2			○		30	
		顎口腔機能論	2 前	1			○		15	
		歯科衛生基礎演習	2 前	1				○	30	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○		30	
		チーム歯科医療論	2 前	1			○		15	
		歯科疾患予防学	2 前	1			○		15	
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	3			○		45	
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○		45	
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	3 前	2				○	60	
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	3 前	2				○	60	
		顎口腔機能リハビリテーション論	2 後	1			○		15	
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	3 前	1				○	30	
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3 前	1			○		15	
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4 前		1		○		15		
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3 前	1			○		15	
		保健行動科学論	2 前	1			○		15	
		歯科保健指導・健康教育論	2 前	1			○		15	
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	2 後～3 前	3				○	90	
		歯科衛生統計学	3 前	1			○		15	
		地域歯科衛生学	2 後	1			○		15	
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	3 前	1				○	30	
		国際歯科衛生学	3 前		1		○		15	
		歯科医療管理論	4 前		1		○		15	
		社会保障・社会保険論	3 前	1			○		15	
	総合演習	3 後	1				○	30		
	臨床・臨床実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2				○	90	
		歯科診療所実習	3 後	4				○	180	
		病院実習	4 後	3				○	135	
		継続・個別支援実習	3 後～4 前	4				○	180	
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	4 前	2				○	90	
		発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)	4 前	2				○	90	
地域歯科衛生実習		4 前	1				○	45		
歯科診療室総合実習		3 後～4 前	4				○	180		
研究	卒業研究	3 後～4 通		3			○	90		

(歯科衛生学科 平成 25 年度以降の入学生用)

先修条件

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ(歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ(地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2 年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
イ 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3 年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として3 年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	11 単位	13 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	3 単位	19 単位
専門科目	77 単位	3 単位	80 単位
合計	107 単位	19 単位	126 単位

(歯科衛生学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習					
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	2			○			30	必修 4 単位			
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45				
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30				
一般教養科目	人間理解群	心理学	1 前		2		○			30	必修 12 単位	【一般教養科目】 選択科目から選択 8 単位	
		哲学	1 前		2		○			30			
		文学	1 前		2		○			30			
		歴史と文化	1 前		2		○			30			
		生命倫理	1 後	2			○			30			
		宗教学	1・2 後		2		○			30			
		教育学	1・2 前		2		○			30			
		人間関係論	1・2 前		2		○			30			
		コミュニケーション理論と実際	1 前	2			○			30			
		健康スポーツ科学	1 前後	1					○	30			
	生涯身体運動科学	1 前後・2 前		1				○	30				
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2 後		2		○			30			
		法学（日本国憲法）	1・2 前	2			○			30			
		社会学	1 後		2		○			30			
		文化人類学	1 前		2		○			30			
		経済学	1 前		2		○			30			
		国際関係論	1 後		2		○			30			
		社会福祉学	1 前		1		○			15			
		国際的な健康課題	1 後		1		○			15			
		人権・ジェンダー	1 後		2		○			30			
		科学論	1・2 前		2		○			30			
		環境変化と生態	1 後		2		○			30			
		観察生物学入門	1 前後・2 前		2		○			30			
		生物学	1 前後・2 前	2			○			30			
	物理学	1・2 前		2		○			30				
	化学	1・2 前		2		○			30				
	情報理解群	統計学	2 後	2			○			30			
		情報リテラシー I	1 前	1					○	30			
		情報リテラシー II	1 後		1				○	30			
		情報倫理	1 後		1		○			15			
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1 前		1				○	30			必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II (基礎英会話)	1 前		1				○	30			
		英語 III (講読・記述)	1 後		1				○	30			
英語 IV (英会話)		1 後		1				○	30				
英語 V (保健医療英語)		2 前	2			○			30				
英語 VI (応用英語)		1 後		1				○	30				

(歯科衛生学科 平成 24 年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 15 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学	1 後	2			○			30	
		心の健康	1 前	1			○			15	
		薬理学	1 後	1			○			15	
		病理学	1 前	1			○			15	
		微生物学	1 前	1			○			15	
		小児発達論	1 後		1		○			15	
	臨床心理学	1 後		1			○		30		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
		公衆衛生学	2 通	2			○			30	
		疫学・保健統計	3 前		2		○			30	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前		1		○			15	
		保健医療福祉論	2 後	2			○			30	
		食育論	3 前	2			○			30	
		健康と運動	1 後		1		○			15	
		家族社会学	1 前		1		○			15	
		医療経営管理論	4 後		1		○			15	
リスクマネジメント論		2 後	1			○			15		
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	1 前	2			○			30	必修 26 単位
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		内科学概論	1 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後	1			○			15	
		口腔解剖学	1 後	2			○			30	
		口腔生理学	2 前	1			○			15	
		口腔病理学	2 前	1			○			15	
		口腔微生物学	2 前	1			○			15	
		歯科薬理学	2 前	1			○			15	
		口腔衛生学	2 前	1			○			15	
		歯科感染予防学	3 前	1			○			15	
		歯科診断学	2 前	1			○			15	
		歯科矯正学	3 前	1			○			15	
		歯科材料学	2 後	1			○			15	
		歯科治療学 I (保存修復・歯内療法学)	2 後	2			○			30	
		歯科治療学 II (歯周治療学)	2 後	1			○			15	
		歯科治療学 III (歯科補綴学)	2 後	2			○			30	
		顎口腔外科学	2 後	2			○			30	
顎口腔機能論	2 後	1			○			15			
歯科衛生基礎演習	2 前	1				○		30			

(歯科衛生学科 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
専門科目	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○			30	必修 1.5単位	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択2単位
		チーム歯科医療論	2 後	1			○			15		
		歯科疾患予防学	2 後	1			○			15		
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	2			○			30		
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○			45		
		演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)	3 前	2				○		60		
		演習Ⅱ(歯科予防処置)	3 前	2				○		60		
		顎口腔機能リハビリテーション論	3 前	1			○			15		
		演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)	3 前	1				○		30		
	在宅歯科衛生管理論	4 前		1		○			15			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	2 後	1			○			15	必修 1.3単位	
		保健行動科学論	3 前	1			○			15		
		歯科保健指導・健康教育論	2 後	1			○			15		
		健康支援論	4 後	1			○			15		
		健康支援論演習	4 後	1				○		30		
		演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)	2 後～3 前	3				○		90		
		歯科衛生統計学	3 前	1			○			15		
		地域歯科衛生学	2 後	2			○			30		
		演習Ⅴ(地域歯科衛生)	3 前	1				○		30		
		国際歯科衛生学	3 後		1		○			15		
	歯科医療管理論	4 前		1		○			15			
	総合演習	3 後	1				○		30			
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2					○	90	必修2.0単位	
		歯科診療所実習	3 後	4					○	180		
		病院実習	3 後	3					○	135		
		継続・個別支援実習	4 通	4					○	180		
		発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)	4 前	1					○	45		
発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)		4 前	1					○	45			
地域歯科衛生実習		4 前	1					○	45			
歯科診療室総合実習		4 通	4					○	180			
研究	卒業研究	4 通	4				○	120	必修4単位			

(歯科衛生学科 平成 24 年度以前の入学生用)

先修条件

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ(歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ(地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2 年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
イ 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3 年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として4 年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	4 単位	0 単位	4 単位
一般教養科目	14 単位	10 単位	24 単位
保健医療基礎科目	15 単位	3 単位	18 単位
専門科目	78 単位	2 単位	80 単位
合計	111 単位	15 単位	126 単位

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30	必修 3 単位	
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2				○	30	必修 2 単位	
		哲学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		文学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○	30		
		生命倫理	1・2・3・4 後		2			○	30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○	30		
		教育学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○	30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○	30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1				○		30
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2				○	30	一般教養科目から選択 14 単位 このうち「人間関係論」「コミュニケーション理論と実際」から 1 科目を選択 「文化人類学」「国際関係論」「国際的健康課題」から 1 科目を選択
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2				○	30	
		社会学	1・2・3・4 後		2				○	30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2				○	30	
		経済学	1・2・3・4 前		2				○	30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2				○	30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1				○	15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1				○	15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2				○	30	
		科学論	1・2・3・4 前		2				○	30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2				○	30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2				○	30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2				○	30	
	物理学	1・2・3・4 前	2					○	30		
	化学	1・2・3・4 前		2				○	30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1					○	30	必修 2 単位
		情報リテラシー I	1・2・3・4 前	1					○	30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1				○	30	
		情報倫理	1・2・3・4 後		1				○	15	
外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1				○	30	必修 2 単位 + 選択 2 単位	
	英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1				○	30		
	英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1				○	30		
	英語 IV (英会話)	1・2・3・4 後		1				○	30		
	英語 V (保健医療英語)	1・2・3・4 前	2					○	30		
	英語 VI (応用英語)	1・2・3・4 後		1				○	30		

(リハビリテーション学科理学療法専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 7 単位 + 選択 2 単位
	生化学総論	1 前		1		○			15		
	栄養学Ⅰ (基礎)	1 後		1		○			15		
	栄養学Ⅱ (応用)	1 後		1		○			15		
	心の健康	1 後		1		○			15		
	薬理学Ⅰ (総論)	1 後		1		○			15		
	薬理学Ⅱ (各論)	1 後		1		○			15		
	病理学Ⅰ (総論)	1 前	1			○			15		
	病理学Ⅱ (各論)	1 前		1		○			15		
	微生物学Ⅰ (総論)	1 前	1			○			15		
	微生物学Ⅱ (各論)	1 前		1		○			15		
	発達心理学	1 前		1		○			15		
	臨床心理学	1 後	1				○		30		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1			○			15	
	公衆衛生学Ⅰ (基礎)	2 前		1			○			15	
	公衆衛生学Ⅱ (応用)	2 後		1			○			15	
	疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	3 前		1			○			15	
	疫学・保健統計Ⅱ (応用)	3 前		1			○			15	
	リハビリテーション概論	1 後	1				○			15	
	救命・救急の理論と実際	2 前		1			○			15	
	保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	2 後	1				○			15	
	保健医療福祉論Ⅱ (応用)	2 後	1				○			15	
食育論Ⅰ (基礎)	3 前		1			○			15		
食育論Ⅱ (応用)	3 前		1			○			15		
健康と運動	1 後		1			○			15		
家族社会学	1 前		1			○			15		
医療経営管理論	4 後		1			○			15		
リスクマネジメント論	2 後		1			○			15		
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ (筋・骨・神経系の構造)	1 前	1			○			30	必修 2 4 単位 + 選択 1 単位
	人体の構造Ⅱ (脈管・内臓・感覚器の構造)	1 後	1			○			30		
	人体の構造実習	1 後	1					○		45	
	人体の機能Ⅰ (動物性機能)	1 前	1				○			30	
	人体の機能Ⅱ (植物性機能)	1 後	1				○			30	
	人体の機能実習	2 前	1					○		45	
	運動学Ⅰ (運動の基礎科学)	1 後	1				○			30	
	運動学Ⅱ (応用的運動科学)	2 前	1				○			30	
	運動学実習	2 後	1					○		45	
	臨床運動学	2 後	1				○			30	
	機能解剖学	1 後	1				○			30	
	人間工学	2 後		1			○			30	
	人間発達学	2 前	1				○			30	
	医学総論	1 後	1				○			15	
	内科学総論	2 前	1				○			30	
	内科学各論	2 後	1				○			30	
	神経内科学総論	2 前	1				○			30	
	神経内科学各論	2 後	1				○			30	
整形外科学総論	2 前	1				○			30		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
	整形外科学各論	2 後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2 前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2 後		1			○		30	
	老年科学	3 前	1				○		30	
	小児科学	3 前	1				○		30	
	臨床医学概論	3 前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3 前	1				○		30	
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1 前	2			○			30	必修 18 単位
	理学療法管理学	4 後	1			○			15	
	運動療法学	2 前	2			○			30	
	理学療法測定学	2 前	2			○			30	
	理学療法測定学演習	2 前	1				○		30	
	理学療法臨床測定学	2 後	1				○		30	
	日常生活活動学	2 前	2			○			30	
	日常生活活動学演習	2 後	1				○		30	
	物理療法学	2 後	1			○			15	
	物理療法学演習	2 後	1				○		30	
	義肢装具学	3 前	2			○			30	
	義肢装具学演習	3 前	1				○		30	
	理学療法研究方法論	3 前	1				○		30	
専門科目	理学療法専門科目	運動器障害理学療法学	3 前	2			○		30	必修 22 単位 + 選択 3 単位
		運動器障害理学療法学演習	3 後	1				○	30	
		運動器障害理学療法学特論	3 後		1			○	30	
		神経系障害評価学	3 前	1			○		15	
		神経系障害理学療法学	3 前	2			○		30	
		神経系障害理学療法学演習	3 後	1				○	30	
		神経系障害理学療法学特論	3 後		1			○	30	
	理学療法専門科目	内部障害理学療法学	3 前	2			○		30	
		内部障害理学療法学演習	3 後	1				○	30	
		内部障害理学療法学特論	3 後		1		○		30	
		老年期障害理学療法学	3 前	2			○		30	
		老年期障害理学療法学演習	3 後	1				○	30	
		発達障害理学療法学	3 前	2			○		30	
		発達障害理学療法学演習	3 後	1				○	30	
		発達障害理学療法学特論	3 後		1		○		15	
		地域理学療法学	3 前	2			○		30	
		地域理学療法学演習	3 後	1				○	30	
地域理学療法学特論	3 後	1			○		15			
理学療法技術論	4 後	1				○	30			
生体機能計測学	3 前	1				○	30			
理学療法発展領域論	4 後		1			○	30			
実習	臨床	臨床実習Ⅰ (体験実習)	1 後	1				○	45	必修 20 単位
		臨床実習Ⅱ (評価実習)	3 後	5				○	180	

	臨床実習Ⅲ（運動器系総合実習）	4 前	7				○	315	
	臨床実習Ⅳ（神経系総合実習）	4 前	7				○	315	
研究	卒業研究	4 通	2				○	60	必修 2 単位

先修条件

1. 「運動療法学」、「臨床運動学」、「理学療法測定学」、「理学療法測定学演習」、「理学療法臨床測定学」および「神経系障害評価学」を履修するには、1 年次配当の必修科目「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造Ⅱ」、「人体の構造実習」、「運動学Ⅰ」および「機能解剖学」単位を修得しておくこと。
2. 「物理療法学」、「日常生活活動学」、「運動器障害理学療法学」、「神経系障害理学療法学」および「発達障害理学療法学」を履修するには、1 年次配当の必修科目「人体の機能Ⅰ」、「人体の機能Ⅱ」の単位を修得しておくこと。
3. 「臨床実習Ⅱ」を履修するには、3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得していること。
4. 「臨床実習Ⅲ」および「臨床実習Ⅳ」を履修するには、既に「臨床実習Ⅱ」の必修科目の単位を修得しておくこと。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	1 6 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	7 単位	2 単位	9 単位
専門科目	8 6 単位	4 単位	9 0 単位
合計	1 0 4 単位	2 2 単位	1 2 6 単位

(リハビリテーション学科理学療法専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	2			○			30	必修4単位
	体験ゼミナール	1前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30	
人間理解群	心理学	1前	2			○			30	必修 2単位
	哲学	1前		2		○			30	
	文学	1前		2		○			30	
	歴史と文化	1前		2		○			30	
	生命倫理	1後		2		○			30	
	宗教学	1後		2		○			30	
	教育学	1前		2		○			30	
	人間関係論	1前		2		○			30	
	コミュニケーション理論と実際	1前		2		○			30	
	健康スポーツ科学	1前後		1			○		30	
生涯身体運動科学	1前後		1			○		30		
一般教養科目 生活と環境群	生活とデザイン	1後		2		○			30	【一般教養科目】 選択科目から選択 15単位(※3)
	法学(日本国憲法)	1前		2		○			30	
	社会学	1後		2		○			30	
	文化人類学	1前		2		○			30	
	経済学	3前		2		○			30	
	国際関係論	2後		2		○			30	
	社会福祉学	1前		1		○			15	
	国際的な健康課題	1後		1		○			15	
	人権・ジェンダー	1後		2		○			30	
	科学論	3前		2		○			30	
	環境変化と生態	1後		2		○			30	
	観察生物学入門	1前後		2		○			30	
	生物学	1前後		2		○			30	
物理学	1前	2			○			30		
化学	1前		2		○			30		
情報理解群	統計学	1・2後	2			○			30	必修 3単位
	情報リテラシーⅠ	1前	1				○		30	
	情報リテラシーⅡ	1後		1			○		30	
	情報倫理	1後		1		○			15	
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1前		1			○		30	必修 2単位
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1前		1			○		30	
	英語Ⅲ(講読・記述)	1後		1			○		30	
	英語Ⅳ(英会話)	1後		1			○		30	
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2前	2			○			30	
	英語Ⅵ(応用英語)	1後		1			○		30	

※3 一般教養科目における選択科目の履修方法について

- (1) 人間理解群のうち、「人間関係論」及び「コミュニケーション理論と実際」から1科目を選択して履修する。
- (2) 生活と環境群のうち、「文化人類学」、「国際関係論」及び「国際的な健康課題」から1科目を選択して履修する。
- (3) 外国語群から2科目を選択して履修する。

(リハビリテーション学科理学療法専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修7単位 + 選択2単位
		生化学総論	1前		1		○			15	
		栄養学	1後		2		○			30	
		心の健康	1前		1		○			15	
		薬理学	1後		1		○			15	
		病理学	1前	1			○			15	
		微生物学	1前	1			○			15	
		小児発達論	1後		1		○			15	
		臨床心理学	1後	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○			15	
		公衆衛生学	2通		2		○			30	
		疫学・保健統計	3前		2		○			30	
		リハビリテーション概論	1後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2前		1		○			15	
		保健医療福祉論	2後	2			○			30	
		食育論	3前		2		○			30	
		健康と運動	1後		1		○			15	
		家族社会学	1前		1		○			15	
		医療経営管理論	4後		1		○			15	
リスクマネジメント論	2後		1		○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1				○		30	必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1				○		30	
		人体の構造実習	1後	1					○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1				○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1				○		30	
		人体の機能実習	2前	1					○	45	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	1後	1				○		30	
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	2前	1				○		30	
		運動学実習	2後	1					○	45	
		運動分析学	2前	1			○			15	
		臨床・病態運動学	2後	1			○			15	
		人間工学	2後		1				○	30	
		人間発達学	2前	1					○	30	
		医学総論	1後	1			○			15	
		内科学総論	2前	1				○		30	
		内科学各論	2後	1				○		30	
		神経科学総論	2前	1				○		30	
		神経科学各論	2後	1				○		30	
		整形外科学総論	2前	1				○		30	
		整形外科学各論	2後	1				○		30	
		精神神経科学総論	2前	1				○		30	
		精神神経科学各論	2後		1			○		30	
		老年科学	3前	1				○		30	
		小児科学	3前	1				○		30	
臨床医学概論	3前	1				○		30			
リハビリテーション医学	2後	1				○		30			

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1 前	1			○			15	必修16単位
	理学療法概論演習	1 前	1				○		30	
	理学療法管理学	4 後	1			○			15	
	基礎理学療法学	2 前	2			○			30	
	理学療法評価学	2 前	1			○			15	
	理学療法評価学演習	2 前	1				○		30	
	日常生活活動学	2 前	2			○			30	
	日常生活活動学演習	2 前	1				○		30	
	物理療法学	2 後	1			○			15	
	物理療法学演習	2 後	1				○		30	
	義肢装具学	2 前	2			○			30	
	義肢装具学演習	2 前	1				○		30	
	理学療法研究方法論	3 前	1				○		30	
	理学療法専門科目	運動器障害評価学	3 前	1			○			
運動器障害理学療法学		3 前	2			○			30	
運動器障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
運動器障害理学療法学特論		3 後		1			○		30	
神経系障害評価学		3 前	1			○			15	
神経系障害理学療法学		3 前	2			○			30	
神経系障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
神経系障害理学療法学特論		3 後		1			○		30	
内部障害評価学		3 前	1			○			15	
内部障害理学療法学		3 前	2			○			30	
内部障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
内部障害理学療法学特論		3 後		1			○		30	
老年期障害評価学		3 前	1			○			15	
老年期障害理学療法学		3 前	2			○			30	
老年期障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
発達障害評価学		3 前	1			○			15	
発達障害理学療法学		3 前	2			○			30	
発達障害理学療法学演習		3 後	1				○		30	
発達障害理学療法学特論		3 後		1		○			15	
地域理学療法学Ⅰ(総論)		3 前	1			○			15	
地域理学療法学Ⅱ(各論)	3 前	1			○			15		
地域理学療法学演習	3 後	1				○		30		
地域理学療法学実習	4 後	1					○	45		
臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)	1 後	1					○	45	必修21単位
	臨床実習Ⅱ(評価実習)	3 後	4					○	180	
	臨床実習Ⅲ(運動器系総合実習)	4 前後	7					○	315	
	臨床実習Ⅳ(神経系総合実習)	4 前後	7					○	315	
研究	卒業研究	4 通	2				○	60		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 平成 24 年度以前の入学生用)

先修条件

「臨床実習Ⅲ」及び「臨床実習Ⅳ」を履修するには、既に「臨床実習Ⅱ」の単位を修得していること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	4 単位	0 単位	4 単位
一般教養科目	9 単位	1 5 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	7 単位	2 単位	9 単位
専門科目	8 5 単位	4 単位	8 9 単位
合 計	1 0 5 単位	2 1 単位	1 2 6 単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成25年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前	2			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	1・2・3・4前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4後		2		○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○		30	必修 2単位
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○		30	
科学論		1・2・3・4前		2		○		30		
環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○		30			
観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○		30			
生物学	1・2・3・4前後		2		○		30			
物理学	1・2・3・4前		2		○		30			
化学	1・2・3・4前		2		○		30			
情報理解群	統計学	1・2・3・4後		1			○		30	必修 2単位
	情報リテラシーⅠ	1前		1			○		30	
	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1			○		30	
	情報倫理	1・2・3・4後		1		○		15		
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○		30	
	英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○		30	
	英語Ⅳ(英会話)	1・2・3・4後		1			○		30	
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2前		2		○		30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4後		1			○		30	

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前	1			○		15	必修 6 単位 + 選択 1 単位
	生化学総論	1 前		1			○		15	
	栄養学Ⅰ (基礎)	1 後		1			○		15	
	栄養学Ⅱ (応用)	1 後		1			○		15	
	心の健康	1 後		1			○		15	
	薬理学Ⅰ (総論)	1 後		1			○		15	
	薬理学Ⅱ (各論)	1 後		1			○		15	
	病理学Ⅰ (総論)	1 前	1				○		15	
	病理学Ⅱ (各論)	1 前		1			○		15	
	微生物学Ⅰ (総論)	1 前		1			○		15	
	微生物学Ⅱ (各論)	1 前		1			○		15	
	発達心理学	1 前		1			○		15	
	臨床心理学	1 後	1					○	30	
健康と保健医療システム	健康論	1 前	1				○		15	
	公衆衛生学Ⅰ (基礎)	2 前		1			○		15	
	公衆衛生学Ⅱ (応用)	2 後		1			○		15	
	疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	3 前		1			○		15	
	疫学・保健統計Ⅱ (応用)	3 前		1			○		15	
	リハビリテーション概論	1 後	1				○		15	
	救命・救急の理論と実際	2 前		1			○		15	
	保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	2 後	1				○		15	
	保健医療福祉論Ⅱ (応用)	2 後	1				○		15	
	食育論Ⅰ (基礎)	3 前		1			○		15	
	食育論Ⅱ (応用)	3 前		1			○		15	
	健康と運動	1 後		1			○		15	
	家族社会学	1 前		1			○		15	
医療経営管理論	4 後		1			○		15		
リスクマネジメント論	2 後		1			○		15		
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ (筋・骨・神経系の構造)	1 前	1				○	30	必修 2 4 単位 + 選択 1 単位
	人体の構造Ⅱ (脈管・内臓・感覚器の構造)	1 後	1				○	30		
	人体の構造実習	1 後	1					○	45	
	機能解剖学	1 後		1			○	30		
	人体の機能Ⅰ (動物性功能)	1 前	1				○	30		
	人体の機能Ⅱ (植物性功能)	1 後	1				○	30		
	人体の機能実習	2 前	1					○	45	
	作業運動学Ⅰ (作業運動の基礎)	1 後	1				○	30		
	作業運動学Ⅱ (作業運動の応用)	2 前	1				○	30		
	作業運動学実習	2 後	1					○	45	
	作業運動分析学	2 前	1				○	15		
	臨床運動学	2 前		1			○	30		
	人間工学	2 後		1			○	30		
	人間発達学	2 前	1				○	30		
	医学総論	1 後	1				○	15		
	内科学総論	2 前	1				○	30		
	内科学各論	2 後	1				○	30		
神経内科学総論	2 前	1				○	30			
神経内科学各論	2 後	1				○	30			

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成25年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門基礎科目	整形外科学総論	2前	1				○		30	
	整形外科学各論	2後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2後	1				○		30	
	老年科学	3前	1				○		30	
	小児科学	3前	1				○		30	
	臨床医学概論	3前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30	
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	2			○			30	必修7単位 + 選択1単位
	作業療法管理学	3後		1		○			15	
	作業療法基礎理論	2前		1			○		30	
	作業療法研究法	3後	1			○			15	
	基礎作業学・演習	1前	1				○		30	
	基礎作業学実習	1後	1					○	45	
	作業療法評価学概論	1後	1			○			15	
	地域作業療法学概論	3前	1			○			15	
専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2前	2			○			30	必修32単位
	作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2後	2			○			30	
	作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)	3前	1				○		30	
	作業療法評価学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2前	2			○			30	
	作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2後	2			○			30	
	作業療法学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)	3前	1				○		30	
	作業療法評価学Ⅲ(精神・心理機能系)	2前	2			○			30	
	作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)	2後	2			○			30	
	作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系)	3前	1				○		30	
	作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)	2前	2			○			30	
	作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)	2後	2			○			30	
	作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)	3前	1				○		30	
	日常生活活動技術学	3前	2			○			30	
	日常生活活動技術学演習	3後	1				○		30	
	日常生活活動援助学	3前	2			○			30	
	日常生活活動援助学演習	3後	1				○		30	
	社会的適応支援評価学	2後	2			○			30	
社会的適応支援学	3前	2			○			30		
社会的適応支援学演習	3後	1				○		30		
作業療法セミナー	3前～4前	1				○		30		
臨床実習	臨床体験実習	1通	1					○	45	必修27単位
	評価実習Ⅰ	3通	3					○	135	
	評価実習Ⅱ	3通	3					○	135	
	総合実習Ⅰ	4通	8					○	360	
	総合実習Ⅱ	4通	8					○	360	
	地域作業療法学実習	4通	3					○	135	
研究	卒業研究	4通	1				○	30		

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成 25 年度以降の入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	1 6 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	6 単位	1 単位	7 単位
専門科目	9 0 単位	2 単位	9 2 単位
合 計	1 0 7 単位	1 9 単位	1 2 6 単位

先修条件

1. 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得していること。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	2			○			30	必修4単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1前	2			○			30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	1前		2		○			30	
		文学	1前		2		○			30	
		歴史と文化	1前		2		○			30	
		生命倫理	1後		2		○			30	
		宗教学	1後		2		○			30	
		教育学	1前		2		○			30	
		人間関係論	1前		2		○			30	
		コミュニケーション理論と実際	1前		2		○			30	
		健康スポーツ科学	1前後		1			○		30	
	生涯身体運動科学	1前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1後		2		○			30	必修 2単位
		法学(日本国憲法)	1前		2		○			30	
		社会学	1後		2		○			30	
		文化人類学	1前		2		○			30	
		経済学	3前		2		○			30	
		国際関係論	2後		2		○			30	
		社会福祉学	1前		1		○			15	
		国際的な健康課題	1後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1後		2		○			30	
		科学論	2前		2		○			30	
		環境変化と生態	1後		2		○			30	
		観察生物学入門	1前後		2		○			30	
		生物学	1前後		2		○			30	
		物理学	1前	2			○			30	
	化学	1前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	1後	2			○			30	必修 3単位
		情報リテラシーⅠ	1前	1				○		30	
		情報リテラシーⅡ	1後		1			○		30	
情報倫理		1後		1		○			15		
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1前		1			○		30		
	英語Ⅲ(講読・記述)	1後		1			○		30		
	英語Ⅳ(英会話)	1後		1			○		30		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2前	2			○			30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1後		1			○		30		

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修6単位 + 選択1単位
		生化学総論	1前		1		○			15	
		栄養学	1後		2		○			30	
		心の健康	1前		1		○			15	
		薬理学	1後		1		○			15	
		病理学	1前	1			○			15	
		微生物学	1前		1		○			15	
		小児発達論	1後		1		○			15	
		臨床心理学	1後	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○			15	
		公衆衛生学	2通		2		○			30	
		疫学・保健統計	3前		2		○			30	
		リハビリテーション概論	1後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2前		1		○			15	
		保健医療福祉論	2後	2			○			30	
		食育論	3前		2		○			30	
		健康と運動	1後		1		○			15	
		家族社会学	1前		1		○			15	
		医療経営管理論	4後		1		○			15	
リスクマネジメント論	2後		1		○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1				○		30	必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1				○		30	
		人体の構造実習	1後	1					○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	1前	1				○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	1後	1				○		30	
		人体の機能実習	2前	1					○	45	
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	1後	1				○		30	
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	2前	1				○		30	
		作業運動学実習	2後	1					○	45	
		作業運動分析学	2前	1			○			15	
		臨床・病態運動学	2後		1		○			15	
		人間工学	2後		1			○		30	
		人間発達学	2前	1				○		30	
		医学総論	1後	1			○			15	
		内科学総論	2前	1				○		30	
		内科学各論	2後	1				○		30	
		神経科学総論	2前	1				○		30	
		神経科学各論	2後	1				○		30	
		整形外科総論	2前	1				○		30	
		整形外科各論	2後	1				○		30	
		精神神経科学総論	2前	1				○		30	
		精神神経科学各論	2後	1				○		30	
		老年科学	3前	1				○		30	
小児科学	3前	1				○		30			
臨床医学概論	3前	1				○		30			
リハビリテーション医学	2後	1				○		30			

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1			○			15	必修9単位 + 選択1単位
	作業療法基礎演習	1前	1				○		30	
	作業療法管理学	4前	1			○			15	
	作業療法基礎理論	2前	1				○		30	
	作業療法研究法	3前	1			○			15	
	基礎作業学	1前	1			○			15	
	基礎作業学実習Ⅰ(作業活動の基礎)	1前	1					○	45	
	基礎作業学実習Ⅱ(作業活動の応用)	1後		1				○	45	
	基礎作業学特論	1後		1		○			15	
	作業療法評価学概論	2前	1			○			15	
	地域作業療法学概論	3前	1			○			15	
	専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(運動・神経・心肺機能系)	2前	1			○			
作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)		2後	1			○			15	
作業療法治療学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)		3前	1				○		30	
作業療法治療学Ⅰ特論(神経・心肺機能系)		3後		1		○			15	
作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)		2後	1			○			15	
作業療法治療学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)		3前	1				○		30	
作業療法治療学Ⅱ特論(廃用・運動機能系)		3後		1		○			15	
作業療法評価学Ⅱ(精神・心理・認知機能系)		2前	1			○			15	
作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)		2後	1			○			15	
作業療法治療学Ⅲ演習(精神・心理機能系)		3前	1				○		30	
作業療法治療学Ⅲ特論(精神・心理機能系)		3後		1		○			15	
作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)		2後	1			○			15	
作業療法治療学Ⅳ演習(認知・知能機能系)		3前	1				○		30	
作業療法治療学Ⅳ特論(認知・知能機能系)		3後		1		○			15	
日常生活活動技術評価学		2前	1			○			15	
日常生活活動技術学		2後	1			○			15	
日常生活活動技術学演習		3前	1				○		30	
日常生活活動技術学特論		3後		1		○			15	
日常生活活動援助評価学		2前	1			○			15	
日常生活活動援助学		2後	1			○			15	
日常生活活動援助学演習		3前	1				○		30	
日常生活活動援助学特論		3後		1		○			15	
社会的適応支援評価学Ⅰ(個人生活・余暇活動系)		2前	1			○			15	
社会的適応支援評価学Ⅱ(社会生活・職業関係系)		2前	1			○			15	
社会的適応支援学		2後	1			○			15	
社会的適応支援学演習		3前	1				○		30	
社会的適応支援学特論	3後		1		○			15		
作業療法治療学実習	3後～4前	2					○	90		
地域作業療法学演習	3後	1					○	30		

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 平成24年度以前の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	臨床実習 臨床実習Ⅰ（臨床体験実習） 臨床実習Ⅱ（評価実習） 臨床実習Ⅲ（総合実習） 地域作業療法学実習	1前	1					○	45	必修27単位
		3通	6					○	270	
		3後～4前	14					○	630	
		4後	4					○	180	
	研究 卒業研究	4通	2				○	60		

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	4単位	0単位	4単位
一般教養科目	9単位	15単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	8.3単位	8単位	9.1単位
合計	10.2単位	2.4単位	12.6単位

資料2 平成28年度 非常勤講師一覧

職名	氏名	授業科目
非常勤講師	相川 敬子	歯科医療管理論
非常勤講師	上松 博子	口腔解剖学
非常勤講師	浅川 育世	老年期障害理学療法演習
非常勤講師	安孫子 誠男	経済学
非常勤講師	阿部 伸一	口腔解剖学
非常勤講師	安倍 宰	文化人類学
非常勤講師	新居 直実	在宅歯科衛生管理論 I
非常勤講師	池澤 直行	社会的適応支援学演習
非常勤講師	池松 辰男	哲学
非常勤講師	石川 修平	運動器障害理学療法特論
非常勤講師	石川 隆志	作業療法学IV演習（認知・知能機能系）
非常勤講師	石原 和幸	歯科衛生基礎演習
非常勤講師	市橋 則明	理学療法発展領域論
非常勤講師	伊藤 尚子	国際看護論
非常勤講師	稲垣 三恵子	英語 I（基礎講読）、英語IV（英会話）、英語 V（保健医療英語）
非常勤講師	岩崎 三郎	物理学
非常勤講師	上野 義雪	生活とデザイン
非常勤講師	鵜澤 吉宏	内部障害理学療法演習
非常勤講師	梅澤 貴志	口腔解剖学
非常勤講師	浦田 敦	日常生活活動援助学、日常生活活動援助学演習
非常勤講師	大江 満	宗教学
非常勤講師	大熊 明	地域作業療法学概論
非常勤講師	大越 満	社会的適応支援学演習
非常勤講師	大澤 絵里	国際的な健康課題
非常勤講師	大西 仁	科学論
非常勤講師	岡野 達弥	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
非常勤講師	奥田 克爾	口腔微生物学
非常勤講師	小倉 由紀	作業療法評価学IV（認知・知能機能系）、作業療法治療学IV（認知・知能機能系）
非常勤講師	賀川 真吾	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
非常勤講師	柿沼 宏明	小児科学
非常勤講師	覺正 豊和	法学（日本国憲法）
非常勤講師	笠置 泰史	人体の機能Ⅰ（動物性機能）、人体の機能Ⅱ（植物性機能）
非常勤講師	加藤 邦大	運動器障害理学療法演習
非常勤講師	上條 英之	社会保障・社会保険論

非常勤講師	川口 真	理学療法技術論
非常勤講師	北村 泰子	人体の構造と機能Ⅰ(骨・筋・神経系)、人体の構造と機能Ⅱ(呼吸器・循環器・消化器系)、人体の構造と機能Ⅲ(泌尿器・生殖器・感覚器系)、人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
非常勤講師	倉持 昇	社会的適応支援評価学
非常勤講師	栗田 英明	発達障害理学療法学
非常勤講師	黒崎 輝人	歴史と文化
非常勤講師	小館 貴幸	生命倫理
非常勤講師	児玉 久仁子	家族看護学概論、家族看護学方法論
非常勤講師	虎頭 恭子	国際的な健康課題
非常勤講師	小林 奈緒	コミュニケーション理論と実際
非常勤講師	小宮山 政敏	解剖学総論
非常勤講師	酒井 ひとみ	社会的適応支援学
非常勤講師	坂田 祥子	社会的適応支援評価学、日常生活活動技術学演習
非常勤講師	佐久間 祐子	教育相談
非常勤講師	佐藤 貴一郎	医療経営管理論
非常勤講師	佐藤 真生子	社会福祉学
非常勤講師	佐藤 裕	歯科生化学・臨床検査法
非常勤講師	柴 佳世乃	文学
非常勤講師	島村 賢一	社会学、人権・ジェンダー
非常勤講師	清水 健	微生物学Ⅰ(総論)、微生物学Ⅱ(各論)
非常勤講師	杉澤 淳子	精神神経科学各論、病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)
非常勤講師	鈴木 明子	感染看護学
非常勤講師	鈴木 俊雄	歯科薬理学、薬理学Ⅰ(総論)、薬理学Ⅱ(各論)
非常勤講師	鈴木 秀海	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
非常勤講師	鈴木 勝	運動器障害理学療法学演習
非常勤講師	須田 裕紀	義肢装具学、義肢装具学演習
非常勤講師	須藤 千尋	生理学総論
非常勤講師	高尾 公矢	家族社会学
非常勤講師	高梨 一彦	発達心理学
非常勤講師	高野 重紹	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
非常勤講師	高橋 哲也	内部障害理学療法学
非常勤講師	高橋 静子	リスクマネジメント論
非常勤講師	高橋 素彦	義肢装具学、義肢装具学演習
非常勤講師	高橋 良博	心理学
非常勤講師	高間 省吾	運動器障害理学療法学演習
非常勤講師	田口 直枝	義肢装具学、義肢装具学演習
非常勤講師	田崎 雅和	口腔生理学

非常勤講師	田中 和美	在宅栄養支援論
非常勤講師	田中 繁	人間工学
非常勤講師	田中 康之	地域理学療法学特論
非常勤講師	對馬 栄輝	理学療法発展領域論
非常勤講師	常山 吾朗	人間関係論、コミュニケーション理論と実際
非常勤講師	中澤 健	生理学総論
非常勤講師	中村 信義	地域理学療法学演習、地域理学療法学
非常勤講師	西山 美希	国際的な健康課題
非常勤講師	野本 たかと	演習Ⅲ（口腔機能リハビリテーション）、顎口腔機能リハビリテーション論
非常勤講師	橋本 健一	観察生物学入門、生物学
非常勤講師	平澤 マキ	フードマネジメント論
非常勤講師	福井 謙二	病理学Ⅰ（総論）、病理学Ⅱ（各論）
非常勤講師	藤谷 朝実	障害者栄養支援論
非常勤講師	瀧崎 恭一	精神神経科学総論
非常勤講師	本多 敏明	保健医療福祉論Ⅰ（基礎）
非常勤講師	前田 雄	義肢装具学、義肢装具学演習
非常勤講師	松井 恭平	歯科衛生基礎演習
非常勤講師	松澤 大輔	生理学総論
非常勤講師	松本 玲子	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
非常勤講師	水口 章	国際関係論
非常勤講師	宮下 一博	教育心理
非常勤講師	宮原 なおみ	発達障害理学療法学演習、発達障害理学療法学特論
非常勤講師	宮本 礼子	作業療法基礎理論
非常勤講師	三好 美紀	国際栄養学
非常勤講師	村永 信吾	理学療法管理学
非常勤講師	村山 尊司	理学療法技術論
非常勤講師	本 国子	スポーツ栄養学
非常勤講師	森 禎徳	生命倫理
非常勤講師	矢口 大雄	臨床心理学
非常勤講師	山内 弘喜	運動器障害理学療法学特論
非常勤講師	山浦 晶	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
非常勤講師	山口 大	歯科矯正学
非常勤講師	山本 喜美夫	運動器障害理学療法学特論
非常勤講師	山本 裕子	国際的な健康課題
非常勤講師	吉田 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
非常勤講師	吉永 勝訓	リハビリテーション医学
非常勤講師	米持 喬	作業療法学Ⅰ演習（神経・心肺機能系）

非常勤講師	レーン ブレン ディン ジョン	英語Ⅱ（基礎英会話）、英語Ⅳ（英会話）
非常勤講師	渡邊 倫子	病態学Ⅱ（外科系疾病論）

報告書作成等部会

部 会 長 豊 島 裕 子

部 会 員 川 村 紀 子

成 玉 恵

高 杉 潤

松 尾 真 輔

山 中 紗 都

(五十音順)

千葉県立保健医療大学 教育研究年報 2016

2018年1月31日発行

発行者 田邊 政裕
千葉県立保健医療大学
〒261-0014
千葉県千葉市美浜区若葉2丁目10番1
TEL 043-296-2000(代表)



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University Of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel: 043-296-2000 / Fax: 043-272-1716